イスラーム概論

第１章　タウヒードとイーマーン

[日本語 - Japanese - ياباني]

ムハンマド・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジュリー

翻訳 ： サイード佐藤

野村明史 オスマーン

校閲 ： ファーティマ佐藤

アブドッラー坂田

ムハンマド サーリフ金子

2013 - 1434

مختصر الفقه الإسلامي

الباب الأول: التوحيد والإيمان

« باللغة اليابانية »

محمد بن إبراهيم التويجري

ترجمة: ساتو يوئتشي سعيد

اكيفومي نومورا عثمان

مراجعة: فاطمة ساتو & عبدالله ساكاتا

محمد صالح كانيكو

2013 - 1434

IslamHouse.com

目次

１－タウヒード（アッラーの唯一性に関する信仰）

- **タウヒードとは**：偉大なるアッラーに属する特質、かれに対する義務においてアッラーのみを対象とすることです。

またアッラーが、かれのルブービーヤ[1]とウルーヒーヤ[2]そしてかれの美名と属性において唯一無二であるということを確信することです。

- **その意味とは**：しもべが以下のことを確信し、承認することです：アッラーが全てのものの唯一の主であり、所有者であること。そしてかれが唯一の創造主であり、かれが全世界の唯一の管理者であること。また至高なるかれのみが崇拝されるにふさわしい唯一の御方であり、そこにおいてかれに並ぶものは存在しないこと。かれ以外に崇拝されるもの全てのものは虚無であること。そしてかれこそが完全なる属性を有し、あらゆる短所や欠陥から無縁で、美名と気高い属性を有するということです：﴿**アッラー、かれの外に神はないのである。最も美しい御名はかれに属する。**﴾（クルアーン 20：8）

- **タウヒードのフィクフ（イスラーム法）とは**：

アッラーは荘厳に満ちた唯一無二なる御方であり、かれの本質や美名、属性、行動において類似するものはなく、主権、創造、命令はかれのものであり、比類なき御方です。

かれは真の王であり、かれの他全てのものはかれに所有されるものです。かれは真の主であり、かれの他全てのものはかれのしもべであり、かれは創造者であり、かれ以外のもの全てのものは被造物であります：﴿ **言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。アッラーは、自存され、御産みなさらないし、御産れになられたのではない、かれに比べ得る、何ものもない。」**﴾（クルアーン 112：1-4）

至高なるかれは最も力強い御方であり、それ以外のもの全ては脆弱な存在[3]です。かれは全能者であり、それ以外のもの全ては不能な存在です。かれは最も満ち足りた御方であり、それ以外のもの全てはかれに頼っています。かれは偉大なる御方であり、それ以外のもの全ては卑小な存在[4]です。かれこそが真に崇拝すべきお方であり、それ以外のすべての崇拝

---

[1] 訳者注：いわゆる主性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威。
[2] 訳者注：いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威。
[3] [4] 訳者注：つまり、アッラーの前ではそれ以外のものは弱く、小さなものであるということ。

されるもの全ては偽りです。﴿**それはアッラーこそが真理であられるためである。かれを差し置いて、あなたがたの祈るのは虚偽のものである。本当にアッラーこそは、至高にして至大であられる。**﴾（クルアーン 31：30）

至高なるかれは、かれ以上に偉大なものはない最も偉大なる御方であり、かれ以上に至高なものはない最も至高なる御方であり、かれは以上に至大なものはない最も至大なる御方であり、かれ以上に慈悲遍くもののない最も慈悲遍き御方です。

至高なるかれは、全ての力を有するものの力を創られた最も力強い御方であり、全ての能力を有するものに能力を創られた全能の御方です。全ての慈悲を有するものに慈悲を創られた慈悲遍く御方であり、全ての被造物に（知識を）教えられた全治者です。全ての糧とそれを与えられるものを創られた全ての糧を所有される御方です：﴿ **それがアッラー、あなたがたの主である。かれの外に神はないのである。全てのものの創造者である。だからかれに仕えなさい。かれは全てのことを管理なされる。視覚ではかれを捉えることはできない。だがかれは視覚そのものさえ捉える。またかれは全てのことを熟知され、配慮されておられる。**﴾（クルアーン 6：102、103）

そして、至高なるかれはかれの本質、かれの荘厳さ、かれの美しさ、かれの美しい慈善さにおいて唯一無二であり、崇拝するにふさわしい真の神であり、唯一なるかれは美名と気高い属性を有しています：﴿**かれ（アッラー）に似たものは何１つない。にも関わらず、かれは全てを聞き、御覧になられるお方なのである**﴾（クルアーン 42：11）

かれは御望みのままに行動される最も英知にあふれた御方であり、全知者であり、かれは御望みのままに統治されます：﴿**ああ、かれこそは創造し統御される御方ではないか。万有の主アッラーに祝福あれ。**﴾（クルアーン 7：54）

至高なるかれは全ての存在以前の最初の御方[5]であり、全ての存在以後の最後の御方[6]です。全ての存在の上にある最も上におられる御方であり、全ての存在の近くにある最も内におられる御方です。唯一無二の全ての事物の全知者です。﴿**かれは最初の方で、また最後の方で、外に現われる方でありまた内在なされる方である。かれは凡ての事物を熟知なされる。**﴾（クルアーン 57：3）

至高なるかれは全てのものをその御手に持つ真の王であり、またそれ以外はかれの御手になく、全てのものは唯一無二なる御方に向けられています。﴿ **（祈って）言え。「おおアッ**

5　訳者注：かれには始まりもないので、かれ以前には何も存在しないどころか、かれ以前という概念すらそもそもありえません。

6　訳者注：かれは永生される存在なので、かれより長く存在するものはないということを示しています。かれが消滅したりすることはありません。

ラー、王権の主。あなたは御望みの者に王権を授け、御望みの者から王権を取り上げられる。また御望みの者を高貴になされ、御望みの者を低くなされる。（全ての）善いことは、あなたの御手にある。あなたは全てのことに全能であられる。﴿（クルアーン 3：26）

かれはすべてのものの所有者であり、全てのものを適切に定める御方、あらゆることを知り尽くされ、そして全てのものを御恵みになられる御方です。

かれは全てを包囲される御方であり、全ての事柄を適切に定める御方であり、全てのものを支配する御方であり、全てのものの所有者であられる唯一なる御方です。﴾**大権を掌握なされる方に祝福あれ。本当にかれは全てのことに全能であられる。**﴿（クルアーン 67：1）

２－タウヒードの種類

● 預言者たちは人々をタウヒードへといざない、諸啓典はタウヒードと共に下されました。このタウヒードには 2 つの種類があります：

① **知識と承認におけるタウヒード**：これはタウヒード・アッ＝ルブービーヤ、そして美名と属性のタウヒードと呼ばれるもので、つまり至高なる主の本質における真実と、かれの美名と属性と行為におけるアッラーの唯一性を承認することです。

● **その意味とは**：しもべが以下のことを確信し、認めることです：アッラーこそがこの世の唯一の創造主、所有者、支配者、管理者であり、その本質と美名と属性と行為において完全なるお方であること。またあらゆることを知り尽くされ、全てを包囲され、王権はかれの御手のもとにあり、かつ全能のお方であること。また美名と気高い属性を有されるお方であること。そしてかれの本質、美名、属性、行為において類似するものはないということです：**﴾かれ（アッラー）に似たものは何 1 つない。にも関わらず、かれは全てを聞き、御覧になられるお方なのである。﴿**（クルアーン 42：11）

②**意図し求めることにおけるタウヒード**：タウヒード・アル＝ウルーヒーヤ、またはイバーダ（崇拝行為）におけるタウヒードと呼ばれるものです。これはドゥアー（祈願）やサラー（礼拝）、畏怖や願望などあらゆるイバーダ（崇拝行為）においてアッラーのみを対象とすることです。

● **その意味とは**：しもべが以下のことを確信し、認めることです：アッラーこそがあらゆる被造物にとって神性を有する唯一のお方であり、崇高なるかれこそが唯一崇拝される権利を有するということ。ゆえにドゥアー（祈願）やサラー（礼拝）、アッラーのみが権能を有される事柄において救いを求めること、また同様にタワックル（身を完全に委ねること）や畏怖や願望の念、また犠牲や誓いなどあらゆるイバーダ（崇拝行為）はただアッラーに対してのみ向けられなければならず、何か別のものに逸らせてはならないということ。そしてイバーダ（崇拝行為）をアッラー以外の何ものかに対して向ける者は、ムシュリク[7]であり不信仰者であるということ。これは崇高なるアッラーが、以下のように仰られた通りです：**﴾そして（その正当性**

[7] 訳者注：「ムシュリク」とはシルクを犯す者のことであり、「シルク」とはアッラーのみが専有される特質において、かれ以外の何ものかをかれに同位させることをいう。詳しくは「4．シルク」の章参照のこと。

に）何の論拠もない他の神をアッラーに並べて祈願する者の報いは、かれの主（アッラーのこと）の御許にある。本当に不信仰者たちには勝利はない。﴿（クルアーン 23：117）

● タウヒードを承認する規定：

１）人間はその天性によって、またこの世を注意深く観察することによって、タウヒード・アッ＝ルブービーヤを認めることができます。しかしタウヒード・アッ＝ルブービーヤを認めるだけでは、アッラーへの信仰とその懲罰からの救いにまでは至りません。というのもそれは、イブリース（悪魔）やムシュリク（偽信者）たちすらも認めていたことなのです。彼らによるこの承認が彼らにとって何の役にも立たなかったのは、アッラーのみを崇拝するというタウヒードを拒否したことによるのです。

　それゆえタウヒード・アッ＝ルブービーヤを認めただけでは、タウヒードを実践する者にもイスラーム教徒にもなったとは言えません。つまりアッラー以外に崇拝すべきものはなく、かれに並ぶ何ものもないと信仰告白し、アッラーのみがイバーダ（崇拝行為）を捧げるに真に相応しい存在であると認め、かつかれにいかなるものも並べることなくかれのみへのイバーダ（崇拝行為）を遵守するというタウヒード・アル＝ウルーヒーヤを認めるまでは、彼の生命も財産も侵すべからざる神聖なものとはならないのです。至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾かれらの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。これこそ真正の教えである。﴿（クルアーン 98：5）

２）多くの被造物（人間）はタウヒード・アル＝ウルーヒーヤとイバーダ（崇拝行為）を信じず、否定しました。アッラーが預言者たちを人々へと遣わし、彼らに啓示を下したのは、ひとえにアッラーのみを崇拝し、かれ以外のいかなるものに対する崇拝行為も放棄することを命じるためであったのです。

１－至高なるアッラーはこう仰られました：﴾あなた以前にわれら（アッラーのこと）が遣わした使徒の内で、「われ（アッラーのこと）の他に神はない。だからわれを崇拝するのだ。」という啓示を与えなかった者はいなかったのである。﴿（クルアーン 21：25）

２－至高なるアッラーはこう仰られました：﴾本当にわれら（アッラーのこと）は、各々の民に使徒を遣わして、「アッラーを崇拝し、ターグート[8]を避けなさい。」と命じた。﴿（ク

[8] 訳者注：「ターグート」はアッラー以外に崇拝されるあらゆるものを指す。詳しくはこの章の最後に説明されている。

ルアーン 16：36）

● **タウヒード・アッ＝ルブービーヤとタウヒード・アル＝ウルーヒーヤは不可分である**：

① ウヒード・アッ＝ルブービーヤはタウヒード・アル＝ウルーヒーヤを必須条件とします。ゆえにアッラーのみが創造主であり、支配者であり、糧を授けられるお方であると認める者は、アッラーのみがイバーダ（崇拝行為）の対象となる権利を有されることを認めなければなりません。それゆえアッラー以外の何ものかにドゥアー（祈願）したり、かれ以外のものに救いを求めたり、かれ以外のものに身を委ねたりしてはならないし、またいかなる種類のイバーダ（崇拝行為）もアッラー以外のものに対し行ってはならないのです。またその逆もまた然りで、タウヒード・アル＝ウルーヒーヤはタウヒード・アッ＝ルブービーヤを必須条件とします。つまりアッラーのみを崇拝し、かれに何ものをも並べない者は、アッラーが彼の主であり、創造主であり、支配者であることを既に確信していることになるのです。

② アッ＝ルブービーヤとアル＝ウルーヒーヤはしばしば一緒に言及されますが、その意味は異ります。つまり前者の語根である「アッ＝ラッブ（主）」は養育者、所有者、支配者という意味ですが、後者の語根「アル＝イラー（崇拝される存在）」は、真に崇拝される権利を有する唯一のもの、という意味です。崇高なるアッラーはこう仰られています：﴾**言うのだ。「御加護を請い願う。人々のラッブ（主）、人々の王、人々のイラー（真に崇拝すべきもの）に。」**﴿（クルアーン 114：1-3）

またこの 2 つは時として各々別個に言及されもしますが、意味が類似している場合もあります。崇高なるアッラーは次のように仰られています：﴾**言ってやるがいい。「アッラーは全てのもののラッブ（主）であられるというのに、私がアッラー（アル＝イラー：真に崇拝すべきもの）以外のラッブ（主）を求めることなどあろうか。」**﴿（クルアーン 6：164）

● **タウヒードの本質とその核心**：

あらゆる物事は至高なるアッラーからのものであると捉え、それらの物事の原因や手段などアッラー以外のものに気を煩わせないこと。つまり善悪も害益も全て至高なるアッラーからのものであると捉え、崇高なるアッラーのみをイバーダ（崇拝行為）における対象とし、かれと共に何ものをも崇拝しないということです。

● **真のタウヒードによる成果：**

アッラーのみに身を委ねること。被造物に対する不平不満と、彼らを咎めだてすることの放棄。至高なるアッラーへの満足とかれへの愛。そしてかれの采配の全面的受諾。かれへの良きイバーダ（崇拝行為）、かれへの追従を義務付けること。かれに対して良い方に考えること。かれを念唱することによって安心すること。

● **タウヒードの徳：**

１－至高なるアッラーは仰られました：﴾**信仰して善行に勤しむ者たちには、彼らのために、川が下を流れる楽園についての吉報を伝えよ。彼らはそこで果実の糧を与えられるたびに「これは私たちが以前与えられていたものだ。」と言う。彼らには（見た目は現世での果実に）似たものが授けられる（が、その味は全く異なっている）。またそこには彼らのために、純潔の配偶者がいる。彼らはそこに永遠に住むのである。**﴿（クルアーン 2：25）

２－至高なるアッラーは仰られました：﴾**信仰に入り、自分の信仰にシルクを混じえない者。彼らこそは安泰であり、正しく導かれた者たちである。**﴿（クルアーン 6：82）

３－至高なるアッラーは仰られました：﴾**これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」**﴿（クルアーン 13：28）

４－ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト（彼にアッラーの御満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は仰られました：「比類なきアッラー以外に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはアッラーのしもべかつ使徒であり、イーサー（イエス）はアッラーのしもべかつ使徒であり、また彼はアッラーの命によりマルヤム（マリア）へと吹き込まれた御言葉かつ魂であり、また天国は真実であり、地獄は真実である、と証言した者は、アッラーが彼をその行為に応じて天国へと入れて下さるだろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[9]）

５－ジャービル（彼にアッラーの御満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとに男がやって来て、言いました：「アッラーの使徒よ、2 つの確実なこと[10]は何か？」すると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は仰られまし

---

9 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3435）、サヒーフ・ムスリム（28）。引用はアル＝ブハーリーから。
10 訳者注：つまり天国行きを確実なものにすることと、地獄行きを確実なものにすることの 2 つの要素（アン＝ナワウィーのサヒーフ・ムスリム注釈より）。

た：『アッラーと共にいかなるものも並べずに死んだ者は天国へ入り、アッラーに何ものかを並べて死んだ者は地獄に入るということだ。』（ムスリムの伝承[11]）

● **タウヒードの言葉の偉大さ：**

アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーの御満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は仰られました：「アッラーの預言者であるヌーフ（ノア：彼に平安あれ）は、彼の死期が近づいた時に息子に言った：『私はお前に遺言を伝える：私はお前に 2 つのことを命じ、2 つのことを禁じよう。私はお前に、"アッラー以外に崇拝すべきものはなし"の言葉を命じる。本当に 7 層の天と 7 層の大地が秤の一方に置かれ、もう一方に"アッラー以外に崇拝すべきものはなし"の言葉が置かれたとしても、"アッラー以外に崇拝すべきものはなし"の言葉の方が重いのである…（またもう 1 つ命じるのは）"崇高なるアッラー、かれを讃えます"の言葉である。実にそれは万有の祈願であり、それによって被造物は糧を得るのだ。そして私はお前にシルクと、奢り高ぶることを禁じる…』（アハマドとアル＝ブハーリーの伝承[12]）

● **タウヒードの完遂：**

タウヒードは、比類なきアッラーのみを崇拝し、かつターグート（下記参照）を避けることによってのみ完遂されます。崇高なるアッラーはこう仰られました：﴾**本当にわれら（アッラーのこと）は、人々にアッラーを崇拝しターグートを避けさせるべく、各々の民に 1 人の使徒を遣わした。**﴿（クルアーン 16：36）

● **ターグートの性質：**

ターグートとは、偶像などのような崇拝の対象であれ、占い師や似非学者などのように人々が依拠・追従する人たちであれ、あるいはアッラーへの服従から逸脱した王族、官僚や首領などの支配層たちであれ、アッラーのしもべがそれらにおいてタウヒード信仰の規範を超えてしまっている全ての対象を指します。

● **ターグートは無数であり、その代表的なものは 5 種類です：**

① イブリース（悪魔の長）――アッラーが私たちを彼から守って下さるよう――

11　サヒーフ・ムスリム（93）。

12　真正な伝承。ムスナド・アフマド（6583）、アル＝ブハーリーのアル＝アダブ・アル＝ムフラド（558）、サヒーフ・アル＝アダブ・アル＝ムフラド（426）。アル＝アルバーニーのアッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（134）も参照のこと。

② 崇拝され、そうされることに満足する者
③ 人々を自らの崇拝へといざなう者
④ 不可知の領域に関する知識を有すると主張する者
⑤ アッラーが啓示されたもの（つまりイスラーム法規定）以外のもので裁く者

至高なるアッラーは仰せられました。﴾**アッラーは信仰する者の守護者で、暗黒の深みから、かれらを光明の中に導かれる。信仰しない者は、邪神〔ターグート〕がその守護者で、かれらを光明から暗黒の深みに導く。かれらは業火の住人である。永遠にその中に住むであろう。**﴿（クルアーン 2：257）

３－イバーダ（崇拝行為）

● **イバーダ（崇拝行為）の意味**：イバーダ（崇拝行為）に真に値するのは唯一無二のアッラーのみです。「イバーダ（崇拝行為）」という言葉は、次に示す２つのことに関して用いられます：

① **崇拝すること**：つまり、偉大かつ荘厳なるアッラーへの比類なき讃美とかれへの愛ゆえに、かれによる御命令の遂行とかれが禁じられたことの回避をもって、かれに服従し謙虚に仕えること。

② **崇拝とは何を指すのか**：つまりドゥアー（祈願）、ズィクル（アッラーの唱念）、サラー（礼拝）、アッラーへの愛など、アッラーが愛でられ御満悦されるところの全ての外面的・内面的な言葉や行いを指します。

例えばサラー（礼拝）はイバーダ（崇拝行為）であり、それを行うことはアッラーを崇拝することです。私たちはアッラーに服従し、かれを愛し、かれの偉大さを讃えつつ、かれのみを崇拝します。そして定められた手法によってでしか、かれを崇拝しません。

● **人間とジン[13]の創造に関する英知**：

アッラーは人間とジンをいたずらに、無意味に創造されたのではありません。アッラーは彼らがただ飲み食いし、遊び、愉快に笑い、楽しむために創られたわけではないのです。人間とジンは、偉大かつ荘厳なる彼らの主による大いなる目的ゆえに創られたのです。それは、唯一無二のかれを崇拝し、かれ以外のものの崇拝を放棄し、かれの比類のなさと偉大さを讃え、かれに服従し、命じられたことの遂行と禁じられたことを回避し、かれの規定されたことを遵守をするためです。崇高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてわれ（アッラーのこと）はジンと人間を、われを崇拝させるべくして創造したのだ。われはかれらにどんな糧も求めず、また扶養されることも求めない。本当にアッラーこそは、糧を授けられる御方、堅固なる偉力の主であられる。**﴿（クルアーン 51：56,57,58）

もしそのように行えば、現世で幸せになり、来世においても勝利を収め、審判の日に彼らは主の近くに置かれます。アッラーは次のように仰せられ、彼らに約束されました：﴾**本当に主を畏れる者は、園と川のある、全能の王者の御許の、真理の座に（住むのである）。**﴿（クルアーン 54：54,55）

[13] 訳者注：霊的存在のこと。

● **イバーダの英知**

アッラーによって命じられたことの遵守と禁じられたことの回避は、かれへのイーマーン（信仰心）の基礎を作り、心の中に創造主であり、所有者であるかれの偉大さを常心の中に想起させ続けます。つまりそれらはかれを唱念し、感謝すること、そしてかれの印と被造物のことを多く想起することです。そして、この想起することとそれを心に根付かせるために、至高なるアッラーはかれのしもべたちに繰り返しかれを唱念し、それを戒心することを定められました。それがイバーダです。もし、イーマーンが増加し、強いものとなれば、発言、行動、道徳は良きものとなり、それは増えることでしょう。それから、現世でも来世でも幸せを勝ち取るよう状況が良いものとなるでしょう。その一方で、もしイーマーンを失うか、減少すると、行いは悪くなり、状況は悪化し、罰を得ることでしょう。

１－至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾**あなたがた信者よ、アッラーをつねに唱念〔ズィクル〕しなさい。朝な夕な、かれの栄光を讃えなさい。**﴿（クルアーン 33：41-42）

２－至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾**これらの町や村の人びとが信仰して主を畏れたならば、われは天と地の祝福の扉を、かれらのためにきっと開いたであろう。だがかれらは（真理を）偽りであるとしたので、われはかれらの行ったことに対して懲罰を加えた。**﴿（クルアーン 7：96）

● **ウブーディーヤ（アッラーに真に従順であること）の手法：**

偉大かつ荘厳なるアッラーに対するイバーダ（崇拝行為）は、2 つの偉大な基盤の元に成り立っています。それは：

① 偉大かつ荘厳なるアッラーへの完全な愛
② かれに対する余すことのない服従と謙虚の念
です。
そしてこれら 2 つの基盤は、更に偉大な 2 つの基盤の基に成立しています。それは：

① アッラーへの愛へとつながる、かれの恩恵と恩寵、慈善と御慈悲の認識
② アッラーへの完全な服従と謙虚さへとつながる、自身とその行いの至らなさと欠如の自覚

です。
　そしてアッラーのしもべがその主へと向かう最短の道は、主が自分自身にとって決して欠くことのできない存在であることを、常に肝に銘じていることでしょう。つまりそれは自らを単なる一人の破綻した者と見なし、自分自身の状態や地位、財産、また自身が恩恵を被っているところの手段（仕事や能力など）などが自分自身のお陰であるなどとは考えないことなのです。それは偉大かつ荘厳なる彼の主への絶対的な必要性と、もし主から見放されたら彼には喪失と破滅が待ち受けていることを心得ることなのです。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**あなたがたの元にあるあらゆる恩恵は、アッラーからのものである。そしてあなたがたに災難が降りかかると、あなたがたはかれ（アッラーのこと）だけに哀願するのだ。”**﴿（クルアーン 16：53）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**人びとよ、あなたがたはアッラーに求める以外術のない者である。アッラーこそは、富裕にして讃美すべき方である。**﴿（クルアーン 35：15）

● **イバーダ（崇拝行為）において完璧な人たち**：

　イバーダにおいて完璧な人々とは、諸預言者と諸使徒です。なぜなら彼らこそは、アッラーについての知識、かれの美名、属性、行動、宝物、約束、警告、また、最もよくかれを愛し、かれの比類なさを讃えることにおいて通暁しているからです。更にアッラーは彼らに、預言者・使徒としての恩恵を授けられ、それで彼らはアッラーからのメッセージを託されたことによる卓越性と共に、特別なウブーディーヤ（アッラーに真に従順であること）という卓越性の両方を備えているのです。彼らの後に続くのが、アッラーとその使徒への信仰を全うし、またその教えによって自らを真っすぐに正したアッ＝スィッディークーン（よく信じる者たち）です。そしてその後にはアッラーの道における殉教者、そしてアッラーの道のために努力する者、そしてアッ＝サーリフーン（一般的に前述の者たち以外の正しい信仰者たち）が続きます。寛大な門はそれを望む者のために開かれています：﴾**そしてアッラーと預言者に服従する者は、（来世において）預言者たち、アッ＝スィッディークーン、アッラーの道における殉教者、アッ＝サーリフーンら、アッラーの恩寵に恵まれた者たちと共になろう。彼らには素晴らしい連れ添いがあるのだ。**﴿（クルアーン 4：69）

● **しもべに対するアッラーの権利**：

　天地の全てのものに対するアッラーの権利とは、彼らがアッラーのみを崇拝し、かれに何ものをも並べたりしないことです。そしてアッラーに服従し逆らうことなく、かれを想

起して忘れることなく、またかれに感謝して忘恩の徒とならないことです。かれは唯一の崇拝されるにふさわしい御方ですが、ある種の人々は不能さや無知、あるいは怠慢や義務の不履行などからこのアッラーの権利をないがしろにしています。それゆえに、私たちはアッラーに許しを請い、かれへ悔い改めるのです。それゆえにもしアッラーが天地の全てのものを罰されたとしても、それでアッラーが彼らを不正に罰したことにはなりません。またもしアッラーがそれらに御慈悲を示されたとしたら、その御慈悲は彼らの行為よりも遥かによいものなのです。

ムアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーの御満悦あれ）はこう伝えています：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の後ろで、彼とともにウファイル（灰色という意味）という名の 1 頭のロバに同乗していました。彼（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“ムアーズよ、アッラーのしもべに対する権利と、アッラーに対するしもべの権利について知っているか？”私は言いました：“アッラーとその使徒がよく御存知です。”彼（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“アッラーのしもべに対する権利とは、彼らがアッラーを崇拝し、かれに何ものも並べたりしないことだ。そして偉大かつ荘厳なるアッラーに対するしもべの権利とは、かれに何も並べて拝したりさえしなければ、罰されはしないことだ。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、人々にこの吉報を伝えましょうか？”彼（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“伝えないでおくのだ。彼らが（この事に）頼り切って（イバーダや善行に努力しなくなって）しまわないように。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[14]）

● ウブーディーヤ（アッラーに真に従順であること）の極致：

１－アッラーの御前において信仰するしもべの責務は 5 つの原則で成り立っています。それらは：

① 命じられたことの遵守
② 禁じられたことの回避
③ 恩恵への感謝
④ 罪の御赦しを請うこと
⑤ 災難を耐え忍ぶこと

です。

これら５つの義務を果たす者は、現世と来世において幸福を勝ち得るでしょう。

---

14 サヒーフ・アル＝ブハーリー（2856）、サヒーフ・ムスリム（30）。引用はムスリムから。

２－偉大かつ荘厳なるアッラーがそのしもべたちを試練にかけられるのは、彼らの忍耐とウブーディーヤ（アッラーの真の僕であること）を試されるためであり、彼らを滅ぼされたり罰されたりするためではありません。アッラーはそのしもべに対し、順境にあるときと同様に、逆境のときにもウブーディーヤ（アッラーの真の僕であること）を求められているのです。またしもべは人が好むことに関してアッラーの真のしもべであるように、人の厭うことに関してもそうでなければなりません。自分たちの好むことに関してアッラーの真のしもべであることは大概の人が出来ることですが、問題は自分たちの厭うことにおいてアッラーに従順であれるかどうかなのです。人々のこの点におけるスタンスは様々です。酷暑において冷水でウドゥー[15]することもアッラーへの従順さであれば、自分の妻と交わることもアッラーへの従順さです。また酷寒において冷水でウドゥーすることもアッラーへの従順さであれば、一人きりのときに自らの欲望がアッラーの定めを破ろうとするのを抑制するのもまた、アッラーへの従順さなのです。飢えや害悪に耐えるのもまたアッラーへの従順さの表れですが、問題は 2 つの相対する状態におけるアッラーへの従順さを分離させてしまうことなのです。それゆえ順境にあっても逆境にあっても、また厭うことにおいても好むところにおいてもアッラーへの従順さを貫き通す者こそは、恐れることもなければ悲しむこともない真のアッラーのしもべなのです。このような者はアッラーの御加護のもとにあるのであり、いかなる敵も彼を降伏させることは出来ません。ただ時にシャイターン（悪魔）が彼を騙すことはあるでしょうし、しもべは彼の不注意さや私欲、怒りなどによる試練にも遭うでしょう。そしてシャイターン（悪魔）がしもべの胸の内に忍び込むのは、実にこの 3 つの扉からなのです。アッラーは全てのしもべに対し、自我と欲望、またシャイターン（悪魔）でもって試練にかけられますが、それはしもべが果たしてそれらのものに屈服するか、あるいは彼の主に従うかを御覧になられたいからなのです：﴾ **人はすべて死を味わう。われは試練のために、凶事と吉事であなたがたを試みる。そして（最後は）われに帰されるのである。** ﴿（クルアーン 21：35）

３－偉大かつ荘厳なるアッラーは人間に御命令を課され、自我にもまた御命令を課されました。アッラーは人間から信仰心とよき行いによるかれがお好みになられることを完遂する努力をお望みになりますが、自我は財産と欲望によるそれが好む満足を望みます。

実にアッラーは現世をかれのお好みになる様々な服従や敬神行為によって現世を満たされました。そして、かれは来世において、しもべが好む様々なかれの恩寵によって天国を満たされました。

また、アッラーは私たちが来世のための行いに精進することをお望みになりますが、自我は現世のための行いに懸命になることを望みます。そして信仰心こそは救いの道であり、それは偽りから真実を、悪事から善事を見極める、いわばともし火なのです。これが人間

[15] イスラームにおける、いわゆる小浄。汚れを除去する意図を持って、体の定められた各部位を水で洗浄する行為。

の試練とは、こうしたものなのです。

１－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾人々は“私たちは信仰しました”とさえ言えば、試練にもかけられずに放っておかれるとでも思ったのか？実にわれら（アッラーのこと）は彼ら以前の者たちを試練にかけたのだ。そしてアッラーは（“私たちは信仰した”という言葉において）正直な者たちと嘘つきとを御存知になられたのだ。﴿**（クルアーン 29：2 - 3）

２－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして私は自らを正当化しません。自我というものは、私の主が御慈悲をかけられたものを除いては、悪へと傾きがちであるからです。実に私の主はよく赦され、慈悲あまねきお方です。﴿**（クルアーン 12：53）

● **ウブーディーヤ（アッラーに真に従順であること）におけるフィクフ（イスラーム法）：**

大地は、そこに甘美なものも苦味のあるものも育てることができます。大地とは本来、そこに何か育てることが可能な広いものです。タウヒードとイーマーンとタクワーの木を育てる者は永遠なる甘美さと楽園を得ます。

また、不信仰と無知と反抗の木を育てる者は永遠の不幸と業火を得ます。

最も偉大な認識とは、私たちが自分の主のことと、かれのために行う義務を知ることです。

あなたがアッラーの御前で知識において理解のないこと、行動において不足があること、自分自身に欠点があること、かれの権利において怠慢があること、そしてかれとのやりとりにおいて不義があることを承認すること、これが真の知者であり、真のしもべであり、真のファキーフ（イスラーム法学者）ということです。

もし良い行いをしたならば、それはアッラーが彼へ与えた恩恵であると見なされます。そして、もしアッラーがそれを受け入れてくだされば、二つ目の恩恵であり、もしアッラーがそれを倍増してくだされば、三つ目の恩恵になります。また、アッラーがそれを受け入れてくださらなければ、そのようなものは至高なるアッラーにとってふさわしくないものだったからです。

もし悪い行いをしたならば、それはアッラーが彼を見放なされたと見なされます。そして、彼の保護をやめられたということです。

もしアッラーが彼の罪を罰せられたら、それはかれの正義であると見なされます。そして、もしアッラーが彼の罪を罰せられなければ、それはかれの恩恵であると思われます。また、もしアッラーが彼の罪を御赦しになれば、それは単にかれの慈善さと寛大さによるものと見なされるのです。

天と地にあるすべてのものは真の主であり、真の王であられるアッラーのしもべです。

すべての人間は存在の事実上、そしてイスラームの教え上、いずれにおいてもアッラーのしもべであることを承認しなければいけません：

私たちは存在の事実上におけるアッラーのしもべです。なぜならばかれは私たちの創造主であり、私たちの所有者であり、私たちのことを管理される御方だからです。

私たちは、もしかれがお望みになるのであれば与えられ、お恵みを受け、豊かにされ、貧しくされ、導かれ、迷わされ、生かせられ、死なせられる御方です。

偉大なる慈悲深き御方は、私たちがかれの英知と慈悲を必要とすれば、御望みのままに私たちにしむけられるのです。

そして、私たちはイスラームの教えにおけるアッラーのしもべです。かれが定められたことに従わなければなりません。それは、現世と来世で幸福を勝ち得るためにかれの命令を遂行し、禁じられたものを避け、彼を信仰するということです。

すべての被造物はアッラーを求め、必要とする欠乏した存在です。彼らに欠けているものは、次の２つによって分けられます：

① **不可避の欠乏性：**それはすべての被造物が存在、供給、管理、生存、義務の遂行などにおいて、彼らの主に頼る以外術がないということです。

② **任意の欠乏性：**それは２つことを知る利点があります。

１－しもべが自分の主について知ること。

２－しもべが自分自身について知ること。

それは彼の主が完全に自足し、何も必要としないことを知り、彼自身は必ず何かに依存しているということを認識することです。そして、このウブーディーヤについては生涯にわたって継続しなければいけません：﴾**人びとよ、あなたがたはアッラーに求める以外術のない者である。アッラーこそは、富裕にして讃美すべき方である。**﴿（クルアーン 35：15）

４－シルク（アッラーの唯一性の否定）

● **シルクとは**：至高のアッラーに対し、かれのルブービーヤ[16]とウルーヒーヤ[17]そしてかれの美名と属性において同位者や関与者をおくことです。それゆえアッラーの他に創造主がいるとか、あるいはそれに関与するものがあるなどと考える人は、ムシュリク（シルクを犯す者）になります。またアッラー以外に崇拝するに値する存在があると考える人も、アッラーのみが有する美名や属性を共有するものがあるなどと考える人も、同様にムシュリクとなります。

● **シルクの危険性**：

１－アッラーに対してシルクを犯すことは、比類のない不正です。というのもシルクは、至高なるアッラーのみが有される権利であるタウヒードに対する冒涜だからです。タウヒードこそは公正のうちでも最たるものであり、シルクは不正と醜行のうちでも最たるものです。シルクは万有の主に欠陥があるといういわれのない主張をし、かれの純粋な権利をかれ以外に捧げ、かれとかれ以外のものを同等に並べることです。シルクの危険性は尋常ではなく、もし審判の日にムシュリクとしてアッラーにまみえることになれば、アッラーはその人物をお赦しにはなられません。崇高なるアッラーは仰られます：﴾**実にアッラーはシルクをお赦しにはなられないが、それ以外のことであればお望みの者をお赦しになられる。**﴿（クルアーン 4：48）

２－アッラーに対してシルクを犯すことは最大の罪悪です。アッラー以外のものを崇拝するものはイバーダ（崇拝行為）を間違った形で行い、それを本来ささげるべき御方以外のものに捧げているからです。これは至高のアッラーが次のように仰られているように、重大な悪事で忌まわしい罪なのです：﴾**実にシルクは重大な罪悪である。**﴿（クルアーン 31：13）

３－大シルク[18]は、それを犯す者の善行やイバーダ（崇拝行為）など全ての行為を無効にする上、当人に破滅と損害をもたらします。それは以下に示す通り、大罪の内でも最も深刻なものなのです：

① 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてあなたと、あなた以前の者たちにこう啓示された：“もしあなたがシルクを犯せば、あなたの行いは無駄となり、あなたは損失者の類となるのだ。”**﴿（クルアーン 39：65）

---

[16] 訳者注：いわゆる主性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威。
[17] 訳者注：いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威。
[18] 訳者注：詳しくは「5. シルクの種類」の章を参照のこと。

② アブー・バクラ（彼にアッラーの御満悦あれ）は伝えています：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう3回繰り返し言いました：“大罪の内でも最大のものを教えようか？”（人々は）言いました：“はい、アッラーの使徒よ。”（預言者は）言いました；“アッラーに対してシルクを犯すこと、そして親不孝だ。”そして（預言者は）座ると、寄りかかってこう言いました：“そして虚言（もその内の1つ）である。”」（アブー・バクラは）言いました：「そして彼（預言者）は、私たちが“もう黙ってくれたらいいのに”と思うまで、それを繰り返し言い続けました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[19]）

● シルクの醜悪さ：

偉大かつ荘厳なるアッラーはクルアーンの4つの節において、シルクの醜悪さについて4通り述べられています。それらは以下の通りです：

① 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にアッラーはシルクをお赦しにはなられないが、それ以外のことであればお望みの者をお赦しになられる。そしてアッラーに対してシルクを犯す者は、この上ない罪を犯しているのだ。**﴿（クルアーン4：48）

② 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてアッラーに対してシルクを犯す者は、実に遥か遠く迷い去ってしまった者である。**﴿（クルアーン4：116）

③ 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にアッラーに対してシルクを犯す者は、アッラーが彼に天国を禁じられ給う。そして彼の行き先は地獄の業火であるのだ。（審判の日）不義の徒に援助者はないのである。**﴿（クルアーン5：72）

④ 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてアッラーに対してシルクを犯す者というのは、天から墜落した後に鳥にさらわれ、あるいは風に吹き飛ばされて遠い場所へと運び去られてしまうようなものである。**﴿（クルアーン22：31）

● シルクを犯す者が受ける罰：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **啓典の民（ユダヤ教徒とキリスト教徒）とムシュリク（シルクを犯す者）たちの内で（真実を）隠蔽し認めない者たちは、地獄の業火に永遠に留まることになる。彼らこそは創造物の内でも最悪の者たちなのだ。**﴿（クルア

---

[19] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2654）、サヒーフ・ムスリム（87）。引用はアル＝ブハーリーから。

ーン 98：6）

２－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーの御満悦あれ）は伝えてます：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："死ぬまでアッラー以外の何かにドゥアー（祈願）していた者は、地獄の業火に入るだろう。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[20]）

● **シルクの基礎**：

シルクがその上に成立しているところの基盤というべきものは、アッラー以外の何かを愛するということです。アッラー以外の何かを愛する者は、来世においてアッラーが彼の愛する対象をもって彼に襲いかからせ、そしてそれによって彼は罰せられます。彼は自らの愛するものに裏切られる羽目となる上、彼は屈辱的に見捨てられた状態に陥り、誰も彼に目も向けもしなければ、援助の手を差し伸べてもくれもしません。至高のアッラーはこう仰せられました：﴾**アッラーの他にいかなるものも崇拝してはならない。そうすればあなたは屈辱を受け、見捨てられる羽目になるであろう。**﴿（クルアーン 17：22）

● **シルクにおけるフィクフ（イスラーム法）**

アッラーの美名、属性においてシルクを犯すこと、かれの決定においてシルクを犯すこと、かれへのイバーダにおいてシルクを犯すこと、これらの種類はすべて真の主であり、真の王であるアッラーへのシルクです。

上記の１つ目はルブービーヤにおけるシルクであり、２つ目はアッラーへの服従におけるシルク、そして３つ目はイバーダ（崇拝行為）におけるシルクです。

力強く偉大なるアッラーは至大かつ至高なる主であり、かれと並ぶものない唯一無二の万有の創造主であり所有される御方です。

またかれは真の法をもつ唯一の御方であり、そして真に崇拝されるべき唯一の御方なのです。

アッラーが定められたことにおいてかれへシルクを犯すことは、かれへのイバーダ（崇拝行為）においてかれへシルクを犯すことと同じことです。それら２つは両方ともイスラームにおいて大シルク[21]になります。なぜならば真のイバーダ（崇拝行為）は唯一無二の御方であるアッラーの権利であられるからです。アッラーは次のように仰せられました。﴾**およそ誰でも、主との会見を請い願う者は、正しい行いをしなさい。かれの主を崇める場合に何一つ（同位に）配置して崇拝してはならない。**﴿（クルアーン 18：110）

20　サヒーフ・アル＝ブハーリー（4497）、サヒーフ・ムスリム（92）。引用はアル＝ブハーリーから。
21　訳者注：詳しくは「5．シルクの種類」の章を参照のこと。

裁決は唯一無二の御方であられるアッラーの権利です。アッラーは次のように仰せられました。﴿**かれ（アッラー）に、天と地の幽玄界は属する。何とかれはよく御存知であられ、またよく御聞きになることよ。かれら（言い争っている人びと）には、（結局）かれの外にはどんな保護者もなく、また何ものも、かれの大権に参与しないのである。**﴾（クルアーン18：26）

アッラーが下されたもの以外の教えに従う者は皆、ムシュリク（シルクを犯す者）であり、不信仰者です。そうした者たちが自分の主として崇めるものは、イブリース（悪魔の長）が不信仰の仲間たちの言葉の中にねじ込んだ、その法なのです。偉大なるアッラーは次のように仰せられました。﴿**かれらは、アッラーをおいて律法学者や修道士を自分の主となし、またマルヤムの子マスィーフを（主としている）。しかしかれらは、唯一なる神に仕える以外の命令を受けてはいない。かれの外に神はないのである。かれらが配するものから離れて（高くあらせられる）かれを讃える。**﴾（クルアーン9：31）

シャイターン（悪魔）を崇拝するということは、シルクと不信仰へと導く法・制度に従うということです。

至高なるアッラーは、この人類の敵に対して、次の御言葉で私たちに警告なされています。﴿**アーダムの子孫よ、悪魔に仕えてはならないと、われはあなたがたに命令しなかったか。かれはあなたがたの公然の敵である。アーダムの子孫よ、悪魔に仕えてはならないと、われはあなたがたに命令しなかったか。かれはあなたがたの公然の敵である。あなたがたはわれに仕えなさい。それこそ正しい道である。**﴾（クルアーン36：60-61）

アッラーの法に反する実証主義や制度のすべては、アッラーへの崇拝に同位者を置くものです。また、その規定や、それを愛すること、それに反対するものを嫌悪すること、それらはすべて大シルクです。﴿**それともかれらに（主の）同位者があって、アッラーが御許しになられない宗教をかれらのために立てたのか。決定的（猶予の）御言葉がなかったならば、かれらのことはとっくに裁かれていた。悪い行いの者は本当に痛ましい懲罰を受けるであろう。**﴾（クルアーン42：21）

偶像を崇拝する不信仰者たちは不遜で、罪深い者達です。そしてもし彼らがアッラーの定められたものを改ざんし、シャイターン（悪魔）の法に従うならば、それは最初の不信仰の上にさらに増長された新たなる不信仰となります。至高なるアッラーは次のように仰せられました。﴿**本当に（聖月を）延ばすことは、不信心を増長させ、それで不信者は誤って導かれている。ある年は（聖月を）普通の月とし、（他の年は）聖月とする。かれらはアッラーが禁じられた（聖月の）数と合せるために、アッラーが禁じられたもの（聖月）を（戦いが）合法であるとする。かれらの間違った行いは、かれらには立派に見える。アッ**

ラーは信仰を拒否する民を導かれない。﴿（クルアーン 9：37）

5 －シルクの種類

- **シルクには 2 種類あります**：①大シルクと、②小シルクです。

１ー大シルクとは：アッラーに対し、かれのルブービーヤ[22]とウルーヒーヤ[23]そしてかれの美名と属性において同位者や関与者をおくことです。
この大シルクは、それを犯す者をイスラームの範疇の外に追いやり、またその全ての行い（善行や崇拝行為など）を無駄にしてしまいます。大シルクを犯す者の生命と財産はもはや神聖で保障されたものではなくなり、もしその行為から悔悟する前に死んでしまうようなことがあれば、来世では地獄の業火に永遠に留まることになります。

大シルクとはイバーダ（崇拝行為）そのもの、あるいはその一部をアッラー以外のものに捧げることを意味します。例としては死人やジン（霊的存在）、シャイターン（悪魔）など、アッラー以外の何ものかにドゥアー（祈願）したり、誓いを立てたりすることや、アッラー以外にはその権能を有しないものに富の獲得や病からの治癒、あるいは必要事や雨天の到来などを頼んだりすることが挙げられます。無知な者たちは、聖者や正しく偉大であった人物の墓や、または木や石などからできた偶像に対してこれらのことを行います。

● **大シルクの種類**：

① **恐れにおけるシルク**：これは何らかの物体、偶像、ターグート[24]、死者、その場に存在しないジンや人間など、アッラー以外の何ものかが災いを及ぼすことを恐れることです。

この種の恐れは、イスラームの教えにおいて最も偉大かつ崇高な地位を占めているものの 1 つであり、それゆえにアッラー以外のものにおいてこの種の恐れを抱く者は、アッラーに対して大シルクを犯しています。これはシャイターン（悪魔）が人間を破滅へ向かわせる武器です：﴾**ゆえに彼らを恐れてはいけない。あなた方が信仰者であるのなら、われ（アッラーのこと）を畏れるのだ。**﴿（クルアーン 3：175）

② **タワックル（自らの身を完全に委ねること）におけるシルク**：全ての事柄と状況においてアッラーにタワックルすることは、アッラーのみに対して純粋な形で行わなければならない、最も偉大なイバーダ（崇拝行為）の 1 つです。

それゆえ、アッラーのみが権能を有されるものーつまり害悪の駆除や利益、糧の獲得などーにおいて、アッラーを差し置いて死者や不在者などにタワックルする者は大シルクを犯していることになります。至高なるアッラーはこう仰せられています：﴾**そしてあなた方が信仰者であるのなら、アッラーにこそタワックルするのだ。**﴿（クルアーン 5：23）

---

[22] 訳者注：いわゆる主性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威。
[23] 訳者注：いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威。
[24] 訳者注：「2．タウヒードの種類」の章を参照のこと。

③　**愛におけるシルク**：アッラーへの愛には、かれに対する完全な服従と慎ましさが不可欠です。この種の愛は純粋な形でアッラーにこそ向けられるものであり、何ものもそれをアッラーと以外の何ものかに向けることは許されません。

それゆえアッラーを愛するようにアッラー以外の何かを愛する者は、その愛とアッラーの比類のなさを讃美することにおいて、それらをアッラーの同位者としていることになります。そしてそれは大シルクの形態の 1 つなのです。至高なるアッラーは仰せられています：﴾**そして人々の中には、アッラー以外のものをアッラーを愛するように愛して、その同位者とする者たちがいる。しかし信仰する者たちのアッラーに対する愛情は、（彼らアッラー以外のものをアッラーを愛するように愛する者たちの愛情）より強烈なのだ。**﴿（クルアーン 2：165）

④　**服従におけるシルク**：大シルクの形態の 1 つに、服従におけるものがあります。例えば王族や支配層、学者や統治者などがアッラーが非合法とされたことを合法化したり、あるいは合法とされたことを非合法化したりしたとき、そのような彼らの裁断において服従することは、法の制定とその他の事柄を合法・非合法化する権威において、彼らをアッラーに参与させることになります。このような行為に対し、至高なるアッラーは次のように仰せられており、大シルクの 1 つに数えられます：﴾**（ユダヤ教徒、キリスト教徒ら啓典の民は）アッラーを差し置いて、彼らの学者や僧侶たち、そしてマリアの子メシア[25]を彼らの主と拝した。彼らは、唯一なる神を崇拝する以外のことは命じられてはいなかったのだ。かれ以外の神は存在しないのである。アッラーは（彼らが）かれに並べて（崇めて）いるものから、無縁かつ高遠なお方である。**﴿（クルアーン 9：31）

２－小シルク：これはアッラーがシルクと名づけられたものの、大シルクの域にまでは及ばない類のものの事を指します。小シルクを犯すことでタウヒード[26]信仰は損なわれますが、それを犯す者をイスラームの範疇外にまで追いやることはありません。小シルクは大シルクの架け橋であり、それを犯す者達は、アッラーの唯一性を明言する者達に反抗する者達であると規定されます。それを犯す者は（来世において）罰せられても、不信仰者のように永遠に地獄の業火に留まることはありません。また彼の生命も財産も、依然として神聖かつ侵すべからざる保証されたものです。

また大シルクは、それを犯す者の善行やイバーダ（崇拝行為）など全ての行いを無に帰させますが、小シルクの場合はそれを犯しつつ行った行為のみが無駄になります。例としては、人々の賞賛を求めてイバーダ（崇拝行為）をすることが挙げられます。人の目や耳、

---

[25] 訳者注：「マリアの子メシア」とはイーサー（イエス・キリスト）のことを指す。
[26] 訳者注：「1. タウヒード」の章参照のこと。

賞賛などを念頭に入れてサラー（礼拝）や施し（サダカ）、サウム（斎戒、いわゆる断食）などを行うことは、いわゆる見栄を張ることです。そして見栄のために行った行為は無効となるのです。クルアーンの中で言及されているシルクという言葉は、全て大シルクを指していますが、一方小シルクはスンナ[27]の中で数多くの伝承者によって語り継がれています。その内のいくつかを挙げてみましょう：

① 至高なるアッラーは仰せられました：﴿**（ムハンマドよ、こう言うのだ）「私は、あなた方の神は、唯一なる神であるという啓示を授かっただけの、あなた方同様の１人の男に過ぎない。ゆえに自らの主との面会を望む者は善き行いをし、その主に対するイバーダ（崇拝行為）においてシルクを犯してはいけない。」**﴾（クルアーン 18：110）

② アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）は伝えています：「アッラーの使徒はこう言いました："祝福にあふれた至高なるアッラーがこう仰せられた：われは最もシルクを必要としないものである。われ以外のものにシルクを犯しつつ何らかの行為を行う者は、われがその行いと彼のシルクを放棄しよう。"」（ムスリムの伝承[28]）

● またアッラー以外のものに誓いを立てることや、「アッラーと何がしが御望みになられたこと」「もしアッラーと何がしがおられなかったら…」「これはアッラーと何がしからのものだ」「私にはアッラーと何がししかいない」などという言葉も、小シルクの一種と見なされます。このような間違いを犯さないためには、「アッラーが御望みになり、それから[29]何がしが望んだこと」という風に言うべきなのです。

１－イブン・ウマル（彼らにアッラーの御満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言われるのを聞きました："アッラー以外のものにおいて誓いを立てた者は不信仰に陥ったか、あるいはシルクを犯したことになる。"」（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[30]）

２－フザイファ（彼にアッラーの御満悦あれ）は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう語ったと伝えています：「"アッラーが御望みになり、そして某が望まれたこと"などと言ってはならない。"アッラーが御望みになり、それから某が望まれた

27　訳者注：ここで言う「スンナ」とは預言者の言行や彼が認可したこと、彼の性格や容貌などを伝える伝承の事で、いわゆる「ハディース」と同義語。
28　サヒーフ・ムスリム（2985）。
29　訳者注：つまりアッラーとそれ以外のものを、運命を司ることや全知全能性などアッラー特有の権能において、単なる言葉遣いの上でも並列・同位させないようにすること。
30　真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（3251）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（2787）、スナン・アッ＝ティルミズィー（1535）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（1241）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

こと”と言うのだ。」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[31]）

● 小シルクはそれを犯す者の心の持ちようによっては、大シルクともなりえます。それゆえムスリムは、大小関わらず全てのシルクに注意するべきでしょう。というのもシルクはこれとないほど大きな不正なのであり、万有の主に対し欠陥があると意味するものなのです。至高なるアッラーは仰せられました：﴾**さてルクマーンが、自分の息子を戒めてこう言った時を思い起しなさい。「息子よ、アッラーに（外の神を）同等に配してはならない。それを配するのは、大変な不義である。」**﴿（クルアーン 31：13）

● **シルクと関連した言動とその媒介行為**：

ある種の言動は人の心の持ちようとその出所によって、大シルクと小シルクの境界線上に位置しています。このような類のものはタウヒード信仰を否定し、その純粋性を損ないます。イスラームはこのような言動に対し、警告を与えます。その具体的例を挙げていきましょう：

１－災難の除去やその予防を意図して指輪やネックレス、ブレスレットや糸などを身につけること。これはシルクの 1 つです。なぜなら、至高なるアッラー以外に願いを託し、それに愛着心を抱いているからです。

２－アイン（邪視）などの予防としてビーズや骨、文字の書かれた紙など、あらゆる形状をとったお守りを身につけること。これもシルクの 1 つです。なぜなら、至高なるアッラー以外に願いを託し、それに愛着心を抱いているからです。

３－何かを吉凶と関連付けること：ある種の鳥、動物、人、場所、日時、色などを不吉なものと考えることで、これもシルクの 1 つです。というのもこのような考えは益することもなければ害することもない被造物そのものから何らかの害悪が生じると考えることだからです。このようなものは、シャイターン（悪魔）とそのささやきに因を帰すものであり、アッラーに対するタワックル（自らの身を完全に委ねること）を損ないます。

４－木や石、何らかの遺跡や遺品、墓などからいわゆる利益を授かろうとしたり、あるいはそれらにそのような効果があると考えること：このような物からいわゆる利益が得られると信じたり、あるいは実際にそう願ったりすることはシルクの１つです。というのも、

---

31 真正な伝承。ムスナド・アフマド（2354）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（137）参照。スナン・アブー・ダーウード（4980）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4166）、引用はアブー・ダーウードから。

全ての御利益はアッラーのみがその権能を有されているからです。

５－魔法：魔法とはその原因が謎めき秘密めいたものです。

それは呪文やまじない、祈祷の言葉などによって人の心身に働きかけるものです。それによって人は時に病にかかり、死に至り、あるいは夫婦の縁が裂かれたりします。魔法はシャイターン（悪魔）的な行為です。また魔法はシャイターン（悪魔）に依拠することや、不可知の領域に関する知識を標榜するところから見ても、シルクの１つです。

いくつかのある魔法の種類のひとつとして、劇場やテレビのチャンネルでショーをするサーカスがあります。それを行うこと、見物すること、またお金を支払うこと、それによって稼ぐことは禁じられています。

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてスライマーン（ソロモン）が不信仰に陥ったのではない。シャイターン（悪魔）こそが不信仰をはたらき、人々に魔法を教授したのである。**﴿（クルアーン２：102）

６－占い：占いとはシャイターンを仲介として、未来に起こることを予言するなどといった、未知の領域に関する知識をでっち上げることを言います。これもまたシルクの１つです。というのもそこにはアッラーを差し置いて何か別のものを慕って接近することや、未知の領域に関する知識をアッラーと共有しているという詐称が存在しているからです。

アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言われました：「占い師や巫女のもとを訪れてその言葉を信じた者は、ムハンマドに下されたもの（イスラームの啓示）に関して不信仰に陥ったのである。」（アフマドとアル＝ハーキムの伝承[32]）

７－占星術：占星術とは星の出現の状態から善事と悪事が起こる事や、病気の発生や死の到来、価格の変動などを予め語り、地上における様々な出来事を証明しようとする手段です。これらはすべて大シルクです。なぜなら、未知の領域に関する知識とアッラー以外のものの参与や共有を認めることにつながることからです。

８－星に降雨の時期を関連付けること：これは降雨の時期を、ある星の出現や消滅と関連付けることです。そして「これこれの星が雨を降らせた」などと言って、降雨をアッラーではなく星々の恩恵であると考えることです。これもまた、雨の恩恵は星に限らずアッラー以外の何ものによるものでもないことから、シルクの１つなのです。

９－諸々の恩恵をアッラー以外のもののお陰と考えること：現世と来世における全ての

[32] 真正な伝承。アフマド（9536）、アル＝ハーキム（15）。引用はアフマドから。アル＝アルバーニーのイルワーウ・アル＝ガリール（2006）も参照のこと。

恩恵はアッラーからのものであるため、それをかれ以外の何かに結びつけることは不信仰であり、アッラーに対してシルクを犯していることになります。例を挙げるなら、財の獲得や病からの回復などといった恩恵をアッラー以外の何ものかのお陰としたり、陸や海や空を安全に移動できる恩恵を、運転手や航海士やパイロットのお陰としたりすることがあります。また安寧の獲得や災害からの保護を、ある政府や個人や偉人またはよい計画のお陰などとすることなどもここに含まれます。

　全ての恩恵はアッラーのみに帰せられ、それゆえ私たちはかれに感謝しなければなりません。一方ある被造物のお陰で生じているように見える事柄は、その恩恵の単なる手段に過ぎないのです。それは結実するかもしれませんし、しないかもしれません。また益するかもしれませんし、あるいはしないかもしれません。

　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そしてあなた方を訪れる全ての恩恵は、アッラーからのものである。そしてあなた方に災難が降りかかると、あなた方はかれにのみ哀願する。﴿**（クルアーン 16：53）

● **ニファーク（偽信性、あるいは偽善性）の種類**：

① **大ニファーク（偽信性）**：つまり信条におけるニファークのことであり、外面的にはイスラームを装っている一方で、内面においては不信仰を抱いているような状態を指します。このような類のものは不信仰者であり、改悛せずに死を遂げた場合来世においては地獄の業火の中でも最下層に放り込まれることになります。至高のアッラーはこう仰せられました：**﴾実に偽信仰者たちは地獄の業火の最下層に（放り込まれる定めである）。そしてあなた方は、彼らにいかなる援助者もないことを知るであろう。﴿**（クルアーン 4：145）

② **小ニファーク（偽善性）**：いわゆる行為におけるニファークのことであり、それを犯す者はアッラーとその使徒に不服従を示していることになりますが、まだイスラームの範疇内に留まっている状態のことを指します。また、大ニファークへと陥らないためにもアッラーへの改悛が義務となります。アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーの御満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「それが全て当てはまれば完全な偽善者となる 4 つの性質がある。そしてそれらの内 1 つの性質でも当てはまれば、（その者は）それを放棄するまで偽善者の要素が 1 つ内在しているということになるのだ：（その 4 つとはつまり）信用されれば裏切ること、話せば虚言を吐くこと、約束すればそれを破ること、そして議論すれば荒々しく傲岸に振舞うことである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[33]）

---

[33] サヒーフ・アル＝ブハーリー（34）、サヒーフ・ムスリム（58）。引用はアル＝ブハーリーから。

6－イスラーム

- **イスラームとは**：タウヒード信仰[34]と服従行為による従順さ、そしてシルク[35]とシルクの徒から潔白であることにおいて、アッラーに従うことを意味します。

34　訳者注：「タウヒードとタウヒードの種類」の項参照。
35　訳者注：「シルクとシルクの種類」の項参照。

● **イスラームには3つの段階があります。**それは：

① イスラーム
② イーマーン
③ イフサーン

です。そして各々の段階には幾つかの基幹があります。

● **人間のイスラームに対する必要性：**

人類の現世と来世における真の幸福というものは、イスラームなしには達成されません。そして人間にとってのイスラームに対する必要性は、食べ物や飲み物、空気に対する必要性よりも重要なものなのです。そして、これはアッラーから人間に対する最も偉大な恵みなのです。

全ての人間は法規定から免れえず、2つの動向の間――彼を益する動向と彼に対する害を阻止する動向――に位置しています。そしてイスラームは人を益するもの、または害するものを明白にする灯明のようなものなのです。そして、イスラームに従う者は倍加された報酬を与えられます。

● **イスラームとイーマーンとイフサーンの違い：**

１－イスラームとイーマーンが共に並列されて言及された場合、イスラームは外面的行為を指します。それは一般に「5柱」と呼ばれるものです。一方、イーマーンは内面的行為を指します。それは一般に「6信」と呼ばれるものです。そしてこの2つの用語が個別に言及される場合、お互いの意味と規定を共有します。

２－イフサーンのそれ自体の段階はイーマーンのそれよりも高く、イーマーンの段階はイスラームのそれよりも高くあります。イフサーンはイーマーンよりも高い段階であるため、それ自体では最高峰のものであるとも言えます。ゆえにイーマーンにたどり着くことなくして、イフサーンの段階に到達することはありません。またイフサーンはその段階に属する人たち（イフサーンの徒）に視点を当てて見るならば、最も限定された段階であると言えます。というのもイフサーンの徒はイーマーンの徒も兼ねますから、全てのムフスィン（イフサーンの徒）はムウミン（イーマーンの徒）であると言えます。しかしその一方、全てのムウミン（イーマーンの徒）がムフスィン（イフサーンの徒）であるとは限らないのです。

３－イーマーンはイスラームを包含するため、それ自体ではイスラームよりも大きな枠であると言えます。ゆえにイスラームという段階を経過せずして、イーマーンの段階に到達することはありません。またイーマーンは、その段階に属する人たちに焦点を当てて見るならば、イスラームよりも限定された種類のものです。というのもイーマーンの徒はイスラームの徒を兼ねますが、その全体に相当するのではありません。ゆえに全てのムウミン（イーマーンの徒）はムスリム（イスラームの徒）ですが、全てのムスリム（イスラームの徒）がムウミン（イーマーンの徒）であるとは限らないのです。

● **イスラームとクフル（不信仰）とシルクの違い：**

唯一の御方アッラーに従う者はムスリムです。またアッラー以外に従う者はムシュリク（シルクを犯す者）であり、そしてアッラーに従わない者は傲慢なカーフィル（不信仰者）です。

クフル（不信仰）とは：至高なる主をすべてにおいて否定することです。

シルクとは：万有の主にかれ以外の同位者をおき、かれに欠陥があるといういわれのない主張をすることです。

クフル（不信仰）はシルクよりもたちの悪いものです。というのも、シルクはそこに主を承認し、そしてかれに同位者を置いていますが、クフルは主そのものを否定しているからです。どちらの言葉ともクフルはシルクの意味とシルクはクフルのそれぞれ両方の意味を含んでいます。もし、このクフルとシルクの２つの言葉がクルアーンのアーヤやハディースで同じ文中にそれぞれ書かれている時は、それぞれの意味を表しています。もし、ひとつの文中に 2 つの言葉のうち１つだけ書かれていたならば、それはクフルとシルク両方の意味とその規定を表しています。

● **偉大な恩恵**

イスラームはアッラーが人間に与えた偉大な恩恵です。

クルアーンは、アッラーが人間の中から預言者ムハンマドを選んで引き継がせた、偉大な啓典です。至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾**その後、われはしもべの中から選んだ者に、この啓典を継がせた。だがかれらの中には、自ら魂を誤った者も、中間の道をとる者もあった。またかれらの中の或る者は、アッラーの御許しのもとに、率先して種々の善行に勤しむ者もあった。それは偉大な御恵みである。**﴿（クルアーン 35：32）

この偉大な啓典を授かったこの共同体をアッラーは３つのグループに分類なされました。

① 自分に対し不正を行う者

② 中庸の者

③ アッラーの御許しにより善行に先んじる者

自分に対し不正を行う者とは：ある時は、主に従い、またある時は主に反抗する態度をとる者たちのことです。彼らは正しい行いに悪い行いを混同しています。
また、アーヤにおいて、彼らのことが一番初めに述べられているのは、それらの者が絶望しないようにするためであり、アッラーからの大いなる恩寵の表れなのです。なぜなら、彼らの多くは天国へ入れるからです。

中庸の者とは：彼は義務行為を遂行し、禁じられたものを避ける者たちのことです。

アッラーの御許しにより善行に先んじる者とは：彼は義務行為を遂行し、禁じられたものを避け、義務行為やそれ以上の命令されたすべてのことにおいてアッラーにお近づきになりたいと努力する者たちのことです。またアーヤの中で彼らについて最後に述べられているのは、彼らが自分の行いを称賛し、それを無駄にさせないようにするためです。なぜならば、彼らは天国に最初に入るものたちであると、次のアーヤでアッラーは仰せられています。そして、天国の住人の多くは自分に対し不正を行う者であり、アッラーのお許しにより善行に先んじるものはわずかな者たちに過ぎません。
アッラーは３つ全てのグループが天国に入ることを約束されました。かれは次のように仰せられています：**﴾かれらは永遠の楽園に入ろう。その中でかれらは、黄金の腕環と真珠で身を飾り、その衣装は絹である。﴿**（クルアーン 35：33）

7－イスラームの基幹

● **イスラームの基幹は５つです：**

イブン・ウマル（彼にアッラーの御満悦あれ）は伝えています：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“イスラームは５つ（の基幹）から成立している：ラー・イラーハ・イッラッラ（アッラー以外に真に崇拝すべきものはない）とシ

ャハーダ（証言）すること、サラー（礼拝）を行うこと、ザカー（浄財）を支払うこと、ラマダーン月[36]のサウム（斎戒）、ハッジ（大巡礼）をすることである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[37]）

- **“ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはない）”というシャハーダ（証言）の意味：**

その意味は、人が偉大かつ荘厳なアッラー以外には真に崇拝すべきものは存在せず、そしてそれを義務として、実行し、かれ以外の偽りの崇拝物を避けることを口と心でもって承認することです：﴾**これも、アッラーこそ真実であり、かれらがかれ以外に祈るものが偽りの（神の）ためである。本当にアッラーは至高にして至大であられる。**﴿（クルアーン 22：62）
この文章（ラー・イラーハ・イッラッラー）は否定と肯定の 2 部によって成立しています。“ラー・イラーハ”の部分はアッラー以外に崇拝されている全てのものを否定し、その次に来る“イッラッラー”の部分はアッラーのみにイバーダ（崇拝行為）が向けられるべきこと、そしてアッラーはイバーダ（崇拝行為）においても全宇宙の所有においても同列者や参与者を御持ちにならないということを肯定しています：﴾**言ってやるがいい。「わたしたちはアッラーの外に、わたしたちに益もなく害もないものに祈れようか。わたしたちは一度アッラーに導かれた後に、地上で悪魔の誘惑に迷わされた者のように、わたしたちの踵を返せるであろうか。かれには（よい）仲間たちがいて、『わたしたちのもとに来なさい』と正しい道に招いているではないか」言ってやるがいい。「アッラーの導きこそ（真の）導きである。わたしたちは、万有の主に服従、帰依しなさいと命じられている。」**﴿（クルアーン 6：71）

- **“ムハンマドゥッラスールッラー（ムハンマドはアッラーの使徒である）”というシャハーダ（証言）の意味：**

その意味は、人が預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はアッラーのしもべであり、全人類へ遣わされたアッラーの使徒であるということを口と心でもって承認することです。そしてその承認に基づいて彼が命令したことにおいて従い、彼が語ったことを信じ、また彼が禁じたことを避け、そして彼が定めた手法によってのみアッラーを崇拝することを意味します：﴾**：言ってやるがいい。「アッラーと使徒に従いなさい。」だがかれらがもし背き去るならば、誠にアッラーは信仰を拒否する者たちを御好みになられない。**﴿（クルアーン 3：32）

36　訳者注：イスラーム暦 9 月。
37　サヒーフ・アル＝ブハーリー（8）、サヒーフ・ムスリム（16）。引用はアル＝ブハーリーから。

8-イーマン

- **イーマンとは：**

　①アッラーとその②*諸天使*、③*諸啓典*、④*諸使徒*、⑤*来世*、そしてそれが良きことであれ悪いことであれ⑥*運命*を信じること、そしてそれに沿って行動することを言います。

　イーマンは言葉及び行いを包含します。つまり心と舌でもって言葉にし、心と舌と身体をもって実践されるもので、アッラーに対する服従行為によって増加もすれば、反抗的行為によって減少もします。

● **イーマーンの分類：**

アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）はこう伝えています：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“イーマーンはおよそ 70、あるいは 60 に分類される。その内最大のものは「 ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはない）」の言葉であり、最小のものは道から有害なものを除去することである。そして羞恥心はイーマーンの 1 部門であるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[38]）

● **イーマーンの完全な形：**

それはアッラーとその使徒に対する完全な愛です。それによってその者の愛する存在が決定付けられます。また、それを行い、広めることです。
つまり心の行いであるムスリムの愛も嫌悪もアッラーゆえであり、身体の行いである施しをすることもそれを控えることもアッラーゆえなのであれば、それはイーマーンの完全な形であり、偉大かつ荘厳なるアッラーへの完璧な愛なのです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**言ってやるがいい。「あなたがたがもしアッラーを敬愛するならば、わたしに従え。そうすればアッラーもあなたがたを愛でられ、あなたがたの罪を赦される。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」**﴿（クルアーン 3：31）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**信者は、アッラーのことに話が進んだ時、胸が（畏敬の念で）戦く者たちで、かれらに印が読誦されるのを聞いて信心を深め、主に信頼する者たち、礼拝の務めを守り、われが授けたものを（施しに）使う者たち、これらの者こそ真の信者である。かれらには主の御許にいくつもの段階があり、寛容と栄誉ある給養を与えられる。**﴿（クルアーン 8：2-4）

● **イーマーンの段階：**

イーマーンには旨み、甘美さ、そして真実があります：

① **イーマーンの旨みとは：**預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が次に示す言葉の中で示しています：「アッラーが主であり、イスラームが宗教であり、ムハンマドが使徒であることに満足する者は、イーマーンの旨みを味わったのだ。」（ムスリムの伝

---

38 サヒーフ・アル＝ブハーリー（9）、サヒーフ・ムスリム（35）。引用はサヒーフ・ムスリムから

承[39])

② **イーマーンの甘美さとは：**預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が次に示す言葉の中で示されています：「（次の）３つ（の特質）を備えた者は、イーマーンの甘美さを得た者である：つまりアッラーとその使徒がその他のいかなるものよりも愛しいこと、そしてアッラーのみのために人を愛すること、またあたかも地獄の業火に投げ込まれることを厭うがごとく、不信仰に戻ることを厭うことである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[40])

③ **イーマーンの真実とは：**完全に確信し真にイスラームの教えに則っている者、またイスラームのイバーダ（崇拝行為）やダアワ（布教）において努力・奮闘したり、自らの信仰を守るために移住したりイスラームの興隆のための一助を担ったり、アッラーの道において尽力したり財を施す者、また正直で、忍耐強く、惜しみなく物を与え、禁じられているものを避ける者に授けられるものです。

　またしもべは、現実に起こった出来事が起こるべくして起こり、起こらなかった出来事はそもそも起こる運命にはなかったのだということを知るまでは、真のイーマーンに到達したことにはなりません。

１－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**_ムウミン_（イーマーンの徒）とはアッラーが想起されればその心が畏怖の念に襲われ、そして（クルアーンの）節が唱えられればその信仰心が増し、またその主に_タワックル_（自らの身を完全に委ねること）する者たちのことである。（また彼らは）_サラー_（礼拝）を行い、われら（アッラーのこと）が糧として恵んだものから施しをする。彼らこそは真の_ムウミン_（イーマーンの徒）である。彼らには主の御元に（高い）位階と御赦し、尽きることのない報償がある。**﴿（クルアーン８：2-4）

２－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして信仰し、自らの信仰を守るために移住し、アッラーの道において奮闘した者たち。そして彼らマッカからの移住者たちに住居を提供し、援助した者たち。彼らこそは真の_ムウミン_（イーマーンの徒）である。彼らには（アッラーの）御赦しと尽きることのない報償があるのだ。**﴿（クルアーン８：74）

３－至高のアッラーは仰せられました：﴾**_ムウミン_（イーマーンの徒）というものはアッラーとその使徒を信仰し、その後（その信仰に）疑念を抱くことなく、財と生命をかけてアッラーの道に奮闘する者たちのことである。彼らこそは真に信仰する者たちである。**﴿（クルアーン 49：15）

---

39 サヒーフ・ムスリム（34）。

40 サヒーフ・アル＝ブハーリー（16）、サヒーフ・ムスリム（42）。引用はアル＝ブハーリーから。

● **より高いイーマーンの段階について：**

イマーンとは言葉、形、旨み、甘美さ、真実を持つものです。

より高いイマーンの段階とは確信するということです。なぜならば、それは疑いを持たないイマーンであり、躊躇することがないからです。あなたの目の前に現れているものを見るのと同じように、そしてアッラーが目の前にいるかのように崇拝行為をするように見えないものについても確信すること。これこそがイフサーンなのです。もし、アッラーやかれの美名と属性、天使、諸啓典、使徒たち、そして最後の審判の日に関することにおいて、アッラーが不可視の世界についてお伝えになられていることを見えているかのようになれば、これこそが完全なる確信であり、真の確信といえます。

そして、アッラーが次のように仰せられているように、忍耐と確信は、宗教における指導者としての地位をもたらします：**﴾われは、かれらの間から、わが命令を下して（人びとを）導く導師をあげた。かれらはよく耐え忍びまたわれの印を堅く信じていた。﴿**（クルアーン 32：24）

9－イーマーンの分類

● **イーマーンの分類は：**多岐にわたります。良きことを言うこと、行動によるもの、心の働きによるものが含まれます。

アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）はこう伝えています：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“イーマーンはおよそ 70、あるいは 60 に分類される。その内最大のものは「 ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはない）」の言葉であり、最小のものは道から有害なものを除去するこ

とである。そして羞恥心はイーマーンの 1 部門であるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[41]）

● **アッラーの使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）への愛：**

アナス（彼にアッラーの御満悦あれ）はこう伝えています：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：“私があなた方の父や子、はたまた（その他）全ての者よりも愛しい者とならなければ、真に信仰したことにはならない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[42]）

● ***アンサール***[43]**への愛：**

アナス（彼にアッラーの御満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「イーマーンのしるしの 1 つは、*アンサール*への愛である。そして*ニファーク*（偽信）のしるしの 1 つは、*アンサール*に対する憎しみである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[44]）

● **信仰者への愛：**

アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）は伝えています：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言われました：“あなた方は信仰に入るまで天国に入らないだろう。そしてあなた方はお互いに愛し合うようになるまで、信仰には入らないだろう。ではそれをすればお互いに愛し合うようになるものを教えてやろうか？あなた方の間で*サラーム*（挨拶）を広めるのだ。”」（ムスリムの伝承[45]）

● **ムスリム同胞への愛：**

アナス（彼にアッラーの御満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「自分に欲するものを自分の兄弟（一説には自分の隣人）にも欲するようになるまでは、あなた方は本当に信仰したことにはならない。」（アル＝ブハー

---

41 サヒーフ・アル＝ブハーリー（9）、サヒーフ・ムスリム（35）。引用はサヒーフ・ムスリムから
42 サヒーフ・アル＝ブハーリー（15）、サヒーフ・ムスリム（44）。引用はアル＝ブハーリーから。
43 訳者注：マッカの信仰者たちが迫害を逃れてマディーナへ移住した際、当地で財や住居などを提供しつつ彼らを援助したムスリムたち。
44 サヒーフ・アル＝ブハーリー（17）、サヒーフ・ムスリム（74）。引用はアル＝ブハーリーから。
45 サヒーフ・ムスリム（54）。

リーとムスリムの伝承[46])

● **隣人及び客人を厚遇し、よいこと以外は話さないこと：**

アブー・フライラ（彼にアッラーの御満悦あれ）によるとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーと審判の日を信ずる者は、よいことを喋るか、さもなくば黙っていよ。アッラーと審判の日を信ずる者は、隣人を厚遇せよ。そしてアッラーと審判の日を信ずる者は、客人を手厚くもてなすのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[47])

● **勧善懲悪：**

アブー・サイード・アル＝フドリー（彼にアッラーの御満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言われるのを聞きました：“悪事を目にした者は、それを手でもって正せ。もしそう出来なければ、舌でもって正せ。そしてそれさえも出来なければ、心でもって正すのだ。そしてそれが最も弱いイーマーンである。」（ムスリムの伝承[48])

● **助言：**

タミーム・アッ＝ダーリー（彼にアッラーの御満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「“宗教とは助言である。”私たちは言いました：“誰に対する（助言ですか）？”　（預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は）言いました：“アッラーとその啓典と、その使徒、そしてムスリムの指導者たち及び一般の者たちに対する助言である。”」[49]（ムスリムの伝承[50])

46　サヒーフ・アル＝ブハーリー（13）、サヒーフ・ムスリム（45）。引用はムスリムから。

47　サヒーフ・アル＝ブハーリー（6018）、サヒーフ・ムスリム（47）。引用はムスリムから。

48　サヒーフ・ムスリム（49）。

49　訳者注：イマーム・アン＝ナワウィーのサヒーフ・ムスリム注釈によれば、「アッラーへの助言」とはかれへの信仰、シルクの回避、かれをあらゆる欠陥から無縁な存在として讃美すること、かれへの服従、かれへの愛など諸々のことを指しているという。実際のところアッラーはそのしもべからの助言などは必要とはされないが、ここでの「助言」という言葉はしもべ自身に向けてのそれを示している。また「その啓典」に対する助言とは、それがアッラーの御言葉であり、かれからの啓示であること、またそれが他のいかなる言葉にも似ておらず、いかなる者もそれに匹敵するものを創作出来ないことなどを信仰し、また正しい朗誦と畏怖の念をもってそれを読誦すること、熟読吟味しかつそれを訓戒とすること、それを学びかつ実践することなどを意味するという。「その使徒たち」に対する「助言」とは、彼らと彼らが携えて到来したものを信仰すること、彼らへの服従、尊敬、彼らの生き方や人格の模倣、その教えの布教、彼らの教友たちを愛することなどが含まれる。また「ムスリムの指導者たち」に対する「助言」とは、真実において彼らを援助し、服従し、穏和な手段をもって勧告し、忘れている事を想起させ、彼らのために祈願し、見捨てたりしないことなどが挙げられる。一方「一般の者たち」に対する「助言」とは、彼らを現世と来世における福利のために導くこと、害悪から守ること、無知を取り除いてしてやること、言葉と行

10－イーマーンの基幹

● **イーマーンには６つの基幹があります。**それについては、大天使ジブリール（ガブリエル：彼に祝福と平安あれ）が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に、イーマーンについて訊ねたことに関する伝承の中で言及されています。彼はその問いにこう答えました：「（イーマーンとは）アッラーとその諸天使、そしてその諸啓典と諸使徒、また来世と、運命をその良し悪しを問わず信じることである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[51]）

いでもって援助すること、恥部を隠してやること、同情すること、騙したり嫉妬したりしないこと、自ら欲することを彼らにも欲することなどを意味するという。

50　サヒーフ・ムスリム（55）。

51　サヒーフ・アル＝ブハーリー（50）、サヒーフ・ムスリム（8）。引用はムスリムから。

● イーマーンの結びつきの強さ

イーマーンの結びつきは実に最もすばらしいものです。その結びつきの強さは、創造主と被造物を、天と地を、イスラームの共同体とその偉大なる預言者を、地上において人々の間を、人々と天使の間を、人々とジン（霊的存在）の間を、そして現世と来世の間を結びつけているのです。

そのために、アッラーは天と地とその間にあるもの、そして天国と地獄を創造されました。

またそのために、アッラーは信仰者達の保護者であられ、諸預言者を遣わされ、諸啓典を啓示され、アッラーの道において努力奮闘することを定められました。

１－至高なるアッラーは次のように仰せられました：**﴾男の信者も女の信者も、互いに仲間である。かれらは正しいことをすすめ、邪悪を禁じる。また礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなし、アッラーとその使徒に従う。これらの者に、アッラーは慈悲を与える。本当にアッラーは偉力ならびなく英明であられる。﴿**（クルアーン９：71）

２－至高なるアッラーは次のように仰せられました：**﴾アッラーは信仰する者の守護者で、暗黒の深みから、かれらを光明の中に導かれる。信仰しない者は、邪神〔ターグート〕がその守護者で、かれらを光明から暗黒の深みに導く。かれらは業火の住人である。永遠にその中に住むであろう。﴿**（クルアーン２：257）

ここでは、イーマーンの６つの基幹を詳細に説明しています。

①アッラーへの信仰

●アッラーへの信仰は次の４つの事を内包しています：

1、至高なるアッラーの存在：

● アッラーは全ての被造物を、その創造主への信仰の元に創造されました。

崇高かつ至高なるアッラーは仰せられています：﴿**ゆえにあなたの顔を純正な宗教へと向けるのだ。（それは）人々がそれを元に創造されたところのアッラーの天性。アッラーの創造に改変はない。**﴾（クルアーン 30：30）

● **そしてこの宇宙に創造主が存在することは、理性によっても証明できます。**

というのも過去のものであれ、未来のものであれ、被造物はそれを存在せしめた創造主無しにはありえないからです。そして被造物は自らの力でもって自らを存在させることは出来ませんし、また突如原因もなく生じることもありません。ゆえに被造物には、それらを生じせしめた存在があるのです。そしてそれこそは万有の主アッラーなのです。崇高かつ至高なるアッラーは仰せられました：﴿**無から生じたのか。あるいは彼ら（シルクの徒[52]）自身が創造者だというのか？それとも（彼らが）天地を創ったとでもいうのか？いや、彼らの信仰は曖昧なのである。**﴾（クルアーン 52：35-36）

● **また崇高なるアッラーの存在は感覚によっても証明できます。**

私たちは昼夜の変転や人間と動物の生命の糧、被造物を取り巻く諸事が全て首尾よく運営されていることなど、至高なるかれの存在を明確に示している証拠を目にします。アッラーは仰せられています：﴿**アッラーは昼夜を変転させる。実にそこには眼識ある者たちへの教訓があるのだ。**﴾（クルアーン 24：44）

● **アッラーがその諸使徒と諸預言者を援護した数々のみしるしと奇跡は、人々によって目撃されたり耳にされたりしています。**

それらはアッラーがそれでもってかれの諸使徒を助け援護したところの、人的能力を超越した事象なのです。そしてこの事は彼らを遣わした存在、つまり偉大かつ荘厳なるアッラーの存在の 1 つの確証でもあります。アッラーはイブラーヒーム（アブラハム。彼に平安あれ）がその民から迫害を受けて火にかけられた時、彼のために火を冷たく無害なものに変えられ、ムーサー（モーゼ。彼に平安あれ）には海を真っ二つに割らせました。またイーサー（イエス。彼に平安あれ）には死人を蘇生させ、そしてムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）には月を割らせました。アッラーの存在は疑念の余地がありません：﴿**使徒たちは言った。「あなたがたは天と地を創造された方、アッラーに就いて疑いがあるのか。かれがあなたがたを招かれたのは、あなたがたの罪を御赦しなされるためである。**﴾（クルアーン 14:10）

---

[52] 訳者注：「４．シルク」の項参照。

● **アッラーはかれに祈願する者の願い事を叶え、何か必要なものを求める者には与え、また苦難にある者には慰安を授けて下さいます。**

この事は疑念の余地なく、崇高なるかれの存在と知識、そして威力を示しているのです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**あなた方が、あなた方の主の御援助を請うた時（のことを思い出すのだ)。かれ（アッラーのこと）はあなた方に応じてこう仰せられた："われ（アッラーのこと）はあなた方に、隊列を組んでやって来る1000の天使を（援助として）遣わそう。"**﴿（クルアーン8：9）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**またアイユーブ（ヨブ）がその主をこう呼んだ時（のことを思い出すのだ)：「私は害悪に苦しんでいます。そしてあなたこそは慈悲深い者全ての中でも、最も慈悲深いお方であられます。」そしてわれら（アッラーのこと）は彼に応え、彼から害悪を取り除いてやった。それからわれらは（来世において）彼に彼の家族を与え、そしてそれと似たような者たちを（現世においても）授けてやったのだ。これらはわれらの慈悲の賜物であり、イバーダ（崇拝行為）に努める者たちに対しての教訓なのだ。**﴿（クルアーン21：83-84）

● **またイスラーム法自体も、崇高かつ偉大なるアッラーの存在を証明しています。**

イスラーム法に内包された公正で偉大なる諸規定は、被造物の福利のためのものです。そして偉大かつ荘厳なるアッラーが諸啓典として各々の使徒と預言者に啓示されたそれらの天啓法は、しもべの福利に通暁された公正で万能なる主からのものであることを示しています。

2、アッラーが唯一の主であり、何ものもかれに共同・参与しないということへの信仰：

崇拝されるにふさわしい真の主とは全ての創造と所有と王権を有される真の王であるゆえ、アッラー以外には創造主も真の所有者もなく、全ての権限は唯一なるアッラーにこそあります。つまり全ての創造物はかれのものであり、全ての所有権はかれのものであり、全ての権限はかれに属するのです。かれこそは強大かつ慈悲深い御方であり、何ものも必要としない真に讃美されるべき御方であり、全知全能の御方です。かれは慈悲を請われれば慈しみを授けられ、罪の赦しを請われれば、御赦しになられます。また求められれば御与えになり、呼ばれれば御応えになられます。そしてそれらを御望みのままに遂行されます。かれは永生され自存される御方であり、まどろみや睡眠に捉えられることがありません。

１－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾かれにこそ創造と全ての権限は属する。万象の主アッラーの崇高さよ。﴿**（クルアーン７：54）

２－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾アッラーにこそ諸天地と、そこにある全てのものは属する。そしてかれには全ての物事が可能なのである。﴿**（クルアーン５：120）

- 私たちは以下のことを知り、確信しています：偉大かつ荘厳なるアッラーが、全ての創造物を創造され、全ての存在を存在せしめ、それらを形造られた主であること。そして諸天地を創られたこと。太陽と月、昼と夜を創られたこと。水と植物、人間と動物、土、山々と海々を創られたこと。**﴾そして（アッラーは）全てを創造され、それらを緻密に定められた。﴿**（クルアーン25：2）

- アッラーは全てのものをその御力でもって創られました。崇高なるアッラーには代理人も助言者も補佐もなく、かれこそは唯一で全てを司る唯一の御方なのです。かれはその御慈悲をもってその玉座におかけになられ、その御能力をもって天を握り、その御望みのままに大地を広げられました。そしてその御意志をもって全ての被造物を創造され、その御力をもってそのしもべたちを支配されました。かれは東西にある全てのものの主であり、かれ以外に崇拝されるべきものの存在しない御方、永生し自存される御方なのです。

- また私たちは以下のことを知り、確信しています：崇高なるアッラーが全能であり、全てを包囲なされていること。かれが全ての王であり、全てを御存知であり、全てのものを支配されていること。また全ての被造物はその強大さに服従し、その威厳に対して声をひそめ、その御力の前では彼らの内のいかなる強者も卑小な存在であること。またかれを（現世において）視覚で捉える事は出来ませんが、かれこそが全ての視覚を捉えられているのであり、霊妙かつ全てに通暁された御方であること。そしてかれは御望みになられることをなされ、御決定されます。**﴾かれ（アッラー）の御決定というものは、それをお望みになられた時に“（このように）あれ。”と仰せられただけで、実にそのようにあるのである。﴿**（クルアーン36：82）

- 至高なるアッラーは天地にあるもの全てを熟知され、不可視界の事象も可視界の事象も御存知の至高至大なるお方です。かれは山々の重さも海々の広さも、雨のしずくの一滴一滴の数も、全ての木々の葉の数も砂丘の砂粒の数も御存知なのです。かれは夜が覆い隠すものも昼が照らし出すものも熟知されています。**﴾そしてかれはかれのみぞ知る不可視界の鍵を有される。かれは陸にあるものも海にあるものも御存知であり、１枚の葉**

でさえかれの知をよそに落ちることはない。また地中の暗闇に潜む1粒の種子も、湿っているものも乾いているものも、全て明白な書の中に記録されているのである。》（クルアーン 6：59）

● また私たちは以下のことを知り、確信しています：荘厳なるアッラーが日々諸事を司られ、天地のいかなる事も熟知されていること。かれが全てを管理され、風を送られ、慈雨をお恵みになること。またかれが一度不毛となった大地を蘇えらせ、御望みになる者を強大に、あるいは卑小にされること。そして彼こそが、生と死、供給と禁止、零落と興隆を司られる御方であること。**《（祈って）言え。「おおアッラー、王権の主。あなたは御望みの者に王権を授け、御望みの者から王権を取り上げられる。また御望みの者を高貴になされ、御望みの者を低くなされる。（凡ての）善いことは、あなたの御手にある。あなたは凡てのことに全能であられる。あなたは夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせられる。またあなたは、死から生をもたらし、生から死をもたらせられる。あなたは御心に適う者に限りなく御恵みを与えられる。」》**（クルアーン 3：26-27）

● また私たちは以下のことを知り、確信しています：全ての宝庫は唯一なるアッラーのものであること。天地にある全ての宝庫はアッラーのために存在すること。そして唯一なるアッラーの御許には、それが水であれ、植物であれ、空気であれ、鉱物資源であれ、健康であれ、平和であれ、享楽であれ、懲罰であれ、慈悲であれ、導きであれ、力であれ、強大さであれ、その全ての存在に対する蓄えがあること。**《そして全てのものには、われら（アッラーのこと）の下にその蓄えがある。そしてわれらはそれらを、適当な量だけ供給するのだ。》**（クルアーン 15：21）

● 以上のことを知り、またアッラーの全能性、偉大さ、御力、威厳、知識、所有、宝庫、御慈悲、そして唯一性といったものを確信すれば、心はかれへと向かい、胸はかれへのイバーダ（崇拝行為）ゆえに喜びに満たされるでしょう。また体の全部位はかれに服従し、舌はかれの比類のなさと至大さ、崇高さと誉れ高さを讃美してやまないことでしょう。そしてあなたはもうかれ以外のものに何かを求めたりせず、かれのみがその権能を専有される事柄において、かれ以外の何ものにも援助を請願したりはしないでしょう。またあなたはもはやかれ以外には*タワックル*（自らの身を完全に委ねること）したりせず、かれ以外を恐れることもなければ、かれ以外の何ものかをイバーダ（崇拝行為）の対象とすることもないでしょう。**《かれこそがアッラー、あなた方の主である。かれ以外に崇拝すべきものはない。かれは全ての創造主であるのだ。ゆえにかれを崇拝せよ。かれは全てにおいて（そのしもべから）委任されるべきお方なのである。》**（クルアーン 6：102）

3、崇高なるアッラーの*ウルーヒーヤ*[53]への信仰：

- 私たちは以下のことを知り、確信しています：アッラーのみが真に崇拝されるべき存在であり、何ものもそこに参与することはないこと。かれのみがイバーダ（崇拝行為）を捧げるに相応しいお方であること。彼が万有の主であり、万有の崇拝する存在であること。また私たちがかれに対する完全な服従と愛と、そしてその比類なさに対する讃美をもって、かれ自身が定められた方法に則ってかれにイバーダ（崇拝行為）を捧げるべきこと。

- また私たちは以下のことも知り、確信しています。アッラーはその*ルブービーヤ*[54]においていかなる参与者も存在しない唯一の御方であると同様に、その*ウルーヒーヤ*においてもいかなる参与者も存在しない唯一の御方であること。そしてそれゆえに、私たちがかれに何ものをも並べることなくかれを崇拝し、かれ以外のいかなるものに対するイバーダ（崇拝行為）も回避すべきこと。
  至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてあなた方が崇拝すべきものは、ただ１つ。かれ以外には崇拝するべきものの存在しない、慈悲あまねく慈悲深いそのお方なのである。**﴿（クルアーン 2：163）

- アッラーは真の神であり、かれを差し置いて崇拝されている全てのものの*ウルーヒーヤ*は空虚であり、それらに向けられているイバーダ（崇拝行為）もまた空虚です。﴾**それというのもアッラーこそが真実であり、かれを差し置いて彼ら（シルクの徒）が崇めているものが空虚だからである。そしてアッラーは、至高至大なるお方なのだ。**﴿（クルアーン 22：62）

4、アッラーの美名と属性への信仰：

- **その意味するところは：**その理解と暗記、その認識、またそれをもってアッラーを崇拝すること、そしてそれが義務付けるところのものを実行することです。アッラーの比類なき偉大さや威厳、栄光、荘厳さといった性質を知ることによって、しもべの心はアッラーに対する畏敬と賞讃の念に満たされるでしょう。またアッラーの強大さや威力、全能、全てを支配する御力といった性質を知ることで、しもべの心には主に対する慎み深さや謙虚さ、服従の念といったものが充溢することでしょう。

---

[53] 訳者注：いわゆる神性。つまり真に崇拝されるべき権威としての性質。

[54] 訳者注：いわゆる主性。いわゆる主性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威としての性質。

またアッラーの御慈悲や優しさ、寛大さといった性質を知れば、しもべの心はアッラーへの愛、かれの恩恵や慈善、寛容さなどを希求し切望する気持ちであふれるでしょう。加えてアッラーの知識や、全てを包囲され何事にも通暁されているという性質を知ることは、しもべの心に「いかなる行動や生活も見透かされているのだ」という意識を芽生えさせてくれます。

そしてこれら全ての属性は、しもべにアッラーへの賞賛、愛、思慕の念、親しみの念などを抱かせるだけでなく、かれのみに*タワックル*（自らの身を完全に委ねること）させることや、かれのみにイバーダ（崇拝行為）を捧げ邁進させることにも大きく供与するのです。

● 私たちは崇高なるアッラーが御自身に対して認められた美名と属性、あるいは預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がアッラーに対して肯定した美名と気高い属性、またアッラーが御自身に対して否定された名前や属性、あるいは預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がアッラーに対して否定した名前や属性の全てを認めます。そしてそれらとそれらが示す意味や作用を信じます。つまりアッラーが“最も慈悲深い御方”であることと、かれが慈悲を備えられている御方であるというその意味を信じます。そしてこの美名の及ぼす作用の1つには、アッラーが御望みになるものに御慈悲をかけられるということがあります。このように、他の全ての美名と属性においても同様の捉え方をしなければなりません。

また私たちはアッラーの美名と属性の意味のすり替えや完全否定、具体的説明の努力や擬人化などの手法に依拠することなく、崇高なかれの荘厳さにふさわしい形においてそれらすべてを認めるのです。**﴾かれ（アッラー）に似たものは何1つない。にも関わらず、かれは全てを聞き、御覧になられるお方なのである。﴿**（クルアーン 42：11）

● 私たちはアッラーのみにその美名と崇高な属性が帰せられるということ、そしてそれをもってかれに祈願するということを知り、確信しています：

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてアッラーにこそ美名が属するのであるから、それをもってかれに祈願するのだ。かれの美名をないがしろにするような輩は放っておくがいい。いずれ彼らは自分たちが行っていたところのもので報いを受けるだろうから。﴿**（クルアーン 7：180）

● **アッラーの美名と属性に対するイマーンの基本：**

それは3つの基本から成り立っています。

1つ目は：天地の創造主からかれの本質、美名、属性、行動において被造物と類似する要素を排除することです。

２つ目は：アッラー御自身とかれの預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が説明した通りの、かれの美名と属性に対するイーマーンを持つことです。

３つ目は：私たちが知ることのできないアッラーの本質、かれの美名と属性について、それらが具体的にどのようなものかと把握しようとすることを止めることです。至高なるアッラーは仰せられました：**﴾かれ（アッラー）に似たものは何 1 つない。にも関わらず、かれは全てを聞き、御覧になられるお方なのである﴿**（クルアーン 42：11）

●　アッラーの美名

偉大かつ荘厳なるアッラーの美名は、かれの完全な性質を示しています。それらは属性から派生したものゆえ、名称と同時に性質をも表しています。これが"美名"と呼称されるゆえんです。またアッラーとその美名及び属性に関する研究は、数ある学問の内でも最も高貴で偉大なものであり、かつ人々が早急に知る必要に迫られているものです。以下にて、偉大かつ荘厳なるアッラーの美名を挙げていきましょう：

・「）الله アッラー（」：全ての創造物が崇拝し、愛し、その比類のない偉大さを讃え、服

従し、全ての必要をかれに依存しているところの、真に崇拝すべき存在。

・「）**الرحمن الرحيم** *アッ＝ラフマーン、アッ＝ラヒーム*（」“最も慈悲あまねく慈悲深い御方”：その御慈悲は、全ての存在にあまねく行き渡っています[55]。

・「）**الملك** *アル＝マリク*（」“真の王”：天と地にある全ての被造物を所有される御方。
「）**المالك** *アル＝マーリク*（」“全ての所有者”：全ての王国と王としもべを所有される御方。
「）**المليك** *アル＝マリーク*（」“王権の支配者”：その王国において全ての命令を執行される御方。その御手にこそ王権があり、御望みの者に王権を授け、御望みの者からそれを剥奪される御方。

・「）**القدوس** *アル＝クッドゥース*（」“最も神聖なる御方”：あらゆる欠如や欠陥などから無縁であり、完全な属性でもって表される御方。

・「）**السلام** *アッ＝サラーム*（」“最も平安なる御方”：全ての欠陥や損害、欠如などを被ることから安全であられる御方。平安はかれの下にあり、かれから与えられるものです。

・「）**المؤمن** *アル＝ムウミン*（」“最も平安を与えられる御方”：その被造物に不正を施されることがなく、平安を作られる御方。またしもべの内、御望みの者に平安を与えられる御方。

・「）**المهيمن** *アル＝ムハイミン*（」“最もよく監視される御方”：被造物の一挙一動を御覧になられ、いかなるものもかれから身を隠すことの出来ない御方。

・「）**العزيز** *アル＝アズィーズ*（」“最も偉大なる御方”：全ての強大さを備えられた御方。かれはいかなる者の援護も要されることのない偉大な御方、決して敗北されることのない強大な御方であり、そして全ての被造物が服従するところの威力この上ない御方なのです。

・「）**الجبار** *アル＝ジャッバール*（」“全てを従えられる御方”：全ての被造物の高きにあり、御望みになることにおいてそのしもべたちを従えられる御方。またしもべたちとその状況を改善し発展される、強力な力と比類なき偉大さを備えられた御方。

・「）**المتكبر** *アル＝ムタカッビル*（」“最も高遠なる御方”：被造物の不完全な性質からは

---

[55] 訳者注：アッラーの美名の他言語への翻訳は、言語としてのアラビア語が示す多様な意味合いにおける大まかな目安に過ぎません。またここに挙げられている説明もごく簡略されたものであり、詳細を知るには専門書を参照する必要があります。

無縁であり、ゆえに何ものにも相似されない御方。またいかなる悪や不正からも遠く離れた高遠なところにあられる御方。

・「）الكبير アル＝カビール（」“至大なる御方”：かれ以外の存在は全て瑣末で卑小であり、またかれにこそ天地における威光は属しています。

・「）الخالق アル＝ハーリク（」“創始者”：全ての被造物を無から創造された唯一無二の御方。「）الخلاق アル＝ハッラーク（」“創造主”：創造を行われ、かつその御力でもって御望みの時に、御望みのように全てのものを創られる御方。

・「）البارئ アル＝バーリゥ（」“造物主”：被造物を創造され、その御力でもってそれらを存在せしめられた御方。そしてそれらを互いに異なったものとされ、先天的に清純で無垢なものとされた御方。

・「）المصور アル＝ムサッウィル（」“造形主”：被造物を長短、大小、サイズ、色、形などにおいて、様々に異なる形に造形された御方。

・「）الوهاب アル＝ワッハーブ（」“最もよく与えられる御方”：絶えることなく施され、恩恵を垂れ続けられる寛大な御方。かれは御望みの者に御望みのまま与えられます。

・「）الرزاق アッ＝ラッザーク（」“全ての糧を所有される御方”：全ての被造物の糧がその御許にある御方。全ての者はかれの糧から食べ、かれの所有物によって生活しています。

・「）الرازق アッ＝ラーズィク（」“糧を与えられる唯一の御方”：その恩恵と慈悲によって糧を作られ、それを被造物に届けられる御方。

・「）الغفور الغفار アル＝ガフール、アル＝ガッファール（」“最も赦し深い御方”：その御赦し深さと寛容さで知られる御方。それはかれの被造物への慈悲によるためです。「）الغافر アル＝ガーフィル（」“よく罪を覆われる御方”：しもべの罪を覆って下さる御方。

・「）القاهر アル＝カーヒル（」“最もよく制される御方”：しもべの遥か上方から、彼らを制される御方。彼らは全身全霊をもってかれにひたすら服従します。

・「）القهار アル＝カッハール（」“真の支配者”：全ての被造物を御望みのままに服従させられる御方。かれのみが唯一の支配者であり、他の全ての存在はかれに従属しています。

・「）الفتاح アル＝ファッターフ（」“最もよく開かれる御方”：しもべの間を真理と正義でもって裁かれ、慈悲と恵みの扉を開かれる御方。また信仰者たちを援助し、不可視界の鍵に関する知を専有されている御方。

・「）العليم アル＝アリーム（」“全知者”：何ものも彼の知から免れることの出来ない存在。「）العالم アル＝アーリム（」“完知者”：秘められたこともごく些細なことも、外面的なことも内面的なことも御存知の御方。また語られ行われることの全て、及び不可視の領域と可視の領域の知識を備えられている御方。

・「）المجيد アル＝マジード（」“最も栄誉高き御方”：その御業において栄誉高い存在。またその比類なき偉大さゆえに、全ての被造物がその栄光を讃える御方。かれはその栄誉の高さと比類のないかれの偉大さ、慈善、美名と属性により、讃美されるべき御方です。

・「）الرب アッ＝ラッブ（」“真の主”：唯一の所有者、かつ運営者。主の中の主で、被造物を養育される全創造の所有者。被造物の現世と来世における諸事を営まれる、唯一の崇拝すべき存在。

・「）العظيم アル＝アズィーム（」“比類なく偉大なる御方”：その統治と権威、またかれの本質、美名、属性において、比類のない偉大さと荘厳さを備えられた御方。

・「）الواسع アル＝ワースィゥ（」“最も広く行き渡らせる御方”：その御慈悲があまねく全てに及び、その知識が全てに行き渡り、全ての被造物にそのお恵みを広く行き渡らせる御方。またこの上なく広大な偉大さ、王国と権威を有され、恩恵と慈善をあまねく行き渡らせる御方。

・「）الكريم アル＝カリーム（」“最も高貴なる御方”：この上なく高い位階におられ、その善が測り知れず途絶えることもない御方。またいかなる欠陥や疾患からも無縁である御方。「）الأكرم アル＝アクラム（」“最も寛大なる御方”：全てのものに余すことのない慈愛と施しと恩恵を与えられる御方。禁じられるよりも、与えられることを御好みになられる御方。

・「）الودود アル＝ワドゥードゥ（」“最もよく愛される御方”：かれに服従する者や、かれのしもべの中から悔悟してかれに立ち返る者を愛され、褒め称えられる御方。また全てのものに慈善を差し伸べられ、恩恵によってかれの被造物を愛でられる御方。

・「）المقيت アル＝ムキートゥ（」“真の滋養者”：全てのものの守護者。全ての物事を執り行われる御方。被造物に種々の滋養を与えて下さる御方。

・「）الشكور アッ＝シャクール（」“最もよく報われる御方”：善行の報奨を倍増させ、悪行の報いを帳消しにされ、位階を上げられる権威を有される御方。「）الشاكر アッ＝シャーキル（」“最も感謝深き御方”：わずかな服従行為にでもお報いになられ、それに対して多大な報奨と恩恵をお与えになる御方。またほんの少しでも感謝されれば、それをお悦びになる御方。

・「）اللطيف アッ＝ラティーフ（」“最も神妙なる御方”：いかに些細な物事も御存知の御方。そのしもべに対し、彼らが思いもしないような方法でもって哀れみをかけて下さる、お優しい御方。視覚では捉えることの出来ない神妙な御方。そして、かれのみが真の視覚を有される御方。

・「）الحليم アル＝ハリーム（」“最も寛恕深き御方”：しもべが罪を犯してもその懲罰に急ぐことなく、それどころか彼らが悔悟するまで猶予を与えて下さる御方。

・「）الخبير アル＝ハビール（」“最もよく通暁される御方”：動いているものであれ静止しているものであれ、音を立てるものであれ沈黙するものであれ、その大小や現象の有無を問わず、被造物を取り巻く全ての事象に通暁されている御方。

・「）الحفيظ アル＝ハフィーズ（」“あまねき守護者”：被造物を守護され、その知識が全てに及んでいる御方。「）الحافظ アル＝ハーフィズ（」“最もよく守られる御方”：しもべの行いを守られ、またかれが愛される者たちが罪を犯すことから守護される御方。また、しもべを守護され続ける御方。

・「）السميع アッ＝サミーゥ（」“全聴者”：全ての声を聞かれ、いかなる音も聞きそびれることのない御方。かれは被造物が各々の言葉と言語を有し、また各々異なった要求を訴えるにも関わらず、その全ての声を聞き届けられます。かれにとっては密かなものの露わなものも、近いものも遠いものも相違ないのです。

・「）البصير アル＝バスィール（」“全視者”：全てをお見通しになり、しもべの必要としているものや彼らの行いを熟知しておられる御方。かれは誰が導かれるにふさわしく、また誰がそうでないのかも御存知です。かれから逃れたり、隠れたり、免れたり出来るものはありません。

・「）العلي الأعلى المتعالي アル＝アリー、アル＝アァラー、アル＝ムタアーリー（」“最も高きにある御方、至高者、最も高尚なる御方”：全てのものがその支配と統治下にある、天上

高きにおられる御方。かれは何ものも比肩することのない偉大さを備えられ、何ものもその上に存在しない至高なる御方であり、かれにとっては全てのものが取るに足らないものである至大なる御方なのです。

・「）**الحكيم** *アル＝ハキーム*（」"最も英知あふれた御方"：その英知と正義をもって、全ての物事をそのふさわしい場所に置かれる御方。またかれの被造物と命令、その御言葉と御業、報酬と懲罰のおいて英知ある御方。「）**الحكم الحاكم** *アル＝ハカム*、*アル＝ハーキム*（」"真の審判者、真の裁定者"：所有物を裁定される御方。その裁定に微塵の欠点もない御方。かれはいかなるものにも不正を施されることがありません。

・「）**الحي** *アル＝ハイ*（」"永生される御方"：死なれることがない御方。死することも消滅することもなく、永続される存在。

・「）**القيوم** *アル＝カイユーム*（」"唯一自存される御方"：自存し、他のいかなるものにも依拠されることがない一方、他の全ての存在はかれに依拠せざるを得ない御方。被造物を運営され、まどろみにも睡眠にも襲われることのない永久自存される御方。

・「）**الواحد الأحد** *アル＝ワーヒドゥ*、*アル＝アハド*（」"唯一者、何ものにも似つかない御方"：完璧さを一身に結集された唯一の存在。他の何ものもそこに参与する余地はありません。

・「）**الحاسب الحسيب** *アル＝ハースィブ*、*アル＝ハスィーブ*（」"最も計算高い御方、全てを満たされる御方"：しもべがかれなしには存在し得ないところの、全てを満たしてくれる存在。またしもべの行いや、それに対する報いの全てを正確に計算される御方。

・「）**الشهيد** *アッ＝シャヒードゥ*（」"真の証言者"：全ての物事を御覧になり、御存知になる存在。かれは審判の日、しもべが現世で行ったことに関し彼を弁護するべく証人になられたり、あるいは逆に反証をされたりします。

・「）**القوي** *アル＝カウィー*（」"最も力強い御方"：十全なるお力を備えられ、いかなるものもかれを上回ることはなく、いかなるものもかれから逃れることの出来ない、全ての力を制圧される御方。

・「）**المتين** *アル＝マティーン*（」"無尽の力を備えられた御方"：またかれの強烈な力強さは、決して衰えたりすることがありません。終わることのない絶対的な力を持つ御方。

・「）الولي アル＝ワリー（」“全てを引き受けられる御方”：偉大なる王権において全ての物事を企画され、対処される御方。「）المولى アル＝マウラー（」“信仰者の庇護者”：信仰するしもべを寵愛され、援助され、支えられる御方。

・「）الحميد アル＝ハミードゥ（」“真に讃美されるべき御方”：真に賞讃に値され、その美名と属性、その御言葉と御業、その慈善と法と権威、報酬と懲罰において讃えられるべき御方。いかなる小さな善行でも、しもべを賞賛される讃えられるべき御方。

・「）الصمد アッ＝サマドゥ（」“全てにおいて依拠される御方”：その支配と威厳、存在において完璧な御方。全ての望みを叶えることにおいて唯一無二の依拠される御方。

・「）القدير القادر المقتدر アル＝カディール、アル＝カーディル、アル＝ムクタディル（」“全能者、全てを適切に定められる御方、不可能なことがない御方”：完全な能力を有され、何1つ不可能なことはない全能者で、いかなる些細な誤りも犯すことのありえない御方。かれは完全で無尽、かつ包括的な能力を備えられ、全てのものが持つ能力を創られた全能者であられます。

・「）الوكيل アル＝ワキール（」“全てを担われる御方”：天と地の被造物の諸事を一身にお引き受けになられる御方。

・「）الكفيل アル＝カフィール（」“全ての保証者”：全てに対する守護者で、全ての魂を監督される御方。全ての被造物の糧を保障され、それらの福利を保護される御方。

・「）الغني アル＝ガニー（」“最も満ち足りた御方”：被造物に依存なされることもなければ、被造物の存在自体必要ともなされない唯一の自己完結的存在。またかれの御自身の宝庫はを減らされることがありません。

・「）الحق アル＝ハック（」“真理”：その存在には全くの疑念や嫌疑が抱かれることのない御方。いかなる被造物からも隠されていない存在。
・「）المبين アル＝ムビーン（」“最も明らかにされる御方”：被造物に対し、現世と来世における救済の道を明らかにされた御方。

・「）النور アン＝ヌール（」“光”：眼力を現せる。天地をその御光で照らされ、信仰者の心にかれに関する知識と信仰でもって輝きを与えられた御方。

・「）ذو الجلال والإكرام ズル＝ジャラーリ・ワル＝イクラーム（」“最も荘厳かつ寛大な御

方”：畏れ、讃美されるにふさわしい唯一の御方。比類のない偉大さと威厳、そして慈悲と慈善を備えられた御方。

・「）البر *アル＝バッル*（」“最も慈善にあふれた御方”：そのしもべに慈しみ深く、哀れみ深く、慈善にあふれた御方。

・「）التواب *アッ＝タウワーブ*（」“悔悟者をよく受け入れられる御方”：悔悟する者たちを受け入れられ、後悔してかれに立ち返る者たちの罪を赦される御方。また悔悟というものをしもべのために用意され、かつそれを彼らから受け入れられる御方。

・「）العفو *アル＝アフウ*（」“唯一の免罪者”：悔悟し、罪の赦しを請うしもべたちが犯した罪をお赦しになられる御方。

・「）الرؤوف *アッ＝ラウーフ*（」“最も哀れみ深い御方”：全ての被造物へのこの上ない慈しみと哀れみを備えられた御方。

・「）الأول *アル＝アウワル*（」“最初の御方”：かれ以前には何も存在しません[56]。「）الآخر *アル＝アーヒル*（」“最後の御方”：かれ以後にも何も存在しません。[57]「）الظاهر *アッ＝ザーヒル*（」“最も上におられる御方”：かれより上に存在するものは何もありません。「）الباطن *アル＝バーティン*（」“最も内におられる御方”：かれより近いものは何もありません。

・「）الوارث *アル＝ワーリス*（」“全てを継承される御方”：被造物が全て消滅した後も存在し続ける御方。そして全てのものが、かれの御許へと還り行くところの御方。決して消滅されることのない永生される御方。

・「）المحيط *アル＝ムヒートゥ*（」“全てを包囲される御方”：全てを包囲し、取り囲む御方。その全能さでもって全ての被造物を包み込まれている御方。それゆえ何ものもかれを出し抜いたり、かれから逃れたりすることは出来ません。かれは全ての物事を御存知であり、かつそれらの１つ１つを緻密に数え上げられているのです。

・「）القريب *アル＝カリーブ*（」“最も近くあられる御方”：いかなるものにとっても、最も近くにおられる御方。そしてかれの名を呼び、諸々の服従行為と善行でもってかれゆえ

---

[56] 訳者注：かれには始まりもないので、かれ以前には何も存在しないどころか、かれ以前という概念すらそもそもありえません。

[57] 訳者注：かれは永生される存在なので、かれより長く存在するものはないということを示しています。かれが消滅したりすることはありません。

に精進する者たちに最も近い御方。

・「）الهادي アル＝ハーディー（」“最もよく導かれる御方”：全ての被造物をその福利へと導かれる御方。そのしもべを導かれ、真理と虚偽を明白に理解させて下さる御方。

・「）البديع アル＝バディーゥ（」“類まれな素晴らしい創造を行われた御方”：何ものもかれに相似・比肩することのない御方。被造物に対して類を見ない形と方法において創造された御方。

・「）الفاطر アル＝ファーティル（」“裂かれ、生成される御方”：被造物を創造され、天地を無から生じさせられた御方。

・「）الكافي アル＝カーフィー（」“全てを充足させて下さる御方”：しもべが必要に迫られているもの全てにおいて、充足させて下さる御方。

・「）الغالب アル＝ガーリブ（」“全てを打ち負かされる御方”：永遠の勝利者。求める者全てに、多くのものを授けて下さる御方。かれの定め命じられたことは誰も覆すことは出来ず、かれの実行されることは誰も妨げることが出来ません。かれの定められた運命の遂行をはね返すものも、かれが裁定されたことを覆すものも存在しないのです。

・「）الناصر النصير アン＝ナースィル、アン＝ナスィール（」“真の勝利者、最高の援助者”：その使徒たちと追従者たちを、敵から勝利させて下さる御方。全ての勝利はかれの御手にのみ委ねられています。

・「）المستعان アル＝ムスタアーン（」“真に援助を請われるべき御方”：いかなる援助も必要とはされず、かれ以外のものがかれの御援助を必要としている御方。かれの追従者もかれの敵も、皆かれの御援助を授かっています。そしてかれはそのどちらにも、相応の御援助を差し伸べられるのです。アッラーの他にいかなる威力も強大なるものもありません。

・「）ذو المعارج ズル＝マアーリジュ（」“階梯の主”：天使たちと大天使ジブリール（ガブリエル）が昇り向かっていくところの御方。また全ての正しく良い言葉や行いは、彼の御許へと上昇していきます。

・「）ذو الطول ズッ＝タウル（」“恩寵の主”：いかなる時や場所でも被造物に対して、その必要以上に多くのものや諸々の恩恵、恩寵を授けて下さる御方。

・「）ذو الفضل *ズル＝ファドゥル*）」“恩恵の主”：全てを所有され、数え切れず、計り知れないありとあらゆる恩恵でもってそのしもべに豊かなお恵みを授けて下さる御方。

・「）الرفيق *アッ＝ラフィーク*（」“最も柔和な御方”：優しさと穏やかさを愛され、またそうする者たちを寵愛される御方。しもべに対して哀れみ深く、慈しみ深い、優しい御方。

・「）الجميل *アル＝ジャミール*（」“最も美しい御方”：その本質と美名、属性と御業において最も美しい御方。全ての美しさを創られた御方。

・「）الطيب *アッ＝タイイブ*（」“最良なるの御方”：あらゆる欠陥や欠点、損害から無縁な御方。

・「）الشافي *アッ＝シャーフィー*（」“最高の癒し手”：あらゆる傷や障害、病を癒される唯一無二の御方。すべてのもの癒しを創られた御方。

・「）السبوح *アッ＝スッブーフ*（」“全てのものから讃美される御方”：あらゆる欠陥や欠点から無縁な御方。7 層の天と大地とそこに存在する全てのものはかれを讃えます。また全てのものはかれが持つ美名と気高い属性ゆえにかれの誉れ高さを称え、讃美します。

・「）الوتر *アル＝ウィトゥル*）」“単一者”：いかなるものもかれに参与したり、比肩したり、相似したりすることのない御方。御自身が単一ゆえに、あらゆる行いや服従行為においても奇数を愛される御方。

・「）الديان *アッ＝ダイヤーン*（」“審判の日の裁き手”：しもべの行いを清算し、それに相応の報いをお与えになる御方。かれは審判の日、しもべたちの間をお裁きになります。

・「）المقدم والمؤخر *アル＝ムカッディム　ワル＝ムアッヒル*（」“先立たせ、遅らせる御方”：御望みの者を先立たせ、御望みの者を遅らせる御方。また御望みの者を高め、御望みの者を低められる御方。そして、御望みのものを尊くさせ、御望みのものを卑しめる御方。

・「）المنان *アル＝マンナーン*（」“最もよく御恵みになる御方”：請われるよりも先に、御与えになる御方。たくさん与えられ、そのしもべにありとあらゆる慈善や恩恵を与えられる御方。糧や施しを豊富に恵んで下さる御方。いかなる時も常に与えられる御方。

・「）القابض *アル＝カービドゥ*（」“最もよく封じられる御方”：御望みの者に対して、その完全なる知識と裁定から優しさと御恵みを封じられるお方。「）الباسط *アル＝バースィト*

ゥ（」“最もよく広げられる御方”：その御恵みを広く豊富に施され、またそのしもべの内の御望みの者に豊かな糧を与えて下さる御方。

・「）الحيي الستير *アル＝ハイイ、アッ＝サティール*（」“恥らうものを愛される御方、よく隠される御方”：しもべの内の羞恥心の強い者や、自らをよく覆い隠す者を愛される御方。かれはそのしもべから沢山の罪や恥部をお隠しになり、かくまって下さるのです。かれもしもべの願いを聞き届けないときは恥ずかしく思われます。

・「(السيد *アッ＝サイイドゥ*)」“全ての長”：その王国、比類のない偉大さ、威力など諸々の性質において完璧である御方。

●イーマーンの増大

●　イスラームという宗教の基礎は、偉大かつ荘厳なるアッラーを信仰（イーマーン[58]）することであり、またかれ御自身とその美名と属性、かれの御業と無尽の宝庫、そして信仰しかれに従う者への成功の約束と、かれから背き去る者に対する懲罰を確信することです。全ての行い及びイバーダ（崇拝行為）の構造と、それらが果たしてアッラーに受け入れられるかどうかは、ひとえにこの大きな土台にかかっているのです。このイーマーンが弱くなったり欠損したりすると、全ての行いやイバーダ（崇拝行為）も脆弱なものとなり、諸々

58　訳者注：「８．イーマーン」の項参照。

の状態が好ましくないものとなります。そして、アッラーはお怒りになり、懲罰を下されます。

アッラーへのイーマーンは最も良い行為です。このイーマーンを得て、それを増幅させるには、4つの努力をする必要があります：

1　イーマーンを得る努力

2　それを維持する努力

3　それを活用する努力

4　それを広げる努力

そして、これらの努力を行う者をアッラーはかれの満足する道へと御導きになります。

１－至高なるアッラーは次のように仰せられました：(だがわれ（の道）のために奮闘努力する者は、必ずわが道に導くであろう。本当にアッラーは善い行いの者と共におられる。)（クルアーン 29:69）

２－アブー・フライラよると、アッラーのみ使いは、最善の行為についてたずねられた時「それらはアッラーへの信仰（イーマーン)、アッラーのための努力（ジハード)、更に規定に従った巡礼（ハッジ）である」とお答えになった。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[59])

３－タミーム・アッ＝ダーリーによると、預言者はこう言われた。「アッ＝・ディーン（宗教）とは真摯たることを意味する」

これに関し、私たちが「誰に対してですか」とおたずねしたところ、預言者は「アッラー、その啓典、その使徒、そしてムスリムの指導者たち、及び一般のムスリムに対してです」と言われた。(ムスリムによる伝承[60])

イーマーンはアッラーへの服従を増大させ、かれへの反抗を減少させます。

１－至高なるアッラーは次のように仰せられました：(かれこそは、信者たちの心に安らぎを与え、かれらの信心の上に信心を加えられる方である。本当に、天と地の諸軍勢はアッラーのものである。アッラーは全知にして英明であられる。)（クルアーン 48:4）

２－至高なるアッラーは次のように仰せられました：(（新たに）１章〔スーラ〕が下る度にかれらのある者は言う。「これによってあなたがたの中、誰が信心を深めるであろうか。」本当に信仰する者は、これによって信心を深め、喜ぶ。)（クルアーン 9:124）

３－アブー・フライラによると、アッラーのみ使いは次のように言った：「姦通者が姦通を続ける限り信者ではない。窃盗者が窃盗を続ける限り信者ではない。大酒飲みが酒を飲み続ける限り信者ではない」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[61])

[59] サヒーフ・アル＝ブハーリー（26)、サヒーフ・ムスリム（83)。引用はアル＝ブハーリーから。

[60] サヒーフ・ムスリム（55)。

[61] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2475)、サヒーフ・ムスリム（57)。引用はムスリムから。

そして私たちの生活をイーマーンで満たし、かつそれを増幅させるためには、次に示すような事柄を知る必要があります：

● 露わなものであれ秘められたものであれ、あるいは大きいものであれ小さいものであれ、万物の創造主がアッラーであることを知り、確信すること：諸天地もかれの玉座も、天使も、星々も惑星も、海洋も山々も、その創造主はアッラーなのです。またかれこそは人間と諸々の動植物、及び物質の創造主であり、かつ天国と地獄を創られたお方なのです：**(アッラーこそは全ての創造主であり、全ての被造物の諸事を執り行われるお方なのである。天と地の鍵はアッラーのものである。かれの印を拒否した者こそ失敗者である。)**（クルアーン 39：62-63）

アッラーの玉座、諸天地、太陽、月、空気、水、海、山々、人々、諸天使、ジン、動物、鳥、原子などを含め、アッラーこそが全ての創造主であり、全てを適切に定められ、通暁される御方です。

私たちは、私たちの心にイーマーンを深く根付かせるべく、これらのことを語り、聴き、考え、繰り返します。そして万象の中に顕現するかれのみしるしと、クルアーンの中に散りばめられたみしるしを、熟慮と検証の視点をもって入念に観察します。アッラーご自身が、私たちにこうすることを命じられたのです：

1. 至高なるアッラーは仰せられました：**(（ムハンマドよ、彼らに）言うのだ、「諸天地にあるものを観察せよ。」しかし信仰しない民には、みしるしも警告も益することがない。)**（クルアーン 10：101）

2. 至高なるアッラーは仰せられました：**(一体彼らはクルアーンを熟読吟味しないのか？いや、彼らの心には鍵がかけられているのだ。)**（クルアーン 47：24）

3. 至高なるアッラーは仰せられました：**(本当に天と地の創造、昼夜の交替、人を益するものを運んで海原をゆく船の中に、またアッラーが天から降らせて死んだ大地を甦らせ、生きとし生けるものを地上に広く散らばせる雨の中に、また風向きの変換、果ては天地の間にあって奉仕する雲の中に、理解ある者への（アッラーの）印がある。)**（クルアーン 2：164）

● また私たちは次の事柄を知り、確信します：アッラーが被造物をお創りになり、それらにそれぞれの効用をお創りになられたこと。

つまりかれが眼をお創りになり、それに視覚という効用を与えられたこと。また耳をお創りになり、それに聴覚という効用を与えられたこと。また舌をお創りになり、それに言葉という効用を与えられたこと。また太陽をお創りになり、それに光という効用を与えられたこと。また火をお創りになり、それに燃焼という効用を与えられたこと。また木をお創りになり、それに果実という効用を与えられたということなどです。

また私たちは次の事柄を知り、確信します：全ての被造物を所有し、そこにおいて采配を振るい、かつ管理・運営するのはアッラーのみであり、そこにおいて何ものもかれに共同したり参与したりすることがないこと。つまり天地にある全てのものは大きいものも小さいものも、全てアッラーなしには生きてゆけないかれのしもべであること。また全ての被造物は自分自身では益することも害することも援助することもなく、死も生も復活も司ることは出来ないこと。実にアッラーこそがかれらの真の所有者なのであり、それらが皆アッラーを必要とする一方、アッラーはかれらを必要とはしていないこと。かれは自己完結した唯一の存在なのです。

そして崇高なるアッラーこそは万物を統御し、被造物の全ての事柄を管理されるお方です。つまり天地、水と海洋、火と風、動物と植物、諸惑星と物質、支配層の者たちや大臣たち、富者と貧者、強者と弱者などの間において真の采配を振るうのはアッラーのみなのであり、そこにおいて何ものもかれに参与するものはないのです。そしてそれらはアッラーの所有物であり、かれの命令に従順なのです。

至高なるアッラーは仰せられました：**（（祈って）言え。「おおアッラー、王権の主。あなたは御望みの者に王権を授け、御望みの者から王権を取り上げられる。また御望みの者を高貴になされ、御望みの者を低くなされる。（凡ての）善いことは、あなたの御手にある。あなたは凡てのことに全能であられる。）**（クルアーン 3：26-27）

● 偉大かつ荘厳なるアッラーこそはその偉力と英知により、お望みのままに物事を操られる御方です。

彼は何かをお創りになりつつ、そのお力によりそのものの効用を無効にされることもあります。つまり視覚を伴わない眼や聴覚の備わっていない耳、言葉を発することの出来ない舌などがそうであり、それと同様に海から溺れさせる性質や、火から燃焼の効用を奪ってしまわれることもお出来になります。崇高なるアッラーは現実にそれらのことを行われました。それというのもかれこそが全宇宙においてお望みのままに采配を振るわれるお方であり、かれ以外に真に崇拝すべきものが存在しないところの、唯一かつ全

てを制圧される御方であるからです。かれには全てが可能なのです。

● 一方で、ある種の人々の心は創造主よりも被造物の方に傾きがちです。そして崇高なる創造主を忘れて、被造物の方に愛着を抱いたりします。しかし私たちに求められているのは、前出の知識や視点をもって被造物からそれらすべてをお創りになり形づくられた創造主の方へと移行し、そしてかれに何ものも並べることなく崇拝することなのです。

至高なるアッラーは仰せられました：**（（ムハンマドよ、彼らに）言え、「天と地からあなた方に糧を与えられるお方は誰だ？また聴覚と視覚を司られ、そして死から生を抽出され、かつ生から死を抽出されるお方、全ての物事を運営されるお方は？」すると彼らは言うだろう：「アッラーである。」と。一体あなた方は（アッラーの警告や懲罰を）恐れないのか？それこそがアッラー、あなた方の真の主である。真実（の主への服従）を放棄すれば、そこには迷妄があるのみなのだ。一体何があなた方を（アッラー以外のものへと）向かわせるのか？）**（クルアーン 10：31-32）

● また私たちは全てのものの源泉における裁量が、他ならぬアッラーのみに委ねられていることを知り、確信します。つまり存在する全てのものの源泉はアッラーの御許にあります。飲食物、種子類や果実類、水や風、財宝や海洋、山々などその他全てのものの鍵はアッラーの御手に委ねられているのです。それゆえ私たちは必要なものに関しては全てアッラーに頼み、訴え、かつかれに対するイバーダ（崇拝行為）と服従行為にいそしむのです。崇高なるアッラーこそが全ての必要を満たしてくれるお方であり、祈りを聞き届けて下さるお方なのです。また頼み事をするのにかれほどふさわしい存在はなく、かれこそは最もよくお恵みになられるお方です。かれがお与えになるものを阻むものはなく、かれが阻まれたものは何ものもそれを引き出すことが出来ません。

１－至高なるアッラーは仰せられました：**（そして全てのものには、われら（アッラーのこと）の御許にその宝庫があるのだ。そしてわれらはそこから、決められた適当な量を放出するのである。）**（クルアーン 15：21）

２－至高なるアッラーは仰せられました：**（そしてアッラーにこそ、諸天と大地の宝庫は属する。しかし偽信者たちは思慮しないのだ。）**（クルアーン 63：７）

● **偉大かつ荘厳なるアッラーの御力：**

偉大かつ荘厳なるアッラーには完璧な偉力が属しています。かれは水を植物の成長の原因とされ、性交を出産の原因とされたように、ある原因をもって生活の糧など諸々のもの

を被造物にお恵みになります。そして私たちは原因の存在する世界に居住しているゆえ、合法的な原因の数々を獲得すべく努力するのです。そしてアッラー以外の何ものにも*タワックル*（自らの身を完全に委ねること）することはありません：**(あなたがた使徒たちよ、善い清いものを食べ、善い行いをしなさい。われはあなたがたのすることを熟知している。)**（クルアーン 23：51）

しかし時にアッラーは、原因を介することなく生活の糧など諸々のものを被造物にお恵みになられることがあります。かれが「あれ。」とさえ仰せられれば、それは現実になるのです。その例としてアッラーはマルヤム（マリヤ）に、その時期には存在しないはずの果実をお恵みになりましたし、また男性を介することなく彼女に息子イーサー（イエス）を授けられました：**(ザカリーヤーが、かの女を見舞って聖所に入る度に、かの女の前に、食物があるのを見た。かれは言った。「マルヤムよ、どうしてあなたにこれが（来たのか）。」かの女は（答えて）言った。「これはアッラーの御許から（与えられました）。」本当にアッラーは御自分の御心に適う者に限りなく与えられる。)**（クルアーン 3:37）

また時に崇高なるアッラーは、その御力をもってその原因とは逆の結果に転じさせることもお出来になります。例えばかれはイブラーヒーム（アブラハム）が火刑に処されかけた時、その火を冷涼かつ無害なものとされました。またムーサー（モーゼ）たちを海に溺れさせることなく追っ手から救われた一方、ひとつの命令で、その同じ海でいっぺんにフィルアウン（ファラオ）とその民を溺死させられました。同様にユーヌス（ヨナ）は大魚の腹の中と大海の暗黒の中で、アッラーによって救われています。至高なるアッラーは仰せられました：**(実にかれのご命令というものは、ただ何かをお望みになられたときに「あれ。」と仰せられるだけで、それが実現するのである。)**（クルアーン 36：82）

● **以上のことは被造物に関してのことですが、次に「状態」に関して考察しましょう：**

1. 私たちは以下のことを知り、確信します：あらゆる状態の創造主は他ならぬアッラーであること。つまり富や貧しさ、健康や病、喜びや悲しみ、笑いや涙、栄光や零落や死、平安や恐怖、暑さや寒さ、正導や迷妄、幸福や不幸といった状態は、全て唯一無二のアッラーがお創りになられたということです。

2. また私たちは以下のことを知り、確信します：全ての物事を管理し、これらの状態を司るお方は他ならぬ唯一無二のアッラーのみであること。つまりアッラーのご命令なくして貧困が富に取って代わることはなく、病が健康に取って代わることはないこと。またアッラーのご命令なくして零落から栄光へと移行することはなく、笑いが涙に取って代わることはないこと。またアッラーのお許しなくして

生が死に取って代わることはなく、寒さが暑さに取って代わることもなく、迷妄から正導に移行することもなく、すべての状態においてこのようであるということ。

状態というものは崇高なるアッラーのご命令によって訪れ、かれのご命令によって増減し、また継続したり終焉を迎えたりします。それゆえ私たちはこれらの状態の変化を司るお方のみにこそ、かれが定められた手法に則ったイバーダ（崇拝行為）や善行などによって、その変化を請うべきなのです：**(言うのだ、「王国の所有者アッラーよ、あなたこそはお望みになる者に王権をお与えになり、お望みになる者から王権を剥奪されるお方。またお望みになる者に威光をお与えになり、お望みになる者を低くおとしめられるお方。実にあなたの御手にこそ全てのよきものがあります。あなたこそは全てを可能にされるお方です。」)**（クルアーン 3：26）

3. また私たちは以下のことを知り、確信します：前出の全ての状態、及びその他の全ての状態の源泉はアッラーのみに属するのであり、そこにおいて何ものもかれに参与したり共同したりすることがないということ。それゆえもし崇高なるアッラーが健康や富、あるいはその他のものをお与えになったとしても、それによって崇高なるお方の宝庫は微量も減少したりすることはありません。なぜなら、かれのもとにあるものはたとえお与えになっても全く減ることはないからです。実にアッラーこそは唯一自己完結した、真に讃えられるべき存在であり、かれ以外に真に崇拝すべき存在はないのです。

１－至高なるアッラーは仰せられました：(天と地の凡てのものは、アッラーに属する。本当にアッラーは満ち足られる方、讃美されるべき方であられる。)（クルアーン 31:26）

２－アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は至高なるアッラーがこう仰せられたと伝えました：

「わがしもべたちよ！われは自らに不正を禁じ、またそれをあなた方の間に関しても禁じたのだ。ゆえに互いに不正を働き合ってはならない。

わがしもべたちよ！われが正道へと導くことがなければ、あなた方は皆迷妄の中にあるのだ。ゆえにわれに正しい導きを求めよ、そうすればわれはあなた方を導くであろう。

わがしもべたちよ！われが糧を与えることがなければ、あなた方は皆飢餓の中にあるのだ。ゆえにわれに糧を求めよ、そうすればわれはあなた方に糧を与えるであろう。

わがしもべたちよ！われが衣服を着せることがなければ、あなた方は皆裸なのだ。ゆえにわれに衣服を求めよ、そうすればわれはあなた方に衣服を着せてやろう。

わがしもべたちよ！あなた方は昼に夜に過ちを犯すものであるが、われは全ての罪を赦すことが出来るのである。ゆえにわれに罪の赦しを請うのだ、そうすればわれはあなた方の罪を赦すであろう。

わがしもべたちよ！あなた方はわれを害することも出来なければ、われを益することも出来ない。

わがしもべたちよ！もしあなた方の内の最初の者と最後の者[62]、人間とジン[63]が皆あなた方の内で最もアッラーを畏れる者の心のようであっても、それがわが王国に少しの増大ももたらすことはない。

わがしもべたちよ！もしあなた方の内の最初の者と最後の者、人間とジンが皆あなた方の内で最も放埒な者の心のようであっても、それがわが王国に少しの欠損ももたらすことはない。

わがしもべたちよ！もしあなた方の内の最初の者と最後の者、人間とジンが一同に 1 つの丘に立ってわれに何かを乞い願い、そしてわれが各人の願いを叶えてやったとしても、それはわが御許において大海に落ちた一本の針を拾い上げた時についてくるしずく程度の量すらも影響を受けることがない。」（ムスリムの伝承[64]）

● イーマーンの美徳：

成功と栄光はイーマーンと正しい行いによるものです。お金や権力、名声によるものではありません。

こうしてアッラーを信仰する者たちというものは、アッラーの預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の正導に則ってアッラーのご命令に従います。偉大かつ荘厳なるアッラーはこのような者たちをお悦びになられ、その者が富者であろうと貧者であろうと、その宝庫からお恵みになられます。また彼らをお支えになり、援助され、彼らを天国の住人とされ、お守りになられます。そしてアブー・バクルやウマル、ウスマーン（彼らにアッラーのご満悦あれ）のように権勢を備えていた者たち[65]であれ、あるいはビラールやサルマーンやアンマール（彼らにアッラーのご満悦あれ）ら[66]のように社会的地位の低かった者たちであれ、アッラーはそのような者たちをイーマーンという威光で栄誉付けて下さるのです。

---

62 訳者注：つまり全ての者。

63 訳者注：霊的存在。

64 サヒーフ・ムスリム（2577）。

65 訳者注：彼らは当時のアラブ社会においてイスラーム改宗以前から高い社会的地位を有しており、かつ裕福でした。

66 訳者注：彼らはいずれも過去に奴隷階級であった者たちです。

至高なるアッラーは仰せられました：**(およそ栄誉は、アッラーと使徒、そしてその信者たちにある。だが偽信者たちには、これが分からない。)**（クルアーン 63：8）

一方アッラーを信仰しない者たちはといえば、例え彼らが王権や財産といった権勢を備えていたとしても、アッラーによっておとしめられます。ちょうどフィルアウン（ファラオ）やカールーンやハーマーンら[67]がそうなったように、惨めな結末を迎えることになるのです。またアッラーを信仰しない者たちの内でそもそも惨めな境遇にある者たちは、シルク[68]を犯している他の貧者たちのように、アッラーによって貶められます。

またアッラーは人間をイーマーンと正しい行い、そして他の何ものも並べることなくその主のみにイバーダ（崇拝行為）を捧げるようにとお創りになられたのであり、財産や欲望や物質を追求させるためにお創りになられたわけではありません。ゆえにその主へのイバーダ（崇拝行為）をなおざりにしてそれらの物事に没頭する者たちは、アッラーがそれらをもって彼らを蹂躙、そしてそれらを現世における彼らの不幸と破滅と損失の原因とされるでしょう。至高なるアッラーは仰せられました：**(ゆえに彼ら（偽信者たち）の財や子孫（の多さ）に惑わされるのではない。実にアッラーは現世ではそれらをもって彼らを罰せられ、彼らが不信仰者として滅びることをお望みなのだから。)**（クルアーン 9：55）

●勝利と成功の諸原因

偉大かつ荘厳なるアッラーは、貧富の差を問わず、全ての人間に対し、勝利と成功の諸原因をお創りになられました。一方、財産や地位などそれ自体には勝利と成功が存在しない諸原因については、ある者たちを他の者たちより優遇されます。

しかし現世と来世における勝利と成功のただ 1 つの原因というのは、イーマーンと正しい行いなのであり、それは誰しもが平等に与えられている権利です。イーマーンの宿る場所は心ですが、心は全ての者に備えられています。また正しい行いを実行する場所は身体ですが、それもまた全ての者に備わっています。こうしてその心にイーマーンを有し、かつその身体によって正しい行いを実践する者は、現世と来世における勝利者なのです。それ以外の者たちは損失者に他なりません。

---

[67] 訳者注：この 3 人は全て預言者ムーサー（モーゼ）と同時代の人物。フィルアウンは言わずと知れた当時のエジプトの暴君で、ハーマーンはその宰相。一方カールーンはムーサー同様彼らから抑圧されていたイスラエルの民出身の者でしたが、莫大な財産によって現世の虚飾に耽溺し奢り高ぶったため、アッラーによって滅ぼされました。

[68] 訳者注：「4．シルク」の項参照。

至高なるアッラーは次のように仰せられました：**(時間にかけて（誓う)。本当に人間は、喪失の中にいる。信仰して善行に勤しみ、互いに真理を勧めあい、また忍耐を勧めあう者たちの外は。)**（クルアーン 103:1-3)

1－現世と来世における勝利と成功は、イーマーンと正しい行いによってのみ達成されます。そしてアッラーの御許での人の価値というものは、イーマーンの強さと実践する正しい行いによってこそ決定されるのであり、財産や物質や地位によって決められるわけではありません。

またアッラーの御許における人の価値とはその性格や中身であり、外見ではありません。アブー・ラハブは良い血筋を引く高貴な家柄の人でしたが、燃え盛る業火の中で焼かれる運命となりました。それは、彼が生涯を通して、アッラーを信仰することがなかったからです。一方、ビラール・アル＝ハバシー（彼にアッラーのご満悦あれ）は、かつてアッラーへの信仰を守るゆえに、腹の上に重い石をのせられ死にそうな状況にまで追いやられましたそれゆえ、アッラーは彼をカアバ神殿の上でマッカ開放のアザーンをするまでに高められました。また彼を生涯、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のムアッズィン（アザーンを行う者）とされ、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、天国でビラールが歩く音を聞かれたのです。

またある者たちはまるでヌーフ（ノア）の民[69]のごとく、勝利と成功とは豊富にあることや増加することであると考えます。別の者たちはアードの民[70]のように、それが偉力の中にこそ存在すると考え、ある者たちはサムードの民[71]のごとくそれが工業力の中にあると考えます。そしてイブラヒーム（アブラハム）の民のように偶像の中にあると考える者たちもいれば、シュアイブ[72]の民のようにそれが商業力の中にあると考える者たちもいます。他の者たちはサバア[73]の民のようにそれが農業力の中にあると考え、また別の者たち

69　訳者注：ヌーフ（ノア）は最初の預言者としてアッラーから遣わされました。その民はアッラー以外を崇拝するという不義を犯し、大洪水によって滅ぼされました。これが有名なノアの箱舟の話です。

70　訳者注：アードの民は肉体的に強大で栄えていましたが、預言者フードが彼らのもとに遣わされたときに彼に従わなかったため、アッラーから送られた暴風雨によって滅亡しました。

71　訳者注：アラブ半島に栄えた部族で、岩山を穿った住居に住んでいたと言われます。預言者サーリフが彼らに遣わされましたが、彼に従わなかったために滅ぼされました。

72　訳者注：シュアイブはマドゥヤンというアラブ半島の１都市に遣わされた預言者です。その民は不信仰と不法な商業取引に溺れており、シュアイブは彼らをアッラーのみへの信仰と公正な商売へといざないました。しかし彼らがそれに従わなかったため、アッラーは彼らに懲罰を下されました。

73　訳者注：灌漑農業によって栄えていた古代イエメンの王国。不信仰ゆえに洪水によって滅ぼされました。

はナルムード[74]やフィルアウン（ファラオ）のごとく、勝利と成功とは王権や王国などにあると考えます。またある者たちはカールーン[75]のようにそれが富の中にあると考えるのです。

偉大かつ荘厳なるアッラーはこれらのような民に対し、預言者や使徒を遣わされました。彼らはこれらの民を、アッラーのみを崇拝してそこに何ものをも並置しないことへといざないました。そして勝利と成功とは彼らが耽溺しているような物事に存在しているのではなく、イーマーンと正しい行いにこそあることを明らかにしたのです。

1- 至高なるアッラーは仰せられました：**(- そしてアッラーとその使徒に従い、アッラーを畏れ、（そのお怒りや懲罰の原因となるような物事から）身を慎む者。彼らこそは勝利者である。),** （クルアーン 24：52）

2- 至高なるアッラーは仰せられました：**(不可知の領域を信じ、サラー（礼拝）を行い、われら（アッラーのこと）が与えるものの中から施す者たち。そしてあなたに啓示されたものと、あなた以前に啓示されたものを信じ、来世を確信する者たち。彼らこそはその主からの正しい導きにある者たちであり、そして彼らこそは成功者なのである。)**（クルアーン 2：3－5）

2－件の民たちは使徒たちを嘘つき呼ばわりし、不信仰の状態に固執し続け、かつ彼らが享受していたものに騙されました。それゆえにアッラーは彼らを滅ぼされ、その預言者と使徒、そして彼らの追従者たちを救出され、敵に対しての勝利を授けられたのです。

彼らはそのようなものを信じたことによって罪を作り、その大きな罪は痛烈な罰をもたらしたのです。

1. 至高なるアッラーは仰せられました：**(そしてわれら（アッラーのこと）は、（それらの民）全てをその罪ゆえに罰した。彼らの内のある者たちには砂礫の大嵐を送り、またある者たちは轟音でもって捉えた。またある者たちはその地の下に沈めてしまい、またある者たちは溺死させた。アッラーが不正を行われたのではなく、彼らこそが不正を働いていたのである。)**（クルアーン 29：40）

2. 至高なるアッラーは仰せられました：**(そしてわれら（アッラーのこと）の命令が下**

---

[74] 訳者注：ナルムードは預言者イブラーヒーム（アブラハム）当時のバビロンの王。強大な権力に酔いしれ、不信仰に陥っていました。

[75] カールーンはムーサの民の一人で、アッラーより巨万の富を与えられましたが、横柄な態度をとり彼の屋敷とともに地の中に埋められた。

されたとき、われらはわれらの慈悲をもってサーリフ[76]と彼と共に信仰した者たちをその日の恥辱から救った。実にあなたの主は強力で威光高きお方である。また不正を働いていた者たちを轟音が襲い、彼らは彼らの家の中で突っ伏して息絶えた。)（クルアーン 11：66－67）

● **心のタズキヤ（浄化）のフィクフ（イスラーム法）**

タズキヤとは：内面も外面も全ての汚れから清めること
タズキヤには 3 つの関連項目があります。

1つ目は、アッラーの権利におけるもの：人は心を浄化し、シルクやニファーク[77]、虚栄心から清浄にし、そして誠実にアッラーを崇拝することです。
2つ目は、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の権利におけるもの：ビドゥアから心を浄化、清浄にし、イスラーム法に沿ってアッラーを崇拝することです。
3つ目は、人々の権利におけるもの：憎悪や嫉妬、嘘、陰口、徳性への侵害などの悪しき行いから自分自身を浄化、清浄にすることです。そして、良い品性をもって人々へ接することです。
このような美徳に恵まれた人は、イーマーンと知識、行動、品性、天国において高い地位を与えられます。

1－至高なるアッラーは仰せられました：**(魂と、それを釣合い秩序付けた御方において、邪悪と信心に就いて、それ（魂）に示唆した御方において（誓う）。本当にそれ（魂）を清める者は成功し、それを汚す者は滅びる。)**（クルアーン 91：7-10）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**(だが自ら清めた者は必ず栄え、かれの主の御名を唱念し、礼拝を守る。いや、あなたがたは現世の生活の方を好む。来世がもっと優れ、またもっと永遠なものであるのに。)**（クルアーン 87：14-17）

イスラームにおける成功とは現世と来世において求められている勝利であり、恐るべきものからの救済です。

76

訳者注 71 を参照のこと。

77

訳者注：「シルク」の項を参照。

●イーマーンの徒の優劣：

1－**被造物のイーマーンのレベルの相違**：

1、諸天使のイーマーンは固定されており、増減することはありません。彼らはアッラーのご命令に対して逆らうこともなく、ただそれを忠実に実行します。

2、諸使徒（彼らにアッラーからの祝福と平安あれ）のイーマーンは、彼らのアッラーに関する知識の完全さゆえ減少することはありません。彼ら自身の間でもまたイーマーンのレベルの差があります。

3、その他のムスリムのイーマーンはアッラーへの服従行為によって増大し、反逆的行為によって減少します。彼ら個人の間でもまたイーマーンのレベルは異なります。

イーマーンの初歩的段階において、ムスリムは偉大かつ荘厳なるアッラーを愛し、アッラーを偉大に感じ、アッラーにのみイバーダ（崇拝行為）を捧げ、そしてそこにおいて喜びを感じ、またそれを遵守します。そして自分より高い地位にある者たち、あるいは自分と同等の者たちとよき品行をもって接することは、自らと他人への不正を抑制するためのより強いイーマーンを必要とします。また統治者とその臣民、家族の長とその扶養家族など、自分より低い地位にあるような者たちとのよい関係においては、それらの者たちへの不正を自らに禁じるためのより強いイーマーンが必要となります。そしてイーマーンが増大すればするほど、確信と共に正しい行いも増大します。こうしてしもべはアッラーの権利とそのしもべたちの諸権利を満たすのです。それは創造主と被造物に対しての高徳であり、現世と来世における最高の地位なのです。

2－全てのしもべは流動し、留まることがありません。上昇するか下降するか、あるいは前進するか後退するかで、自然界においてもイスラーム法的視点からも完全に停滞することはないのです。人間は甘い実と苦い実が育つ木のようなものです。それゆえ全てのしもべは目まぐるしい速さで、それぞれが行ったことによって天国あるいは地獄に向かって諸段階を移動し続けるのです。速い者と遅い者、近づく者と遠のく者の差はあっても、停滞することはありません。彼らの間の違いは向かっている方角と、その速度の速さと遅さ、利益と損失のみにあります。

ゆえにイーマーンと正しい行いをもって天国へと歩みゆこうとしない者は、疑うことなく不信仰と悪行をもって地獄へと近づいてゆく者なのです。

宗教は全てにおいて、**(（これら地獄の描写と喚起は）人類に対しての警告である。そしてあなた方の内（アッラーと天国に向かって）進みゆこうとし、あるいは（アッラーと地獄の業火から）遠のこうと望む者のため（の警告であるのだ）。)**（クルアーン 74：36－37）

3－イーマーンの徒は各自イーマーンにおいて、著しく異なっています。諸預言者及び使徒たちのイーマーンはそれ以外の者たちのそれとは異なり、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の教友たち（彼らにアッラーのご満悦あれ）のイーマーンはそれ以外の者たちのそれとは異なります。また正しい信仰者たちのイーマーンは、ムスリムの内の放埓者たちのそれと同様ではありません。これらの違いはアッラーとその美名と属性、アッラーの御業とかれがしもべのために定めて下さった物事に関する知識、またアッラーを畏れその御怒りや懲罰に触れるような事柄から身を慎もうとする心などの大きな差異によって生じてきます。「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはなし）」という証言の言葉が信徒たちに与える光の明るさの多様さは、至高のアッラーのみがその詳細をご存知なのです。

4－アッラーを最も熟知する被造物は、かれを最も強く愛します。それゆえ使徒たちはアッラーへの愛が最も強い者たちであり、その比類のない偉大さを最もよく自覚しかつ讃える者たちでした。アッラーをその本質、その慈しみと恩恵、その美しさ、その荘厳さゆえに愛することはイバーダ（崇拝行為）の基本です。そしてその愛が強まれば強まるほどかれへの服従行為は完全なものとなり、かれを偉大に思う心は強まり、かれによる喜びと安楽はより完結したものとなるのです：**(だから知れ。アッラーの外に神はないことを。そしてあなたの罪過に対し御赦しを請え。また信仰する男たち、信仰する女たちのためにも御赦しを請え。本当にアッラーは、あなたがたの働き振りも、休み方も（すべて）知っておられる。)**（クルアーン 47：19）

●タウヒードとイーマーンの徒の義務

● タウヒードとイーマーンの徒が義務として課されること

1- アッラー、諸天使、諸啓典、諸預言者、来世、良い事、悪い事における運命を信じること：**(あなたがた信仰する者よ、アッラーとかれの使徒を信じなさい。また使徒に下された啓典と、以前に下された啓典を信じなさい。凡そアッラーを信じない**

で、天使たちと諸啓典とかれの使徒たち、そして終末の日を信じない者は、確かに遠く迷い去った者である。)（クルアーン 4：136）

2- 唯一無二のアッラーへのイバーダの忠誠、かれと同等に崇めることを避けること：(かれらの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。これこそ真正の教えである。)（クルアーン 98：5）

3- 至高なるアッラーと預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）への服従、アッラーへの反抗が伴わない限りにおいての統治者への服従。

① 至高なるアッラーは仰せられた：(あなたがた信仰する者よ、アッラーに従いなさい、また使徒とあなたがたの中の権能をもつ者に従え。あなたがたは何事に就いても異論があれば、アッラーと終末の日を信じるのなら、これをアッラーと使徒に委ねなさい。それは最も良い、最も妥当な決定である。)（クルアーン 4：59）

② イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は次のように言いました：「ムスリムたる者、アッラーの御命令に背くことを命じられるのでないかぎりは、好むと好まないにかかわらず（統治者の）言葉に耳を貸し、そして従わねばならない。もしアッラーの御命令に背くことを命じられたなら、それに耳を貸すことも従うこともあってはならない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[78]）

4- イスラーム法の学習と教育：(啓典と英知と預言者としての天分をアッラーからいただいた一人の人間でありながら、後になって人びとに向い、「あなたがたはアッラーの外に、わたしを崇拝しなさい。」とは言えない。むしろ「あなたがたは、主の忠実なしもべとなりなさい。あなたがたは啓典を教えられているのである。それを誠実に学びなさい。」と（言うべきである)。)（クルアーン 3：79）

5- イスラームへの呼びかけ、善きことを勧め、悪しきことを禁じること：(また、あなたがたは一団となり、(人びとを）善いことに招き、公正なことを命じ、邪悪なことを禁じるようにしなさい。これらは成功する者である。)（クルアーン 3：104）

[78] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2475)、サヒーフ・ムスリム（57)。引用はムスリムから。

6- アッラーの道に努力奮闘すること：**(迫害と奸計がなくなるまで、また（かれらの）教えがすべてアッラーを示すまで、かれらと戦え。)**（クルアーン 8：39）

7- アッラーの絆にしっかりと縋り、分裂しないこと：**(あなたがたはアッラーの絆に皆でしっかりと縋り、分裂してはならない。)**（クルアーン 3：103）

8- 表面的にも内面的にも、宗教を堅実に守ること：**(それであなたと、またあなたと共に悔悟した者が命じられたように、（正しい道を）堅く守れ。法を越えてはならない。かれはあなたがたの行いを御存知であられる。)**（クルアーン 11：112）

9- 道徳や礼儀を良きものにすること：**(寛容を守り、道理にかなったことを勧め、無知の者から遠ざかれ。)**（クルアーン 7：199）

10- アッラーに許しを請い、懺悔しなければならないこと：**(アッラーの援助と勝利が来て、人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら、あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である。)**（クルアーン 110：1-3）

●タウヒードとイーマーンの徒の報酬

アッラーはタウヒードとイーマーンの徒に対し、現世における寛大な約束をなされました。その偉大な約束の中には、栄華、正しい導き、勝利、継承、地上における安定、彼ら（タウヒードとイーマーンの徒）の防衛、安全、救済、恩寵を得ること、不信仰者によって支配されないこと、アッラーと共にあること、そして彼らへのアッラーの愛が含まれます。

一方、来世においてアッラーは終わることのない至福、壮大な王国、そして今まで見たことも、聞いたことも、人間の心に思い浮かぶこともない素晴らしいものを彼らにご用意されました：**﴿かれらはその行ったことの報奨として、喜ばしいものが自分のためにひそかに（用意）されているのを知らない。﴾**（クルアーン 32：17）

現世と来世においてタウヒードとイーマーンの徒の傑出した点には次のようなものがあります。

● 現世と来世における幸せな生活

至高なるアッラーは次のように仰せられました：**﴿誰でも善い行いをし（真の）信者ならば、男でも女でも、われは必ず幸せな生活を送らせるであろう。なおわれはかれらが行っ**

た最も優れたものによって報奨を与えるのである。﴿（クルアーン 16：97）

● 天国へ入ること
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾アッラーは、信仰して善い行いに勤しむ者を、川が下を流れる楽園に入らせられる。本当にアッラーは御望みのことを行われる。﴿（クルアーン 22：14）

● 天国永住の恩寵
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾信仰して善行に勤しむ者たちには、かれらのために、川が下を流れる楽園に就いての吉報を伝えなさい。かれらはそこで、糧の果実を与えられる度に、「これはわたしたちが以前に与えられた物だ。」と言う。かれらには、それ程似たものが授けられる。また純潔な配偶者を授けられ、永遠にその中に住むのである。﴿（クルアーン 2：25）

● 主の御満悦
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾アッラーは、男の信者にも女の信者にも、川が永遠に下を流れる楽園に住むことを約束された。また永遠〔アドン〕の園の中の、立派な館をも。だが最も偉大なものは、アッラーの御満悦である。それを得ることは、至上の幸福の成就である。﴿（クルアーン 9：72）

● 偉大なる主との謁見
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾その日、或る者たちの顔は輝き、かれらの主を、仰ぎ見る。﴿（クルアーン 75：22,23）

● 偉大なる主のお近付きになること
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾本当に主を畏れる者は、園と川のある、全能の王者の御許の、真理の座に（住むのである）﴿（クルアーン 54：54,55）

● 偉大なる主の御言葉を拝聴すること
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾本当に楽園の仲間たちは、この日、喜びに忙しい。かれらはその配偶者たちと、木陰の寝床によりかかる。そこでかれらは、果実や望みのものを何でも得られる。慈悲深き主から「平安あれ。」との御言葉もある。﴿（クルアーン 36：55-58）

● 業火からの救済
至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴾そしてあなたがたの中一人もそれを通り越せない。これはあなたがたの主が、成し遂げられる御神命である。しかしわれは主を畏れる敬虔な者を救い、不義を行った者はひざまずいたままで放って置こう。﴿（クルアーン 19：71,72）

● 今日、多くのムスリムの生活において、アッラーが現世においてお約束なされた特徴を見ることはなくなってきました。というのは、彼らのイーマーンが弱くなってきているからです。自らの持つイーマーンを望ましいものに強化しない限り、それらのアッラーのお約束は現世において得ることも目にすることも出来ないでしょう。そのためには私たちのイーマーンと行いを、諸使徒や教友たちのイーマーンと行いのような正しいものにする必要があります。

● 至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴿**それでもしかれらが、あなたがたのように信仰するならば、かれらは確かに正しい導きの中にいる。だがもし背き去るならば、かれらは離ればなれとなるであろう。彼らのことはアッラーに御任せしておけ。かれは全聴にして全知であられる。**﴾（クルアーン 2：137）

● 至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴿**あなたがた信仰する者よ、アッラーとかれの使徒を信じなさい。また使徒に下された啓典と、以前に下された啓典を信じなさい。凡そアッラーを信じないで、天使たちと諸啓典とかれの使徒たち、そして終末の日を信じない者は、確かに遠く迷い去った者である。**﴾（クルアーン 4：136）

● 至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴿**あなたがた信仰する者よ、心を込めてイスラーム（平安の境）に入れ。悪魔の歩みを追ってはならない。本当にかれは、あなたがたにとって公然の敵である。**﴾（クルアーン 2：208）

②諸天使への信仰

諸天使への信仰とは：諸天使が存在し、彼らがアッラーに属していることを疑いなく信じることです。そして私たちはジブリール（ガブリエル。かれに平安あれ）のように、アッラーがその名を言及された天使たちも信じますが、一方でその名が知られていない他の天使たちについても同様に信じます。また彼らの様々な性質や所業の内で知られているものも、同じように信じます。

彼らの地位：彼らは至高なるアッラーの高貴なしもべたちであり、アッラーの崇拝者たちです。かれらにはルブービーヤ[79]、あるいはウルーヒーヤ[80]の性質も全く備わってい

[79] 訳者注：いわゆる神格性。つまり真に崇拝されるべき権威としての性質。

ません。かれらは至高なるアッラーが光からお創りになられた、不可知の領域に属する存在なのです。

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は伝えています：預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました。「天使は光から創られた。そしてジンは煙のない炎から創られた。また、アーダム（最初の人類）はあなた方に示したように創られた。」（ムスリムの伝承[81]）

彼らの所業とは：アッラーを崇拝し、かれの崇高さを讃美することです。そしてアッラーが御命令になられたことを忠実に実行します：**﴾そしてかれ（アッラーのこと）の御許には、かれを崇拝することにおいて驕り高ぶることもなければ、疲れを覚えることもない者たち（天使たちのこと）がいる。（彼らは）昼夜に（その主の）崇高さを讃美し、休むこともないのだ。﴿**（クルアーン 21：19, 20）

彼らのアッラーに対する服従の度合い：荘厳かつ偉大なるアッラーは彼らに、自らの命令に対する完全な屈従と、それを実行するための力量を授けられました。彼らは決してアッラーに逆らうことがありません：**﴾彼ら（諸天使）はアッラーが命じたことにおいてかれに逆らうこともなく、ただ命じられたままに実行するのである。﴿**（クルアーン 66：6）

● **天使の数：**

彼らの数は膨大で、至高のアッラーのみがその正確な数をご存知です。彼らの中にはアッラーの玉座を支える者たち、天国の番人たち、地獄の番人たち、しもべたちの行いを看視する者たち、その行いを帳簿に書き留める者たちなどがいます。また彼らの内のある者は毎日*アル＝バイト・アル＝マアムール*[82]で礼拝をしますが、その数は7万にも上ります。そこで礼拝した者たちは一旦そこを出れば、2度とそこに戻ることはありません。預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のミゥラージュ[83]に関する伝承で、彼はこのように語っています：「…それから私は*アル＝バイト・アル＝マアムール*まで連れて来られた。私はジブリールに（これは何か、と）尋ねた。彼は言った：“これが*アル＝バイト・*

80　訳者注：いわゆる主権性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威としての性質。
81　サヒーフ・ムスリム（2996）。
82　訳者注：マッカのカアバ神殿の丁度真上の第 7 層の天界にあると言われる、天使たちがアッラーを讃美する場所。
83　訳者注：いわゆる昇天のこと。ある晩、預言者ムハンマドはマッカからエルサレムまで奇跡の「夜の旅」をし、そこから大天使ジブリールに伴われて天界を訪問しました。

*アル＝マアムール*だ。毎日 7 万の天使がそこで祈るが、彼らは一旦そこから出たら 2 度とそこに戻ることがない[84]。"」[85]

● **諸天使の名称及び役割：**

諸天使は、アッラーがかれに対する服従とイバーダ（崇拝行為）のために創られた高貴なるしもべたちであり、その数はかれのみがご存知です。アッラーは彼らの内のある者の名称や役割については私たちに示して下さいましたが、それ以外の者たちについてはかれのみがその知識を専有されています。アッラーは彼らに様々な役割を与えられました。そのいくつかを挙げていきましょう：

1－ジブリール（ガブリエル。かれに平安あれ）：諸預言者や使徒たち（彼らに平安あれ）への啓示を任されています。

2－ミーカーイール（ミカエル。かれに平安あれ）：雨と作物に関しての役割を担います。

3－イスラーフィール（かれに平安あれ）：角笛を吹き鳴らして現世の終焉を告げ、そして復活を知らせます。[86]

上記の天使たちが最も偉大な天使たちであり、生の諸要因について委任されています。例えばジブリールは心の生がそこに依拠するところの啓示を任され、ミーカーイールは一旦不毛となった大地の再生が依拠するところの雨を任され、またイスラーフィールは死後の肉体の生がそこに依拠するところの角笛への吹きこみを任されています。

4－地獄の番人マーリク：地獄を任されています。

5－天国の番人リドワーン：天国を任されています。

またこれらの者たちの他にも、次のような天使たちがいます：

● 死の天使：しもべに死が訪れた際、魂を引き抜く役割を担います。

● 天国と地獄の番人たち。山や海を管理するものたち。

---

[84] 訳者注：つまり天使たちはそこに一度きりしか入ることがないにも関わらず、そこには常時 7 万の天使がいるということです。このことは天使の数の多さを示しています。
[85] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3207）、サヒーフ・ムスリム（162）。
[86] 訳者注：詳細は後述の「審判の日の予兆」章を参照のこと。

- アーダムの子ら（つまり人類）の看視を委任されている者たち：彼らは各人の行いを見守り、それを記録します。

- 常にしもべと共にある者たち。

- 昼夜の交替を担う者たち。

- アッラーが祈念（ズィクル）されている場所を探索する者たち。

- 胎内の赤ん坊に、彼らがその人生において得ることになる糧や行い、寿命、幸福になるか不幸になるかということなどをアッラーの命に基づいて書き定めることを委任された者たち。

- 墓の中で、死人にその主と宗教と預言者について問いただすことを委任されている者たち。

これ以外にも沢山の天使がいますが、その正確な数は全ての物事を詳細に数え尽くされるアッラーのみがご存知です。

- **高貴なる記録者たちの役割：**

アッラーは高貴なる記録者たちをお創りになられ、彼らに私たちを見守らせ、言葉や行いや意図などを記録させるように命じられました。全ての人間には 2 人の天使がついています。そしてもう 2 人の天使が、1 人はその前方から、そしてもう 1 人はその後方から彼を守護し見守っているのです。

1－至高なるアッラーは仰せられています：﴾**そして実に、あなた方には（あなた方の行いを）看視する者たちがいる。（彼らは）高貴なる記録者たちであり、あなた方の行いを知っているのだ。**﴿（クルアーン 82：10-12）

2－至高なるアッラーは仰せられています：﴾**本当にわれらは人間を創った。そしてその魂が囁くことも知っている。われらは（人間の）頚動脈よりも人間に近いのである。2 人の受け取る者（天使）が（人の）右と左に座して、（その言葉や行いを）受け取るのだ。（人が）語る全ての言葉は、記録し看視する者の面前を免れることはない。**﴿（クルアーン 50：16-18）

3－至高なるアッラーは仰せられています：**﴿言葉を内に秘める者も露わにする者も、また夜に潜む者も昼に横行する者も、（アッラーの御前では）同様である。（全ての者には）その前から後ろから、アッラーの御命令ゆえに次々と交替して引継ぎ看視する者たちがついている。実にアッラーは、民が（善行や服従行為に基づいた）状況を自ら変えてしまわない限り、彼らの（恩恵にあふれた）状況を変えてしまわれることはない。そしてアッラーがある民を滅ぼされることをお望みになれば、それは誰にも阻むことが出来ない。そして彼らには、アッラー以外に庇護してくれるものはいないのだ。﴾**（クルアーン 13 : 10-11）

4－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーは（天使たちに、こう）仰せられた：“わがしもべが何か 1 つの悪行をしようと思いついたら、それを実行に移すまではそのことを記録してはならない。しかしそれを行ったならば、その通りに記録せよ。そしてもしわれのために（彼が思いついた 1 つの悪行を）思い止まったなら、彼のためにそれを 1 つの善行として記録せよ。また彼が何か 1 つの善行を思いついたならば、彼がそれを実行しなくともそれを 1 つの善行として記録せよ。そしてもしそれを行ったならば、彼のためにそれを 10 倍から 700 倍の形にして記録するのだ。”」　（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[87]）

● **天使の創造の偉大さ：**

天使は創造主の偉大な創造物です。アッラーはかれらをただ「あれ」と仰せられて、創造されました。彼らはその創造の偉大さにおいて異なります。

ジブリールは最も偉大な天使です。かれには 600 の翼があり、それは西から東まで地平線を覆うほどの広さです。その翼の先はルートの民の 5 つの町を空へと上昇させ、そして転覆させました。それらの町は現在、死海の底に沈んでいます。

いったいその翼の威力はどのくらいのものでしょうか！そしてその 600 の翼を合わせた威力はいかなるものでしょうか！また、かれの足、体全ての力はどのようなものといえるでしょうか！そして何よりも、かれを創造された偉大にして力強き主の御力とはいったいどのくらいのものでしょうか！

次に、イスラーフィールは角笛を吹き鳴らして現世の終焉を告げ、そして復活を知らせる天使です。かれが角笛をひと吹きすると、天にあるものも地にあるものも気絶します。そして、次に角笛が吹かれると、起き上がりあたりを見まわすでしょう。

これが、かれの角笛の威力です。いったいかれの体の力はどのくらいのものだといえるでしょうか！そして何よりも、かれを創造された偉大なる主の御力とはいったいどのくらいのものでしょうか！

---

[87] サヒーフ・アル=ブハーリー（7501）、サヒーフ・ムスリム（128）。引用はアル=ブハーリーから。

そして玉座を支える天使は、その耳たぶから肩までが、距離にして 700 年分もの行程を持っています。

では、かれの頭から足までの距離はいったいどのくらいの長さだというのでしょうか！かれを創造されたこの上ない偉大さはどのくらいのものといえるでしょうか！

1- 至高なるアッラーは次のように仰せられました：**﴾アッラーに讃えあれ。天と地の創造者であられ、２対、３対または４対の翼を持つ天使たちを、使徒として命命なされる。かれは御心のまま数を増して創造される。本当にアッラーは凡てのことに全能であられる。﴿**（クルアーン 35：1）

2- イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は「ジブリールに 600 の翼があるのを見た。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[88]）

3- ジャービル・ブン・アブドッラー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーは、私がかれの玉座を支える天使たちのある者について話すことをお許しになられた。（その天使というのは）実にその耳たぶから肩までの距離が、700 年分もの行程なのである。」（アブー・ダーウードの伝承[89]）

● **諸天使を信仰する事による成果：**

1－至高なるアッラーの比類なき偉大さと権能、そしてお力、英知と慈悲を知ること。というのもアッラーは、かれのみがその数をご存知になる膨大な数の天使たちを創造されたからです。またかれの玉座を支える天使たちの内の 1 人は、その耳たぶから肩までが 700 年分もの行程という巨大さなのですから、かれの玉座が想像を超える偉大さを備えているということは容易に理解出来ます。これが、崇高なるかれにこそ大権は属し**﴾かれにこそ諸天地におけるこの上ない威厳は属し、かれは偉大かつ英知溢れるお方である﴿**（クルアーン 45：37）ゆえんです。

2－アッラーの、アーダムの子ら（つまり人類）に対するご配慮を知ることでかれに感謝し、またかれを讃美すること。というのもアッラーは天使たちを、アーダムの子らを見守り、彼らを援助し、また彼らの行いを書きとめるよう委任され、彼らのために祈願

---

88 サヒーフ・アル＝ブハーリー（4857）、サヒーフ・ムスリム（174）。引用はアル=ブハーリーから。

89 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（4727）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（151）参照。

するからです。

3－至高なるアッラーへのイバーダ（崇拝行為）、そして信仰者たちへの祈願と赦しを請うなどといった天使たちの行いを知ることにより、彼らへの愛情が増大すること。偉大かつ荘厳なるアッラーはかれの玉座を支える天使たちと、かれの周りに侍る天使たちについてこう仰せられました：**﴾（アッラーの）玉座を支え、その周りに侍る者たち（つまり天使たち）はアッラーの崇高さを讃え、かれを賛美する。彼らはアッラーを信仰し、信仰するしもべたちのために（彼らの罪の）赦しを請う：“われらが主よ、あなたは全てをそのご慈悲とご知識をもって包み込まれました。ですから悔悟し、あなたの道に従う者たちにお赦しをお授け下さい。彼らを（地獄の）業火の懲罰からお救い下さい。われらが主よ、そして彼らと、彼らの祖先と配偶者と子孫たちの内の正しい信仰者たちを、あなたが彼らに約束されたエデンの楽園にお入れ下さい。あなたこそは強大かつ英知溢れたお方であられます。そして彼らを諸悪（地獄の業火）からお守り下さい。（審判の日である）その日、地獄の懲罰から免れた者こそはあなたが慈しまれた者です。そしてそれこそはこの上ない勝利なのです。”﴿**（クルアーン 40：7－9）

③諸啓典への信仰

● **諸啓典への信仰とは：**次に示すような事柄を確固として信じることです：至高なるアッラーがその預言者たちと諸使徒に対し、しもべたちへの導きとして諸々の啓典を下されたということ。またそれらが真にアッラーの御言葉であるということ。そしてそこに含まれる内容が疑念の余地なく真実であるということ。また諸啓典にはその名が知られていないものもあり、その数は偉大かつ荘厳なるアッラーのみがご存知であるということ。

● **クルアーンで言及されている啓典の数：**

偉大かつ荘厳なるアッラーはクルアーンの中で、以下に挙げる諸啓典を啓示されたことを明らかにされています：

1－イブラーヒーム（アブラハム。彼に平安あれ）に下された啓典。

2－トーラー：ムーサー（モーゼ。彼に平安あれ）に下された啓典。

3－ザブール（詩篇）：ダーウード（ダヴィデ。彼に平安あれ）に下された啓典。

4－インジール（福音書）：イーサー（イエス。彼に平安あれ）に下された啓典。

5－クルアーン：全人類を対象としてムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に下された啓典。

- **クルアーン以前の諸啓典への信仰、及びその諸規定にのっとることのイスラーム的見解：**

私たちは偉大かつ荘厳なるアッラーがこれらの啓典を下されたことを信仰し、その中にある、クルアーンが伝える情報と一致する正しい情報に関して信じます。また私たちは諸啓典の中の改変・捏造されていない情報を信じ、破棄され、新たな規定に取って代わられたものでない限り、満足と従順さをもってそれらの規定に則ります。諸啓典の内、名前が知られていないものに関しても、全て一括して信仰します：**﴾使徒は、主から下されたものを信じる、信者たちもまた同じである。（かれらは）皆、アッラーと天使たち、諸啓典と使徒たちを信じる。わたしたちは、使徒たちの誰にも差別をつけない（と言う）。また、かれらは（祈って）言う。「わたしたちは、（教えを）聞き、服従します。主よ、あなたの御赦しを願います。（わたしたちの）帰り所はあなたの御許であります。」﴿**（クルアーン 2：285）

トーラー、インジール、ザブールなどクルアーン以前の諸啓典は無効化され、偉大なるクルアーンによって取って代わられました。崇高なるアッラーはこう仰せられています：**﴾そしてわれら（アッラーのこと）はあなたに、真実をもって（クルアーン）を下した。それはそれ以前の諸啓典を確証し、かつ従属させるものである。ゆえにアッラーが下されたものでもって彼らの間を裁くのだ。そしてあなたに到来した真理をさしおいて彼らの欲望に従ってはならない。﴿**（クルアーン 5：48）

- **現在、啓典の民のもとにある諸啓典に対する見解：**

現在トーラー、インジールと呼ばれているものは、その全てをアッラーの預言者たちや使徒たちが伝えたものであるとは言えません。というのもそこには改変や捏造が存在

するからです。例えばアッラーに御子が存在するといったもの、キリスト教徒によるマルヤム（マリヤ）の子イーサー（イエス）の神格化、創造主をその荘厳さにそぐわない形において描写することや、預言者たちの誹謗などがそうです。これらの事柄は退けられなければならず、クルアーンとスンナ[90]の確証に基づく裏づけを見出せるもの以外は信仰するべきではありません。

啓典の民が語る啓典の話については、私たちはそれを真実であるとも嘘であるとも言わず、ただこう言うのです：「私たちはアッラーとその諸啓典、そして諸使徒を信仰します。」そしてもし彼らが真実を語れば彼らを嘘つき呼ばわりすることもせず、もし嘘偽りを語るのなら信じることはありません。

● **ユダヤ教とキリスト教に対する見解：**

すべての諸使徒がもたらした真の教えとは、イスラーム（主に帰依、服従すること）です。それこそが真実であり、それ以外のものは偽りです：﴾**本当にアッラーの御許の教えは、イスラーム（主の意志に服従、帰依すること）である。啓典を授けられた人びとが、知識が下った後に相争うのは、ただかれらの間の妬みからである。アッラーの印を拒否する者があれば、アッラーは本当に清算に迅速であられる。**﴿（クルアーン 3：19）

現在のユダヤ教やキリスト教は天啓の宗教ではありません。ユダヤ教をムーサー（彼に平安あれ）の教え、キリスト教をイーサー（彼に平安あれ）の教えと言うことは許されません。というのもユダヤ教はトーラーが下された後、数世紀にわたり全く新しいものにされました。キリスト教も同様です。ユダヤ教、キリスト教共に捏造、改変され、崇高なるアッラーとかれの美名、属性、かれの真の教えを否定したものになりました：﴾**イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。**﴿（クルアーン 3：85）

アッラーはイブラーヒーム（彼に平安あれ）がユダヤ教徒やキリスト教徒であること、またシルクの徒[91]であることを否定しています。つまり、ユダヤ教とキリスト教は不信仰であり、彼の後に不信仰が起こりました。ですから、彼がユダヤ教徒・キリスト教を表しているということは不相応なのです：﴾**イブラーヒームはユダヤ教徒でもキリスト教徒でもなかった。しかしかれは純正なムスリムであり、多神教徒の仲間ではなかったのである。**﴿（クルアーン 3：67）

● **クルアーンへの信仰とその諸規定に則ることのイスラーム的見解：**

---

[90] 訳者注：「スンナ」とは預言者の言行や彼が認可したこと、彼の性格や容貌などを伝える伝承の事。

[91] 訳者注：「シルク」の項参照。

クルアーンは偉大かつ荘厳なるアッラーが最終かつ最良の預言者であるムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に啓示したものであり、そして無謬にしてこの上ない英知に溢れた啓典です。アッラーはそれを全てへの明瞭な説明として、そして万有への導きとご慈悲として啓示されたのです。

クルアーンは最良の天使であるジブリール（彼に平安あれ）の伝達を介し、最良の被造物であるムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に啓示され、かつ人類史上最良の共同体に下された最良の啓典です。またクルアーンは最良かつ最も豊かで修辞的に優れた言葉である明瞭なアラビア語でもって下されました。クルアーンはタウヒード[92]とイーマーン[93]の書です。そしてアッラーへといざない、真実へと導き、知識を授け、規定を定め、[94]大きなクルアーンの意図を見落としがちになっています。

ゆえに全ての者はクルアーンを信仰し、それに基づいて行い、その作法に則らなければなりません。アッラーはクルアーンの啓示後、それ以外のものによるいかなる行いをもお受け入れになられることはありません。またクルアーンはアッラーによって守護されており、あらゆる捏造や改変、付加や欠損などから免れているのです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にわれら（アッラーのこと）は、訓戒（クルアーン）を下した。そしてわれらはその守護者なのである。﴿**（クルアーン 15：9）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてそれ（クルアーン）は万有の主からの啓示である。（それは）忠義なる魂（ジブリール）によって下った。警告者となるべく、あなたの心に。明瞭なアラビア語によって。﴿**（クルアーン 26：192－195）

● **クルアーンのアーヤ（章句）の示すもの：**

クルアーンのアーヤには全ての事柄についての説明があります。そしてそれは伝達形、あるいは要求形のどちらかの形をとります：

● **伝達形には2種類があります：**

1－偉大かつ荘厳なる創造主アッラーとその美名及び属性、そしてその行為と言葉に関する情報の伝達。

2－被造物に関する情報の伝達：例として天地やアッラーの玉座、人間や動物、無機物や

---

92 訳者注：「タウヒード」の項参照。
93 訳者注：「イーマーン」の項参照。
94 サヒーフ・ムスリム（55)。

植物、天国と地獄、諸預言者と諸使徒及びその追随者たちや敵、そしてその両者への報いに関する話などがあります。

- **一方要求形にも2種類があります：**

1－アッラーのみにイバーダ（崇拝行為）を捧げたり、アッラーとその使徒に従ったり、サラー（礼拝）やサウム（斎戒）を行うことなど、アッラーからのご命令に関するもの。

2－アッラーに対するシルク[95]の禁止や、リバー（利子などの不法商取引による利益）や醜行などに関する警告など、アッラーが禁止されることに関するもの。

- 私たちに最良の使徒を遣わされ、最後の啓典を下し、私たちを人類史上最良の共同体とされたアッラーにこそ、全てに対する賞讃と感謝、恩恵とご好意があります：

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾アッラーはこの上ない素晴しい言葉を、互いに似た（語句をもって）繰り返し啓典で啓示なされた。主を畏れる者は、それによって肌は戦き震える。その時アッラーを讃え唱念すれば肌も心も和ぐ。これがアッラーの御導きである。かれは御心に適う者を導かれる。だがアッラーが迷うに任せた者には、導き手はない。﴿**（クルアーン 39：23）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にアッラーは信仰者たちに恩恵を与えられた。（思い出すのだ、）かれは彼らのもとへ、彼ら自身の中からそのみしるしを読み聞かせ、彼らを（不信仰から）清め、啓典とスンナを教示する1人の使徒を遣わされたではないか。そして実にそれ以前、彼らは明白な迷妄の中にあったのだ。﴿**（クルアーン 3：164）

[95] 訳者注：「シルク」の項参照。

④　諸使徒への信仰

●　**諸使徒への信仰とは：**

　次の事柄を確固として信じることです：偉大かつ荘厳なるアッラーのみにイバーダ（崇拝行為）を捧げさせ、それ以外のものの崇拝を回避させるために、かれが全ての民に使徒を遣わされたこと。また諸使徒は皆アッラーからの正直な使者であり、アッラーが彼らに託して遣わされたものを全て余すことなく伝達したということ。そしてその内のある者はアッラーのみがその詳細をご存知であること、などです。

●　**諸預言者や諸使徒への信仰に対する見解：**

全ての預言者と使徒を信仰しなければなりません。彼らの内の誰か１人を否定した者は、彼ら全員を否定したことになるのです。また彼らに関する伝承でその正当性が確証されたものに関しては、それを信仰しなければなりません。また彼らのイーマーン[96]の真摯さ、タウヒード信仰[97]の完全さ、人格の高潔さを見習うことも必要です。そして私たちに遣わされ、また全人類と全世界に遣わされた最終かつ最良の使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が携えてきたイスラーム法も実践しなければなりません。

1- 至高なるアッラーは仰せられました：﴿**使徒は、主から下されたものを信じる、信者たちもまた同じである。（かれらは）皆、アッラーと天使たち、諸啓典と使徒たちを信じる。わたしたちは、使徒たちの誰にも差別をつけない（と言う）。また、かれらは（祈って）言う。「わたしたちは、（教えを）聞き、服従します。主よ、あなたの御赦しを願います。（わたしたちの）帰り所はあなたの御許であります。」**﴾（クルアーン２：285）

2- 至高なるアッラーは仰せられました：﴿**信仰（イーマーン）する者たちよ、アッラーとその使徒と、かれ（アッラーのこと）がその使徒に下した啓典と、それ以前に下した全ての啓典を信仰せよ。アッラーとその諸天使と諸啓典、諸使徒と来世を信じない者は、実に遥か遠くに迷い去っているのだ。**﴾（クルアーン４：136）

3- 至高なるアッラーは仰せられました：﴿**言え、「わたしたちはアッラーを信じ、わたしたちに啓示されたものを信じます。またイブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアコーブと諸支部族に啓示されたもの、とムーサーとイーサーに与えられたもの、と主から預言者たちに下されたものを信じます。かれらの間のどちらにも、差別をつけません。かれにわたしたちは服従、帰依します。」**﴾（クルアーン２：136）

● **諸使徒とその追随者たちの教育：**

偉大かつ荘厳なるアッラーは諸使徒とその追随者たちに対し、まず自分自身がイバーダ（崇拝行為）、タズキヤ（自己浄化）、考察、熟慮、忍耐、イスラームのためのあらゆる形での犠牲といった手段をもってイーマーン[98]を養うことに努力することを教示されました。アッラーが全ての創造主であり、その御手にこそ全てが委ねられており、またかれのみが

[96] 訳者注：「８．イーマーン」の項参照。
[97] 訳者注：「１．タウヒード」の章参照のこと。
[98] 訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

崇拝される対象としてふさわしいということが明確に彼らの心の中に宿り、また彼らの人生においてイーマーンが十全なものとなるため、アッラーの御言葉（つまりイスラームという教え）が興隆し高きに達するべく尽力し、かつそのために様々な物事を放棄することを教えられました。そしてその次の段階としてイーマーンや正しい行いをもってモスク建設やアッラーの唱念、かれの教えを学ぶことなど、適正な環境を形づくる事によってイーマーンを保全するよう努力することを勧められています。

それから彼らは、イスラームの要求するもの、及び彼らがイーマーンから得たものが要求するものに答えるべく、努力します。彼らは、彼らがどこにあろうとアッラーが彼らと共にあり、彼らを援助され、彼らに糧をお恵みになられ、彼らを支えられると信じています。それは丁度バドルの役やマッカ開城、フナインの役などにおいてムスリムたちが勝利を得たときのような状態なのです。そして彼らは崇高なるアッラーのみに*タワックル*（全てを委ねること）し、かれ以外の何ものにも*タワックル*することはありません。それから彼らは何ものも並べることなくアッラーのみを崇拝するようにいざなうべく、彼らの民や派遣された使節などの間にイーマーンを広めるのです。そして彼らにその法規定を教授し、主のみしるしを読んで聞かせるのです。

至高なるアッラーは仰せられています：**﴾かれ（アッラーのこと）こそは文盲の民に、彼ら自身の内から１人の使徒を遣わされたお方。（その使徒 - つまりムハンマド - は）彼らにそのみしるしを読んで聞かせ、彼らを（不信仰の汚れから）清め、彼らに啓典とスンナを教示する。そして実に彼らはそれ以前、明白な迷妄の中にいたのだ。そして（ムハンマドは、彼が遣わされた民が）まだ知らない他の者たちにも（同様に遣わされた）。かれ（アッラーのこと）は強大かつ英知溢れたお方である。これこそ（アッラーが）お望みになられた者に対するアッラーの恩恵。かれはこの上ない恩恵の主である。﴿**（クルアーン 62：2-4）

- **使徒とは：**アッラーが天啓法を授けられ、それに関して無知な者たちに、あるいは知っていても背反する者たちに対してその伝達を命じられた者のことを言います。

- **預言者とは：**アッラーが啓示を授けられたものの、与えられた法自体はそれ以前のものと同じものであるような者のことを言います。彼らは彼らの周囲の、元来その法に属する者たちに対してそれを教示し、かつ復興するのです。こういったことから全ての使徒は預言者であると言えますが、その逆は正しくないのです。

例えばある文中で、預言者（ナビー）または使徒（ラスール）という言葉のどちらかひとつだけ使われていたならば、それは預言者、使徒両方の意味を表します。しかし、

預言者、使徒という言葉がそれぞれ別に使われていたならば、それは上記に記したように意味の違いを表しています。

● **預言者たちと諸使徒の派遣：**

至高なるアッラーが独立した 1 つの天啓法とともに使徒を遣わされなかったり、あるいはそれ以前の天啓法を復興させるべく預言者を遣わされなかったような民は存在しません。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**本当にわれら（アッラーのこと）は、各々の民に使徒を遣わして、「アッラーを崇拝し、ターグート[99]を避けなさい。」と命じた。**﴿（クルアーン 16：36）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にわれら（アッラーのこと）は導きと光を有するトーラーを下した。イスラームを受容した（イスラエルの民の）預言者たちや賢人たちや大学者たちは、それによってユダヤ教徒たちを裁いていたのだ。**﴿（クルアーン 5：44）

● **預言者たちと諸使徒の数：**

預言者たちと諸使徒（彼らに平安あれ）は沢山います。

1－彼らの内のある者はクルアーンの中でアッラーによってその名が明白にされ、かつ彼らにまつわる話も伝えられています。彼らの数は 25 名です。

1：アーダム（アダム：彼に平安あれ）：﴾**そして実にわれら（アッラーのこと）は以前、アーダムに（禁断の実に手をつけぬよう）命じたのだが、彼は忘れた。われらは彼の強固な意思を見出すことがなかったのだ。**﴿（クルアーン 20：115）

2 - 19：至高なるアッラーは何人かの預言者と使徒たち（彼らに平安あれ）に言及され、こう仰せられました：﴾**そしてそれらはわれら（アッラーのこと）が、イブラーヒーム（アブラハム）に対しその民に向けて授けた明証である。われらは望む者の地位を上げるのだ。実にあなたの主は英知に溢れ、全てを知り尽くされたお方である。そしてわれらは彼にイスハーク（イサク）とヤアコーブ（ヤコブ）を授け、両者を導いた。またそれ以前にヌーフ（ノア）も導いた。そしてその子孫であるダーウード（ダヴィデ）、スライマーン（ソロモン）、アイユーブ（ヨブ）、ユースフ（ヨ**

[99] 訳者注：「ターグート」に関しては「2. タウヒードの種類」参照。

セフ)、ムーサー（モーゼ)、ハールーン（アーロン）も（また導いた)。われらはこのように知識に秀で、行いの正しい者に報いを与えるのだ。またザカリーヤー（ザカリヤ)、ヤヒヤー（ヨハネ)、イーサー（イエス)、イリヤース（も導いた)。(彼らは）全て正しい者たちであった。そしてイスマーイール（イシュマエル)、アル＝ヤサア、ユーヌス（ヨナ)、ルート（ロト）(も導いた)。われらは彼ら全員を、全世界において卓越した者たちとした。そして彼らの祖先や子孫、兄弟たちの内からある者たちを選び、真っ直ぐな道へと導いた。これこそアッラーのお導き。彼はそのしもべの中からお望みになる者を導かれる。そしてもし彼らがシルク[100]を犯すのであれば、彼らの（善き）行いは必ずや無に帰すであろう。彼ら（預言者と使徒たち）こそはわれらが啓典と知識と預言者性を授けた者たちである。﴾（クルアーン 6：83－89）

20：イドリース（彼に平安あれ)：﴿（ムハンマドよ、）啓典の中（のこの章）から、イドリースについて話して聞かせよ。実に彼は信心深い預言者であった。﴾（クルアーン 19：56）

21：フード（彼に平安あれ)：﴿アードの民は（アッラーから彼らに）遣わされた者たちを嘘つきだと言った。彼らの身内の者であるフードが彼らに対し、「一体あなたたちは（アッラーのお怒りと懲罰に対し）身を慎まないのですか？」と言った時のことを思い出せ。(フードは言った)「私は実に１人の誠実な使徒なのです。﴾（クルアーン 26：123-125）

22：サーリフ（彼にアッラーのご満悦あれ)：﴿サムードの民は（アッラーから彼らに）遣わされた者たちを嘘つきだと言った。彼らの身内の者であるサーリフが彼らに対し、「一体あなたたちは（アッラーのお怒りと懲罰に対し）身を慎まないのですか？」と言った時のことを思い出せ。(サーリフは言った)「私は実に１人の誠実な使徒なのです。﴾（クルアーン 26：141－143）

23：シュアイブ（彼に平安あれ)：﴿藪の民は（アッラーから彼らに）遣わされた者たちを嘘つきだと言った。シュアイブが彼らに対し、「一体あなたたちは（アッラーのお怒りと懲罰に対し）身を慎まないのですか？」と言った時のことを思い出せ。(シュアイブは言った)「私は実に１人の誠実な使徒なのです。」﴾（クルアーン 26：176－178）

[100] 訳者注：「４．シルク」の項参照。

24：ズル＝キフル（彼に平安あれ）：**﴿そしてイスマーイール（イシュマエル）とアル＝ヤサア、ズル＝キフルを思い出せ。皆最良の者たちであった。﴾**（クルアーン 38：48）

25：ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）：崇高なるアッラーは仰せられています：**﴿ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である。本当にアッラーは全知であられる。﴾**（クルアーン 33：40）

2－また預言者たちと使徒たち（彼らに平安あれ）の中には、私たちにとってその名が不明であり、かつアッラーが私たちに彼らについて語って下さらなかった者たちもいます。そのような者たちに関しても、私たちはそのまま信仰するのです。

● 至高なるアッラーは仰せられました：**﴿そしてわれら（アッラーのこと）はあなた以前にも使徒たちを遣わした。彼らの内のある者はあなたに語って聞かせたが、ある者は語って聞かせなかった。﴾**（クルアーン 40：78）
● アブー・ウマーマ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）はこう言いました：“私はこう言いました：「アッラーの使徒よ、預言者の数は何人ですか？」（アッラーの使徒は）言いました：「124000 人である。そしてその内使徒の数は 315 人にも及ぶのだ。」”」（アフマドとアッ＝タバラーニーの伝承[101]）

● **不屈の決意を持つ諸使徒：**

不屈の決意を持つ諸使徒は５名で、ヌーフ、イブラーヒーム、ムーサー、イーサー、そしてムハンマド（彼らに祝福と平安あれ）です。崇高なるアッラーは彼らの名に言及されています：**(かれがあなたに定められる教えは、ヌーフに命じられたものと同じものである。われはそれをあなたに啓示し、またそれを、イブラーヒーム、ムーサー、イーサーに対しても（同様に）命じた。「その教えを打ち立て、その間に分派を作ってはならない。」)**（クルアーン 42:13）

● **最初の使徒：**

[101] 別のハディースに依拠した真正な伝承。ムスナド・アフマド（22644）、アッ＝タバラーニー（217／8）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2668）参照。

諸使徒や諸預言者の宗教はただひとつ、イスラーム（アッラーに帰依、服従すること）ですが、彼らの法規定はそれぞれ異なります。先代の預言者はその後に来る預言者について伝え、信じていました。そして、後に来た預言者達は先代の預言者のことを信じ、信仰していました。

ヌーフ（ノア）は最初の人類アーダム（アダム：彼に平安あれ）の後１０００年経ち、シルク[102]が起こったために地上に遣わされた最初の預言者です。アッラーは不信仰な民をアッラーへといざない、かれのみを崇拝し、シルクを否定するためにヌーフを遣わされました。

1 - 至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴿**アッラーが預言者たちと約束された時を思え。（かれは仰せられた）。「われは啓典と英知とをあなたがたに授ける。その後で、あなたがたが持つ（啓典）を実証するため、一人の使徒があなたがたのところに来るであろう。（その時）あなたがたはかれを信じ、かれを助けなさい。」かれは仰せられた。「あなたがたはこれを承知するか。このことについて、われと固い約束をするか」かれらは申し上げた、「承知しました」「それならあなたがたは証言しなさい。われもあなたがたと共に立証しよう。」と仰せられた。**﴾（クルアーン 3：81）

2 - 至高なるアッラーは次のように仰せられました：﴿**本当にわれは、ヌーフやかれ以後の預言者たちに啓示したように、あなた（ムハンマド）に啓示した。**﴾（クルアーン 4：163）

3 - アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）が伝える預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の、審判の日におけるとりなしに関する伝承の中で預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「（アーダムはとりなしを乞うしもべたちにこう仰せられる）“ヌーフ（ノア）のもとへ行くのだ。”そして彼らはヌーフのもとへ行き、こう言う：“ヌーフよ、あなたは地上における最初の使徒です・・・”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[103]）

● **最後の預言者：**

最後の預言者はムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）です。彼の後から最後の審判の日まで、預言者も使徒も現れることはありません。至高なるアッラーは仰せられました：﴿**ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使**

[102] 訳者注：「シルク」の項参照。
[103] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3340）、サヒーフ・ムスリム（194）。引用はアル＝ブハーリーから。

徒であり、また預言者たちの封緘である。本当にアッラーは全知であられる。﴿（クルアーン 33：40）

● **アッラーはその諸使徒と預言者たちを誰に遣わされたのか？**

1－アッラーは、預言者たちと諸使徒を彼ら自身の民だけを対象に遣わされました。崇高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして全ての民には、その導き手がある。**﴿（クルアーン 13：7）

2－アッラーはムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）を、全人類に向けて遣わされました。彼は最後の預言者であり使徒で、彼らの内の最良の者です。また彼はアーダムの子らの長であり、審判の日には賞讃の旗を掲げています。アッラーは彼を、全世界への慈悲として遣わされました。

1- 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）はあなたを、福音と警告を告げる者として人類全てに向けて遣わした。しかし多くの人々は知らないのだ。**﴿（クルアーン 34：28）

2- 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）があなたを遣わしたのは、全世界への慈悲ゆえに他ならない。**﴿（クルアーン 21：107）

● **預言者たちと諸使徒を遣わすことにおける英知：**

1－人々にアッラー以外の何かを崇拝することを禁じ、アッラーのみを崇拝するようにいざなうこと。至高なるアッラーは仰せられました：﴾**本当にわれら（アッラーのこと）は、各々の民に使徒を遣わして、「アッラーを崇拝し、ターグート**[104]**を避けなさい。」と命じた。**﴿（クルアーン 16：36）

2－アッラーへと導く道を明らかにすること。至高なるアッラーは仰せられました：﴾**かれ（アッラーのこと）こそは文盲の民に、彼ら自身の内から１人の使徒を遣わされたお方。（その使徒 - つまりムハンマド - は）彼らにそのみしるしを読んで聞かせ、彼らを（不信仰の汚れから）清め、彼らに啓典とスンナを教示する。そして実に彼らはそれ以前、明白な迷妄の中にいたのだ。**﴿（クルアーン 62：2）

3－審判の日、人々が主の御許に辿り着いてからの状況を告げること。至高なるアッラー

[104] 訳者注：「ターグート」に関しては「2. タウヒードの種類」参照。

は仰せられました：**﴾言え（ムハンマドよ）、「人々よ、私はあなた方に対する明白な警告者である。」それゆえ信仰し正しい行いをする者たちには、（アッラーからのご褒美として）罪のお赦しと素晴らしいお恵み（天国）がある。しかしわれら（アッラーのこと）のみしるしが実現不可能なものであると主張し続ける者たちは、地獄の業火の住人なのである。﴿**（クルアーン 22：49-51）

4－人々に対しての立証。至高なるアッラーは仰せられました：**﴾（われらは）福音と警告の伝達者として、使徒たちを（遣わした）。それは彼らの（派遣）の後、人々にアッラーに対する弁解の余地が残らぬようにするためである。﴿**（クルアーン 4：165）

5－人類への慈悲。至高なるアッラーは仰せられました：**﴾われはただ万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。﴿**（クルアーン 21：107）

● **預言者たちと諸使徒の性質：**

1－全ての預言者と使徒は、人間の男性です。偉大かつ荘厳なるアッラーは彼らを他のしもべから選りすぐられました。そして彼らを預言者性と天啓のメッセージをもって卓越した存在とされ、また奇跡の数々によって彼らを援助されました。またアッラーは彼らを啓示によって高貴な者たちとされました。そしてその任務を課し、人々がアッラー以外のものへのイバーダ（崇拝行為）を放棄し、アッラーのみを崇拝する――そしてその報奨は天国です――ようにいざなうべく、メッセージの伝達を命じられました。彼らはその任務を正直かつ忠実に、余すことなく果たしたのです。

1　至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてわれら（アッラーのこと）があなた以前に遣わした者たちは、われらが啓示を授けた男たちだけである。もし知らないのなら、啓典の民に訪ねてみるがよい。﴿**（クルアーン 16：43）

2　至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にアッラーはアーダム（アダム）とヌーフ（ノア）、イブラーヒーム（アブラハム）の一族とイムラーンの一族を全世界の中から選り抜かれた。﴿**（クルアーン 3：33）

3　至高なるアッラーは仰せられました：**﴾本当にわれら（アッラーのこと）は、各々の民に使徒を遣わして、「アッラーを崇拝し、ターグート[105]を避けなさい。」と命じた。﴿**（クルアーン 16：36）

[105] 訳者注：「ターグート」に関しては「2. タウヒードの種類」参照。

2－アッラーは全ての預言者と使徒に、かれに何ものをも並べることなくかれのみにイバーダ（崇拝行為）を捧げるようにいざなうことを命じられました。そして全ての民に、それぞれの状況に適切な天啓法を定められたのです。崇高なるアッラーは仰せられました：﴿**われら（アッラーのこと）はあなたたちの（共同体の）各々に、法と明白な道筋を授けた。**﴾（クルアーン 5：48）

3－至高なるアッラーは預言者と使徒たちをお選びになられた際、彼らをかれの「しもべ」という最高の位階でもって形容され、名誉を与えました。例えばアッラーは啓示という観点において、ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に関してこう仰せられています：﴿**万有への警告者とすべく、そのしもべに識別（クルアーン）を下されたお方はこの上なく崇高で偉大である。**﴾（クルアーン 25：1）またマルヤム（マリア）の息子イーサー（イエス）に関しては、こう仰せられました：﴿**彼はわれら（アッラーのこと）が恩恵を与え、イスラエルの民へのみしるしとした１人のしもべに過ぎない。**﴾（クルアーン 43：59）

4－全ての預言者と使徒（彼らに平安あれ）は飲食し、物忘れをすることもあれば睡眠もとり、病に冒されることもあれば死を免れることもない一介の人間であり、被造物です。彼らは他の被造物同様、*ルブービーヤ*[106]や*ウルーヒーヤ*[107]の特質を備えてはいません。ゆえにアッラーがそうお望みにならない限り、他者に対して益したり害したりする権能を持ち合わせてはいませんし、アッラーのみが所有し管理される全ての宝庫内のいかなるものも所有する権利は有しません。そしてアッラーがお許しになられたもの以外、不可知の領域に関しての知識を得ることもないのです。かれは人類に福音と警告のために預言者を遣わせたのです。

崇高なるアッラーはその使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）にこう仰せられました：﴿**言え（ムハンマドよ）、「私はアッラーがそうお望みになられたものを除いては、何かを益する力も害する力も有してはいない。もし私が不可知の領域を関知していたら、よいことばかりを集め、災難は回避することが出来ただろう。私は信仰する民への１人の警告者、福音者に過ぎないのである。」**﴾（クルアーン 7：188）

● **諸預言者と諸使徒の特質：**

諸預言者と諸使徒は最も心が清浄で、最も頭脳が明晰で、最もイーマーン[108]が真摯であり、かつ最も徳の優れた方たちです。また彼らは最もよく宗教を完遂し、最もイバーダ（崇

---

[106] 訳者注：いわゆる主権性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威。
[107] 訳者注：いわゆる神格性。つまり真に崇拝されるべき権威。
[108] 訳者注：「８．イーマーン」の項参照。

拝行為）において活力があり、最も身体的に完成され、かつ最も容貌の優れた方たちでもあります。アッラーが彼らにのみ与えられた諸々の特質には以下のようなものがあります：

1－アッラーは彼らを啓示とメッセージの伝達のためにお選びなりました：

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾アッラーは使徒たちを、天使と人間からお選びになる。﴿**（クルアーン 22：75）

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾言え（ムハンマドよ）、「私は、あなた方の崇拝すべきものはアッラーお 1 人であることを啓示された、あなた方と同様の 1 人の人間に他ならない。」﴿**（クルアーン 18：110）

2－彼らは、人々に信仰教義や法規定を伝達することにおいては無謬です。もし誤りを犯すようなことがあれば、偉大かつ荘厳なるアッラーが彼らを真理と正道へと連れ戻してくださいます。

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾沈み行く星にかけて。あなた方の仲間（ムハンマドのこと）は（真実から）迷い去ったのでもなければ、誤りを犯しているのでもない。そして彼は私欲から（物事を）話しているわけでもない。それは下された啓示以外の何ものでもない。偉力並びない者（ジブリール：ガブリエル）がそれを教示したのだ。﴿**（クルアーン 53：1－5）

3－彼らの死後、その遺産は継承されません。

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“私たちは遺産を残さない。私たちの残したものはサダカ（施し）なのである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[109]）

4－彼らの眼は睡眠をとりますが、その心は眠りません。

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）がイスラーゥ（夜の旅）について語った伝承には、こうあります：「そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はその眼は眠っても、心は眠ることがない。同様に他の預言者たちもまたその眼は眠っても、心は眠ることがないのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[110]）

5－死が迫った際、現世と来世の選択を提示されます。

---

[109] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6730）、サヒーフ・ムスリム（1757）。引用はアル＝ブハーリーから。

[110] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3570）。

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこういうのを聞きました：“全ての預言者は（死の）病の床で、現世と来世の選択を提示される。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[111]）

6－亡くなったその場所において埋葬されます。

アブー・バクル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこういうのを聞きました：“預言者は、死んだ場所以外においては埋葬されることがない。”」（アフマドの伝承[112]）

7－彼らは墓の中で生きており、礼拝します。

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私は（エルサレムへの）夜の旅の際、赤い砂丘でムーサー（モーゼ）のもとを訪れた。彼は彼の墓の中で礼拝していた。」（ムスリムの伝承[113]）

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「預言者たちは墓の中で生きており、礼拝しているのだ。」（アブー・ヤァラーの伝承[114]）

8－彼らの妻は彼らが娶った後、誰とも結婚することがありません。

至高なるアッラーは仰せられました：**﴿あなた方はアッラーの使徒を害してもいけなければ、決して彼の死後その妻たちを娶ってもいけない。それこそはアッラーの御許でまたとない大きな罪なのである。﴾**（クルアーン 33：53）

● 諸預言者と諸使徒の優劣

諸使徒は預言者性においては皆同じであり、優劣の差はありません。彼らの間の優劣とは、単に状況や特性、奇跡、性格などの面においてです。

つまり、それによって彼らの中のある者は預言者となり、ある者は使徒となり、ある者は不屈の決意をし、ある者はアッラーの親しい友のようになり、ある者にはアッラーが直接話しかけ、またある者はアッラーによって地位を高められたなどの違いがあります。

---

111 サヒーフ・アル＝ブハーリー（4586）、サヒーフ・ムスリム（2444）。引用はアル＝ブハーリーから。

112 真正な伝承。ムスナド・アフマド（27）。サヒーフ・アル＝ジャーミァの（5201）参照。

113 サヒーフ・ムスリム（2375）。

114 伝承経路は良好。ムスナド・アブー・ヤァラー（3425）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（621）参照。

そしてこの中で最も優れているのがアーダムの末裔（つまり人間）の預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）なのです。

1- 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**われは、これらの使徒のある者を外の者より以上に遇した。かれらの中である者には、アッラーが親しく御言葉をかけられるし、またある者は位階を高められた。またわれは、マルヤムの子イーサーに明証を授け、且つ聖霊によってかれを強めた。**﴿（クルアーン 2：253）

2- 至高なるアッラーは仰せられました：**(あなたの主は、天と地にある凡てのことを最もよく知っておられる。われは預言者たちの中のある者に、外の者以上の恵みを施し、またダーウードには詩篇を授けた。)**（クルアーン 17:55）

3- 至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーは、イブラーヒームを親しい友にされたのである。**﴿（クルアーン 4：125）

4- アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私は他の預言者達より六つの点で卓越性を授けられた。私は少ない言葉で豊かな意味を持つクルアーンを与えられた。また敵の恐怖心によって私は助けられた。また戦利品の分け前を受けとることが許された。また大地が清浄なものとされ礼拝所とされた。また私は全ての被造物（全人類）に使徒として遣わされた。また私をもって預言者の系譜は封印された。」（ムスリムの伝承[115]）

5- アブー・サイード（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「預言者の間に優劣の差をつけてはいけない。人間は復活の日、すべて気絶するものだが、私が最初に大地から目覚め出る者となるであろう。するとそのとき、ムーサーが玉座の一端を掴んでいるのを私は目にする。彼が気絶する者の中にあって私以前に目覚め出るのか、それとも彼はアッラーが例外とした者の中の一人なのかは私にはわからない。」（ムスリムの伝承[116]）

● **諸預言者と諸使徒への信仰における成果：**

1－偉大かつ荘厳なるアッラーの、しもべに対するご慈悲とご配慮を知ること。かれは人々を彼らの主への崇拝へと導き、またいかにかれを崇拝するかという方法を教え、信者への報酬と懲罰を説明するために遣わされたのです。

---

[115] サヒーフ・ムスリム（523）。
[116] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2412）、サヒーフ・ムスリム（2374）。引用はアル＝ブハーリーから。

2－この恩恵に対するアッラーへの讃美と感謝の念。

3－度を越さない範囲での彼らへの愛情と賞讃。彼らはアッラーからの御使いであり、かれへのイバーダ（崇拝行為）に勤め、かれのメッセージを伝達し、そのしもべたちに多くの助言をし、かれの被造物に対する慈悲をかけたのです。

4－タウヒード、正しいイーマーン、良き品性、礼儀の完璧さ、止む事のないアッラーへの念唱、崇高なるアッラーへの服従と感謝の点において彼らを見習うことです。

アッラーの使徒ムハンマド

● **その系譜と生い立ち：**

彼の名はムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・アブドルムッタリブ・ブン・ハーシム・ブン・アブドマナーフ・ブン・クサイー・ブン・キラーブ・ブン・ムッラ・ブン・カアブ・ブン・ルアイ・ブン・ガーリブ・ブン・フィヒル・ブン・マーリク・ブン・ナディル・ブン・キナーナ・ブン・フザイマ・ブン・ムドリカ・ブン・イルヤース・ブン・ムダル・ブン・ニザール・ブン・マアド・ブン・アドナーン[117]です。

預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の高貴な系譜はアーダム（彼にアッラーからの平安あれ）へとつながっています。母親はアーミナ・ビント・ワハブです。

彼は所謂“象の年”[118]である西暦 570 年に生誕しましたが、父親のアブドッラーはアーミナが彼を妊娠中に亡くなりました。それで祖父のアブドルムッタリブが彼の後見人となりましたが、彼が 6 才の時に母親のアーミナも亡くなりました。そして祖父のアブドルムッタリブが亡くなった後は、叔父のアブー・ターリブが彼の後見人となりました。

[117] 訳者注：「ブン」とはアラビア語で「～の息子」という意味です。
[118] 訳者注：「象の年」とは当時のエチオピア帝国の占領下にあったイエメン総督アブラハが、マッカのハラーム・モスク破壊を目論み、象で編成された軍をもってマッカ侵入を試みた事件が起きたことに由来します。

ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は高徳さ、すばらしい人生の歩み、よい人格を備えつつ成長し、人々から“アミーン（誠実、真摯な人）”という仇名で呼ばれました。そして 40 才の時にヒラー洞窟において啓示を受け、また預言者であることを告げられ、真理が彼に到来したのです。

それからムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は人々をアッラーとその使徒への信仰と、アッラーのみを崇拝し、それ以外のものを崇拝することを禁じることへとさそい始めました。彼は様々な迫害を被りましたが、アッラーの勝利を待って忍耐し続けました。そしてマッカからマディーナへと聖遷した後に様々な法規定が定められ、イスラームは強大化し、完遂されたのです。

ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はヒジュラ暦 11 年のラビーウ・アル＝アウワル月の月曜日、63 才で亡くなりました。そしてアッラーからのメッセージを明瞭な形で伝え、アッラーの道のために努力奮闘し、その共同体に全ての善を示し、かつ全ての悪を警告した後に、崇高なる主の御許に召されたのです。彼にアッラーからの祝福と平安あれ。

● **彼の特性：**

預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は最後の預言者、諸使徒の長であり、アッラーを畏れる者たちの導師です。またそのメッセージは人類とジン[119]一般を対象としており、アッラーは彼を全世界への慈悲として遣わされました。またわずか一晩でエルサレムまでの奇跡の旅行と、天界への訪問を行いました。またアッラーは、彼を預言者性と使徒性をもってお呼びになり[120]、少ない言葉で豊かな意味をもつクルアーンを授けました。

そしてアッラーは彼だけに、他の預言者や使徒に御与えにならなかった 5 つのもので彼を特別な者とされました。
ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「私は、私以前には誰も与えられなかった 5 つのものを与えられた：つまり一ヶ月先の旅程までの敵は私に対して恐れをなし、それによって私は援助されている。また私のために大地全体がモスク（礼拝の場）となり、清浄なものとなった。ゆえに私の共同体のいかなる者も、サラー（礼拝）の時間が来たら（好きな所で）サ

[119] 訳者注：精霊的存在。
[120] 訳者注：つまり文字通り彼を「預言者」あるいは「使徒」とお呼びになったこと。

ラー（礼拝）するのだ。また私以前には誰にも合法化されなかった戦利品が、私には合法化された。また私には（審判の日の）とりなし[121]が与えられた。そして預言者というものはその（彼ら自身の）民だけに対して遣わされていたが、私は人類一般に遣わされたのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[122]）

また預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が共同体内の他のムスリムに対して例外的に有する特質として、次のようなものがあります：連続的なサウム（斎戒）。マハル（持参金）なしの結婚。5 人以上の女性と結婚すること。そして、彼が結婚した女性はその後誰も娶ることはできないこと。サダカ（施し）を受け取らないこと。他の人々の聞こえないものを聞くことができる能力。ジブリール（彼に平安あれ）をアッラーが創造された形において見たように、人々が見えないものを見ることができる能力。遺産を残さないこと。

● **啓示のはじまり：**

信仰者たちの母アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）はこう言いました：「アッラーの使徒への啓示は当初、睡眠中の正夢から始まりました。彼の見る夢は全て、黎明のごとく明らかに現実化しました。それから孤独を好み始め、ヒラー洞窟に引きこもるようになりました。そしてそこで幾晩か崇拝行為に没頭しては、家族のもとに戻り、そこで食糧などを蓄えては再び洞窟に戻り、そしてまた彼の妻ハディージャ・ビント・フワイリド・ブン・アサド・ブン・アブドルウッザー（彼女にアッラーのご満悦あれ）のもとに戻って同じくらいの期間に必要な量の蓄えを携えてゆく、ということを繰り返していました。この習慣は、ヒラー洞窟において彼のもとに真理が訪れるまで継続しました。その時彼のもとを天使が訪れて、こう言ったのです：“読むのだ。” ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は答えました：“私は読むことができません。”[123]
ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（私にこう）言いました：“すると彼（天使、すなわちジブリール）”は私を掴み、覆いかぶさって締め付けてきたのだ。そして私がとても苦しくなると、彼は私を離してこう言った：“読むのだ。”私は言った：“私は読むことができないのだ。”すると彼はまた私を掴み、覆いかぶさって締め付けてきた。そして彼は私を離すと、こう言った：**﴾創造を行われたあなたの主の御名によって読め。（かれは）人間を一滴の凝血からお創りになられた。読むのだ。あなたの主はこの上なく寛大なお方である。﴿**（クルアーン 96：1－3）

[121] 訳者注：詳しくは「イーマーンの基幹 －⑤最後の日への信仰」の章「とりなし」の項を参照のこと。
[122] サヒーフ・アル＝ブハーリー（335）、サヒーフ・ムスリム（521）。引用はアル＝ブハーリーから。
[123] 訳者注：彼は文盲でした。

それからアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は心を恐怖でおののかせつつ、その啓示と出来事を携えて家に帰りました。そしてハディージャ・ビント・フワイリドのもとに行くと、言いました：“私を包んでくれ。私を包んでくれ。”そして彼は彼の恐怖が去るまで、（衣服などで）包み込まれました。それからハディージャに、彼の身に起こったことの顛末を話しました：“私は（この出来事により、自分がどうなってしまうのか）恐くなってしまった。”するとハディージャは言いました：“いいえ、アッラーにかけて。アッラーはあなたを辱めるようなことは、決してなされません。あなたは親類縁者に良くし、身寄りのない弱者を助け、貧者に与え、客人をもてなし、不幸に襲われた人たちの力になるではありませんか。”

そしてハディージャはムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）を連れ、彼女のいとこのワラカ・ブン・ナウファル・ブン・アサド・ブン・アブドルウッザーのもとへと赴きました。彼はイスラーム以前の無明時代にキリスト教を受け入れた男で、ヘブライ語で書物を記し、福音書もヘブライ語で書いていました。また彼は非常に高齢で、既に視力を失っていました。ハディージャは彼に言いました：“叔父さんの息子よ、あなたの兄弟の息子の話を聞いてください。”ワラカは聞きました：“我が兄弟の息子よ、あなたは何を見たのか？”それでアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は彼に、彼の見たものについて語り聞かせました。

するとワラカは言いました：“これはアッラーがムーサーに下したのと同じ啓示だ。ああ私が若者であったなら！そしてあなたが民によって追い出される時に、私が生きながらえていたら！”するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“人々は私を追い出すのですか？”（ワラカは）言いました：“ああ、あなたがもたらされたようなものを携えてきた者は皆、人々に敵対されるのだ。もしその時まで私が生きていたのなら、あなたを手厚く擁護したのだが。”その後間もなくしてワラカは亡くなり、啓示も中断しました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[124]）

● **彼の妻たち：**

所謂“信仰者の母たち”は、現世と来世における預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の妻たちです。彼女たちは皆ムスリムで善良かつ汚れのない清浄、純粋な女性たちであり、貞節に関わるような全てのことにおいて無実です。彼女たちの名は以下の通りです：

ハディージャ・ビント・フワイリド。アーイシャ・ビント・アビー・バクル。サウダ・

[124] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3）、サヒーフ・ムスリム（160）。引用はアル＝ブハーリーから。

ビント・ザマア。ハフサ・ビント・ウマル。ザイナブ・ビント・フザイマ。ウンム・サラマ。ザイナブ・ビント・ジャハシュ。ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス。ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーン。サフィーヤ・ビント・フヤイ。マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス（彼女たち全てにアッラーのご満悦あれ）。

預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の妻の数は 11 人と言われています。

彼女たちのうち、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の逝去前に他界したのはハディージャとザイナブ・ビント・フザイマの 2 人のみで、他の妻たちは皆彼の逝去後に亡くなりました。

彼女たちの内で最良の妻はハディージャとアーイシャです。彼女たち全員にアッラーのお悦びがありますように。

● **使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の子供たち：**

1－使徒ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は 3 人の息子を授かりました。アル＝カースィムとアブドッラーをハディージャから、イブラーヒームを女奴隷のコプト人マーリヤから授かりましたが、全員夭折しました。

2－一方娘たちはといえば、ザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマの 4 人をハディージャから授かりました。ファーティマ以外の 3 人は全員預言者ムハンマド(彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の逝去前に亡くなり、ファーティマのみが彼の他界後まで存命しました。彼女たちは皆ムスリマ（ムスリムの女性形）であり、善良で潔白です。彼女たち全員にアッラーのお悦びがありますように。

● **使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の *サハーバ*（教友たち）：**

使徒ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の *サハーバ*（教友たち）は最良の世代であり、全ての共同体において比類ない卓越性を備えています。アッラーは彼らをその預言者に連れ添わせるために選ばれました。そして彼らはイスラームの大義を守り、援助し、財と生命をもってアッラーの道のために努力奮闘しました。アッラーは彼らをお悦びになり、彼らもまたアッラーに満足しました。彼らのなかでも最良の者たちが *ムハージルであり、そして次にアンサール*[125]となります。

---

[125] 訳者注：「ムハージル」はマッカからマディーナへと宗教迫害を逃れて移住した信仰者で、「アンサール」は彼らをマディーナで迎え入れ、財や住居などの物質的側面と精神的側面から援助した信仰者たち。

アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言ったと伝えています：「最良の人々は私の世代であり、それに次ぐのがその次の世代、それに次ぐのがそのまた次の世代である。それから*シャハーダ*（信仰告白）を何かの誓いに合わせ用い、何かの誓いに*シャハーダ*を合わせ用いるような人々が現れるであろう。」[126]（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[127]）

● *サハーバ*（教友たち）への敬愛：

全てのムスリムは*サハーバ*（教友たち）全員を心から愛し、舌によって讃え、彼らに満足し、彼らのためにアッラーからのお赦しを請う義務があります。また彼らの間に起こったいさかいなどに対して口を慎み、彼らを誹謗したりしてはなりません。というのも*サハーバ*（教友たち）には様々な功績や美点、善行や徳業があり、またアッラーとその使徒を従順さをもって援護し、アッラーの道において努力奮闘したからです。また彼らはイスラームの布教に献身し、移住し、援助しましたし、アッラーのお悦びを求めてその道において財と生命を投げ打ちました。アッラーが彼ら全員をお悦びになりますように。

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして*ムハージルーン*と*アンサール*[128]の先駆けた先人たちと、*イフサーン*[129]をもって彼らを踏襲した者たちは、アッラーがお悦びになられ、彼らもアッラーに満足する。そして（アッラーは）彼らのために、その下を河川が流れる天国をご用意された。彼らはそこに永遠に留まる。それこそはこの上なく偉大な勝利なのだ。﴿**（クルアーン 9：100）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして信仰し、移住し、アッラーの道において奮闘した者たち。また住処を提供し、援助した者たち。彼らこそは真の信仰者である。彼らには（アッラーからの）お赦しと、天国の報奨があろう。﴿**（クルアーン 8：74）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“私の*サハーバ*（教友）を誹謗してはならない。私の*サハーバ*（教友）を誹謗してはならない。その御手に我が魂が委ねられて

---

[126] 訳者注：つまり自らの誓いの言葉を高めたいがためにシャハーダの言葉「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラスールッラー（アッラー以外に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはアッラーの使徒である、というイスラーム信仰の要である信仰告白の言葉）」を発し、あるいは自らのシャハーダの信憑性を高めたいがために誓いの言葉を併せ用いるような、信仰心が堅固でないような人々のこと。

[127] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2652）、サヒーフ・ムスリム（2533）。引用はアル＝ブハーリーから。

[128] 訳者注：詳しくは訳者注 9 を参照のこと。

[129] 訳者注：詳しくは「6. イスラーム」の章を参照のこと。

いるお方に誓って。例えあなた方の誰かがウフド山ほどの金塊を施したとしても、それはサハーバ（教友）の 1 人が施したものの両手いっぱいの量、あるいはその半分ほどにも及ばないのだから。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[130]）

⑤　最後の日（*アル＝ヤウム・アル＝アーヒル*）への信仰

● **最後の日（*アル＝ヤウム・アル＝アーヒル*）とは**：審判の日のこと。アッラーはその日、現世での行いの清算と報いのために被造物を復活させます。この名称の由来は、その日が天国の住民は永遠に天国に、地獄の住民は永遠に地獄に定着するという最後の日（*アル＝ヤウム・アル＝アーヒル*）であることによっています。

● **よく知られている最後の日の別称：**

審判の日。復活の日。（人々が天国と地獄に振り分けられる）分断の日。（墓からアッラーの御許への）出発の日。報いの日。永遠の日。清算の日。恐怖の日。集合の日。騙しあいの日。会同の日。互いに呼び合う日。嘆きの日。大音響。この上ない災難。（人々の顔をその恐怖と不安により）暗く陰らせるもの。必ず起こるもの。明らかな真実。（その恐怖によって人々の心や耳を）叩きつけるもの。

130　サヒーフ・アル＝ブハーリー（3673）、サヒーフ・ムスリム（2540）。引用はムスリムから。

そして、これら多くの名前は、その名称の偉大さとその日の与える恐怖の大きさを表しています。

● **最後の日への信仰とは：**

アッラーとその使徒が伝える復活、召集、清算、地獄の架け橋、（清算の）秤、天国、地獄といった、偉大な審判の日に人々が呼び戻された地で起こるもの全てを確固として信じることです。

そして審判の日の諸々の予兆としるし、また死後の墓の中における試練、墓の中の懲罰や安寧といった事柄も最後の日への信仰の中に内包されます。

● **最後の日の偉大さ：**

アッラーへの信仰と最後の日への信仰は、イーマーンの基幹の中でも最も偉大なものです。この 2 つはその重要さゆえにクルアーンの中で幾度も繰り返し並列して言及されており、また人間の現世と来世における正しい方向性・真の成功と幸福は、ひとえにこの 2 つと、残りのイーマーンの基幹にかかっています。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**これこそは、アッラーと最後の日を信仰する者が訓戒とするものである。**﴿（クルアーン 65：2）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**アッラーはかれの他に真に崇拝すべきもののないお方。かれは必ずやあなた方を、疑念なき審判の日に召集されるのだ。**﴿（クルアーン 4：87）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてもしあなた方が何かで争ったときには、（その判決を）アッラーと使徒に委ねるのだ。もしあなた方がアッラーと最後の日を信仰しているのなら。**﴿（クルアーン 4：59）

● **墓の中での試練：**

1－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「しもべが墓に埋葬され、人々が彼のもとを立ち去った時、彼は彼らの足音を聞くことが出来る。そして 2 人の天使が彼のもとを訪れ、彼を座らせて尋ねる：“この男ムハンマドについて、あなたは何を言っていたのか？”すると（彼は）言う：“私

は彼がアッラーのしもべであり、使徒である事を証言します。”それから彼はこう言われる：“見よ、アッラーがあなたにご用意された地獄の居場所と、天国の居場所を。”」そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「そして彼はその両方とも目にするのだ。

一方不信仰者と偽信者は（件の問いに対して）こう言う：“知りません。私は人々が言うように言っていただけです。”すると彼はこう言われる：“あなたは彼を知りもしなければ、従いもしなかったのだ。”そして両耳の間を鉄のハンマーで 1 発打たれる。彼は叫び声を上げるが、その声はその近辺にいる人間とジン（精霊的存在）以外の全ての者が耳にする。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[131]）

2－アル＝バラーゥ・ブン・アーズィブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちは葬儀の礼拝のため、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と出かけました・・・そしてその中で預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“そして彼（死者）のもとを 2 人の天使が訪れる。そして彼を座らせ、こう尋ねるのだ：「あなたの主は誰ですか？」彼は答える：「私の主はアッラーです。」それから 2 人は言う：「あなたの宗教は何ですか？」彼は答える：「私の宗教はイスラームです。」そして 2 人は尋ねる：「あなた方に遣わされたものは誰ですか？彼は言う：「それはアッラーの使徒です・・・」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[132]）

● **墓の中の懲罰には 2 種類あります：**

1－審判の日まで継続する懲罰：これは不信仰者と偽信者に対するものです。

- 至高なるアッラーはフィルアウン（ファラオ）の一族に対し、こう仰せられました：﴾**そこでアッラーは、彼ら（フィルアウン）の策謀による災厄から、彼（ムーサ）を救われ、懲罰の災難が、フィルアウンの一族を取り囲んだ。（それは）彼らが朝に夕に晒される業火。そして審判の日には、（アッラーが天使たちにこう命じられて言われる）「フィルアウンの一族を最も過酷な懲罰の中に投げ込むのだ。」**﴿（クルアーン 40：45-46）

- イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなた方は死後、（墓の中で）朝に夕

[131] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1338）、サヒーフ・ムスリム（2870）。引用はアル＝ブハーリーから。
[132] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（18733）、スナン・アブー・ダーウード（4753）。引用はアブー・ダーウードから。

にその（来世での）居場所を提示される。もし天国の住人であれば天国の住人の（居場所を）、地獄の住人であれば地獄の住人の（居場所を提示され）、“これが審判の日、アッラーがあなたを復活させられるまでのあなたの居場所である。”と言われるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[133]）

2－期間が限定され、その後中止される懲罰：これは罪深かった*タウヒード*[134]の徒に対してのもので、その罪の程度によって罰されます。それから罪は軽減され、アッラーのご慈悲によって中止されます。もしかするとその中止の原因は、彼が現世において施した死後も継続する慈善行為[135]や有益な知識、また死後に彼のために祈る敬虔な子供によるものなどかもしれません。

- イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなた方は死後、（墓の中で）朝に夕にその（来世での）居場所を提示される。もし天国の住人であれば天国の住人の（居場所を）、地獄の住人であれば地獄の住人の（居場所を提示され）、“これが審判の日、アッラーがあなたを復活させられるまでのあなたの居場所である。”と言われるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[136]）

- イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はマディーナあるいはマッカの壁をお通りになった。そして、二つの墓で懲罰を受けている二人の声を聞いた。そして（次のように）言われた。「これらの墓の者らは懲罰を受けているが、それは重罪を犯したためではない。」また（次のように）言われた。彼らのうちの一人は排尿による汚れに気を使わなかったためであり、他の一人は他人を中傷したためである。」 それからやしの木の小枝を持って来させ、それを二つに裂いて、墓に別々に置かれてから、（次のようなことをイブン・アッバースから）言われた。「預言者よ、なぜこのようにされたのですか？」「これらの小枝が枯れてしまうまでには――または枯れてしまってから――、彼らへの罰は恐らく軽減されることだろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[137]）

---

[133] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1379）、サヒーフ・ムスリム（2866）。引用はムスリムから。

[134] 訳者注：詳しくは「1. タウヒードとタウヒードの種類」の章を参照のこと。

[135] 訳者注：つまりアッラーからの報酬を願って財産を固定化し、そこから生じる利益を施しとすること。詳しくは「ワクフ」の項参照。

[136] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1379）、サヒーフ・ムスリム（2866）。引用はムスリムから。

[137] サヒーフ・アル＝ブハーリー（216）、サヒーフ・ムスリム（292）。引用はアル＝ブハーリーから。

● **墓の中の享楽：**

墓の中の享楽は信心深い信仰者のためのものです。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**「私たちの主はアッラーです。」と言って真理に沿って歩む者たちには、（その死後）天使たちが舞い降りてこう語りかける：“（来世での行く末について）恐れる事も、（過ぎ去った事について）悲しむこともありません。あなた方が約束されていた天国のよき知らせに心躍らせなさい。”**﴾（クルアーン 41：30）

2－アル・バラーゥ・ブン・アーズィブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は、墓の中で 2 人の天使に正答する信仰者についてこう言いました：「・・・すると天から彼を呼ぶ声がする。“わがしもべは本当のことを言った。彼に天国の居場所を用意し、天国のものを着させ、天国への扉を開けてやるのだ。”そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：“すると彼のもとに芳香が漂い、彼の墓は見渡す限りにまで広げられる。”」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[138]）

● また信仰者はアッラーの道における殉教や前線、国境線での守衛や奮闘、また腹部の病による死などによって、墓の中での恐怖や試練、懲罰などを回避させられることがあります。

● **死後から審判の日までの魂の居場所：**

魂はそれぞれ非常に異なる状態において、天国と地獄の境界にあります。使徒たちや預言者たち（彼らにアッラーからの祝福と平安あれ）の魂のように天界高くにあるものもあれば――そして彼ら自身の間でも、その位階は異なっています――、信仰者の魂のように天国の木々に鳥の姿でとまっているものもあります。

また殉教者たちの魂は、天国を飛び回る緑色の鳥のそのう（鳥類や昆虫類の食道後端にある袋状部）にあります。

また戦利品をごまかして盗んだ者の魂のように墓に拘束されたものや、残した借金ゆえに天国の扉の前で動けなくなっているもの、その位階の低さゆえに地上に滞留させられているものもあります。

また姦淫を犯した男女の魂は、炉の中にあります。

また不法な商取引によって得た利をむさぼる者たちの魂は、血の河を流れ、そこで石を飲ませられます。

---

[138] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（18733）、スナン・アブー・ダーウード（4753）。引用はアフマドから。

ザイド・ビン・サービト（彼にアッラーのご満悦あれ）は次のように語った。「預言者が、ナッジャール族の居住地に騾馬に乗って行かれた時、私たちもご一緒した。預言者は、坂道の所で騾馬から落ちそうになられたが、そこには、六つ、五つ、四つほど墓があった。預言者はこの時、“誰か、これらの墓に埋葬された人々について知らないか？”と言われた。ある男が“私は知っています。”と答えると、預言者は“彼らは、いつ死んだのか？”と言われた。彼が“多神教の時代に死にました。”と答えると、預言者は“この人たちは墓の中で厳しい試練を受けている。もしも、あなたたちが、墓中で行なわれる責苦を聞くのを恐れる余りに、墓中に遺体を埋めるのを中止するようなことがないならば、私はアッラーに祈願して、あなたたちにも私が聞いているような墓でのその責苦の様子を伝える声を聞かせたい。”と言われた。そしてこの後、私たちにお顔をむけ“地獄の責苦から守ってくれるようアッラーに願いなさい。”と言われた。私たちが“我らを地獄の責苦から守るようアッラーに祈願します。”と唱えると、預言者は“墓での責苦から守ってくれるようアッラーに祈願しなさい。”と言われた。それに対しても私たちは“我らを墓での責苦から守るようアッラーに祈願します。”と唱えた。更に、預言者は“アッラーに対し目に見える災い、また目に見えない災いから守って下さるよう祈りなさい。”と言われた。私たちは、それにも“アッラーよ、我らを目に見える災い、また、見えない災いからお守り下さい。”と祈った。預言者は、更にまた、“アッラーにダッジャール（偽メシア）のもたらす災いから守られるよう祈りなさい。”と言われた。私たちはこれにも“アッラーよ、ダッジャールのもたらす災いから我らをお守り下さい。”と祈った。」（ムスリムの伝承[139]）

[139] サヒーフ・ムスリム（2867）。

● 審判の日の予兆

● 審判の日がいつかということは、アッラーしかご存知であられません。崇高なるアッラーは仰せられました：﴿**人々はあなたに審判の日について尋ねる。言ってやるのだ、："それはアッラーしかご存知であられない。どうしてあなたに分かろうか？それはもしかするともうじきやって来るかもしれないのだ。"**﴾（クルアーン 33：63）

● **審判の日の諸予兆：**

預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は審判の日の到来を示す、諸々のしるしを教示しました。それらは大予兆と小予兆の 2 つに区分されます。

1-審判の日の小予兆

● **審判の日の小予兆は 3 つに区分されます：**

1－既に現れ、終了しているもの。その中には以下に示すようなものがあります：

預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の派遣と死。また彼へのみしるしとして起こった、月の裂断。エルサレム開城。ヒジャーズ地方からの大火[140]など。

- 至高なるアッラーは次のように仰せられた：**﴾審判の日は近づき、月は真っ二つに裂けた。﴿**（クルアーン 54：1）

- アウフ・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日の前には、6つ（の予兆）がある。私の死、それからエルサレムの開城、そして羊に襲い掛かる伝染病のように疫病があなた方にふりがかる。また、一人の男性に１００ディナールが与えられるほど富が増加し、それでも彼はそれに満足しない。それからあなたがたとアル＝アスファルの民（ローマ軍）との間の休戦協定、彼らは 80 の旗のもとにやってくる。それぞれ旗の下には 12000 の兵士がいる。”」（アル＝ブハーリーの伝承[141]）

- アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「ブスラーのラクダの首を照らすほどの大火がヒジャーズの地に起きるまで、審判の日はやってこない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[142]）

2－既に現れ、現在も継続中のもの。以下のようなものがあります：

様々な問題や混乱の横行。偽預言者の出現。平和の拡大。イスラーム法知識の減少。無知の蔓延。権力者の護衛の数と不正者の増加。弦楽器の蔓延とその合法化。姦淫の蔓延。飲酒の横行とその合法化。裸足で裸の羊飼いたちが競って高い建築物を築き合うこと。人々がモスクを装飾し、飾り立てるようになること。殺人の増加。時が早く過ぎること。物事がその権威でない者たちに結びつけ、関連付けられること。悪が尊ばれ善が軽んじられること。言葉が軽くなり、行いが減少すること。市場同士の距離が短くなること。ウンマ（イスラーム共同体）における*シルク*[143]の蔓延。吝嗇の増加。嘘の蔓延。財が豊かになり、商業が盛んになること。地震が頻繁に起こるようになること。誠実で正直な者が騙され、詐

---

140 訳者注：アル＝クルトビーの著「アッ＝タズキラ」によれば、それはヒジュラ暦 654 年のジュマーダー・アル＝アーヒラ月にマディーナで発生したハッラ・ラハト噴火であるといいます。それは一説にはマッカやブスラー（シリア地方の１都市）からもその火が見えるほど大きいものであった、と伝えられました。

141 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3176）。

142 サヒーフ・アル＝ブハーリー（7118）、サヒーフ・ムスリム（2902）。

143 訳者注：詳しくは「5. シルク」の章を参照のこと。

欺師が信頼されるようになること。下品な物事がはびこること。親族関係の断絶。隣人関係の悪化。卑しい者たちの地位が向上すること。権力の売買。特権階級の保護。知識の少ない人々が教えを懇願されること。露出度の高い衣服をまとう女性や、裸体の女性の横行。嘘の証言の蔓延。突然死の増加。合法的な生活の糧を模索しないようになること。アラブの土地が緑豊かな土地、あるいは河川と化すこと。野獣が人に話しかけること。鞭の片端と靴の紐が人に話しかけるようになること。イラクの地が閉鎖され、食料や銀貨が不足し、それからシャーム（シリア地方）の地が閉鎖され、食料や金貨が不足すること。そしてムスリムとローマ軍との間に休戦条約が結ばれ、その後にローマ軍がムスリムを騙し討ちにすること。

イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が東の方を向いて、次のように言うのを聞きました：「実に試練はこちらからやって来る。実に試練はこちらからやって来る。シャイターン（悪魔）の角が昇って来る所だ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[144]）

3－また起こってはいないものの、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が言ったように必ずや現れるもの：次のようなものがあります：

ユーフラテス川が退潮し、その下から金の山が出現すること。コンスタンティノープルの無血開城。トルコとの戦い。ユダヤ教徒との戦いとムスリムの勝利。杖を持って人々を率い服従させるカハターン族の 1 人の男の出現。その比が 1：50 になるまで男性の数が減少し、女性の数が増加すること。マディーナが悪を追放し、滅ぼすこと[145]。またズッ＝サウィーカタインというエチオピア人の男によってカアバ神殿が破壊されること。そしてそれが再建されることはありません。アッラーのみがよく御存知です。

● 前述の諸々の予兆は皆、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えられる正しい伝承によって確証づけられています。

---

[144] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7093）、サヒーフ・ムスリム（2905）。引用はムスリムから。

[145] 訳者注：一説には末世のダッジャールの時代のこととも言われます。

2-審判の日の大予兆

● フザイファ・ブン・ウサイド・アル＝ガファーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちが何か議論し合っているのを見て、言いました：“何を議論している？”すると彼らは言いました：“審判の日について議論しているのです。”（預言者は）言いました：“10 の予兆を見るまでは、審判の日はやって来ない。”そして（その予兆として）大煙、ダッジャール（偽メシア）、大獣、西から太陽が昇ること、マルヤム（マリア）の子イーサー（イエス）の降臨。ヤアジュージュとマアジュージュの出現。3 つの日蝕——東西とアラビア半島の日蝕のこと——を挙げ、最後にイエメン地方から人々を集合の地へと追いやる大火を挙げました。」（ムスリムの伝承[146]）

1　ダッジャール（偽メシア）：

ダッジャールとは末世に出現し、*ルブービーヤ*[147]を主張する人間です。東方はホラーサーン地方を出発し、地上を進んで全ての国に入ります。しかしエルサレムの聖モスクとシナイ山、マッカとマディーナには入ることが出来ません。マディーナは天使の護衛がつい

[146] サヒーフ・ムスリム（2901）。
[147] 訳者注：いわゆる主権性。つまりこの世の創造や管理、所有や支配などに関する権威。

ており、彼がその近くの塩の吹き出た荒地にやって来ると、3回振動します。そしてそこから全てのムナーフィク（偽信者）と不信仰者が吹き飛ばされるのです。

アブドッラー・ブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と一緒に座っていると、彼は様々な試練に言及しました。そして"長い試練"について言及した時、ある者が尋ねました：
"アッラーの使徒よ、長い試練とは何ですか？"
預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は答えました："（それは）逃亡と戦争であり、その後に続く富と安泰の試練である。それは私の子孫であり、また私の忠実な追従者であると称する者によって引き起こされるが、実際のところ私の忠実な追従者とはムッタクーン（アッラーを畏れ、かれのお怒りや来世での懲罰を買うようなことから身を慎む者たち）なのである。"それから人々はその正当性も能力もないこの男への忠誠の誓いのため、集まるのだ。
それから"暗黒の試練"が訪れる。それは全ての者に襲いかかり、終焉したかと思いきや再び継続する。そこにおいて人は朝に信仰者に、夕に不信仰者になる[148]。こうして人々は2つのグループ――偽りのないイーマーン[149]のグループと、イーマーンとは無縁なニファーク（偽りの信仰）のグループ――に分かれる。ゆえにこのような状況になったら、その日あるいはその翌日にダッジャールの出現を待つのだ。」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[150]）

● **ダッジャール（偽メシア）の試練：**

ダッジャールの出現は、アッラーが創造される数々の偉大な、人の理性を動揺させる類の超常現象を伴うため、重大な試練となります。彼には天国と地獄があり、彼の天国は実は地獄であり、地獄は天国である、という正しい伝承があります。また彼にはパンの山と水の河川があり、天に命じて雨を降らすかと思えば、地に命じて植物を茂らせるともいいます。また地上の宝庫を自由に扱い、風を伴う雨のごとく、地面を尋常でない速さで切り断つとも言われます。
彼は地上に40日間留まりますが、その内の1日は1年間に、そしてもう1日は1ヶ月間に、また1日は金曜日に相当し、残りの日々は私たちの日々と同様のものです。それからマルヤム（マリア）の子イーサー（イエス）がパレスチナのルッド門[151]にて彼を倒します。

---

148 訳者注：つまり人の生命や財産や尊厳が、目まぐるしく合法となったり非合法となったりすること。
149 訳者注：「8. イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。
150 真正な伝承。ムスナド・アフマド（6168）、スナン・アブー・ダーウード（4242）。引用はアブー・ダーウードから。
151 訳者注：アン＝ナワウィーによれば、エルサレム付近の町。

● **ダッジャール（偽メシア）の特徴：**

アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちに、ダッジャールに従ったり彼を信用したりすることに関して注意を促しました。そして人々が彼を見分けて注意できるよう、その特徴を明らかにしました。その眉間の間には全てのムスリムが読み取れる「カーフィル（不信仰者)」と言う字が記してあります。

ウバーダ・ブン・アッ＝サーミト（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ダッジャールは短躯で肩幅が広く、屈強で毛深い体を有し、片目だがその（不具の）目は完全に閉じてしまっており、奥まっているのではない。ゆえにもしあなた方が（様々な超常現象を操るそのような人物に）惑わされたなら、至高なるアッラーは片目などではないことを知るのだ。”」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承[152]）

● **ダッジャール（偽メシア）出現の場所：**

アン＝ナウワース・ブン・サムアーン（彼にアッラーのご満悦あれ）がダッジャールに関してアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が言及した伝承の中に、次のような箇所があります：「・・・彼はシャーム地方とイラクの間の道に出現し、あちらこちらを退廃させる。」（ムスリムの伝承[153]）

● **ダッジャール（偽メシア）の入れない場所：**

1－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“ダッジャールはマッカとマディーナ以外の全ての場所に侵入する。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[154]）

2－預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のサハーバ（教友たち）が伝えるダッジャールに関する伝承に、次のようなものがあります：「彼はマッカのハラーム・モスク、マディーナの（預言者）モスク、シナイ山のモスク、エルサレムの聖モスクの 4 つのモスクには近づけない。」（アフマドの伝承[155]）

---

[152] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（23144）、アブー・ダーウード（4320）。引用はアフマドから。
[153] サヒーフ・ムスリム（2937）。
[154] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1881）、サヒーフ・ムスリム（2943）。
[155] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（24085)。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2934）参照。

● ダッジャール（偽メシア）の追従者：

ダッジャールの追従者の多くはユダヤ教徒、トルコ人、そしてベドウィンと女性からなる混成集団です。

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言ったと伝えています：「厚生地の衣服をまとったイスファハンのユダヤ教徒 70000 人がダッジャールに追随する・・・」（ムスリムの伝承[156]）

● ダッジャール（偽メシア）の試練からの予防処置：

偉大かつ荘厳なるアッラーを信仰した状態であること、また特にサラー（礼拝）の時にダッジャールの試練からのアッラーのご加護を願うこと、そしてクルアーンの洞窟章の最初の 10 アーヤ（句）を読むことです。

アブー・アッ＝ダルダー（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は「(クルアーン）洞窟章の最初の 10 アーヤ（句）を身につけた者は、ダッジャールから守られる。」あるいは「彼（ダッジャール）と巡り合せた者は、彼に対して洞窟章の出だしを読んで聞かせよ。」と語っています。（ムスリムの伝承[157]）

2　マルヤム（マリア）の子イーサー（イエス）：

ダッジャール（偽メシア）が出現し地上に退廃を広めた後、崇高なるアッラーはマルヤム（マリア）の子イーサー（イエス）を遣わします。彼はダマスカス東方にある“アル＝マナーラ・アル＝バイダーゥ（白いミナレット）”という場所に両腕を 2 人の天使にかけた状態で降臨します。それからダッジャールを倒し、イスラームによって地上を治め、十字架を壊します。また豚を殺し、人々の間から吝嗇が去るまで財を行き渡らせます。反逆や反乱などもないまま 7 年間過ごすと彼はこの世を去り、ムスリムが彼の葬儀の礼拝をします。

それからアッラーはシャーム地方の方角から冷たく心地よい風を吹かせられますが、それはほんの少しでも心に善、あるいはイーマーン[158] を抱く者の命を奪います。

それで彼らは地上から全滅し、悪い者のみがそこに残ります。彼らは容易く悪事に走り、野獣のような卑しい性質で、まるでロバの群れのような混乱に陥ります。それからシャイターンが彼らに偶像崇拝を命じ、審判の日が到来するまで彼らはその状態となるのです。

156　サヒーフ・ムスリム（2944）。

157　サヒーフ・ムスリム（809、2937）。

158　訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私の魂がその御手に委ねられているお方にかけて。必ずやマルヤム（マリア）の子イーサー（イエス）は統治者として、正義者として降臨するのだ。彼は十字架を破壊し、豚を殺し、ジズヤ[159]を課す。そして誰も受け取る者がいなくなるまで財を行き渡せる。そしてその時、人々にとってはサジダ（平伏礼）一回の方が現世とそこにあるものよりも優れたものとなるのだ。”」それからアブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「望むなら、（クルアーンの）このアーヤを読みなさい：﴾**そしていかなる啓典の民も、彼（イーサー）が（真実の）死を迎えるまでには彼を信仰することになるのだ。そして審判の日、彼は彼らへの証人となる。**﴿（クルアーン 4：159)」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[160]）

3　ヤアジュージュとマアジュージュの出現：

ヤアジュージュとマアジュージュは 2 つの偉大な民で、誰も太刀打ち出来ないような強大な民です。彼らの出現は審判の日の大予兆の内の 1 つであり、地上に退廃をもたらします。そこでイーサー（イエス：彼に平安あれ）と彼の教友たちが彼らに対してアッラーに祈り、彼らを滅ぼすのです。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**ヤアジュージュとマアジュージュが解き放たれ、地上の隅々まで一気に散開するまで（彼ら不信仰者らは悔悟しないのだ）。真実の約束は近付いているのである。見なさい。信仰しない者の目はすわってきて（言うであろう）。「ああ、情けない。わたしたちはこのことを疎かにしていました。いや、わたしたちは不義な者でした。」**﴿（クルアーン 21：96,97）

2－アン＝ナウワース・ブン・サムアーン（彼にアッラーのご満悦あれ）はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が、ダッジャール（偽メシア）出現とイーサーがルッド門にて彼を倒すことに言及した伝承の中でこう述べたことを伝えています：「アッラーはイーサーにこう仰せられる：“われは誰も太刀打ち出来ないような（強大な）わがしもべたちを出現させた。それゆえしもべたちをシナイ山の方へ非難させるのだ。”それからアッラーはヤアジュージュとマアジュージュを遣わし、彼らは地上の隅々にまで一気

---

[159] 訳者注：ジズヤはイスラーム国家の統治下にあるムスリム以外の啓典の民に、また一説には全ての非ムスリムに課せられる人頭税のことです。

[160] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3448）、サヒーフ・ムスリム（155）。引用はアル＝ブハーリーから。

に散開する。彼らの内の先頭を切る者たちがタバリー湖に立ち寄ればその水は飲み干されてしまい、彼らの内の後陣の者たちはそこにやって来ると、こう言う：“以前ここには水があったはずなのだが。”イーサーとその教友たちは彼らから包囲され、(彼らの状態は飢えのため）彼らにとって野牛の頭の方が今日のあなた方にとっての 100 ディーナールよりもましであるような状態に陥る。それからイーサーとその教友たちはアッラーに祈り、アッラーは彼らの首に寄生虫を送られ、彼らを一瞬で滅亡させられる。それからアッラーの預言者イーサーとその教友は地上に降りて行く・・・」(ムスリムの伝承[161])

● イーサーとその教友たちは地上に降りて行った後、(地上が悪臭に満ちた場所になっていたため）アッラーに祈ります。すると偉大かつ荘厳なるアッラーは、彼らの死骸を運び去り、かれがお望みの所でそれらを放棄してくれる鳥たちを遣わされます。それからアッラーは地上を洗い流す雨を送られ、そして祝福をお下しになります。こうして地上には野菜や果実が実り、動植物を祝福が満たします。

４、５、６　3 つの日蝕：

3 つの日蝕は審判の日の大予兆の 1 つで、東西及びアラビア半島における 3 つの日蝕のことです。これはまだ起こってはいません。

7　大煙：

末世に発生する大煙は、審判の日の大予兆の内の 1 つです。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾待て、天が顕わな大煙を伴ってやって来る日を。(それは）人々を覆い尽くす。(そして彼らは言うのだ)「これは痛烈な懲罰である。」﴿**（クルアーン 44：10－11）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「6 つ（のもの）がやって来るその前に、(善い）行いに急ぐのだ：(そしてその 6 つとは）太陽が西から昇ること。あるいは大煙。あるいはダッジャール（偽メシア)。あるいは大獣。あるいはあなた方の死。あるいは審判の日そのものである。」(ムスリムの伝承[162])

161　サヒーフ・ムスリム（2937）。
162　サヒーフ・ムスリム（2947）。

8　西から太陽が昇ること：

西から太陽が昇ることは、審判の日の大予兆の 1 つです。そしてそれは世界の上方の状態が変化することを表す、最初の偉大な兆しなのです。この出来事が起こる典拠として、以下のようなものがあります：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾あなた方の主のみしるしのいくつかが到来する日、（不信仰者たちはついに信仰せざるを得なくなるが）その信仰は（もはや）その魂を益しない。あるいは（それら審判の日のいくつかの予兆が到来する前に信仰に入っていた者たちでも）その信仰をもってよきものを得ることがなかった者たち（はその日、その信仰心が彼らを益することはない）。﴿**（クルアーン 6：158）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「太陽が西から昇るまで、審判の日は起こらない。そして太陽が西から昇るや否や、誰もが皆信仰する。そしてその日こそは：**﴾その信仰は（もはや）その魂を益しない。あるいは（それら審判の日のいくつかの予兆が到来する前に信仰に入っていた者たちでも）その信仰をもってよきものを得ることがなかった者たち（はその日、その信仰心が彼らを益することはない）。﴿**（クルアーン 6：158）」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[163]）

3－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“（審判の日の）最初の予兆は、太陽が西から昇ることである。そして昼前に人々の前に大獣が出現することである。それゆえそれらの内どちらが先に起こっても、もう 1 つが立て続けにやって来るのだ。”」（ムスリムの伝承[164]）

9　大獣の出現：

末世に人々の前に大獣が出現するのは、審判の日が迫ることを示す予兆の 1 つです。大獣はその鼻でもって人々を毒し、不信仰者の鼻をへし折り、信仰者の顔を明るく照らします。大獣が出現することの典拠として、以下のようなものがあります：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そして約束されていた言葉が実現すれば、**

---

[163] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4635）、サヒーフ・ムスリム（157）。引用はムスリムから。

[164] サヒーフ・ムスリム（2941）。

われら（アッラーのこと）は地上において、彼らに語りかける 1 匹の大獣を出現させる。彼らはわがみしるしを確固として信じてはいなかったのだ。﴾（クルアーン 27：82）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“それが起これば、それ以前に信仰に入っていなかった、あるいは信仰に入ってはいてもそれをもってよきものを得ることがなかったような魂をその信仰心が益することのないものが 3 つある：つまり太陽が西から昇ること。ダッジャール（偽メシア）。地上の大獣である。”」（ムスリムの伝承[165]）

１０　人々を追いやる大火：

それは東のイエメン地方、アデンのくぼ地から発生する大火で、審判の日の大予兆の中でも最後のものであり、また審判の日が起こるのを知らせる最初のみしるしでもあります。それはイエメン地方から徐々に広がり、人々を集合の地であるシャーム地方へと追いやって行きます。

●　大火はどのように人々を追いやるか？

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「人々は 3 つの集団において追いやられる。（1 つはアッラーからの報奨を）望み、（アッラーのお怒りを）恐れながら行く者たち。（2 つ目は）1 頭のラクダに 2 人で、あるいは 3 人で、4 人で、10 人で行く者たち。（そして 3 つ目は）炎に追い立てられる者たち。（その炎は）彼らが昼寝するにも夜に泊まるにも、朝を迎えるにも夕を迎えるにも、どこにでも彼らと共にある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[166]）

●　審判の日の最初の予兆：

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アブドッラー・ブン・サラームは改宗した時、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に様々な質問をしました。そしてその中に、次のようなものがありました：「審判の日の最初の予兆は何ですか？」すると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「審判の日の最初の予兆は、人々を東から西へと追いやる大火である。」（アル＝ブハーリーの伝承[167]）

---

[165] サヒーフ・ムスリム（158）。

[166] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6522）、サヒーフ・ムスリム（2861）。引用はアル＝ブハーリーから。

[167] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3329）。

●　**審判の日の諸予兆と状況の変化の連続性：**

審判の日の小予兆の数々が起こった後に、最初の大予兆が起こり、次々にその後の予兆が連続します。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました；「(審判の日の）諸予兆は、糸でつながれたビーズ玉（のよう）である。その糸が断たれた時、それらは互いに連続（して落下）するのだ。」(アル＝ハーキムの伝承[168])

●角笛の吹き込み

●　ここでいう角笛とは、偉大かつ荘厳なるアッラーが末世において天使イスラーフィール（彼に平安あれ）に命じて吹かせるものを指します。その一吹き目は「衝撃の一吹き」であり、アッラーがそうお望みにならないもの以外、天地全てのものはそれによって打たれ気を失います。それから二吹き目を命じられますが、それが「復活の一吹き」です。それから、人々は起き上がり、辺りを見回します。

●　**角笛が吹き鳴らされた時の被造物の状況：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**それゆえ（彼ら頑迷な不信仰者たちから）離れよ。その日召集する者（イスラーフィール）が（彼らを彼らの）厭うところのものへと召集する。(彼らは）まるで散り散りのバッタのごとく、恐怖で目を伏せながら墓場から出てくる。召集する者の方へと急ぎ、不信仰者たちはこう言う：「これはなんとも厳しい日だ。」**﴿（クルアーン 54：6－8）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして角笛が吹き鳴らされ、アッラーがお望みになられるもの以外の天地の全てのものは気を失う。それからもう一吹きされると、**

[168] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（8639)。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1762）参照。

彼らは立ち上がり眺め回す。﴿（クルアーン 39：68）

● **角笛への吹き込みの一吹き目と二吹き目の間隔：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛への吹きこみの一吹き目と二吹き目との間隔は、40 である。”」（人々はアブー・フライラに）言いました：“アブー・フライラよ、40 日ということですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いや。”（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 ヶ月ですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いいえ。”（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 年ですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いいえ。”（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[169]）

● **審判の日はいつか？**

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“太陽を見る日で最良のものは、金曜日である。アーダム（アダム）はその日創造され、その日に楽園に入れられ、その日そこから追放された。そして審判の日は金曜日以外には起こらない。”」（ムスリムの伝承[170]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛の主（イスラーフィール）の眼はそれを任された時から、玉座の方を眺めて準備している。彼は少しでも眼を逸らした際にご命令がかかるのを恐れているのだ。彼の眼は煌めく 2 つの惑星のようである。”」（アル＝ハーキムの伝承[171]）

[169] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4935）、サヒーフ・ムスリム（2955）。引用はムスリムから。
[170] サヒーフ・ムスリム（854）。
[171] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（8676）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1078）参照。

●復活と召集

● **しもべが通過する諸段階：**

人間が母親の体から出た後に通過する段階には、3 つのものがあります。①現世の段階、②天国と地獄の境界上にある段階、③天国、あるいは地獄の来世における永遠の段階です。アッラーはこれらの段階各々に、特有の規定を設けられました。またアッラーは、人間を魂と肉体から構成されました。そして現在の諸規定を肉体とそれに付随する魂に定められ、天国と地獄の境界線上の諸規定を魂とそれに付随する肉体に対して定められ、また享楽あるいは懲罰という来世での諸規定を肉体と魂に均等に定められました。

● **復活とは**：角笛への二吹き目において、死人が蘇されることです。この時人々は靴も衣服も身につけておらず、割礼も受けていない状態で全世界への主へと復活します。また全てのしもべは、死んだ時そのままの状態で蘇されます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そして角笛が吹き鳴らされると、彼らは墓から飛び出して彼らの主の御許へと急いでいく。（彼らは）言う：「ああ、私たちの破滅が悔やまれる。私たちを寝床から蘇らせたのは誰だ？」（天使たち、あるいは信仰者たちはこれに答えて言う：）「これこそは最も慈悲深いお方がお約束され、使徒たちがその真実を**

語っていたところのものだ。」ただ、一声鳴り響けば、一斉にかれらはわれの前に召し集められる。その日には誰も、少しも不当な扱いを受けず、あなたがたは、ただ自分の行ったことに対し報いられる。﴿（クルアーン 36：51－54）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**それからあなた方は死ぬのだ。そして審判の日に蘇されるのである。**﴿（クルアーン 23：15,16）

● **復活の光景：**

アッラーは天から雨をお降らしになり、まるで地上に芽が生えるように人々が地下から湧き出て来ます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてかれ（アッラー）こそはそのご慈悲をもって、よき知らせ（慈雨）をもたらす風を送られるお方。そして（その風は雨を大量に含んで）重厚な雲を運び、われら（アッラーのこと）はそれを不毛の大地に降らせる。それからそれによって水を降らせると、われらはそれによってあらゆる果実の実を出させる。このようにしてわれらは、死んだ者たちをも（地面から）引き出すのである。あなた方が熟慮するように（われらはこれらの喩えを提示するのである）。**﴿（クルアーン 7：57）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛への吹きこみの一吹き目と二吹き目との間隔は、40 である。”」（人々はアブー・フライラに）言いました：“アブー・フライラよ、40 日ということですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いや。”（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 ヶ月ですか？”（アブー・フライラは）言いました：：“いいえ。”（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 年ですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いいえ。”（アブー・フライラは）言いました：「（ここからまた預言者の言葉）それからアッラーは天から水を下され、（人々は）芽が吹き出るかのごとく湧き出てくる。人間は一片の骨を除いて消滅してしまうのだが、それというのは脊椎の最下部である。被造物はそこから創られ、そして審判の日はそこから蘇るのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[172]）

● **最初に墓から蘇される者：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私は審判の日、アーダム（アダム）の

[172] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4935）、サヒーフ・ムスリム（2955）。引用はムスリムから。

子らの長である。そして私は最初にその墓が（呼び起こされるために）裂かれる者であり、また最初のとりなし手でもあれば最初にとりなしが与えられる者でもある。”」（ムスリムの伝承[173]）

● **審判の日に蘇される者：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾言え、「以前の者も後世の者も全て、その定められた日の定められた時に（蘇されるのだ）。」﴿**（クルアーン 56：49－50）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾天地にある全てのものは、最も慈悲深いお方の御許にそのしもべとしてへりくだってまかり出る。（アッラーは）彼らの数をご存知であられ、その１人１人を数え上げられる。その全ての者は審判の日、各自１人でかれの御許へまかり出るのだ。﴿**（クルアーン 19：93－95）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そしてその日われら（アッラーのこと）は山々を動き回らせ、そしてあなたは大地（に秘められた全てのもの）が明らかになるのを見るであろう。そしてわれらは彼らを召集し、誰１人としてそれを免れる者はいない。かれらは列をなして、主の御前の所定の位置に付かされる。（主は仰せられるであろう。）「あなたがたは、われが最初創ったように、今、正にわれの許に来た。いや、われがあなたがたに対し（会見の）約束を果たさないと、あなたがたは決めつけていた。」（行いを記録した）書冊が（前に）置かれ、犯罪者がその中にあることを恐れているのを、あなたがたは見るであろう。かれらは言う。「ああ、情けない。この書冊は何としたことだ。細大漏らすことなく、数えたててあるとは。」かれらはその行った（凡ての）ことが、かれらの前にあるのを見る。あなたの主は誰も不当に扱われない。﴿**（クルアーン 18：47－49）

● **召集の地の光景：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その日大地はそれではない他の大地と、そして諸天はそれではない他の諸天と取って代わられる。そして（しもべたちは）唯一で全てを制されるアッラーの御許へと、（姿形もその秘めていたものも露わに、墓の中から）まかり出てゆくのだ。﴿**（クルアーン 14：48）

2－サハル・ブン・サアド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“審判の日、人々はまるで一片の上等なパン切れのような白亜の大地に召集される。そこでは誰も（住居などの）何の痕

[173] サヒーフ・ムスリム（2278）。

跡も見出すことがない。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[174])

● **審判の日、被造物が召集される光景：**

召集は 2 つの状況があります。

1－墓から審判の場へ召集されます。これは、靴も履かず、裸で、割礼を受けていない状態で歩いています。

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、人々は靴も衣服もつけておらず、割礼も受けていない状態で召集される。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、男女一緒にですか？彼らは互いに眺め合うのではないですか？”（彼は）言いました：“アーイシャよ、事態はそんなことより重大であり、人々は互いに眺め合っている場合ではないのだ。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[175])

2－信仰者と不信仰者は審判の場から天国と地獄へと分けられ次のように召集されます。

１　信仰者たちは誉れ高い一団として彼らの主と天国へと召集されます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**その日われら（アッラーのこと）は（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から）身を控える者たちを、（誉れ高い）使節として最も慈悲深いお方の御許へと召集する。**﴿（クルアーン 19：85）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**またかれらの主を畏れたものは、集団をなして楽園に駆られる。かれらがそこに到着した時、楽園の諸門は開かれる。そしてその門番は、「あなたがたに平安あれ、あなたがたは立派であった。ここに御入りなさい。永遠の住まいです。」と言う。**﴿（クルアーン 39：73）

２　不信仰者は顔を下に足を上にした逆様の状態で、盲目かつ聾唖、喉をからからに乾かし、眼を（余りの恐怖から）蒼くし、縛られた状態で召集されます。そして最初の者は最後の者がやってくるまで拘留され、1 つの集団としていっぺんに地獄へと連れ行かれます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして審判の日、われら（アッラーのこと）は彼ら（不信仰者たち）を逆様に、盲目で聾唖の状態で召集する。彼らの行き着く先は地**

---

[174] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6521）、サヒーフ・ムスリム（2790）。引用はムスリムから。

[175] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6527）、サヒーフ・ムスリム（2859）。引用はムスリムから。

獄の業火であり、それ（炎）は小康してはわれらが更にまた盛り返すのだ。それこそは、彼らがわれらのみしるしを信じなかったことに対する彼らの報いなのである。﴿（クルアーン 17：97－98）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）は、罪深い者たちを喉がからからに渇いた状態で地獄の業火へと追いやるのだ。**﴿（クルアーン 19：86）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてその日角笛が吹き鳴らされ、われら（アッラーのこと）はその日罪深い者たちを眼が蒼い状態で召集する。**﴿（クルアーン 20：102）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてその日、アッラーの敵たちは地獄に召集される。彼らの内の最初の者は最後の者がやって来るまで、拘留される。**﴿（クルアーン 41：19）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**（アッラーは天使たちに言う：）「罪を犯していた者たちとその配偶者たち、そして彼らがアッラーを差し置いて崇めていたものたちを召集せよ。そして彼らを地獄の業火の道へと連れてゆくのだ。」**﴿（クルアーン 37：22－23）

6－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**大地が大地ではないものに変えられ、諸天も変えられる日、（人びとは一斉に）唯一の御方、全知・全能の御方、アッラー（の御前）に罷り出るであろう。その日あなたは、罪のある者たちが鎖で一緒に繋がれているのを見るであろう。かれらの下着はタールで、かれらの顔は火で覆われる。アッラーは各人がそれぞれに行ったことに報われる。本当にアッラーは清算に迅速である。**﴿（クルアーン 14：48－51）

7－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男が言いました：「アッラーの使徒よ。審判の日、不信仰者たちはいかに逆様の状態で召集されるのですか？」預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「現世で人を 2 本の足によって歩かせられたお方は、審判の日に彼を顔でもって歩かせられるのが可能ではないのか？」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[176]）

3　アッラーは審判の日、乗り物用の動物や家畜、野獣や鳥類も召集されます。そして動

[176] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4760）、サヒーフ・ムスリム（2806）。引用はムスリムから。

物同士の間で正義の報復がなされます。例えば角のある羊に角で刺された角なしの羊は、その相手に報復します。そして動物間の報復が終わると、アッラーはそれらにこう仰せられます：「砂となるのだ。」

至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿地上を歩むありとあらゆるもの、そして天を2枚の羽でもって羽ばたくもの全ては、あなた方と同様の（われらが創造し糧を与えるところの）共同体なのである。護られた（運命が全て記された）碑版において、われらは何の抜かりもないのだ。それから（それらのもの全ては）その主の御許へと召集される。﴾**（クルアーン6：38）

● **来世でのアッラーとの謁見**

全ての人間は、善悪の行い、信仰者か不信仰者、敬虔かどうかに関わらず審判の日に主に謁見します。

1-至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿彼ら（信仰者）がかれ（アッラーのこと）に会う日の挨拶は、「平安あれ。」である。彼らのために、寛大な報奨を準備なされる。﴾**（クルアーン33：44）

2-至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿アッラーを畏れなさい。あなたがたは（来世で）かれに会うことを知りなさい。なお（これらの）吉報を信者たちに伝えなさい。﴾**（クルアーン2：223）

3-至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿おお人間よ、本当にあなたは、主の御許へと労苦して努力する者。かれに会うことになるのである。その時右手にその書冊を渡される者に就いては、かれの計算は直ぐ容易に清算され、かれらは喜んで、自分の人々の許に帰るであろう。だが背後に書冊を渡される者に就いては、直に死を求めて叫ぶのだが、燃える炎で焼かれよう。﴾**（クルアーン84：6-12）

4- ウバーダ・ビン・サーミトが伝えるところによると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、言われた。「アッラーにまみえることを望む者にアッラーもまた会うことを望まれる。」（アル=ブハーリーとムスリムの伝承[177]）

---

[177] サヒーフ・アル=ブハーリー（6507）、サヒーフ・ムスリム（2683）。引用はアル=ブハーリーから。

●審判の日の恐ろしい出来事の数々

- 審判の日は、想像を絶する出来事や、そして甚大なる恐怖をもたらします。しもべたちはその恐怖におののき、その眼球はその暗闇の中で見開かれたまま動きません。偉大かつ荘厳なるアッラーはその期間を信仰者には昼から夕方ほどまでの間に、そして不信仰者には 50000 年にも値する期間に定められました。その日の凄まじく恐ろしい出来事には次のようなものがあります：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして角笛が一吹き、吹き鳴らされるとき。そして大地と山々が宙を舞い、一撃の下にぶつかり合って散り散りになるとき。その日起こるべくして起こるものが起こる。そして天は裂け、その日もろくなる。**﴿（クルアーン 69：13－16）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**太陽が包み隠されるとき。そして星々が落下するとき。そして山々が飛び散るとき。そして妊娠 10 ヶ月の雌ラクダ（の世話）がおろそかにされるとき[178]。そして野獣たちが呼び集められたとき。そして大洋に（火がつけられ）燃え上がるとき。**﴿（クルアーン 81：1－6）

---

[178] 訳者注：妊娠 10 ヶ月目の雌ラクダは当時のアラブの間で、最も貴重な財産の内の 1 つでした。

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾天が割れ裂けるとき。そして諸惑星が落下して散り散りになるとき。そして海々が溢れかえって 1 つの大洋となるとき。そして全ての墓がひっくり返されるとき。﴿**（クルアーン 82：1－4）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾天が裂けるとき。そして（天は）その主（の命を）を謹聴し（従っ）たが、それは（天にとって）そうすべきことであった。そして大地が平たく延べ広げられ、そこに秘められていたもの（死体など）を外に放出し、（存命していた者たちをその表面から）放り投げるとき。そして（大地は）その主（の命を）を謹聴し（従っ）たが、それは（大地にとって）そうすべきことであった。人間よ、あなたはあなたの主へと向かって日々努力し、そしてかれとまみえる者なのである。﴿**（クルアーン 84：1－6）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その出来事（審判の日）が起こるとき。その起こりを嘘とする者はない。（その日ある者たちはその位を）下げられ、（またある者たちは）上げられる。大地が激しく揺れ動くとき、そして山々が砕かれ、ばらばらに飛び散る埃となるとき。﴿**（クルアーン 56：1－6）

6－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“審判の日を眼前にあるように見ることを欲する者は、（クルアーンのこれらの章を）読むのだ：**﴾太陽が包み隠されるとき﴿**（クルアーン第 81 章）そして**﴾天が割れ裂けるとき﴿**（クルアーン第 82 章）そして**﴾天が割れるとき﴿**（クルアーン第 84 章）”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[179]）

● **審判の日、天地は別のものと取って代わられる：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その日大地はそれではない他の大地と、そして諸天はそれではない他の諸天と取って代わられる。そして（しもべたちは）唯一で全てを制されるアッラーの御許へと、（姿形もその秘めていたものも露わに、墓の中から）まかり出てゆくのだ。﴿**（クルアーン 14：48）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その日われら（アッラーのこと）はまるで書物を巻き上げるように、天を巻き上げる。われらは丁度最初の創造を始めたように、それをもう一度繰り返すのである。（この復活こそは）われらが約束していたもの。われら**

---

[179] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（4806）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3333）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

はそれを完遂するのである。﴿（クルアーン 21：104）

● **天地が別のものに取って代わられるとき、人々はどこにあるか？**

アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の召使い、サウバーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の所で立っていると、1 人のユダヤ教徒の学者がやって来ました・・・」――そしてこの伝承の中に次のような箇所があります――「そしてユダヤ教徒は言いました：“天地がそれではない別のものに取って代わられる時、人々はどこにあるのか？” 預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“彼らは架け橋のない暗闇の中にある。”」また別の伝承にはこうあります：「“架け橋の上にある。”」（ムスリムの伝承[180]）

● **召集の場における酷暑とその恐怖**：

アッラーは被造物を復活させられた後、彼らを審判の大地に結集させます。彼らはそこで靴も衣服も身に着けず、割礼もされていない状態のままで裁かれるのです。その日太陽はとても近い場所にあり、汗は地上において 70 腕尺[181]にも達します。そして人々はその行いに応じて、発汗することになります。

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「審判の日、アッラーは大地を一握りにされ、そしてその右手でもって天を巻き上げられる。そしてこう仰せられる：“われこそは真の王である。地上の王たちはどこにいる？”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[182]）

2－アル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、太陽は被造物に接近する。そして人々の内ある者にとっては、それは 1 マイルほどの近さにまで近付く。人々はその行いに応じて発汗する。それである者はくるぶしの辺りまで、またある者は膝まで、またある者は足の付け根まで、またある者は汗のくつわをはめさせられる。”そしてアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は自らの口を指差されました。」（ムスリムの伝承[183]）

---

180 サヒーフ・ムスリム（315）。アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）の伝える同じ伝承は（2791）。

181 当時アラブでは腕尺が長さを測定する単位として使用されていました。

182 サヒーフ・アル＝ブハーリー（7382）、サヒーフ・ムスリム（2787）。

183 サヒーフ・ムスリム（2864）。

- **審判の日、アッラーがかれの影以外に全く影のない召集の場で、アッラーがその庇護下に置かれる者：**

１－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言われた。「その御方（アッラー）の影以外に全く影のない日（審判の日）、アッラーが庇護下に置かれる7種類の人々がある。それは公正な統治者、アッラーを崇拝して成長した若者、マスジドを愛しそこに集る人々と親交を深める者、アッラーのために互いに固く友情を結び、その御方（アッラー）のために会い、その御方のために別れる二人の者、地位があり才色兼備な女性に誘惑されても『私はアッラーを恐れます』といって応じぬ者、左の手が善行を消費してもすぐ右の手がそれを知らないくらいにこっそりとサダカを行う者、そしてアッラーを密かに讃美して涙を流す者である。」　（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[184]）

２－ウクバ・ブン・アーミル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言った：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が『（アッラーによって）人々が裁かれるまでの間、全ての人間は自分がサダカしたものの影の中にいる。』と申したのを聞いた。　（アフマドとイブン・フザイマの伝承[185]）

- 裁きのためにアッラーがご来臨されること：

偉大かつ荘厳なるアッラーは審判の日、裁きのためにご来臨されます。そのため大地はその御光によってまばゆく照らされ、被造物はその畏怖と偉大さと荘厳さに気絶します。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**いや、決してそのようにあってはならない。大地が揺り動かされ、ぶつかり合って粉々になるとき。あなたの主は天使を隊列に組ませつつご来臨なされる。そしてその日、地獄が（目の当たりに）もたらされる。その日、人は思い返すであろうが、思い返したとして、それが彼にとって何の役に立つであろう。**﴾（クルアーン 89：21-23）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**それで角笛が一吹き吹かれた時、大地や山々は持ち上げられ、一撃で粉々に砕かれ、その日（一大）事件が起こる。また大空は千々に裂ける。天が脆く弱い日であろう。天使たちは、その（天の）端々におり、その日、８人（の天使）がかれらの上に、あなたの主の玉座を担うであろう。その日あなたがたは（審判のため）みな剥き出しにされ何一つとして隠しおおせないであろう。**﴾（クルアーン 69：

184 サヒーフ・アル＝ブハーリー（660）、サヒーフ・ムスリム（1031）。引用はアル＝ブハーリーから。
185 真正な伝承。ムスナド・アフマド（17333）、スナン・イブン・フザイマ（2431）。引用はムスナド・アフマドから。

13－18）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私をムーサー（モーゼ：彼に平安あれ）よりも優れている、などとしてはならない。人々は審判の日気絶し、私も気絶する。私は誰よりも先に意識を取り戻すが、その時ムーサーが（アッラーの）玉座の端にしがみついているのを見出す。彼も気絶して私より先に意識を取り戻したのか、それとも彼はアッラーが例外とした者の中の一人なのかは私には分からない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[186]）

●審判の日の裁定

● 審判の日、人々は主の御許へと召集されますが、その時彼らは状況の厳しさと余りの恐怖ゆえにこの上なく疲労困ぱいします。彼らは主が彼らに判決をお下しになり、彼らの間を裁かれることを希求しますが、その待ち時間が延びれば延びるほど彼らの苦悩は増幅します。そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとに赴き、主が彼らに裁定を下されるよう執り成しを求めるのです。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**この日彼らは喋ることもない。彼らには言い訳すら許されない。その日、（真理を）嘘としていた者たちに災いあれ。（アッラーは仰せられる：）「これが裁決の日。われら（アッラーのこと）はあなた方とあなた方以前の者たちを集結させた。もしあなた方に（この状況を打開する）策略があるのなら、そうしてみよ。」**﴿（クルアーン 77：35－39）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私は審判の日、人類の長である。なぜかと言えばアッラーは審判の日、一つの台地に最初の者たちと最後の者たち全てを結集される。彼らは呼び声を聞き、全ての視覚を捉える御方（アッラーのこと）の視覚の下にある。そして太陽が接近し、人々は耐え切れず抵抗し難いほどの苦悩と苦痛に見舞われる。そして彼らは互いに言う：“あなた方はどんな状況にあるのか分からないのか？何という災難に

[186] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2411）、サヒーフ・ムスリム（2373）。引用はアル＝ブハーリーから。

遭っているのか分からないのか？誰か主の執り成しをしてくれる者がいないか考えないのか？”

それから彼らは互いに言う：“アーダム（アダム）の所へ行くのだ。”そしてアーダムのもとに赴き、言う：“アーダムよ、人類の父祖よ、アッラーがあなたをその御手でもってお創りになられ、その精霊をして魂を吹き込まれたお方。また（アッラーが）天使たちを、あなたの前でサジダ（平伏礼）するよう命じられたお方。主に執り成して下さい。私たちの置かれている状況がお分かりでしょう？私たちがどのような境遇に陥っているかお分かりでしょう？”

するとアーダムは言う：“私の主はこれまでになかったほどにお怒りになられている。そして今後もこれほどお怒りになられることはないだろう。私は（禁断の実がなる）木を禁じられたのにも関わらず、その命に背いてしまったのだ。ああ、私こそ執り成しが必要だというのに。誰か他の者の所に行くのだ。”

そして彼らはヌーフ（ノア）の所へ赴く。そしてイブラーヒーム（アブラハム）、ムーサー（モーゼ）、イーサー（イエス）と巡っていくが、皆彼らの請願を断る。彼らは皆こう言うのだ：“私の主はこれまでになかったほどにお怒りになられている。そして今後もこれほどお怒りになられることはないだろう。ああ、私こそ執り成しが必要だというのに。”

そしてイーサーは言う：“誰か他の者の所へ行くのだ。ムハンマドのもとに行け。”こうして彼らはムハンマドの所に赴き、こう言う：“ムハンマドよ、アッラーの使徒、最後の預言者よ、以前の罪も以後の罪もアッラーがお赦しになられたお方よ。主に執り成して下さい。私たちの置かれている状況がお分かりでしょう？私たちがどのような境遇に陥っているかお分かりでしょう？”

（ここから預言者〔彼にアッラーからの祝福と平安あれ〕の言葉）すると私は彼らを後にし、（アッラーの）玉座のもとに赴く。そして主の御前にひれ伏す。それからアッラーは、私以前の者たちには授けて下さらなかったようなかれへの讃美と賞讃の方法を、私に授けて下さる。そしてこう仰せられるのだ：“ムハンマドよ、顔を上げよ。頼み事があるなら言うのだ。それは叶えられよう。執り成しがあるのなら、それは受理されよう。”そして私は顔を上げ、こう言う：“主よ、私の民を！私の民を（お救い下さい）！”

するとアッラーは仰せられる：“ムハンマドよ、あなたの民の内で清算のない者を、天国の諸門の内の右端の門から入れるのだ。彼らはそれ以外の門から（天国に）入る者たちと共になる。”実にムハンマドの魂がその御手に委ねられているお方に誓って。天国の一つの門から別の門までの距離は、マッカからハジャル、あるいはマッカからブスラー[187]ほどもあるのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[188]）

● それからアッラーは人々の裁定を下されます。（人々の現世での行いが記された）帳簿

---

[187] 訳者注：ハジャルはバハレーン地方に所在する町と言われます。またブスラーはシリア地方の一都市です。

[188] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4712）、サヒーフ・ムスリム（194）。引用はムスリムから。

が持ってこられ、秤の上に載せられます。こうして人々は清算を受けますが、その帳簿を右手に渡された者は天国へ、左手に渡された者は地獄に行くことになります：

1ー至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そしてあなたは、天使たちがその主を讃え賞讃しながら（アッラーの）玉座の周りを飛翔するのを見よう。そして真理によって（しもべたちの）裁決が下され、「万有の主アッラーに全ての賞讃あれ。」という言葉が（天国に入れられた者からも、地獄に入れられた者からも）上がるのである。﴾**（クルアーン 39：75）

2ーアブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちは言いました：“アッラーの使徒よ、私たちは審判の日、アッラーにお目にかかるのですか？”（預言者は）言いました：“雲一つない大空に太陽と月を見るのは困難であろうか？”私たちは言いました：“いいえ。”（預言者は）言いました：“それゆえその日、それら（雲一つない大空の太陽と月）を見ることに困難を覚える者以外は、あなた方の主にお目にかかるのに困難を感じないのである。”それから言いました：“呼ぶ者がこう呼びかける：「全ての者に、（彼らが現世で）崇めていたものの所へ赴かせよ。」それで十字架の徒は十字架と共に、偶像の徒は偶像と共に、全てを崇めていた者たちはそれら全てと共にゆくことになる。そしてついには敬虔な者であれ放埓な者であれ、また原書の啓典の民であれ、アッラーを崇拝していた者たちしかそこには残らないことになるのだ。

それから彼ら（アッラー以外のものを崇拝していた者たち）は地獄の業火へと連れて行かれ、それは彼らにとってまるで蜃気楼のように映る。そしてユダヤ教徒たちにはこう言われる：「あなた方は何を崇めていた？」彼らは言う：「アッラーの御子ウザイルを崇めていました。」するとこう言われる：「嘘つきめ。アッラーには配偶者も御子もない。あなた方は（今日）何を欲するのか？」彼らは言う：「水をお与え下さい。」すると言われる：「飲むのだ。」そして彼らは地獄の業火の中へと落ちてゆく。

それからキリスト教徒たちにはこう言われる：「あなた方は何を崇めていた？」彼らは言う：「アッラーの御子イーサー（イエス）を崇めていました。」するとこう言われる：「嘘つきめ。アッラーには配偶者も御子もない。あなた方は（今日）何を欲するのか？」彼らは言う：「水をお与え下さい。」すると言われる：「飲むのだ。」そして彼らは地獄の業火の中へと落ちてゆく。

そして最後に、敬虔な者であろうと放埓な者であろうと、アッラーを崇拝していた者たちが残る。彼らにはこう言われる：「人々は行ってしまったのに、どうしてここに留まっている？」彼らは言う：「私たちは彼らと決別しました。私たちは今日、私たち自身よりもかれを必要としているのです。そして私たちは“皆（現世で）崇めていたものの所へ行くのだ。”という呼び声を聞きました。それで私たちは私たちの主を待っているのです。」

すると全てを制される強大なお方（アッラーのこと）は、初めに彼らが目にしたのとは

別の姿で彼らのもとへご来臨なされる。そして言うのだ：「われこそがあなた方の主である。」すると彼らは言う：「あなたこそ私たちの主です。（この日）あなたに語りかけることが出来るのは預言者たちのみです。」

するとアッラーは仰せられる：「あなた方とかれ（アッラーのこと）との間には、あなた方がかれを知ることの出来るみしるしがあるのか？」彼らは言う：「下肢です。」すると（アッラーは）下肢を露わになされ、全ての信仰者はかれに向かって平伏す。しかし（現世において）虚栄心や偽りからアッラーの御前で平伏していた者たちは平伏そうとするが、その背中が一枚の板のように真っ直ぐに固まってしまい、そうすることが出来ない。

それから彼らは、地獄の真ん中に架けられている*スィラート*（地獄の架け橋）へと連れてこられる。”私たち（伝承者を含む教友たちのこと）は言いました：“アッラーの使徒よ、*スィラート*（地獄の架け橋）とは何ですか？” （預言者は）言いました：“それは足元が定まらず滑りやすい所で、その上には鉄鉤や鉄串、ナジュド地方でサァダーンと呼ばれている植物のそれのような湾曲した鋭いとげなどがある。信仰者はそこを瞬きする間に、あるいは雷光や風（のように速く、また）極上の馬や乗り物用の家畜に乗るように（それ相応の速さで）渡る。ある者は無事にそこを渡りきり、ある者は怪我をしながら渡り、またある者はそこから地獄の業火へと転落する。そして最後に渡る者はそこから飛ばされて落下する。こうしてあなた方はこの日（現世ではなかったほどに、あなた方があなた方の同胞に対して行う）救助の懇願において、全てを制される強大なお方（アッラーのこと）の御前で本当の信仰者であるかどうか見極められるのだ。

そして彼らは仲間たちの内で自分たちが助かったのを見ると、言う：「私たちの主よ、私たちの同胞を（お助け下さい）。彼らは私たちと共に*サラー*（礼拝）し、*サウム*（斎戒）し、私たちと共に行動していたのです。」すると至高なるアッラーは仰せられる：「（彼らのもとに）行くのだ。そしてその心に 1 ディーナールほどの重さでも信仰心のある者がいれば、救い出してやるのだ。そしてアッラーは彼らが業火に晒されるのを禁じられる。」

そして彼らが（同胞のもとへ）行くと、ある者は業火の中に足まで浸かり、ある者はふくらはぎの中ほどまで浸かっている。そして彼らの知っている者たちをそこから救い出す。

それから（彼らがアッラーの御許へ）戻ると、かれは仰せられる：「行くのだ。そしてその心に半ディーナールほどの重さでも信仰心のある者がいれば、救い出してやるのだ。」そして彼らは彼らの知っている者たちをそこから救い出す。

それから（彼らがアッラーの御許へ）戻ると、かれは仰せられる：「行くのだ。そしてその心に小蟻一匹ほどの重さでも信仰心のある者がいれば、救い出してやるのだ。」そして彼らは彼らの知っている者たちをそこから救い出す。”」

アブー・サイードは言った：「このことを信じないと言うのであれば、（クルアーンのこの句を）読んでみよ：**﴾実にアッラーは、小蟻一匹ほどの重さの不正も行われることがない。（かれは）たった一つの善行でさえも、それを何倍にも増加させられるのだ。﴿**

（ここからは再び預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の言葉）“それから預

言者と天使たちと信仰者たちが執り成しをする。すると全てを制される強大なお方（アッラーのこと）は仰せられる：「残るはわが執り成しである。」そしてかれは業火の中に御手を入れられ、そこから一掴みして既に黒焦げになってしまった人々をそこから救い出される。それから彼らは天国の入り口にある河に入れられ、こう言われる：「（これは）生命の水である。」すると彼らはその河の両岸から、まるで河がもたらす肥沃な土から種が芽を出すように生え出てくる。あなた方が岩や木陰で見たことがあるように、太陽の側を向いているものは緑色に、陰の方にあるものは白くなるのだ。

そして彼らは首に印をつけられ、まるで真珠のように生え出てくる。そして天国に入るが、天国の住人たちは（彼らを見て）言う：「彼らは最も慈悲深いお方が解放された者たちだ。そして彼らの行っていたものや善行の有無を問われないままに、アッラーが天国に入れて下さった者たちだ。」そこでアッラーは仰せられる：「あなた方にはあなた方の目にしたものと、そしてそれと同様のものをもう一つ与えよう。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[189]）

●清算と秤

● **清算とは**：アッラーがそのしもべたちを御前に侍らせ、彼らの現世での行いをお告げになると共に、それに応じた報いをお与えになることです。その際に一つの善行はその10倍から700倍、更にそれ以上にまで倍増させた形で計算され、一方一つの悪行はそのまま一つとして計算されます。

● **帳簿の受理の方法：**

アッラーの御前で、全ての者はその善行または悪行の書かれた帳簿を与えられます。それを右手に受け取った者は幸福な者で、後ろ向きに左手で受け取る者は不幸な者なのです：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**人間よ、あなたはあなたの主へと向かって日々努力し、そしてかれとまみえる者なのである。それでその帳簿を右手に受け取る者は、その清算を易しくされるであろう。そして嬉々として（天国の）仲間の所へ向かうであろう。一方帳簿を背後から受け取る者は、その（来世での）破滅を悔いるであろう。それから燃え盛る炎の中に連れて行かれるであろう。**﴿（クルアーン84：6－12）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**一方帳簿を左手に渡された者はといえば、こう言う：「私の帳簿など渡されないほうが良かった。そして私の清算など知らない方が良**

[189] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7439）、サヒーフ・ムスリム（183）。引用はアル＝ブハーリーから。

かった。（現世での死で）全てが終わってしまえば良かったのだ。」﴾（クルアーン 69：25－27）

● 秤が設けられること：

審判の日、被造物の行いの清算のために秤が立てられます。人々は一人ひとり清算に赴き、主は彼らの前世での行いについて訊ねられます。そして清算が終わると、現世での行いが秤にかけられます。それは２つの皿のある正真正銘の秤です。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてわれら（アッラーのこと）は審判の日のために公正な秤を設けるゆえ、魂はいかなる不正も被ることがない。そしてからし種一粒ほどの重さ（の行い）でも、われらは提示しよう。われらは清算者として完全なのである。﴾（クルアーン 21：47）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そして（善行）の秤が（悪行のそれより）重ければ、彼には歓楽の生活が待っている。そして（善行の）秤が（悪行のそれより）軽ければ、彼の住処は奈落である。そしてそれ（奈落）をあなたに理解させるものは何か？燃え盛る業火である。﴾（クルアーン 101：6－11）

● 審判の日に人々が訊ねられること：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてあなたの知識の及ばないものを追求してはならない。聴覚も視覚も心も、全てそれらは訊ねられることになるのである。﴾（クルアーン 17：36）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてその日（アッラーはかれを差し置いて何か他のものを崇めていた）彼らを呼んで、こう言う：「あなた方が（この日）援助してくれると思い込んでわが共同者としていたものは、どこにいるのだ？」﴾（クルアーン 28：62）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてその日（アッラーは人々に）呼びかけて、言う：「あなた方は使徒たちに対して、どういう受け答えをしたのか？」﴾（クルアーン 28：65）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿ゆえにあなたの主にかけて。われら（アッラーのこと）は彼ら全員を必ずや問いただすであろう。彼らが（現世で）していたこと

に関して。﴿（クルアーン 15：92－93）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そして約束を守るのだ。それは問われることになるだろうから。﴿**（クルアーン 17：34）

6－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そしてあなた方はその日、必ずや（現世でおろそかにし、そこに執着していたところの）享楽について訊ねられよう。﴿**（クルアーン 102：8）

7－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾ゆえにわれら（アッラーのこと）は使徒を遣わした民と、使徒たちに尋ねよう。そして彼らに（彼らの間で何が起こったかを）知識をもって語り聞かせよう。われらは全てを監視していたのだから。﴿**（クルアーン 7：6－7）

8－アブー・バルザ・アル＝アスラミー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました："審判の日、しもべはその月日を何に費やしたか、その知識でもって何をなしたか、またその財をどこから得て何に費やしたか、そしてその身体を何に消耗させたかを訊かれるまで、その足が落ち着くことはない。」（アッ＝ティルミズィーとアッ＝ダーリミーの伝承[190]）

● **清算の方法：**

審判の日、清算される者は2種類に分かれます：

1－易しい清算をされる信仰者。それは提示され、赦しと寛大さにおけるアッラーの恩恵を知らしめます。

1　アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「"審判の日に清算される者は皆、滅ぶ者たちである。"それで私（アーイシャ）は言いました："アッラーの使徒よ、至高なるアッラーはこう仰せられたのではありませんか？**﴾そしてその帳簿を右手に渡される者は、その清算を易しくされるであろう。﴿**"するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："それは（信仰者にとっての）提示に過ぎないのである。審判の日、清算に異を唱えている者たちは罰された者たちに他ならない。"」（アル＝ブハーリーとムスリ

[190] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2417）、アッ＝ダーリミー（543）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

ムの伝承[191])

２　イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、信仰者は偉大かつ荘厳なる彼の主にまかり出るが、（その際）アッラーは彼をお隠しになる。そしてアッラーは彼の（現世にて犯した）罪を告白させられる。それでこう仰せられる：「（しかじかの罪を）知っているか？」彼は言う：「はい、知っています。」アッラーは仰せられる：「われは現世において、あなたのためにそれらを隠蔽しておいたのだ。それでこの日、われはあなたを赦そう。」すると彼には善行の帳簿が渡される。一方不信仰者と偽信仰者は全ての被造物の面前で、こう告知される：「彼らはアッラーに対して嘘を捏造した者たちである。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[192])

2－厳しい清算をされる不信仰者。大小全ての罪を問われ、それを正直に認めればともかく、それに嘘をついて否定しようとしたり隠したりしようとすればその口に封印がなされ、彼の肉体が（彼自身の口に代わり）彼のしていたことを告白します。崇高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾今日われら（アッラーのこと）は彼らの口に封印をする。そして彼らの手は彼らが得ていたものについて語り、足はそれを証言するのである。﴿**（クルアーン36：65）

- **全ての者は清算を受けます：**

  - 審判の日の清算は、全ての者に及びます。ただ預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が例外とした彼の共同体からの 70,000 人だけは別で、清算も懲罰もなしに天国に入ります。

  - 審判の日、不信仰者たちは清算を受け、叱責の意味から現世での行いを提示されます。懲罰においての彼らの状況は様々で、多くの悪行を働いていた者の懲罰はそうでない者のそれよりも甚大なものとなります。また善行のある者に関してはその善行によって現世において、健康やお金、生活の安楽を与えられますが、審判の日地獄へと入れられます。

  - 審判の日真っ先に清算を受けるのは、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の共同体です。そして審判の日ムスリムが真っ先に清算されるのが、サラー（礼拝）なのです。それが良ければ残りの全ての行いも良く、それが悪けれ

---

[191] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6537）、サヒーフ・ムスリム（2876）。引用はアル＝ブハーリーから。

[192] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2441）、サヒーフ・ムスリム（2768）。引用はムスリムから。

ば残りの全ての行いも駄目になってしまいます。また最初に人々の間で裁かれるのは殺人です。

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“アッラーは信仰者に対して、その善行を一つたりともおろそかにしたりはしない。それにおいて現世でお与えになり、来世ではそれによってお報いになられる。一方不信仰者は、現世においてアッラーのために行った善行により糧を与えられはするが、来世に終着した時にはそれにおいて報われるための善行が一つたりともないのである。”」（ムスリムの伝承[193]）

● **どのようにして秤にかけられるのか？**

審判の日、しもべの行いは良いものであれ悪いものであれ、秤にかけられます。そして善行が悪行に勝った者は勝利を手にしたのであり、悪行が善行に勝った者は破滅したのです。そして行いの主、その行い、行いの記された帳簿は、全てしもべの面前で崇高なるお方の公正さを示すがために、秤にかけられます。そしてその日、しもべの秤に最も重いものは善き性格なのです。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そしてその日、秤は真実である。そして（善行の）秤が（悪行のそれより）重かった者たちは、（その報奨を勝ち取った）成功者たちである。一方（善行の）秤が（悪行のそれより）軽かった者たちは、われら（アッラーのこと）のみしるしに不正を働いて（信仰しなかったことで）自らを破滅させた者たちである。**﴾（クルアーン７：8-9）

２－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「審判の日、肥ってこの上なく大きな男がやって来るが、彼はアッラーの御前においてハエの羽一枚ほどの重さもない。」そして彼（預言者）は言いました：「望むなら（クルアーンのこの句を）読むがいい：﴿**それで審判の日、われら（アッラーのこと）は彼らに何の重みも見出さない。**﴾」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[194]）

● **来世における不信仰者の行いに関して：**

---

193 サヒーフ・ムスリム（2808）。

194 サヒーフ・アル＝ブハーリー（4729）、サヒーフ・ムスリム（2785）。引用はアル＝ブハーリーから。

不信仰者と偽信者は、行いを受け入れられる条件である「イーマーン[195]」を備えていないため、アッラーに近付くために行った行為や服従行為などいかなる善行も受け入れられることがありません。彼らの行いは風が強く吹き荒れる台風の日の灰のように儚いものです。そして審判の日、彼らは全被造物の前で「彼らはその主に対して嘘偽りを語っていた者たちである。」と告げられます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そしてアッラーに対して嘘偽りをでっち上げた者たちよりも不正を働く者たちがいようか？彼らはその主にその行いを提示されることになるのである。そして証言者たちは言う：「彼らこそはその主に嘘偽りを語っていた者たちである。不正者たちにアッラーの呪が降りかからないことがあろうか？」﴾**（クルアーン 11：18）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿その主に嘘偽りを語っていた者たちの行いは、風が強く吹き荒れる台風の日の灰のようなものである。彼らには彼らの稼いだもので何も出来ることがない。実にこれこそはただならぬ迷妄である。﴾**（クルアーン 14：18）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿その日（不信仰者たちは、現世で預言者たちがその預言者性を証明するためにそうすることを要求していた）天使たちを目の当たりにする。その日不信仰者たちによき知らせはない。そして（天使たちは）彼らに言う：「あなた方は（天国を）禁じられている。」そしてわれら（アッラーのこと）は彼ら（不信仰者たち）の行ったものに赴き、それを粉々に飛び散る埃のようにしてしまう。﴾**（クルアーン 25：22－23）

● その日、人は自らの行いを目の当たりにすること：

審判の日、しもべたちの行いは提示されます。そして人はそれがいかに些細なものであれ甚大なものであれ、あるいは良いものであれ悪いものであれ、現世で行った全ての行いを目の当たりにすることになります。崇高なるアッラーは仰せられました：**﴿その日人々は自らの行いを目の当たりにするべく、散り散りになって出発する。それで小蟻一匹の重さほどでも善行を行った者は、（その日）それを目の当たりにする。そして小蟻一匹の重さほどでも悪行を行った者は、（その日）それを目の当たりにする。﴾**（クルアーン 99：6－8）

● 審判の日、年少者はどうなるか？

---

[195] 訳者注：「8. イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

信仰者の年少者たちは、信仰者の大人たちが人類の祖アーダム（アダム：彼にアッラーからの平安あれ）の姿で天国に入るように、彼らもまた天国に入ります。同様に、不信仰者の年少者たちも天国に入ります。そして大人たちがそこにおいて結婚するように、アッラーの恵みと慈悲によって彼らも結婚するのです。

そして現世で結婚しないまま亡くなった者でも、来世では結婚することになります。天国において独身者はいません。

●執り成し

● **執り成しとは**：誰かに対して何らかの援助を請うことです。

● **執り成しの種類**：審判の日の執り成しには 2 種類あります：

1－預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）特有の執り成し：それには数種類があります：

- 最も偉大なものである「最大の執り成し」です。それは審判の裁定を召集の台地において待つ人々がそれによって裁かれ、かつ執り成しを受けることが出来るものです。こうしてアッラーは彼らを裁かれますが、これがいわゆる預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の「賞讃に溢れた位階」[196]なのです。

- 預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の共同体に属する人々に対する執り成しで、70,000 人もの人々は清算なしに天国に入れます。このときアッラーは仰せられます：「あなたの共同体から清算のない者たちを、天国の右端の扉から入れるのだ。」

[196] 訳者注：アザーン（礼拝への呼びかけ）の後、次のように祈ることが推奨されています：「アッラーよ、この完成された呼びかけ（アザーンのこと）と行われる礼拝の主よ、ムハンマドに執り成しと栄誉を与え、あなたが彼に約束された“賞賛に溢れた位階”に彼を蘇らせたまえ（本当にあなたは約束を反故にされる事がありません）。」

● 善行と悪行が等しい量であった者たちが、天国に入れるようにする執り成し。

● 天国に入る者の内、その現世での行いの報奨として得られるはずだった天国での位階以上の位階にまで高める執り成し。

● 預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の叔父アブー・ターリブ[197]の地獄での懲罰を軽減するための執り成し。

● 全ての信仰者が天国に入るためのお許しを得るための執り成し。

2－預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）以外の預言者たち、諸天使、信仰者たちが有する執り成し：それはつまりムスリムの中で地獄に入るべき者がそこに入らないようにするための執り成しと、地獄に入ったものがそこから出るようにするための執り成しのことです。

● 至高なるアッラーは天使について、こう仰せられました：﴾**そしていかに多くの天使たちの執り成しが骨折り損であったことか。（彼らの執り成しは）アッラーがかれのお望みになる者（執り成し手）に（執り成しの）お許しを与えられ、かつ（アッラーが執り成しをされる者に）お悦びになられることなしには（益することはないのだ）。**﴿（クルアーン 53：26）

● アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「全ての預言者には叶えられる願い事がある。そして全ての預言者はその願い事を（叶えられるのを）急いでしまった。しかし私は私の願い事を、審判の日の執り成しのために温存しているのである。そしてそれは――アッラーがそうお望みになられれば――私の共同体の内の者で、アッラーに対して*シルク*[198]を犯さないまま他界した者全てが得ることになるだろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[199]）

---

197 訳者注：彼は預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の叔父で、彼を庇護していた祖父が他界した後、まだ幼かった彼の後見を引き継ぎました。また彼がマッカで布教を開始し、そのために迫害された時も彼を手厚く庇護し続けましたが、結局イスラームに改宗することはありませんでした。

198 訳者注：詳しくは「5．シルク」の章を参照のこと。

199 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6304）、サヒーフ・ムスリム（199）。引用はムスリムから。

● アブー・アッ＝ダルダーゥ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“殉教者は、その家系の 70 人に対する執り成しの権利を与えられる。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[200]）

● この執り成しが実現するには 2 つの条件が必要です：

1－アッラーからの執り成しのお許し：崇高なるアッラーは仰せられました：**﴾かれ（アッラー）のお許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか？﴿**（クルアーン 2：255）
2－執り成し手と執り成される対象両方に対する、アッラーのご満悦：崇高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾諸天にどれ程の数の天使がいたとしても、アッラーがお望みになられた、そのご満悦にあずかる者へのお許しが出された後でない限り、かれら（天使）の執り成しは何の役にも立たない。﴿**（クルアーン 53：26）

● 不信仰者に執り成しはなく、天国に入ることもなければ、永遠に地獄に住むことになります。例え誰かが彼のために執り成したとしても、それが彼を益することはありません。崇高なるお方は彼ら罪深き者たちに関して、こう仰せられました：**﴾彼らには執り成す者たちの執り成しも益することはない。﴿**（クルアーン 74：48）

●預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に執り成しを頼むこと

預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の執り成しを望む者は次のように「アッラーよ、あなたの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の執り成しをお恵みください。唯一なるアッラーへのイバーダ（崇拝行為）の誠実さによって執り成しを与えられるよう定められた正しい行いができますように。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に祝福がありますように。そして彼の執り成しをお恵みください。」と威力並びなく偉大なアッラーに請うのです。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました。「審判の日に私の執り成しを与えられる最も幸福な人々は、心からまたは魂から純粋に『アッラーの他に神はない』と言った者である。」（アル＝ブハーリーの伝承[201]）

---

[200] 真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（2522）。

[201] サヒーフ・アル＝ブハーリー（99）

●預言者たちの水辺

偉大かつ荘厳なるアッラーは全ての預言者に、水を飲むための水辺を一箇所授けられました。そして預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の水辺がその中で最も偉大かつ美味であり、審判の日に最も沢山の人が集まってくる場所なのです。預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）を信じ、死んでいった全ての者がそれを飲むのです。

●　預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の水辺の特徴：

1－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“私の水辺はその距離が一月の行程ほどもあり、その水は乳よりも白い。またその香りは麝香よりも芳しく、そのひしゃくは天の星々のようである。そして そこで飲んだ者は、以後決して喉が乾くことがない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[202]）

そして、次のように言われている。「その広さは縦も横も同じでアンマーン（現在のヨルダンの首都）からアイラ（シリアの一都市）までの距離ほどである。その水はミルクより

[202] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6579）、サヒーフ・ムスリム（2292）。引用はアル＝ブハーリーから。

も白く蜂蜜よりも甘い。」（ムスリムの伝承[203]）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「私の水辺の大きさは、アイラとイエメンのサヌアーゥほどもある。そしてそこには天の星の数ほどのひしゃくがある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[204]）

● **水辺から放逐される者：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「審判の日、何人か（３人から 10 人と言われている）の*サハーバ*（教友）が私のもとにやって来るが、水辺からは遠ざけられる。それで私は言う：“主よ、私の*サハーバ*（教友）が！”すると（アッラーは）仰せられる：“あなたは彼らがあなたの死後、何をしたのか知らないのだ。彼らは実にひどい背教の仕方でイスラームを棄てたのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[205]）

●スィラート（地獄の架け橋）

● ***スィラート*（地獄の架け橋）とは**：地獄の真上にかけられた橋で、信仰者はそこを渡って天国へと向かいます。

● ***スィラート*を渡る者：**

スィラートを渡る者はムスリムたちです。
不信仰者やシルク[206]の徒は現世で彼らが崇拝していた偶像や悪魔などの空虚な崇拝対象に従い、それらもろとも地獄に転落し、スィラートを渡ることはありません。
それから本心であれ偽善的であれ、外面上はアッラーのみを信仰していた者たちが残ります。架け橋が架けられているのは、彼らの前となります。それから偽信者たちが明らかになります。それは彼らがサジダ（平伏礼）出来なくなっていること、そしてその時信仰者

---

[203] サヒーフ・ムスリム（2300）。アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）による伝承。
[204] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6580）、サヒーフ・ムスリム（2303）。引用はアル＝ブハーリーから。
[205] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6585）。
[206] 訳者注：詳しくは「5. シルク」の章を参照のこと。

たちのみを包む光の存在で判明します。偽信者たちは光を求めて後方に退きますが、その時地獄へと転落します。一方信仰者たちはスィラート（地獄の架け橋）を渡りきり、天国へと向かいます：﴾**その日あなたは、信者の男と信者の女の、前の方や右側に、かれらの光が走るのを見るであろう。（かれらには言われるだろう。）「今日は、あなたがたへの吉報がある。川が下を流れる楽園のことである。永遠にその中に住むのである。それこそは、本当に偉大な幸福の成就である。」その日、偽信者の男女は、信者たちに言うであろう。「わたしたちを待ってくれ、あなたがたから光を借りたい。」（だがかれらには）言われよう。「後ろに引き返せ、そして光を求めなさい。」そこでかれらの間に壁が設けられる。そこに一つの門があるが、その内側には慈悲が、その外側には懲罰がある。かれら（偽信者たち）は、「わたしたちは、あなたがたと一緒ではないか。」と叫ぶであろう。かれら（信者たち）は言うであろう。「そうだ、だがあなたがたは自分の誘惑に任せ、（わたしたちの没落を）待ち望み、（主の約束に）疑いを抱き、虚しい望みに欺かれているうちに、アッラーの命令がやって来るに至った。欺瞞者が、アッラーに就いてあなたがたを欺いたのである。今日となっては、あなたがたの身代金は受け入れられないであろう。また（明らさまな）不信者たちはもちろんのこと。あなたがたの住まいは地獄の業火である。それはあなたがたの友である。何と悪い帰り所であることよ。」**﴿（クルアーン 57：12-15）

スィラート（地獄の架け橋）は清算と行為の提示の後の出来事です。

それらが終了した後に、人々はスィラートを渡ることになります。崇高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてあなた方は皆地獄（の架け橋）にやって来る。それはあなたの主が必ずご遂行されることなのである。それからわれら（アッラーのこと）は（わが怒りと懲罰を招くような行いから）自らを防いでいた者たちを救い出し、不正者たちをそこに取り残したまま放っておくのだ。**﴿（クルアーン 19：71-72）

● ***スィラート*（地獄の架け橋）とそこを渡る人々の光景：**

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）はアッラーとの謁見とスィラートの伝承の中で、こう伝えています：「私たち（伝承者を含む教友たちのこと）は言いました：“アッラーの使徒よ、スィラートとは何ですか？”　（預言者は）言いました：“それは足元が定まらず滑りやすい所で、その上には鉄鉤や鉄串、ナジュド地方で“サァダーン”と呼ばれている植物のそれのような湾曲した鋭いとげなどがある。信仰者はそこを瞬く間に、あるいは雷光や風（のように速く、また）、極上の馬や乗り物用の家畜に乗るように（それ相応の速さで）渡る。ある者は無事にそこを渡りきり、ある者は怪我をしながら渡り、またある者はそこから地獄の業火へと転落する。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[207]）

[207] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7439）、サヒーフ・ムスリム（183）。引用はムスリムから。

● 最初に*スィラート*（地獄の架け橋）を渡る者：

最初にスィラートを渡る者は、ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）とその共同体です。そしてスィラートを渡り切るのは信仰者だけであり、その際彼らはそのイーマーン[208]と現世での行いに応じて光を与えられます。そしてその光に応じた渡り方をします。また「信用」と「近親とのよき関係」が送られて来て、スィラートの右と左に置かれます。その日使徒たちは：「アッラーよ、無事に！無事に（渡らせて下さい）！」と祈ります。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がアッラーとの謁見に関する伝承の中で、次のように言ったことを伝えています：「そしてスィラートが地獄の業火の中央にかけられる。そして私と私の共同体は、最初にそこを渡りきる者たちである。その日は使徒たち以外誰も喋ることがない。そしてその日使徒たちは：“アッラーよ、無事に！無事に（渡らせて下さい）！と祈るのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[209]）

● 信仰者たちが*スィラート*（地獄の架け橋）を渡った後：

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「信仰者たちは地獄から救われると、今度は天国と地獄の間にあるカンタラ（アーチ型の門）の前で清算を受ける。そして現世で彼らの間に何か不正があれば、それをお互いに晴らすことになる。それから彼らが純化され清浄になったところで、天国に入ることが許される。ムハンマドの魂がその御手に委ねられたお方にかけて。天国の住人は現世で自分の家を知っているよりも詳しく、天国での自分の家を知っているのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[210]）

●来世の住処

● 人間の人生における段階

---

208 訳者注：「8. イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

209 サヒーフ・アル＝ブハーリー（806）、サヒーフ・ムスリム（182）。引用はムスリムから。

210 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6535）。

人はある段階から次の段階へと移り渡り、そしてある場所から違う場所へと移動します。つまりアッラーは、はじめに泥から人間を創造され、そしてその起源を泥から精液へと移行しました。そしてそれを血の塊とし、それから肉塊にしました。次にそれから骨を作り、その骨を肉で覆いました。その後、彼を他の生命体として創りあげました。こうして、現世へと出され、そして死に、墓に入ります。その後、彼を蘇らせ、審判の場所へと送り、そうして、来世で天国か地獄へ入ります。

１―至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾われは泥の精髄から人間を創った。次に、われはかれを精液の一滴として、堅固な住みかに納めた。それからわれは、その精滴を一つの血の塊に創り、次にその塊から肉塊を創り、次いでその肉塊から骨を創り、次に肉でその骨を覆い、それからかれを外の生命体に創り上げた。ああ、何と素晴しいアッラー、最も優れた創造者であられる。それから後、あなたがたは必ず死ぬ。それから復活の日に、甦らされるのである。﴿**（クルアーン 23：12-16）

２―至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾あなたがたは、必ずある段階から次の段階へと移りわたっていくであろう。﴿**（クルアーン 84：19）

● **来世の住処**

現世は行いの場です。そして来世はその報いの場です。しかしその行いと質問は、（天国または地獄へ入った後の）来世の住処まで途切れることはありません。それは墓の中の天使による死者への質問や、審判の日における被造物のアッラーへのサジダ（平伏礼の呼びかけ、（責任能力を有さない）狂人、また隔離の民（イスラームの正しい教えが到達しなかった地域・時代の者たち）への試練のように、死後、審判の日の復活までにおける諸々の出来事やその期間も途切れることはありません。その後、彼らのイーマーンと現世での行いに基づいて彼らの間が裁かれ、天国と地獄のグループにそれぞれ送られるのです。

１―至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾このようにアラビア語でクルアーンをあなたに啓示したのは、あなたが諸都市の母（マッカ）と、その周辺の者に警告し、また疑いの余地のない召集の日に就いて、（かれらに）警告を与えるためである。（その日）一団は楽園に、また一団は業火の中に（入ろう）。﴿**（クルアーン 42：7）

２―至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その日、大権はアッラーのものである。かれは、かれらの間を裁かれる。それで、信仰して善い行いをした者は、歓喜の楽園に入る。背信して、われの印を虚偽であるとした者には恥ずべき懲罰がある。﴿**（クルアーン 22：

56-57）

３―至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾（審判の）時が到来するその日には、（すべての人は）ちりぢりにされるであろう。その時、善行に勤しんだ者は、緑の野辺で、幸せにされよう。信仰を拒否しわが印と来世での（主との）会見を虚偽であるとした者は、懲罰に付せられよう。﴿**（クルアーン 30：14-16）

● 天国の様子

● **天国とは**：アッラーが来世において、信仰者の男女のためにご用意なされた安らぎの地です。

天国についての描写は、それ（天国）とその享楽及びその住人たちをお創りになられた崇高なるアッラーの啓典、そしてクルアーンと真正なハディースが示している通り、天国に足を踏み入れた方、すなわち預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の伝えた伝承に依拠することになります。

それはクルアーンと真正なハディースの光によってあなたに詳しく明らかにしてくれます。

● **天国のよく知られた名称：**

天国の本質は一つでありながら、その属性は数あまたです。そしてそのよく知られた名称には、以下のようなものがあります：

1－*アル＝ジャンナ*（天国、楽園）：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてアッラーとその使徒に従う者は、（アッラーが）彼をその下を河川の流れる楽園に入れよう。彼らはそこに永遠に留まるのだ。これこそはこの上ない勝利である。﴿**（クルアーン 4：13）

2－*フィルダウスの楽園*：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾信仰し善行に励む者たちこそには、*フィルダウス*の楽園がその住まいとして与えられよう。﴿**（クルアーン 18：107）

3－*アドゥン*（エデン）の楽園：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾これこそは一つのよき誉れである。そして*ムッタクーン*（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）にはよき帰り所がある。そのいくつもの扉が開け放たれた、アドゥンの楽園である。﴿**（クルアーン 38：49-50）

4－永遠の楽園：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾言え、「一体それ（地獄の業火）か、あるいはその報いと終着先として*ムッタクーン*（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）に約束された永遠の楽園の方がよいのか」﴿**（クルアーン 25：15）

5－安楽の楽園：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾信仰し善行に励む者たちにこそは、安楽の楽園がある。﴿**（クルアーン 31：8）

6－身を休める楽園：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾信仰している者が、主の掟に背く者と同じであろうか。かれらは決して同じではない。信仰し善行に励む者たちには、彼らが行っていた事に対し、その住まいとして身を休め避難させる楽園がある。﴿**（クルアーン 32：18-19）

7－安らぎの地（*ダール・アッ＝サラーム*）：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾彼らにはその主の御許に安らぎの地がある。そしてかれ（アッラー）こそは、彼らが（現世で）行っていたものゆえに彼らの庇護者なのである。﴿**（クルアーン 6：127）

● 天国の場所：

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして天にはあなた方の糧（の諸要因）と、あなた方が約束されているもの（天国あるいは地獄）がある。﴿**（クルアーン 51：22）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして彼（ムハンマドのこと）は再度彼（ジブリール）を見た。最果ての*スィドラ*の木の下で。そこには身を安らげる楽園がある。﴿**（クルアーン 53：13 - 15）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーから

の祝福と平安あれ）は言いました：「“アッラーとその使徒を信じ、サラー（礼拝）をし、ラマダーンのサウム（斎戒、いわゆる断食）をする者は、アッラーに天国へ入れて頂く権利があろう。たとえ彼がアッラーの道において移住したとしても、あるいは生まれた土地に留まっていたとしても。”（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、人々にそれを伝えるべきではないでしょうか？”（預言者は）言いました：“天国には 100 の位階がある。アッラーはかれの道における*ムジャーヒドゥーン*（様々な形で力の限り奮闘する者たち）にそれをご準備されたのだ。各位階の間は天地の差ほどもある。ゆえにアッラーに乞うときは、*フィルダウス*を乞うのだ。それこそは最も中心にあり高位に属する天国なのである。そしてその上には最も慈悲深きお方の玉座があり、そこから天国の河川が湧き出るのだ。”」（アル＝ブハーリーの伝承[211]）

4－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によればアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「信仰者に死が訪れると、彼の下には慈悲の天使がやってくる。そしてその魂が引き抜かれると、それは純白の絹に包まれてその天使とともに天の扉へと舞い上がる。そして彼らは言うのだ：“このようなよい香りは嗅いだことがない・・・”」（アル＝ハーキムとイブン・ヒッバーンの伝承[212]）

● **天国の各門の名称：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によるとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーの道において 2 種類の財産から施した者は、天国の諸門からこう呼びかけられる：“アッラーのしもべよ、これはよいことだ。”またサラー（礼拝）の徒は、サラーの門から呼びかけられる。またジハード（奮闘努力すること）の徒であればジハードの門から、サウム（斎戒、いわゆる断食）の徒であれば*アッ＝ライヤーン*門から呼ばれる。またサダカ（施し）の徒であれば、サダカの門から呼ばれる。」そこでアブー・バクル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒よ、あなたは私の両親をもってしても代え難いお方。その内どれか一つの門から呼ばれれば十分ではありますが、それらの門全てから呼びかけられる者はいますか？」（預言者は）言いました：「その通り、そしてあなたがそうであることを望む。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[213]）

● **天国の諸門の広さ：**

---

[211] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7423）。

[212] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（1304）、サヒーフ・イブン・ヒッバーン（3013）。

[213] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1897）、サヒーフ・ムスリム（1027）。引用はアル＝ブハーリーから。

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある日アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に一片の肉が持って来られました――そしてこの伝承の最後にはこうあります――“ムハンマドの魂がその御手に委ねられているお方に誓って。天国の一つの門から別の門までの距離は、マッカからハジャル、あるいはマッカからブスラー[214]ほどもあるのである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[215]）

2－ウトゥバ・ブン・ガザワーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「天国の諸門の間の間隔は40年（もの行程）に相当しますが、それが押し寄せる人波でぎっしり埋め尽くされる日がやってくる、と私たちは聞きました。」（ムスリムの伝承[216]）

● **天国の門の数：**

１―至高なるアッラーは仰せられました：﴾**これこそは一つのよき誉れである。そしてムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）にはよき帰り所がある。そのいくつもの扉が開け放たれた、*アドゥン*の楽園である。**﴿（クルアーン 38：49-50）

２―至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてその主（のお怒りと懲罰を招くような行い）に対して身を慎んでいた者たちは、一団となって天国へと連れてゆかれる。そしてそこに到着するとその諸門は開かれ、その門番たちは彼らにこう言う：「あなた方に（この日全ての悪から）平安あれ。あなた方は（現世において）よく行いました。永遠に天国の中に入るのです。**﴿（クルアーン 39：73）

３―サハル・ブン・サアド（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国には８つの門がある。そこにはサウム（斎戒、いわゆる断食）の徒であった者たちしか入ることのない“*アッ＝ライヤーン*”と呼ばれる門がある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[217]）

● **現世において、その諸門が開く時：**

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の諸門は月曜日と木曜日に開かれ、そ

---

[214] 訳者注：ハジャルはバハレーン地方に所在する町と言われます。またブスラーはシリア地方の一都市です。

[215] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4712）、サヒーフ・ムスリム（194）。引用はムスリムから。

[216] サヒーフ・ムスリム（2967）。

[217] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3257）、サヒーフ・ムスリム（1152）。引用はアル＝ブハーリーから。

してアッラーに何ものをも並べて崇めない全てのしもべの罪は赦される。しかし相互に怨み合う 2 人の同胞は別であり、アッラーは――３度続けて――こう仰せられる：“この 2 人の間の仲が修復されるまで、彼ら（の罪が赦されるの）をひとまず保留するのだ。”」(ムスリムの伝承[218])

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「ラマダーン月が到来すると、天国の諸門は開かれ、地獄の諸門は閉じられる。そしてシャイターン（悪魔）たちは縛り止められるのだ。」((アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[219])

3－ウマル・ブン・アル＝ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“*ウドゥー*[220]をまんべんなく行い、「*アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラー、ワ・アンナ・ムハンマダン・アブドフ・ワ・ラスールフ*（私はアッラーの他に真に崇拝すべき存在はなく、ムハンマドはそのしもべであり使徒である、と証言します)」と言う者には誰にでも、天国の８つの門が開け放たれる。そして彼はその内の望む門から入ることが出来るのだ。”」（ムスリムの伝承[221])

● **最初に天国に入る者：**

アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私は審判の日に天国の門の前に来ると、それを開けるよう命じる。すると門番は言う：“あなたは誰ですか？”私は言う：“ムハンマドだ。”すると彼は言う：“あなたがいらっしゃるまでは、誰にも門を開けぬようにと言付けられていました。”」（ムスリムの伝承[222])

● **最初に天国に入る民：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“私たち（ムスリム）は（啓典の民の内で）最後尾の者であるが、審判の日には先頭に立つのである。そして私たちは最初に天国

---

[218] サヒーフ・ムスリム（2565）。
[219] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3277）、サヒーフ・ムスリム（1079）。引用はアル＝ブハーリーから。
[220] 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。
[221] サヒーフ・ムスリム（234）。
[222] サヒーフ・ムスリム（197）。

に入る民なのだ。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[223])

●　最初に天国に入る一団の様子：

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“最初に天国に入る一団は、満月の夜の月のような姿である。そしてその次に入る者たちは、天に最もまばゆい煌く惑星の姿である。彼らは排尿もしなければ、唾を吐くことも鼻を垂らすこともない。彼らの櫛は金で、彼らの汗は麝香である。また彼らの香炉は香木で、その配偶者たちは白眼と黒眼のはっきりした乙女たちである。また彼らは皆、天に 60 腕尺もの高さにそびえる彼らの父祖、アーダムの姿なのである。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[224])

2－サハル・ブン・サアドによれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私の民から必ずや 70,000 あるいは 700,000 人の者が、互いに結びつきながら天国に入る。彼らは（皆一勢に天国に入るのであり、）最後の者が（天国に）入るまで最初の者が入ることはない。彼らの顔は満月の夜の月の形をしている。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[225])

3－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“ムハージルーン[226]の貧しき者たちは審判の日、金持ちたちに 40 年先駆けて天国へ入るであろう。”」(ムスリムの伝承[227])

●　天国の住民の年齢：

ムアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の住民たちは体毛も顎鬚もなく、コフル[228]を眼につけた 30 才、あるいは 33 才の状態で天国に入る。」(アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[229])

---

[223] サヒーフ・アル＝ブハーリー（876）、サヒーフ・ムスリム（855）。引用はムスリムから。
[224] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3327）、サヒーフ・ムスリム（2834）。引用はアル＝ブハーリーから。
[225] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6543）、サヒーフ・ムスリム（219）。引用はムスリムから。
[226] 訳者注：マッカからマディーナへ移住した初期のムスリムたち。
[227] サヒーフ・ムスリム（2979）。
[228] 訳者注：眼病の予防などのために睫毛周りに付けられる、黒い粉。
[229] 良好な伝承。ムスナド・アフマド（7920）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2545）。引用はスナン・アッ＝ティルミズィーから。

● **天国の住民の顔の描写：**

１－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実によく（アッラーに）従った者たちは、（天国の）安寧の中にある。（彼らは）寝台から（その恩恵に溢れた光景を）眺め見る。あなたは彼らの顔に安寧の輝きを見出すことであろう。**﴿（クルアーン 83：22－24）

２－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**その日顔々は輝く。その主を眺めて。**﴿（クルアーン 75：22-23）

３－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**その日顔々は美しい。（現世で）努力したもの（の報い）に満悦して、天国の高みで。**﴿（クルアーン 88：8－10）

４－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**その日、顔々は光をほとばしらせる。歓喜し悦楽して。**﴿（クルアーン 80：38-39）

５－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして一方その顔が白く輝く者たちは、アッラーのご慈悲のもとにあり、そこに永遠に留まる。**﴿（クルアーン 3：107）

６－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**それでアッラーは、その日の災厄からかれらを守り、素晴しい喜びを与えられる。**﴿（クルアーン 76：11）

７－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「最初に天国に入る一団は満月の夜の月の姿である。そしてそれに続く者たちは、天で最も美しく輝く煌く惑星のようである。彼らの心は一つであり、彼らの間には憎しみ合いや嫉妬などが存在しない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[230]）

● **天国の住民のやって来る光景：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてその主（のお怒りと懲罰を招くような行い）に対して身を慎んでいた者たちは、一団となって天国へと連れて行かれる。そしてそこに到着するとその諸門は開かれ、その門番たちは彼らにこう言う：「あなた方に（この日全ての悪から）平安あれ。あなた方は（現世において）よく行いました。永遠に天国の中に入るのです。**﴿（クルアーン 39：73）

---

[230] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3254）、サヒーフ・ムスリム（2834）。引用はアル＝ブハーリーから。

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして天使たちは（天国の）全ての門にある彼らの下にやって来て、言う：「あなた方が耐え忍んできたものゆえに、あなた方に平安あれ。あなた方が終着した住まいの、何と素晴らしいことか。」﴿**（クルアーン 13：23-24）

3－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾最大の恐怖（審判の日の恐ろしい出来事の数々）は彼ら（天国の徒）を悲しませることがない。天使たちは（天国の門の前で）彼らを迎え、こう言うのだ。「この日こそは、あなた方が約束されていた日なのです。」﴿**（クルアーン 21：103）

● **清算も懲罰も受けることなく天国に入ることの出来る人たち：**

1－イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“私の目の前に（来世での）様々な民（の様子）が提示された。私はその民と共にやって来る預言者や、集団を引き連れてくる預言者を目にした。また 10 人しか追従者のいない者や、5 人しか引率していない者、さらには誰一人として追従者のいない預言者も目にした。私がふと（遠くを）眺めると、大きな集団を発見したので、ジブリール（ガブリエル）に「彼らは私の民か？」と訊いた。

しかしジブリールは言った：「いや。しかし地平線の方を見よ。」それで見てみると、そこには大きな集団があった。ジブリールは言った：「彼らがあなたの民である。そして（今見えている）先頭の 70,000 人は清算も懲罰もない者たちなのだ。」私は言った：「何故？」（ジブリールは）言った：「彼らは焼きごてで治療せず、魔除けもせず、ある物事を吉凶と考えたりもせず、彼らの主のみに*タワックル*（全てを委ねること）していた者たちである。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[231]）

2－アブー・ウマーマ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“崇高なる我が主は、私の民から 70,000 人の者が清算も懲罰もなしに天国に入ることをお約束された。彼らの内の各 1,000 人には更に 70,000 人が同行し、さらには偉大で荘厳なるわが主がその両手で 3 回すくい上げられる（数だけの者もそこに含まれる）。」（アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[232]）

● **天国の地とそこにある建物などの様子**：

---

[231] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6541）、サヒーフ・ムスリム（220）。引用はアル＝ブハーリーから。

[232] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2437）、スナン・イブン・マージャ（4286）。引用はイブン・マージャから。

1－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は昇天に関する伝承において、こう言いました：「・・・それからそこを出発し、最果てにある*スィドラ*の木にまで到着した。その木は私の知らない様々な色で覆われていた。それから私は天国に入れられた。そしてそこには真珠のドームの数々があり、その砂は麝香であった。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[233]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちは言いました："アッラーの使徒よ、・・・天国の建物とはどのようなものですか？"（預言者）は言いました："そのレンガは金銀からなり、漆喰は芳しい麝香である。また（天国の）小石はルビーや真珠で、砂はサフランなのだ。そこに入った者には安楽があり、何の害も被らない。また永遠に生き、死ぬこともない。また彼らの衣服がほころびる事もなければ、若さが去り行くこともない。"」（アッ＝ティルミズィーとアッ＝ダーリミーの伝承[234]）

3－アブー・サイード（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、イブン・サイヤード（彼にアッラーのご満悦あれ）は預言者に天国の砂について尋ねました。預言者）は言いました：「（それは）純白できめ細かく、純粋な麝香である。」（ムスリムの伝承[235]）

- **天国の住民の天幕：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾天幕の中に留まっている美しい乙女たち。﴿**（クルアーン 55：72）

2－アブドッラー・ブン・カイス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国における信仰者の天幕は中空になった一つの真珠であり、その長さは 60 マイルもある。また彼には多くの配偶者がおり、そこを巡って歩くのだが、お互いを見ることはないのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[236]）

- **天国の市場：**

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国には毎金曜日、人々が訪れる市場

---

[233] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3342）、サヒーフ・ムスリム（163）。引用はアル＝ブハーリーから。
[234] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2526）、スナン・アッ＝ダーリミー（2717）。引用はアッ＝ティルミズィーから。
[235] サヒーフ・ムスリム（2928）。
[236] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4879）、サヒーフ・ムスリム（2838）。引用はムスリムから。

がある。そこでは北風が吹くが、それが彼らの顔や衣服に触れると、彼らはより美しく華やかになる。彼らは更なる美しさや華やかさをたたえつつ家人の下に戻るが、彼らを見た家人たちはこう言う：“アッラーにかけて。あなた方は私たちと離れた後、美しく華やかになった。”すると彼らもこう返す：“そしてあなた方も私たちと離れた後、美しく華やかになった。”」（ムスリムの伝承[237]）

● **天国の宮殿：**

偉大かつ荘厳なアッラーは心が渇望し、また目にも麗しい天国の宮殿をお創りになりました。

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーは男女の信仰者に、その下を河川の流れる天国を創られた。彼らはそこに永遠に留まる。そしてアドゥンの楽園の中にある、よき住まい。そしてアッラーのご満悦こそは（これら全ての内で）最大のものである。実にこれこそはこの上ない勝利なのだ。**﴿（クルアーン 9：72）

● **天国の宮殿における人々の位階の差：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **そして（天国に）目をやれば、あなたはえも言われぬ安楽と巨大な王国を目にしよう。**﴿（クルアーン 76：20）

2－アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の民はその位階においてそれぞれ異なっている。彼らはちょうど東西の地平線に消え行く煌く惑星の位置がそれぞれ異なるように、その上の階に住む者がその下の階の者を見下ろしている。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[238]）

● **天国の民の部屋：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **そして信仰し善行に励む者たちは、われら（アッラーのこと）がその下を河川の流れる楽園の部屋々々に住まいを与えよう。彼らはそこに永遠に留まる。勤行者たちの報いの何と素晴らしいことか。**﴿（クルアーン 29：58）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**しかしその主（のお怒りと懲罰を招くような行為）から身を慎む者たちには、その下を河川が流れる部屋々々を与えよう。その上には**

---

[237] サヒーフ・ムスリム（2833）。

[238] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3256）、サヒーフ・ムスリム（2831）。引用はムスリムから。

更に部屋々々があるのだ。（これこそ）アッラーのお約束されたもの。アッラーはそのお約束を破棄されることはない。 ﴾（クルアーン 39：20）

3－アリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“天国にはその内側から外側が、そして外側から内側が見える部屋々々がある。”すると一人のベドウィンの男が立ち上がり、言いました：“アッラーの使徒よ、それは誰のものですか？”（預言者）は言いました：“よい言葉を施し、*サウム*（斎戒、いわゆる断食）に励み、人々が就寝中に*サラー*（礼拝）する者のものだ。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[239]）

● **天国の民の臥所：**

１－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**（彼らは）その裏地が絹の敷物の上で、ゆったり休んでいる。**﴾（クルアーン 55：54）

２－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**高く上げられた（位階の）臥所に（着く）。**﴾（クルアーン 56：34）

● **天国の民の敷物と枕：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿ **そして並んで置かれた枕。また広げられた敷物。**﴾（クルアーン 88：15-16）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**彼らは緑色の寝室と、極上の敷物の上に身を休ませている。** ﴾（クルアーン 55：76）

● **天国のソファー：**

それは幕によって覆われた寝台、あるいはクッション付きのソファーを指します。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**実によく（アッラーに）従った者たちは、（天国の）安寧の中にある。（彼らは）寝台から（その恩恵に溢れた光景を）眺め見る。**﴾（クルアーン 83：22-23）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿ **（彼らは楽園の中で）ソファーに寄りかかっ**

---

[239] 良好な伝承。ムスナド・アフマド（1338）、スナン・アッ＝ティルミズィー（1984）。

ている。そこでは酷暑も酷寒もない。﴿（クルアーン 76：13）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾その日天国の民は（数え尽くせぬ多くの）享楽に悦楽に浸っている。彼らとその配偶者たちは、日陰の中ソファーに寄りかかっている。﴿（クルアーン 36：55-56）

● 天国の民の寝台：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾そしてわれら（アッラーのこと）は彼らの心から憎しみを取り除き、（天国において）寝台の上に互いに向かい合う兄弟とした。﴿（クルアーン 15：47）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾（彼らは）並んだ寝台の上に寄りかかっている。そしてわれら（アッラーのこと）は彼に麗しい乙女たちをめとらせる。﴿（クルアーン 52：20）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾（彼らは宝石などが）織り込まれた寝台の上に、互いに向き合った形で寄りかかっている。﴿（クルアーン 56：15-16）

4－至高なるアッラーは仰せられました：﴾そこには高く設えられた寝台がある。﴿（クルアーン 88：13）

● 天国の民の食器類：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾彼ら（天国の民）のもとを永遠の少年たちが廻る。杯と水差し、（美酒が流れる川からの）盃を携えて。﴿（クルアーン 56：17-18）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾（彼らのもとに）金の皿と杯が運ばれてくる。そこには（天国の民の）望み、眼を喜ばせるものがある。そしてあなた方はそこに永久に留まるのだ。﴿（クルアーン 43：71）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾そして（彼らのもとに）銀の食器類と杯が運ばれてくる。そして瓶は銀製で、（給仕の少年たちはそれで飲みたいだけ）注いでくれる。そしてそこ（天国）において、彼らは生姜の混ぜられた（飲み物の）杯から飲み物を得る。﴿（クルアーン 76：15-17）

4－アブドッラー・ブン・カイス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「そこにある食器類とそこにある全てのものが銀である 2 つの銀の天国。そしてそこにある食器類とそこにある全てのものが黄金である 2 つの黄金の天国。そしてアドゥンの楽園において人々と彼らの主を遮るものは、その御顔に召された一枚の荘厳なる衣しかないのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[240]）

● **天国の民の衣服と装飾品：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にアッラーは信仰し善行に励む者たちを、その下を河川が流れる天国に入れられる。そしてそこにおいて彼らを黄金のブレスレットと真珠で飾られ、そこにおける彼らの衣服は絹である。**﴿（クルアーン 22：23）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そこにおいて彼らは黄金のブレスレットで飾られ、また緑色の薄手の絹と重厚な絹地の衣をまとい、ソファーの上に寄りかかっている。何と素晴らしい報奨と、集まり所であろうか？**﴿（クルアーン 18：31）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **彼らの上には緑色の薄い絹と重厚な絹の衣が羽織らされ、また銀のブレスレットでもって飾り立てられる。そして主は、彼らに清浄な飲み物を与えられる。「本当にこれはあなたがたに対する報奨である。あなたがたの努力が受け入られたのである。」（と仰せられよう）。**﴿（クルアーン 76：21-22）

● **天国において初めに衣服を着せられる者：**

イブン・アッバース（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「・・・そして審判の日、衣を着せられる最初の被造物は、アッラーの親しき友イブラーヒームである。」（アル＝ブハーリーの伝承[241]）

● **天国の民の給仕：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**彼ら（天国の民）のもとを永遠の少年たちが廻る。杯と水差し、（美酒が流れる川からの）盃を携えて。**﴿（クルアーン 56：17-18）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして彼らの間を永遠の少年たちは行き交う。**

---

240 サヒーフ・アル＝ブハーリー（7444）、サヒーフ・ムスリム（180）。

241 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6526）。

あなた方が彼らを見れば、散りばめられた真珠かと思うであろう。﴿（クルアーン 76：19）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして彼らの間を、彼らのための給仕の少年たちが行き交う。彼らはまるで（まだ手のつけられていない）秘められた真珠のようである。**﴿（クルアーン 52：24）

● **天国の民が最初に口にするもの：**

1－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アブドッラー・ブン・サラーム（彼にアッラーのご満悦あれ）は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に、天国の民が最初に口にするものについて訊ねました。それに対し（預言者は）答えました：「鯨の肝臓の端である。」（アル＝ブハーリーの伝承[242]）

2－サウバーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとで立っていると、一人のユダヤ教徒の学僧がやって来ました――そしてこの伝承には次のような箇所があります――するとそのユダヤ教徒は言いました：“一番最初に*スィラート*（地獄の架け橋）[243]を渡ることを許されるのは誰ですか？” （預言者）は言いました：“*ムハージルーン*[244]の貧しい者たちだ。” （そのユダヤ教徒は）言いました：“天国に入る時に与えられるものは？” （預言者）は言いました：“鯨の肝臓の端である。” （そのユダヤ教徒は）言いました：“その直後の彼らの食事は何ですか？” （預言者）は言いました：“天国の端々で（草を）はんでいた天国の雄牛が、彼のために屠られる。” （そのユダヤ教徒は）言いました：“それと共に何を飲むのですか？” （預言者）は言いました：“*サルサビール*と呼ばれる泉から（飲むのだ）。”」（ムスリムの伝承[245]）

● **天国の民の食べ物：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**あなた方の伴侶と共に喜悦しつつ天国に入るのだ。（彼らのもとに）金の皿と杯が運ばれてくる。そこには（天国の民の）望み、眼を喜ばせるものがある。そしてあなた方はそこに永久に留まるのだ。**﴿（クルアーン 43：70-71）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾***ムッタクーン*（アッラーのお怒りと懲罰を招**

---

[242] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3329）。

[243] 訳者注：詳細については「最後の日への信仰⑤ - スィラート（地獄の架け橋）の項」参照。

[244] 訳者注：マッカからマディーナへ移住した初期のムスリムたちのこと。

[245] サヒーフ・ムスリム（315）。

くような事柄から身を慎む者たち）が約束された天国とは、河川がその下を流れており、そこにおいては食べ物が尽きることはなく、蔭も消え去ることがない。﴿（クルアーン 13：35）

3－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして（給仕の少年たちは）彼らの好む果実と、彼らの望みのままの鶏肉を（も携えて来る）。﴿**（クルアーン 56：20-21）

4－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾ あなた方が現世において励んだ（よき）ことゆえに、心地よく飲み食いするがよい。﴿**（クルアーン 69：24）

5－アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“審判の日、大地は一片のパンと化す。全てを制される強大なお方（アッラーのこと）は、ちょうどあなた方が旅行前にパンを作るように大地をパンにお変えになるが、それは天国の住人に供される食物となるのである。――そしてこの伝承の中に次のような箇所があります――すると一人のユダヤ教徒の男がやって来て、言いました：「彼らが（それと共に）付け合せ（て食べ）るものを教えてやろうか？」彼は（続けて）言いました：「彼らの付け合せは“バーラーム[246]“と鯨だ。」（教友たちは）言いました：「それは何だ？」男は言いました：「雄牛と鯨のことである。それらの肝の端から 70,000 人の者たちが食するのだ。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[247]）

6－ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“天国の民はそこで食べ、飲むが、唾を吐いたり排便をしたり鼻を垂らしたりすることがない。”（教友たちは）言いました：“それでは食べ物はどこへ行くのですか？” （預言者）は言いました：“（それらは）げっぷと汗になる。彼らの汗は麝香のように芳しい。また彼は呼吸をするごとく、主の崇高さを称え賛美するのだ。”」（ムスリムの伝承[248]）

7－ウトゥバ・ブン・アブド・アッ＝サラミー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共に座っていると、ベドウィンの男が一人やって来て、言いました：“アッラーの使徒よ、現世において最も多くの棘を有する木――つまりアカシアのこと――が天国にもある、とあなたが言うのを聞いた。”するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：

---

[246] 訳者注：ヘブライ語と言われます。

[247] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6520）、サヒーフ・ムスリム（2792）。引用はムスリムから。

[248] サヒーフ・ムスリム（2835）。

“実にアッラーは（天国において）その全ての棘を、毛長の雄山羊の睾丸──つまり去勢されて落ちた──のようなものにされる。そしてその中には70色もの食べ物が入っており、各々の色はそれ以外の別の色に似ることがない。”」（アッ＝タバラーニーの伝承[249]）

● **天国の民の飲み物：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **実にアッラーによく従った者たちは樟脳が混ぜられた（飲み物の）杯によって飲む。**﴿（クルアーン76：5）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてそこ（天国）において、彼らは生姜の混ぜられた（飲み物の）杯から飲み物を得る。**﴿（クルアーン76：17）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **（彼らは）封印された最上の美酒を飲まされる。その最後の風味は麝香である。そしてそれを望み求める人々を（よき行いに）競い合わせよ。そしてそれにはタスニーム[250]が混ぜられている。（それは）アッラーにより近くある（栄誉ある）者たちがそこから飲むところの泉である。** ﴿（クルアーン83：25-28）

4－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“*アル＝カウサル*は天国の河川である。その両岸は黄金で、川底は真珠とルビー、その砂は麝香よりも芳しく、水は蜜より甘美で雪より白い。”」（アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[251]）

● **天国の木々とその果実：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして木々は（彼らを）その蔭で覆う。そしてその果実の房は（容易に手が届く高さにまで）垂れ下がっている。**﴿（クルアーン76：14）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ ***ムッタクーン*（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）は（涼しく心地よい）日陰といくつもの泉のもとにある。そして彼らが望むいかなる果実も。**﴿（クルアーン77：41－42）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そこで（彼らは）ゆったりと寄りかかり、多**

---

[249] 真正な伝承。アッ＝タバラーニーのアル＝カビール（7／130）、ムスナド・アッ＝シャーミーイーン（1／282）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2734）参照。

[250] 訳者注：天国における最も貴い飲み物と言われます。

[251] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（3361）、スナン・イブン・マージャ（4334）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

くの果実と飲み物を（好きなだけ）運んで来させる。》（クルアーン 38：51）

4－至高なるアッラーは仰せられました：**《そして彼らにはそこで、ありとあらゆる果実があるのだ。》**（クルアーン 47：15）

5－至高なるアッラーは仰せられました：**《ムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）には（真の）勝利がある。緑の園の数々と葡萄園。》**（クルアーン 78：31-32）

6－至高なるアッラーは仰せられました：**《そこにはありとあらゆる果実が 2 種類ずつある。》**（クルアーン 55：52）**《そこには全ての果実とあらゆるナツメヤシの木々、ザクロもある。 》**（クルアーン 55：68）

7－至高なるアッラーは仰せられました：**《彼らは（そこであらゆる不幸や悪や害などから）平穏な状態で、あらゆる果実を運んで来させる。 》**（クルアーン 44：55）

8－至高なるアッラーは仰せられました：**《そして右側の徒。右側の徒とは何か？（彼らは）棘のないスィドラの木々の蔭にいる。そして重なり茂るアカシア[252]の木々。去り行くことのない大きな日陰。いつでもどこにでも（彼らの近くを）流れ、注がれる水。そして豊富な果物。（それらは）途絶えてしまうことも禁じられることもない。》**（クルアーン 56：27－33）

9－至高なるアッラーは仰せられました：**《（彼らは）天国の高きにある。果物の房は（彼らに向かって）垂れ下がっている。（そして彼らにはこう言われる：）「あなた方が現世において励んだ（よき）ことゆえに、心地よく飲み食いするがよい。」》**（クルアーン 69：22－24）

10－マーリク・ブン・サアサア（彼らにアッラーのご満悦あれ）の伝える預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の昇天に関する伝承の中には、次のような記述があります：・・・預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「そして私の前に天の最果てにある*スィドラ*の木がそびえ立った。その実は*ハジャル*[253]の水瓶のよう（に巨大）で、その葉は巨象の耳のようである。そしてその根元には 4 本の河川――その内 2 本は地下で、もう 2 本は地表である――が流れる。私はジブリール（ガブリエル）に訊ねた。すると彼は答えて言った：“地下の 2 本は天国のもので、地表を流れるものはナイル川と

---

[252] 訳者注：前出のウトゥバのハディース参照のこと。

[253] 訳者注：バハレーン地方の町の名と言われます。

ユーフラテス川である。”」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承[254])

11－アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国には、痩身で敏速の駿馬の騎手がその蔭を 100 年かけても踏破することの出来ない一本の木がある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[255]）

12－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国にある全ての木々の根は、黄金でできている。」（アッ＝ティルミズィーの伝承[256]）

● **天国の河川：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾ **実に信仰し善行に励む者たちには、その下を河川の流れる楽園がある。それこそは大きな勝利なのだ。**﴿（クルアーン 85：11）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**ムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）に約束された天国とは、このようなものである：そこには淀むことのない水が流れる川と、その風味の変化することのない乳の流れる川、そして飲む者に心地よい美酒の流れる川と純粋な蜜の流れる川がある。そしてそこには彼らのためにありとあらゆる果実と、主からのお赦しがあるのだ。** ﴿（クルアーン 47：15）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）は楽園と河川のもとにある。（彼らは）全能の王者の近く、（嘘や戯れ事などのない）真実の座り所にあるのだ。** ﴿（クルアーン 54：54－55）

4－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私が天国を歩いていると、その両岸に中空の真珠のドームが並んでいる川に辿り着いた。私は言った：“ジブリール（ガブリエル）よ、これは何か？”（彼は）言った：“これこそ主があなたに授けられた、*アル＝カウサル*川である。そしてその香り、あるいは土は芳しい麝香であった。”」（アル＝ブハーリーの伝

---

[254] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3207）、サヒーフ・ムスリム（162）。引用はアル＝ブハーリーから。
[255] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6553）、サヒーフ・ムスリム（2828）。引用はアル＝ブハーリーから。
[256] スナン・アッ＝ティルミズィー（2525）。

承[257]）

5－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“サイハーン川とジャイハーン川、ユーフラテス川とナイル川、それら全ては天国（から）の河川である。”（ムスリムの伝承[258]）

● **天国の泉：**

１－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）は緑の園々といくつもの泉のもとにある。**﴿（クルアーン 15：45）

２－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**実にアッラーによく従って者たちは樟脳が混ぜられた（飲み物の）杯によって飲む。（それは）アッラーのしもべたちが飲むところの泉。彼らはそれを（いつでもどこでも気の赴くままに）噴き出させる。**﴿（クルアーン 76：5-6）

３－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてそれにはタスニーム[259]が混ぜられている。（それは）アッラーにより近くある（栄誉ある）者たちがそこから飲むところの泉である。**﴿（クルアーン 83：27-28）

4－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そこには流れ出る 2 つの泉がある。**﴿（クルアーン 55：50）﴾**そこには吹き出る 2 つの泉がある。**﴿（クルアーン 55：66）

5－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてそこ（天国）において、彼らは生姜の混ぜられた（飲み物の）杯から飲み物を得る。そして*サルサビール*と名付けられた泉から。**﴿（クルアーン 76：17－18）

● **天国の女性たち：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラー（のお怒りと懲罰を招くような行い）において身を慎む者たちには、その主の御許にその下を河川の流れる楽園がある。彼らはそこに永遠に留まる。（そこには）清浄な配偶者たちがおり、アッラーのご満悦がある。アッラーはそのしもべたちの全てをご覧になられているのだ。**﴿（クルアーン 3：15）

---

[257] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6581）。

[258] サヒーフ・ムスリム（2839）。

[259] 訳者注：天国における最も貴い飲み物と言われます。

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**高く上げられた（位階の）臥所に（着く）。実にわれら（アッラーのこと）は彼女たちをこしらえた。そして彼女らを（永遠の）乙女とし、愛しい同年輩のものとした。（これらは全て）右側の徒のためである。（彼らは）先人たちからの者が多く、また後世の者たちからも多い。**﴾（クルアーン 56：34－40）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そして彼らのもとには、その眼が彼らのみに向けられた、美しい眼の乙女たちがいる。彼女たちはまるで秘められた白い卵のようである。**﴾（クルアーン 37：48-49）

4－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そして美しい乙女たち。彼女たちは秘められた真珠のよう。（それらは）彼らが（現世で）励んでいたことに対する報奨なのである。**﴾（クルアーン 56：22－24）

5－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そこにはそれ以前に人間もジンも触れることのなかった、その視線を彼らのみに向けた乙女たちがいる。一体あなた方（人間とジン）は主のいかなる恩恵を嘘だと言うのか彼女たちは小粒の美しい真珠とサンゴのようである。**﴾（クルアーン 55：56－58）

6－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そこには最良の美しい乙女たちがいる。一体あなた方（人間とジン）は主のいかなる恩恵を嘘だと言うのか天幕の中に留まっている美しい乙女たち。**﴾（クルアーン 55：70－72）

7－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーの道において昼遅く出発すること、あるいは朝早く出発することは、現世とそこにあるもの全てよりも優れている。そして天国における弓一本ほどの、あるいは鞭一本ほどの場所は、現世とそこにあるもの全てよりも優れている。そしてもし天国の女性の一人が地上の者たちを一瞥すれば、その間を光で照らし、芳香で満たしたことであろう。そして彼女が頭にまとったベールは、現世とそこにある全てよりも優れている。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[260]）

8－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「実に天国に入る最初の一団は、満月の夜の月の姿である。そして彼らに続く一団は、天に最も明るく輝く惑星（の姿）である。彼ら一人ひとりには 2 人の妻たちがいる。そしてそのすねの骨髄は、肉から透けて見える（ほ

[260] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2796）、サヒーフ・ムスリム（1880）。引用はアル＝ブハーリーから。

どに白い)。天国に独身者はいないのだ。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[261])

● **天国の香り：**

天国の香りは、天国の民の位階によって異なります。

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“最初に天国に入る一団は、満月の夜の月のような姿である。そしてその次に入る者たちは、天に最もまばゆい煌く惑星の姿である。彼らは排尿もしなければ、唾を吐くことも鼻を垂らすこともない。彼らの櫛は金で、彼らの汗は麝香である。また彼らの香炉は香木で、その配偶者たちは白眼と黒眼のはっきりした乙女たちである。また彼らは皆、天に60腕尺もの高さにそびえる彼らの父祖、アーダムの姿なのである。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[262])

2－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「(私たちと）条約を結んでいる民を（不当に）殺害した者は、天国の芳香を嗅ぐことはない。その芳香は40年もの行程からも嗅ぐことが出来るにも関わらず、である。」(アル＝ブハーリーの伝承[263])

3－また別の伝承にはこうあります：「そしてその芳香は、70年もの行程からも嗅ぐことが出来るにも関わらず、である。」(アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[264])

● **天国の民の妻たちの唄：**

1－イブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「実に天国の民の妻たちはその夫たちに、誰も耳にした事がないような美声でもって唄って聞かせる。彼女たちの歌には次のようなくだりがある：“私たちは美しい女性たちの中でも最良の者たち。栄誉高き民の妻たち。数え切れない喜びとともに待っています。”

また彼女たちの歌には次のようなくだりもある：“私たちは永遠に生き、死ぬことはありません。私たちは誠実で、裏切ることもありません。私たちは一緒に留まり、どこかへ立ち去ってしまうこともないのです。”」(アッ＝タバラーニーのアル＝ムゥジャム・アル

---

[261] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3246）、サヒーフ・ムスリム（2834）。引用はムスリムから。

[262] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3327）、サヒーフ・ムスリム（2834）。引用はアル＝ブハーリーから。

[263] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3166）。

[264] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（1403）。スナン・イブン・マージャ（2687）。

＝アウサトの伝承[265]）

● 天国の民の交合：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**その日天国の民は（数え尽くせぬ多くの）享楽に浸っている。彼らとその配偶者たちは、日陰の中ソファーに寄りかかっている。**﴾（クルアーン 36：55-56）

2－ザイド・ブン・アルカム（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“天国の民の男性は飲食と欲望、性交において 100 人分の男の力を与えられる。”するとあるユダヤ教徒の男が言いました：“もし飲み食いする者であれば、もよおすものも、もよおすということだ。” アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“彼らの便は、その皮膚から流れ出る汗なのであり、それによって腹部は引っ込むのである。”」（アッ＝タバラーニーとアッ＝ダーリミーの伝承[266]）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある者が言いました：“アッラーの使徒よ、私たち男性は天国で女性に近づきますか？”（預言者）は言いました：“（そこでは）一人の男が一日に 100 人の乙女と交わるのだ。”」（アッ＝タバラーニーとアブー・ヌアイムの伝承[267]）

● 天国の民の不断の享楽：

天国の民が天国に入れば、天使たちが彼らを迎え入れます。そして天使たちは彼らが聞いたこともないようなよき知らせとして、彼らに天国における享楽や永遠について伝え聞かせるのです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**ムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）に約束された天国は、その下を河川が流れ、食べ物が尽きることもなければ日陰が消え去ることもない。それこそはアッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たちの行き先であり、不信仰者たちの終着先は地獄の業火**

---

[265] 真正な伝承。アッ＝タバラーニーのアル＝ムゥジャム・アル＝アウサト（4917）、サヒーフ・アル＝ジャーミゥ（1561）参照。

[266] 真正な伝承。アッ＝タバラーニーのアル＝ムゥジャム・アル＝カビール（5／178）、スナン・アッ＝ダーリミー（2721）。引用はアッ＝タバラーニーから。サヒーフ・アル＝ジャーミゥ（1627）参照。

[267] 真正な伝承。アッ＝タバラーニーのアル＝アウサト（5263）、アブー・ヌアイムの「天国の描写」（373）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（367）参照。

なのである。﴿（クルアーン 13：35）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「呼ぶ者がこう呼びかける：“そこ（天国）においてあなた方は常に健康であり、決して病んだりしない。また生き続けるのであり、決して死ぬことはない。また常に若くあり続けるのであり、決して年老いたりはしない。また常に安楽の状態にあり、決して欠乏することはない。」そしてこれこそ偉大かつ荘厳なるお方のこのお言葉（が指し示すもの）なのである：﴾**そして彼らはこう呼びかける：「これこそがあなた方が励んでいたものによって譲り受けられた天国なのである。」**﴿”（ムスリムの伝承[268]）

3－ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある男が言いました：“アッラーの使徒よ、天国の民は睡眠をとりますか？”　（預言者）は言いました：“いや、睡眠は死の兄弟である。”」（アル＝バッザールの伝承[269]）

● **天国での位階：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**見よ、われら（アッラーのこと）が（現世において）いかに彼らを互いに優越づけたか？そして来世においては（それより遥かに）大きい位階と優劣（の差）があるのだ。**﴿（クルアーン 17：21）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして（審判の日に）信仰者としてやって来る者は、実に真に（その主に）従ったのである。彼らには最高の位階があるのだ。（彼らは）その下を河川の流れる*アドゥン*（エデン）の楽園に永遠に留まることになろう。それこそは自らを（不信仰や諸々の罪から）清めた者への報いなのだ。**﴿（クルアーン 20：75－76）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして（イーマーンへと）急ぐ者たち。彼らこそは安楽の地においてアッラーにより近い者たちである。（彼らは）先人たちからの者が多く、後世の者たちからは少ない。**﴿（クルアーン 56：10－14）

4－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“アッラーとその使徒を信じ、サラー（礼拝）をし、ラマダーンのサウム（斎戒、いわゆる断食）をする者は、アッラーに天国へ入れて頂く権

268　サヒーフ・ムスリム（2837）。

269　真正な伝承。アル＝バッザールの「覆いを取り除くもの」（3517）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1087）参照。

利があろう。たとえ彼がアッラーの道において移住したとしても、あるいは生まれた土地に留まっていたとしても。”（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、人々にそれを伝えるべきではないでしょうか？”（預言者は）言いました：“天国には 100 の位階がある。アッラーはかれの道におけるムジャーヒドゥーン（様々な形で力の限り奮闘する者たち）にそれをご準備されたのだ。各位階の間は天地の差ほどもある。ゆえにアッラーに乞うときは、フィルダウスを乞うのだ。それこそは最も中心にあり高位に属する天国なのである。そしてその上には最も慈悲深きお方の玉座があり、そこから天国の河川が湧き出るのだ。”」（アル＝ブハーリーの伝承[270]）

● **本来それに値しなくても、信仰者の子孫の位階が上げられること：**

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして信仰する者たちと、信仰とともに彼らに追従するその子孫たちは、彼らを（天国において）共にしてやろう。そしてこのことによって（その父祖たちの）行い（の報い）からは、少したりとも差し引きされることはない。全ての者は自ら稼いだものによって自らを購うのだ。**﴿（クルアーン 52：21）

● **天国の日陰：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして信仰し善行に励む者たちは、われら（アッラーのこと）がその下を河川の流れる楽園に入れよう。彼らはそこに永遠に留まるのだ。そこには清浄な配偶者たちがいる。そしてわれらは彼らを幾重にも重なる濃い蔭に入れてやるのだ。**﴿（クルアーン 4：57）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして右側の徒。右側の徒とは何か？（彼らは）棘のないスィドラの木々の蔭にいる。そして重なり茂るアカシア[271]の木々。去り行くことのない大きな日陰。**﴿（クルアーン 56：27－30）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**（彼らは楽園の中で）ソファーに寄りかかっている。そこでは酷暑も酷寒もない。そして木々は（彼らを）その蔭で覆う。そしてその果実の房は（容易に手が届く高さにまで）垂れ下がっている。**﴿（クルアーン 76：13-14）

4－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**ムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）に約束された天国は、その下を河川が流れ、食べ物が尽きることもなければ日陰が消え去ることもない。それこそはアッラーのお怒りと懲罰を招**

270　サヒーフ・アル＝ブハーリー（2790）。
271　訳者注：前出のウトゥバのハディース参照のこと。

くような事柄から身を慎む者たちの行き先であり、不信仰者たちの終着先は地獄の業火なのである。 ﴾（クルアーン 13：35）

● **天国の高さと広さ：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**その日顔々は美しい。（現世で）努力したもの（の報い）に満悦して、天国の高きで。そこでは戯れごとなども耳にすることもない。** ﴾（クルアーン 88：8－11）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そしてあなた方の主からのお赦し（を呼ぶ諸々の服従行為）へと急ぐのだ。その広さは諸天と大地の広さほどもあり、*ムッタクーン*（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）のために用意されたものなのである。** ﴾（クルアーン 3：133）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そしてあなた方の主からのお赦し（を呼ぶ諸々の服従行為）へと急ぐのだ。その広さは天地の広さほどもある。（それは）アッラーとその使徒たちを信仰する者たちに用意されたものである。これこそはアッラーがお望みの者に与えられる、かれの余りある恩恵である。アッラーはこの上ないお恵みの主であられる。** ﴾（クルアーン 57：21）

● **天国で最高の位階：**

アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が次のように言うのを聞きました：「*アザーン*（礼拝への呼びかけ）を聞いたら、彼が言うように（後について）言うのだ。それから私に対しての祝福を祈願する言葉を上げよ。私に一回祝福を祈願する者には、アッラーが彼のためにその 10 倍のご慈悲をかけて下さる。それから私のために、アッラーに*アル＝ワスィーラ*（かれの御許での高い位階）を乞うのだ。それは天国において、アッラーのしもべの中で一部のしもべにしか許されない位階であり、私がそれ（を与えられる者）であることを望む。私に*アル＝ワスィーラ*を乞う者には、とりなしが与えられるであろう。」（ムスリムの伝承[272]）

● **天国の民の最高の位階と最低の位階：**

アル＝ムギーラ・ブン・シュゥバ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの

---

[272] サヒーフ・ムスリム（384）。

使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「ムーサーはその主に訊いた：“天国の民の最低の位階とはどのようなものですか？”（アッラーは）仰せられた：“天国の民が天国に入れられた後にやって来る一人の男がいる。そして彼はこう言われる：「天国に入れ。」すると彼は言う：「主よ、どうやって（入りますか）？人々は各々の住まいに入り、各々の取り分を取ってしまったというのに？」するとこう言われる：「あなたにもそれがあるのだ。そしてそれと同様のものがもう一つ、そしてもう一つ、更にもう一つ、またもう一つ与えられよう。」すると（男は）それが 5 回言及されたとき、「主よ、もう十分です。」と言う。するとこう言われる：「これはあなたへのもので、更にもう 10 倍のものがある。またあなたの欲するものと目を喜ばせるもの全てがある。」すると男は言う：「主よ、もう十分です。」”

（ムーサーはその主に）訊いた：“天国の民の最高の位階とはどのようなものですか？”（アッラーは）仰せられた：“彼らこそは私の待ち望んだ者たち。私は彼らへの栄誉をわが手でもって植え込み、それに封印をしておいた。それゆえ（そこには）いかなる（者の）眼も見たことがなく、いかなる（者の）耳も聞いたことがなく、いかなる人の心に思いも浮かばなかったような享楽が待ち受けているのだ。”」

（預言者は）言いました：「偉大かつ荘厳なるアッラーの啓典の中に、それを確証するものがある：﴿**そして人は、（天国において）彼らのために隠された享楽を一つとして知ることがない。**﴾」（ムスリムの伝承[273]）

そして天国の民の最低の位階を説明するものとして、次の伝承の言葉があります：「そしてあなたには現世同様のものと、その 10 倍のものがある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[274]）

● **天国の民の最大の享楽：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**アッラーは、男の信者にも女の信者にも、川が永遠に下を流れる楽園に住むことを約束された。また永遠〔アドン〕の園の中の、立派な館をも。だが最も偉大なものは、アッラーの御満悦である。それを得ることは、至上の幸福の成就である。**﴾（クルアーン 9：72）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**その日、ある者たちの顔は輝き、かれらの主を、仰ぎ見る。**﴾（クルアーン 75：22-23）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、人々はアッラーの使徒（彼

---

[273] サヒーフ・ムスリム（189）。

[274] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6571）、サヒーフ・ムスリム（186）。

にアッラーからの祝福と平安あれ）にこう言いました：「“アッラーの使徒よ、審判の日に私たちは主を見るのでしょうか？”（預言者）は言いました：“あなた方は、満月の夜に月を見るのに骨を折るか？”（教友たちは）言いました：“いいえ、アッラーの使徒よ。”（預言者）は言いました：“あなた方は、雲のない空に太陽を見るのに骨を折るか？”（教友たちは）言いました：“いいえ、アッラーの使徒よ。”（預言者）は言いました：“あなた方は同様にして、かれにお目にかかるであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[275]）

4－スハイブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の民が天国に入ると、至高なるアッラーは仰せられる：“他にも何か欲しいものはあるか？”すると（彼らは）言う：“あなたは私たちの顔を白く（輝か）してくれたではありませんか？私たちを天国に入れて下さり、地獄から救われたではありませんか？”するとアッラーは（自らの）覆いを上げられる。そして偉大かつ荘厳なアッラーにお目にかかることほど、彼らにとっての喜びはないのである。」（ムスリムの伝承[276]）

● **天国の享楽：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**われら（アッラーのこと）のみしるしを信仰し、ムスリムとなった者たち。（彼らにはこう言われる：）「あなた方とあなた方の配偶者たちは、嬉々として天国に入るのだ。」（彼らのもとに）金の皿と杯が運ばれてくる。そこには（天国の民の）望み、眼を喜ばせるものがある。そしてあなた方はそこに永久に留まるのだ。これがあなたがたの行ったことに対し、あなたがたに継がせられた楽園である。そこにはあなたがたのために豊富な果実があり、それにあなたがたは満足する。**﴾（クルアーン 43：69－73）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**ムッタクーン（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から身を慎む者たち）はその日、安全な立ち所にある。（彼らは）園々といくつもの泉の中に、薄地と厚地の絹の衣服をまといつつ互いに向かい合っている。またわれら（アッラーのこと）は彼らに、色白で大きな眼の美女たちを娶らせる。（彼らは）そこで何の悪や害も被ることなく、ありとあらゆる果実を運んで来させるのだ。（彼らは現世で味わった）一度目の死後、そこで死を味わうことはない。そしてわれらは彼らを地獄の懲罰から守ったのである。**﴿（クルアーン 44：51－56）

275　サヒーフ・アル＝ブハーリー（806）、サヒーフ・ムスリム（182）。引用はムスリムから。

276　サヒーフ・ムスリム（181）。

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾そして（アッラーは、）彼らが（現世において）辛抱したことに対し、楽園と絹（の衣服）をもって報いた。（彼らは楽園の中で）ソファーに寄りかかっている。そこでは酷暑も酷寒もない。そして木々は（彼らを）その蔭で覆い、その果実の房は（容易に手が届く高さにまで）垂れ下がっている。そして（彼らのもとに）銀の食器類と杯が運ばれてくる。瓶は銀製で、（給仕の少年たちはそれでもって飲みたいだけ）注いでくれる。そしてそこ（天国）において、彼らは生姜の混ぜられた（飲み物の）杯から飲み物を得る。そして*サルサビール*と名付けられた泉から（飲む）。そして彼らの間を永遠の少年たちが行き交う。あなた方が彼らを見れば、散りばめられた真珠かと思うであろう。それから（天国に）目をやれば、あなたはえも言われぬ安楽と巨大な王国を目にしよう。彼らの上には緑色の薄い絹と重厚な絹の衣が羽織らされ、また銀のブレスレットでもって飾り立てられる。そして主は、彼らに清浄な飲み物を与えられる。﴿（クルアーン 76：12－21）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾そして（イーマーンへと）急ぐ者たち。彼らこそは安楽の地においてアッラーにより近い者たちである。（彼らは）先人たちからの者が多く、後世の者たちからは少ない。（彼らは宝石などが）織り込まれた寝台の上に、互いに向き合った形で寄りかかっている。彼ら（天国の民）のもとを永遠の少年たちが廻る。杯と水差し、（美酒が流れる川からの）盃を携えて。（彼らは）それによって頭痛を覚えることもなければ、理性を失うこともない。そして（給仕の少年たちは）彼らの好む果実と、彼らの望みのままの鶏肉を（も携えて来る）。そして美しい乙女たち。彼女たちは秘められた真珠のよう。（それらは）彼らが（現世で）励んでいたことに対する報奨なのである。（彼らは）そこで戯れ事や嘘を耳にすることもない。ただお互いに「平安あれ。」と挨拶し合うだけである。﴿（クルアーン 56：10－26）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾そして右側の徒。右側の徒とは何か（彼らは）棘のないスィドラの木々の蔭にいる。そして重なり茂るアカシア[277]の木々。去り行くことのない大きな日陰。いつでもどこにでも（彼らの近くを）流れ、注がれる水。そして豊富な果物。（それらは）途絶えてしまうことも禁じられることもない。そして持ち上げられたしとね。実にわれら（アッラーのこと）は彼女たちをこしらえた。そして彼女らを（永遠の）乙女とし、愛しい同年輩のものとした。（これらは全て）右側の徒のためである。（彼らは）先人たちからの者が多く、また後世の者たちからも多い。﴿（クルアーン 56：27－40）

6－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「偉大かつ荘厳なるアッラーは仰せられた：“われは

[277] 訳者注：前出のウトゥバのハディース参照のこと。

敬虔なしもべたちに、いかなる者の目も眼にしたことがなく、いかなる者の耳も聞いたことがなく、またいかなる者の心にも思い浮かばなかったようなものを用意しておいた。”偉大かつ荘厳なるアッラーの啓典の中に、それを確証するものがある：**﴿そして人は、（天国において）彼らのために隠された享楽を一つとして知ることがない。﴾**」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[278]）

4. 天国の民の*ズィクル*（唱念）と言葉：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿またかれらの主を畏れたものは、集団をなして楽園に駆られる。かれらがそこに到着した時、楽園の諸門は開かれる。そしてその門番は、「あなたがたに平安あれ、あなたがたは立派であった。ここに御入りなさい。永遠の住まいです。」と言う。そして（天国の民は）言う：「私たちにそのお約束を遂行され、そして私たちに天国の地を授けて下さったアッラーに全ての賞賛あれ。私たちはそこにおいて、望む所に住まいを得るのだ。（アッラーが命じられ、そしてご満悦される）行いに励んでいた者たちの報奨の何と素晴らしいことか。」﴾**（クルアーン 39：73-74）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿本当に信仰して善行に励む者には、かれらの主は、その信仰によってかれらを導かれる。至福の楽園の中に、川はかれらの足元を流れるのである。そこにおける彼らの祈願の言葉は「アッラーよ、あなたは（何の欠点や不完全性からも無縁な）崇高なるお方です。」であり、彼らの挨拶の言葉は「平安あれ。」である。そして最後の祈願の言葉は「万有の主アッラーに全ての賞賛あれ。」なのである。﴾**（クルアーン 10：9-10）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿（彼らは）そこで戯れ事や嘘を耳にすることもない。ただお互いに「平安あれ。」と挨拶し合うだけである。﴾**（クルアーン 56：25-26）

4－ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の住民も、そこでは食事をし、水を飲むが、唾を吐くことも放尿することも排泄することもなく、また、鼻風邪に苦しむこともない。」すると、次のように聞かれました：「それでは、食べた物はどうなるのですか。」（そして）預言者は言いました：「彼らのげっぷや汗が、それらを処理します。汗は麝香の香りがします。彼らは、あなたたちが呼吸するように、きわめて自然な様子で、アッラーを讃美し称えます。」（ムスリムの伝承[279]）

---

[278] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3244）、サヒーフ・ムスリム（2824）。引用はムスリムから。

[279] サヒーフ・ムスリム（2835）。

5. **主から天国の民へのサラーム（挨拶の言葉）：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**かれ（アッラーのこと）こそは、あなたがたを暗黒から光明に連れ出すために、天使たち共々あなたがたを祝福なされる方である。かれは真の信者に、慈悲深くあられる。（天国の民が）かれ（アッラーのこと）とまみえるその日、アッラーからの彼らへの報奨は「サラーム（平安あれ）」である。（アッラーは）彼らに対してよき報奨を用意されたのだ。**﴾（クルアーン 33：43-44）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**そこで彼ら（天国の民のこと）は、果実や望みのものを何でも得られる。彼らには「サラーム（平安あれ）」という（挨拶の）言葉が、慈悲深い主よりかけられる。**﴾（クルアーン 36：57-58）

6. **アッラーが天国でお与えになる最良のもの：**

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーは天国の民にこう仰せられる：“天国の民よ。”すると彼らは言う：“はい。何でしょうか、われらが主よ。私たちはあなたへの奉仕に尽くします。そして全ての善はあなたの御手に委ねられています。”すると（アッラーは）仰せられる：“あなた方は満悦したか？”すると彼らは言う：“主よ、満悦しないことがありましょうか？あなたは私たちに、他のいかなる者にも与えられなかったものを与えて下さったというのに。”すると（アッラーは）仰せられる：“それよりよいものを与えてやろうか？” すると彼らは言う：“主よ、これらよりよいものがありましょうか？” すると（アッラーは）仰せられる：“あなた方に対するわが満悦である。以後、われはあなた方に対して怒ることは決してないであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[280]）

アッラーよ、私たちと私たちの両親、私たちの家族と全ムスリムにあなたのご満悦をお授け下さい。そしてあなたのご慈悲をもって、私たちを安楽の園にお入れ下さい。

7. **天国におけるムハンマド（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の共同体の割合：**

至高なるアッラーはこの共同体の半分を天国の民にするという寛大さを示されました。そして、彼らの割合をその中の3分の2にまで増やされました。

1－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私

---

[280] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6549）、サヒーフ・ムスリム（2829）。引用はムスリムから。

たちは、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にドームの下にいました。すると（預言者は）言いました：“あなた方は、あなた方が天国の民の 4 分の 1 を占めることを喜ばしく思うか？”私たちは言いました：“はい。”すると（預言者は）言いました：“あなた方は、あなた方が天国の民の 3 分の 1 を占めることを喜ばしく思うか？”私たちは言いました：“はい。”すると（預言者は）言いました：“あなた方は、あなた方が天国の民の半分を占めることを喜ばしく思うか？”私たちは言いました：“はい。”すると（預言者は）言いました：“私は、あなた方が天国の民の半分を占めることを望む。というのも天国にはムスリムしか入らないが、あなた方はシルク[281]の民の中において黒い雄牛の皮膚にある一本の白い、あるいは赤い雄牛の皮膚にある一本の黒い毛ほどの割合にも達しないからである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[282]）

2－ブライダ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“天国の民は 120 列に並んでおり、その内 80 列はこのウンマ（イスラーム共同体）から、また 40 列は残りの民から成っている。”」（アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[283]）

8. 天国の民：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして信仰し、善行に励む者たちは天国の民であり、彼らはそこに永遠に留まるのだ。**﴿（クルアーン 2：82）

2－イヤード・ブン・ヒマール（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「・・・（次の）3 者は天国の民である：公正で慈善に満ち、成功を収めた権力者。そして慈悲深く、全ての親近者とムスリムに優しい心で接する者。そして控え目で慎み深い、一家の主・・・。」（ムスリムの伝承[284]）

3－ハーリサ・ブン・ワハブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から次のように聞きました：「“天国の民について教えてやろうか？”（教友たちは）言いました：“ぜひとも。” 預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“全ての弱く慎ましい者で、もし彼がアッラーにおいて誓えば、かれがそれを受け入れて下さるであるような者たちである・・・”」（アル＝ブハーリーとムスリム

---

281 訳者注：詳しくは「5. シルクの種類」の章を参照のこと。

282 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6528）、サヒーフ・ムスリム（221）。引用はアル＝ブハーリーから。

283 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2546）、スナン・イブン・マージャ（4289）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

284 サヒーフ・ムスリム（2865）。

の伝承[285]）

9. 天国の民の大多数：

ウマラーン・ブン・フサイン（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私が天国の様子を見ると、その民の大多数は貧者であった。また地獄を見てみると、その大多数は女性であった。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[286]）

● 最後に天国に入る者：

アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“最終的に地獄から救い出されて天国に入る最後の者は、（地獄から）這いつくばいながらやって来る。彼の主は仰せられる：「天国に入るのだ。」すると彼は言う：「主よ、天国は既に（その民で）溢れ返っています。」そして彼の主は同じ言葉を3度繰り返され、男はその都度「主よ、天国は既に（その民で）溢れ返っています。」と答える。そして（最後にアッラーは）仰せられる：「あなたには現世同様のもの、及びその10倍のものを与えてつかわそう。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[287]）

---

[285] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4918）、サヒーフ・ムスリム（2853）。引用はムスリムから。
[286] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3241）、サヒーフ・ムスリム（2737）。引用はアル＝ブハーリーから。
[287] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7511）、サヒーフ・ムスリム（186）。引用はアル＝ブハーリーから。

● 地獄の様子

● **地獄とは**：アッラーが来世において、不信仰者と偽信者、及び（信仰者の内の）罪深い者たちのために創られた懲罰の世界です。

天国の獲得と地獄からの救いは、*イーマーン*[288] と共に諸々の善行をし、*シルク*[289]と種々の罪を回避することによって達成されます。アッラーに天国の獲得と、地獄からの救いを乞いましょう。

そしてアッラーがお望みならば、地獄についての話も同様に、聖クルアーンと真正なハディースに照らし合わせて説明していきます。

● **地獄のよく知られた諸名称：**

地獄の本質は一つでありながら、その属性は数多くあります。そしてそのよく知られた名称には、以下のようなものがあります：

1－**地獄**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてアッラーとその使徒に逆らい、かれ（アッラー）が定められた（法の）境界線を越える者は、（アッラーが）彼を地獄に入れよう。彼はそこに永遠に留まり、そこでは屈辱的な懲罰が繰り広げられるのだ。﴿**（クルアーン 4：14）

---

[288] 訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

[289] 訳者注：詳しくは「5．シルクの種類」の章を参照のこと。

2－**業火**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にアッラーは偽信者たちと不信仰者たちを皆、業火の中に集めよう。﴿**（クルアーン 4：140）

3－**烈火**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして不信仰に陥り、われら（アッラーのこと）のみしるしを嘘とする者たちは、（地獄の）烈火の住人である。﴿**（クルアーン 5：10）

4－**燃え盛る炎**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にアッラーは不信仰者たちをそのご慈悲から遠ざけられ、彼らに燃え盛る炎を用意された。﴿**（クルアーン 33：64）

5－**灼熱の大火**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾その日彼らは真っ逆様に地獄に引きずり落とされ、こう言われる：「大火の灼熱を味わうのだ。」﴿**（クルアーン 54：48）

6－**全てを焼き尽くす炎**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾いや、決してそうではない。彼らは全てを焼き尽くす炎の中に投げ入れられよう。そして全てを焼き尽くす炎とは何か。燃え上がるアッラーの炎である。﴿**（クルアーン 104：4－6）

7－**燃え立つ炎**：至高なるアッラーは仰せられました：**﴾いや、決してそうではない。それこそは顔と手足の皮膚を焼け焦がす、燃え立つ炎である。（それは現世において真理から）背き去った者たちを呼ぶ。﴿**（クルアーン 70：15－17）

8－**破滅の世界**：至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾あなたはアッラーの恩恵を不信仰でもって返し、その民を破滅の世界へと追いやった者たちを見たか。彼らが行き着く先は（地獄の）業火である。その留まり所の何と忌まわしいことか。﴿**（クルアーン 14：28-29）

- **地獄の場所：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾いや、決してそうではない。実に放埒な者たちの帳簿は、7層目の地の下を転がる岩石の中にある。﴿**（クルアーン 83：7）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「・・・一方、不信仰者はその魂を引き抜かれると、天使はそれを携えて大地の門へと赴く。そして大地の門番は言う：“この（魂の）ように臭い匂いは他にない。大地の最下層にまで届かんばかりだ。”」（アル＝ハーキムと

イブン・ヒッバーンの伝承[290])

● **地獄に永住する民：**

不信仰者と*シルク*[291]の徒、及び偽信者は永遠に地獄の中にあります。しかし信仰者の内で罪深かった者は偉大かつ荘厳なるアッラーの思し召しのもとにあり、かれがそうお望みになればお赦しになりますが、そう望まれればその罪に応じた地獄の罰を下されます。その後、彼らを地獄から出されます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**アッラーは男女の偽信者と不信仰者たちに、地獄の業火を約束された。彼らはそこに永遠に留まるが、それ（業火）だけで彼ら（を罰する）には十分なのである。アッラーは彼らをそのご慈悲から遠ざけられる。そして彼らには途切れることのない懲罰があるのだ。**﴿（クルアーン 9：68）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**実にアッラーはシルクをお赦しにはなられないが、それ以外のことであればお望みの者をお赦しになられる。そしてアッラーに対してシルクを犯す者は、この上ない罪を犯しているのだ。**﴿（クルアーン 4：48）

● **地獄の民の顔：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして審判の日、あなたはアッラーに対して嘘を語っていた者たちの顔が黒ずんでいるのを見るであろう。（真理に対して）傲岸な者たちの住まいは、地獄の業火以外の何ものでもないのだ。**﴿（クルアーン 39：60）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてその日、（彼ら不信仰者たちの）顔は埃まみれである。（屈辱による）黒い汚れにまみれている。彼らこそは不信仰に陥り、真理を嘘としていた者たちなのである。**﴿（クルアーン 80：40－42）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**その日（彼らの）顔は沈鬱である。（その日彼らは自分たちに）大きな災難が降りかかることを確信するのだ。**﴿（クルアーン 75：24-25）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**その日（彼らの）顔は恐怖と屈辱でこわばっている。苦々しい懲罰を受け、疲労困憊している。彼らは灼熱の地獄へと入るのだ。**﴿

---

[290] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（1304）、サヒーフ・イブン・ヒッバーン（3013）。

[291] 訳者注：詳しくは「5. シルクの種類」の章を参照のこと。

（クルアーン 88：2－4）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**炎が彼らの顔を焼き、彼らはそこで苦悶する。**﴿（クルアーン 23：104）

● **地獄の門の数：**

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして地獄の業火こそは彼ら全員の約束の場所である。そこには 7 つの門があり、その各々から既に定められた数の定められた者たちが入る。**﴿（クルアーン 15：43-44）

● **地獄の諸門はその民を中に閉じ込めている：**

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**断じてそうではない。かれは必ず業火の中に、投げ込まれる。業火が、何であるかをあなたに理解させるものは何か。（それは）ぼうぼうと燃えているアッラーの火、心臓を焼き尽し、（地獄は）彼らを閉じ込めて塞がっている。伸びた鉄の針々によって（門が塞がれているのだ）。**﴿（クルアーン 104：4－9）

● **審判の日、審判を待つ台地にまで地獄の業火が及ぶこと：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして地獄の業火は、（真理から）迷い去った者たちに向かって立ち上る。**﴿（クルアーン 26：91）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**いや、決してそのようにあってはならない。大地が揺り動かされ、ぶつかり合って粉々になるとき。あなたの主は天使を隊列に組ませつつご来臨なされる。そしてその日、地獄の業火が現れる。人々はその日（現世において怠慢だったことや、自らの犯した罪々を）後悔するのだが、一体その後に及んでは後悔の念が何を益しようか。**﴿（クルアーン 89：21－23）

3－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“その日地獄は、70,000 もの手綱と共に出現し、各手綱は 70,000 もの天使によって引っ張られている。”」（ムスリムの伝承[292]）

● **地獄の出現と、*スィラート*（地獄の架け橋）を最初に渡る者：**

[292] サヒーフ・ムスリム（2842）。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そしてあなた方は皆地獄（の架け橋）にやって来る。それはあなたの主が必ずご遂行されることなのである。それからわれら（アッラーのこと）は（わが怒りと懲罰を招くような行いから）自らを防いでいた者たちを救い出し、不正者たちをそこに取り残したまま放っておくのだ。**﴾（クルアーン 19：71-72）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、人々は言いました：「“アッラーの使徒よ、私たちは審判の日、私たちの主にまみえるのでしょうか？”――そしてこの伝承の中に次のような箇所があります――（アッラーの使徒は）言いました：“・・・それから*スィラート*（地獄の架け橋）[293]が地獄の業火の真ん中にかけられる。そして私と私の民が、最初にそこを渡る者たちとなるのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[294]）

● **地獄の底：**

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にある時、彼は何か落ちる音を聞きました。そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“あなた方はこれが何か知っているか？”私たちは答えました。：“アッラーとその使徒がよくご存知です。”すると（預言者は）言いました：“これは地獄の業火に 70 年前に投げ入れられた、一つの岩石（の音）である。それは転がり続け、今（地獄の）底に到達したのだ。”」（ムスリムの伝承[295]）

2－サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：「（地獄の民の）ある者は業火にくるぶしまで浸かり、ある者は腰の辺りまで浸かり、またある者は首の辺りまで浸かっている。」（ムスリムの伝承[296]）

● **地獄の民の体：**

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“不信仰者の臼歯、あるいは犬歯は、*ウフド*山ほども巨大である。またその皮膚の厚さは 3 晩の（旅程の）距離ほどもある[297]。”」

[293] 訳者注：詳しくは「イーマーンの諸基幹⑤最後の日への信仰 - スィラート（地獄の架け橋）」の項を参照のこと。

[294] サヒーフ・アル＝ブハーリー（806）、サヒーフ・ムスリム（182）。引用はムスリムから。

[295] サヒーフ・ムスリム（2844）。

[296] サヒーフ・ムスリム（2845）。

[297] 訳者注：地獄でそれだけ強靭な体を与えられているにも関わらず、その懲罰で苦しみ続けるということ。つまり地

（ムスリムの伝承[298]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「地獄における不信仰者の両肩の間の幅は、俊足の騎手が 3 日かけて移動する距離ほどもある。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[299]）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「審判の日、不信仰者の臼歯は*ウフド*山ほどにも（巨大に）なり、その皮膚の厚さは 70 腕尺ほどにもなる。また前腕は*アル＝バイダーゥ*山ほどにも（巨大に）なり、その腿は*ワリカーン*山ほどにも（巨大に）なる。そして彼の地獄での居場所は、私のいるここ（マディーナ）から*アッ＝ラバザ*ほどの広さがある[300]。」（アフマドとアル＝ハーキムの伝承[301]）

● **地獄の炎の強さ：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そして審判の日、われら（アッラーのこと）は彼ら（不信仰者たち）を逆様に、盲目で物言えず、聞こえない者として召集する。彼らの行き着く先は地獄の業火であり、それ（炎）は（火勢が）衰えるたびにわれらが更にまた盛り返すのだ。それこそは、彼らがわれらのみしるしを信じなかったことに対する彼らの報いなのである。**﴾（クルアーン 17：97-98）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「“あなた方アーダムの子（つまり人類）が（現世で）使用しているこの炎は、地獄の業火の 70 分の 1 の熱さに相当するに過ぎないのである。”（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、これだけで十分（な熱さ）です。”（預言者は）言いました：“地獄の炎は（現世の）それよりも更に 69 部分だけ強力なのであるが、その各々の部分の熱さは（現世での）それと同様の熱さなのである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[302]）

億の懲罰の凄まじさを表しています。ウフド山はマディーナ郊外の山の名称。

298 サヒーフ・ムスリム（2851）。

299 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6551）、サヒーフ・ムスリム（52）。引用はムスリムから。

300 訳者注：斜体で示した名前は全て、マディーナ近郊の大きな山の名称です。アッ＝ラバザはマディーナから 3 夜の行程にある村の名称です。

301 真正な伝承。ムスナド・アフマド（8327）、ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（8759）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1105）参照。引用はアル＝ハーキムから。

302 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3265）、サヒーフ・ムスリム（2843）。引用はムスリムから。

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「地獄が困って、こう主に訴えた：“主よ、私の一部が他の部分を（燃やして）食べてしまいます。”すると（アッラーは地獄に）2つの属性をお許しになられた。（それはつまり）冬の属性と夏の属性である。ゆえにあなた方はそこにおいてこの上ない暑さと、この上ない寒さを見出すのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[303]）

⑤ 地獄の燃料：

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾信仰する者たちよ、あなた方自身とあなた方の家族を地獄の業火（へと招くような事柄）から守るのだ。その燃料は人間と石であり、その上には厳しく荒々しい天使たちがいる。彼らはアッラーが命じられたことに逆らうこともなく、そのご命令を遂行するだけなのである。﴿**（クルアーン 66：6）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾あなた方と、あなた方がアッラーを差し置いて拝していたものは、地獄の業火の燃料となるのだ。あなた方はそこに入ることになろう。﴿**（クルアーン 21：98）

● 地獄の最下層：

地獄は互いに重なり合う階層であり、偽信者はそのひどい不信仰性と信仰者たちへの害悪ゆえに、その最下層に入れられます。至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実に偽信者たちは地獄の業火の最下層にある。そしてあなたは彼らに対する、いかなる援助者も見出さないであろう。﴿**（クルアーン 4：145）

● 地獄の業火の影：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そして左側の徒。左側の徒とは何であるか。（彼らは）熱風と煮えたぎる熱湯の中にある。（そしてそこから立ち上る）黒煙の蔭に涼しくもなく、爽やかでもない（中にいる）。﴿**（クルアーン 56：41－44）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾彼らの上方にも下方にも、幾重にも重なる炎がある。これこそアッラーがそれをもって、そのしもべたちを警告するもの。しもべたちよ、ゆえにわれ（の怒りとこれらの懲罰を招くような事柄）から身を慎むのだ。﴿**（クルアーン 39：16）

[303] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3260）、サヒーフ・ムスリム（617）。引用はアル＝ブハーリーから。

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿不信仰者たちよ、（地獄の炎から）立ち上り、3 本に分岐する煙のもとへと行くのだ。そこには（暑さから身を守る）陰もなく、炎から身を守るすべもない。﴾（クルアーン 77：30-31）

● **地獄の番人**：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そこで、獄火の中にいる者たちは、地獄の看守（天使）にいう。「この懲罰が、一日（でも）わたしたちから軽くなるよう、あなたの主に嘆願して下さい。」かれら（天使）は言う。「使徒が、あなたがたに明証を持って行かなかったのか。」かれらは（答えて）言う。「その通りです。」かれら（天使）は言う。「それなら祈るがいい。」しかし、これら不信心者の嘆願は、誤り（の迷路）に（虚しくさ迷って）いるだけである。﴾（クルアーン 40：49-50）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿われ（アッラーのこと）は彼（不信仰者）を灼熱の大火に放り込もう。そして灼熱の大火とは何か。（それは）彼らを生かしたままにもしておかなければ、一思いに殺してもくれない。（それは）人類を（様々な懲罰によって見るも無残な形に）変えてしまう。その上には 19 の天使がいる。そしてわれら（アッラーのこと）は地獄の管理者を天使としたが、われらは（19 という天使の）数を信仰しない者たちへの試練としたのである[304]。﴾（クルアーン 74：26－31）

3－また地獄の番人にはマーリクという天使もいます。崇高なるアッラーは仰せられました：﴿（地獄の民はこう）呼びかける：「マーリクよ、あなたの主に頼んで一思いに私たちを殺して（楽にして）しまってくれ。」（マーリク）は言う：「いや。あなた方はそこに留まるのだ。われは確かにあなたがたに真理を届けた。だがあなたがたの多くは、真理を嫌った。」﴾（クルアーン 43：77-78）

● **地獄の一団**：

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「至高なるアッラーはこう仰せられた：“アーダム（アダム）よ。”するとアーダムは答えた：“はい、只今。あなたにお仕え申

---

[304] 訳者注：キリスト教徒やユダヤ教徒などの啓典の民も、地獄の門番を同数の天使としていたという説があります。またこのクルアーンの後半部分は、ムスリムたちを迫害していた者たちの頭目の一人アブー・ジャハルが、「その上には 19 の天使がいる」という章句が啓示された時に、「100 人がかりで彼らの内の一人を倒せば、地獄から脱出出来るのではないか？」と嘲笑したことに関して下ったものだとも言われています（アッ＝シャウカーニー師著のクルアーン解釈書「ファトゥフ・アル＝カディール」参照）。

し上げます。そして全ての善はあなたの御手に委ねられています。”すると（アッラーは）仰せられる：“地獄の一団を送るのだ。”（アーダムは）言った：“地獄の一団とは何ですか？” すると（アッラーは）仰せられる：“1,000 人の内から 999 人を（地獄の民として）送るのだ。”この時子供たちは（余りの恐怖のため）白髪となり、**﴿そして子を孕んでいる女たちは（余りの恐怖のため）流産し、あなたの目に人々は酔いどれのように映るであろう。しかし彼らは酔いどれているわけではなく、アッラーの懲罰が余りに激しい故なのである。﴾**（クルアーン 22：2）”

（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、私たちは（その 1,000 人の内から地獄を免れる）一人になれるのでしょうか？”（すると預言者は）言いました：“喜ぶのだ。あなた方の内の者がその一人となり、ヤアジュージュとマアジュージュ[305]の民から 1,000 人（の者たちが地獄行き）となるのだから。”」（アル=ブハーリーとムスリムの伝承[306]）

● **地獄の民はいかに地獄に入るか：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そして不信仰者たちは一団となって地獄へと導かれる。そしてそこに到着するとその門々が開かれ、その番人は彼らにこう言う：「一体あなた方の内の者から、あなた方に主のみしるしを読み聞かせ、この日の到来を警告する使徒たちは遣わされなかったのか。」すると（彼らは）言う：「確かに来ました。」しかし（この日）不信仰者たちに対しての懲罰は既に確定したのである。（彼らには）こう言われる：「地獄の門々から入るのだ。あなた方はそこに永遠に留まる。（真理から）傲岸であった者たちの住処の、何と忌まわしいことであろうか。」﴾**（クルアーン 39：71-72）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿罪を犯した者にはその印があり、かれらは前髪と足を捕えられよう。﴾**（クルアーン 55：41）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そしてわれら（アッラーのこと）は審判の日を嘘であるとする者に、地獄の烈火を用意した。それは（遠くから）彼らの視界に入り、彼らは（炎が）いきり立つ爆音と奥底から噴出してくるような轟音を聞く。そしてその中の窮屈な場所にがんじがらめにして投げ入れられ、彼らはそこでいっそのこと破滅してしまうよう嘆願する。（そこで天使たちは言う：）「あなた方は今日一度きりの破滅を嘆願するのではない。それを何度も嘆願することになるのだ。」﴾**（クルアーン 25：11－14）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿断じてそうではない。かれは必ず業火の**

---

[305] 訳者注：詳しくは「イーマーンの諸基幹 - ⑤最後の日への信仰」の章「審判の日の大予兆」の項の「ヤアジュージュとマアジュージュの出現」を参照のこと。

[306] サヒーフ・アル=ブハーリー（3348）、サヒーフ・ムスリム（222）。引用はアル=ブハーリーから。

中に、投げ込まれる。業火が、何であるかをあなたに理解させるものは何か。（それは）ぼうぼうと燃えているアッラーの火﴿（クルアーン 104：4－6）

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾その日彼らは地獄の業火に、無理矢理押し入れられる。（そしてこう言われる：）「これこそがあなた方が嘘としていた地獄なのである。」これでも魔術なのか。それともあなたがたは、見えないのか。あなたがたはそこで焼かれるがいい。あなたがたがそれを耐え忍んでも、忍ばなくても同じこと。あなたがたが行ったことに、報いられるだけである。﴿**（クルアーン 52：13－16）

6－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そしてあなた方は罪深い者たちがその日、（鎖や枷で）がんじがらめにされているのを見るであろう。タールの衣服をまとわされ、彼らの顔を炎が覆う。﴿**（クルアーン 14：49-50）

7－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“審判の日、地獄の業火から首が飛び出す。それは視覚を備えた 2 つの眼と、聴覚を備えた 2 つの耳と、喋ることの出来る一本の舌を備えており、こう言う：「私は 3 種類の者たちに対し（その懲罰を）委任された：（それらはつまり）頑迷な暴君、アッラーと共に何かを並べて崇めていた者、そして（生き物を写生や彫刻などでもって）模写していた者のことである。」”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[307]）

● **最初に地獄で罰される者：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、最初に裁かれるのは殉教者である。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あなたに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私はあなたゆえに戦い、そして殉教しました。”（するとアッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは勇敢な者と言われたいがために戦い、そして実際にそう言われたのだ。”すると彼は命じられて逆様の状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。

そして学識を身につけ、またそれを教え、かつクルアーンを（美しく）読んでいた者も（審判の日に最初に裁かれる）。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あな

[307] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（8411）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2574）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

たに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私は学識を身につけ、それを教授しました。そしてあなたゆえにクルアーンを読んでいたのです。”すると（アッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは学者と言われたいがために学び、「クルアーン朗誦家」と呼ばれたいがためにクルアーンを読んでいたのだ。そして実際にそう言われたのである。”すると彼は命じられて逆様の状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。

そしてアッラーによって豊かな糧を与えられ、様々な財を授けられた者も（審判の日に最初に裁かれる）。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あなたに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私はあなたが施しをお望みになることにおいて、あなたゆえに施さなかったことはありません。”（するとアッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは気前のいい者と言われたいがためにそうしたのであり、そして実際にそう言われたのだ。”すると彼は命じられて逆様の状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。”」（ムスリムの伝承[308]）

● **地獄の民の様子：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）のみしるしを信仰せず、それを嘘とする者たちは地獄の民なのである。彼らはそこに永遠に留まる。**﴿（クルアーン 2：39）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーは、男の背信者と女の背信者、また不信者に、地獄の火を約束され、その中に永遠に住ませられる。それはかれらにとっては十分である。アッラーはかれらを見限り、かれらには永遠の懲罰があろう。**﴿（クルアーン 9：68）

3－イヤード・ブン・ヒマール（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“・・・そして地獄の民には5種類ある：（即ち）そうあるべきでないことにおいて自らを律する知性を持たない、脆弱な者。あなた方の内の者だが、結婚も財産も求めようとしない者たち。また貪欲さをあからさまにしている詐欺師で、それを潜めたかと思えば騙まし討ちにする者。また朝な夕なあなたの家族や財産を狙って欺こうとしている者。”そして（預言者は次の者たちにも）言及しました：“吝嗇者、あるいは嘘つき。また醜悪で卑しい人格を備えた者。”」（ムスリムの伝承[309]）

---

[308] サヒーフ・ムスリム（1905）。
[309] サヒーフ・ムスリム（2865）。

● 地獄の民の大多数：

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“・・・そして私は地獄に目をやった。すると（そこにいる）大多数の者たちは、忘恩の徒である女性たちであった。”すると誰かが言いました：“彼女たちはアッラーに対して忘恩だったのですか？”（預言者は）言いました：“彼女たちが忘恩なのは、彼女たちの夫の恩恵と慈善においてであったのだ。もし彼女たちが長年に渡りよくされたとしても、それを何とも思わなかったであろう。そしてこう言ったに違いないのだ：“あなたには全くいい所がないのね。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[310]）

● 地獄で最もひどく罰される者：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾「(2人の天使よ、) 全ての頑迷な不信仰者たちを地獄へと放り込め。善行を拒み、(真理において) 不正を行う懐疑的な者たちを。彼らはアッラーの他に崇拝物をこしらえたのだ。手ひどい懲罰の中に彼らを放り込んでしまえ。」﴿（クルアーン50：24－26）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾そしてアッラーは彼（ムーサー）を、彼らの策略による悪からお守りになられた。そしてフィルアウン（ファラオ）の一族には手ひどい懲罰が確定したのである。(それは) 彼らが（死後復活の時が来るまで）朝な夕な晒される業火。そして審判の日には、(アッラーが天使たちにこう命じられて言われる)「フィルアウンの一族を最も過酷な懲罰の中に投げ込むのだ。」﴿（クルアーン40：45-46）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾信仰せず、アッラーの道を阻む者たちには、われら（アッラーのこと）が懲罰の上に更なる懲罰を加えてやろう。それは彼らが（地上において）腐敗を働いていたゆえのことである。﴿（クルアーン16：88）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾実に偽信仰者たちは地獄の業火の最下層に（放り込まれる定めである)。そしてあなた方は、彼らにいかなる援助者もないことを知るであろう。だが悔悟して（その身を）修め、アッラーにしっかりと縋りきって、アッラーに信心の誠を尽くす者は別である。これらは信者たちと共にいる者である。アッラーは、やがて信者に偉大な報奨を与えるであろう。﴿（クルアーン4：145-146）

[310] サヒーフ・アル＝ブハーリー（29）、サヒーフ・ムスリム（907）。引用はアル＝ブハーリーから。

5－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾あなた方の主にかけて。われら（アッラーのこと）は彼らと悪魔たちを必ずや召集しよう。それから彼らを跪かせたまま、地獄の業火へと連れて来よう。それからわれらは、慈悲深きお方に対して最も反抗的だった者たちを各々の集団からつまみ出す。実にわれは誰がそこに行くべきかを熟知しているのだ。﴿**（クルアーン 19：68－70）

6－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「審判の日懲罰が最も厳しいのは、（生き物を写生や彫刻などでもって）模写していた者である。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[311]）

7－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“審判の日、地獄の業火から首が飛び出す。それは視覚を備えた 2 つの眼と、聴覚を備えた 2 つの耳と、喋ることの出来る一本の舌を備えており、こう言う：「私は 3 種類の者たちに対し（その懲罰を）委任された：（それらはつまり）頑迷な暴君、アッラーと共に何かを並べて崇めていた者、そして（生き物を写生や彫刻などでもって）模写していた者のことである。」”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[312]）

8－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「審判の日懲罰が最も厳しいのは、預言者が殺害した者、あるいは預言者を殺害した者である。また人々を迷妄へと導く指導者、そして（アッラーの被造物を）模作する者である。」（アフマドの伝承[313]）

● **地獄の民で最も罰の軽い者：**

1－アン＝ヌゥマーン・ブン・バシール（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日最も懲罰の軽い者は、2 本の燃えさしをその両足の裏にあてがわれ、それによって脳が煮えたぎっているような者である。それはちょうど銅製の鍋や先細りの瓶が沸騰しているかのようである。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[314]）

311　サヒーフ・アル＝ブハーリー（5950）、サヒーフ・ムスリム（2109）。引用はムスリムから。

312　真正な伝承。ムスナド・アフマド（8411）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2574）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

313　伝承経路は良好。ムスナド・アフマド（3868）

314　サヒーフ・アル＝ブハーリー（6562）、サヒーフ・ムスリム（213）。引用はアル＝ブハーリーから。

2－アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は彼の前でアブー・ターリブの名が言及された時、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：「審判の日、私のとりなしは彼を益するだろう。彼は（私のとりなしが功を奏して）地獄の業火の浅瀬にくるぶしまで浸かっているだけなのだが、しかしそれでも、それによって脳の中枢部が煮えたぎっているのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[315]）

● **地獄の民への譴責：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾不信仰者たちは、もし彼らに審判の日の懲罰を免じてもらうための地上にある全てとそれと同様のものがもう一つあったとしても、それを受け入れてもらえない。そして彼らには痛烈な懲罰があるのだ。﴿**（クルアーン 5：36）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「審判の日、至高なるアッラーは地獄で最も軽い罰を受ける者にこう仰せられる：“もしあなたに地上にある全てのものがあったとしたら、それをもってして（この日の懲罰を）償うか？”彼は答える：“もちろんです。”すると（アッラーは）仰せられる：“あなたがアーダム（アダム）の背骨の内にある時から、われはそれより簡単な事をあなたに要求していただけだったのに。（つまりそれとは）われと共に何かを並べたりしないこと（である）。しかしあなたはそれから背き、われにおいて*シルク*[316]を犯したのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[317]）

● **地獄の鎖と枷：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にわれら（アッラーのこと）は不信仰者たちに、（彼らを縛り付ける）鎖と枷と業火を用意しておいた。﴿**（クルアーン 76：4）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾啓典とわれら（アッラーのこと）が使徒たちに携えさせて遣わしたところのものを嘘とする輩は、後に知るだろう。彼らの首には枷と鎖が付けられ、（それでもって）熱湯の中を引きずり回される。そしてそれから業火の中で焼かれるのだ。﴿**（クルアーン 40：70－72）

3－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実にわれら（アッラーのこと）にこそ、（地獄**

---

315 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6564）、サヒーフ・ムスリム（210）。引用はアル＝ブハーリーから。

316 訳者注：詳しくは「5. シルク」の章を参照のこと。

317 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6557）、サヒーフ・ムスリム（2805）。引用はアル＝ブハーリーから。

の民を）縛り付けるものと業火はある。そして棘々のザックーム[318]の木と、痛烈な懲罰が。﴿（クルアーン73：12-13）

4ー至高なるアッラーは仰せられました：﴾（天使たちよ、）彼を捕まえ、枷をつけよ。そして業火へと連れ行くのだ。それから70腕尺もの長さの鎖でもって縛り、彼を引きずり行くのだ。本当に彼はこの上なく偉大なアッラーを信仰することもなければ、恵まれない者たちに食物を施すことも勧めなかった。﴿（クルアーン69：30ー34）

● 地獄の民の食べ物：

1ー至高なるアッラーは仰せられました：﴾実にザックーム[319]の木は罪深い者の食べ物。（それは）腹の中で煮えたぎる、溶けた鉛のようである。（それは）まるで熱湯のたぎりのよう。﴿（クルアーン44：43ー46）

2ー至高なるアッラーは仰せられました：﴾一体それ（天国のこと）こそがよき糧であるのか、それともザックームの木なのか。実にわれら（アッラーのこと）はそれを（真理に対する）不正者たちへの試練とした。それは地獄の業火の底から伸び出ている。その実の房は、あたかも悪魔の頭部のよう。彼らはそれを食べ、腹を満杯にする。そしてその上に熱湯を飲まされる。そしてそれからまた業火の中へと戻らされるのである。﴿（クルアーン37：62ー68）

3ー至高なるアッラーは仰せられました：﴾彼らには醜悪な茨しか食べ物がない。それは彼らの滋養にもならなければ、彼らの飢えを満たしてくれることもない。﴿（クルアーン88：6-7）

4ー至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾本当にかれは、偉大なるアッラーを信じず、また貧者を養うことも勧めなかった。そしてその日、彼らには（彼らを益したり、あるいはとりなしてくれる）親しき者もない。食べ物といえば（地獄の民の体から流れ出る）膿しかない。それは罪深い者たちだけが食することになるものである。﴿（クルアーン69：33ー37）

[318] 訳者注：ひどい悪臭を漂わせている地獄の民の食べ物で、彼らはそれを無理矢理詰め込まされます。地獄の底に根を下ろし、その枝々を地獄中に広げ、﴾その実の房は、あたかも悪魔の頭部のよう﴿に巨大かつ醜悪なものです。

[319] 訳者注：上記の訳者注参照のこと。

● 地獄の民の飲み物：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾そして（使徒たちとその追従者たちはアッラーに）勝利を祈り、全ての（真理に対して）傲岸な者たちは衰退した。そしてその後（彼らには）地獄の業火が待ち受けており、膿の水を飲まされることになるのだ。彼らはそれを飲まされるが、それはなかなか喉を通りにくい。そしてあらゆる方向から死に値するような懲罰がやって来るが、彼らはいっそのこと死んで（それらの苦しみから逃れて）しまうことも出来ない。そしてその他にも更に厳しい懲罰が待ち受けているのだ。﴿（クルアーン 14：15－17）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾そして（彼らは）熱湯を飲まされ、そのはらわたは散り散りになる。﴿（クルアーン 47：15）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾実にわれら（アッラーのこと）は（真理に対する）不正者たちに、彼らを炎の塀で包み込む地獄の業火を用意した。そして彼らがその灼熱から助けを求めても、顔を焼き焦がす溶けた鉛のような水しか与えられない。（それは）何と忌まわしい飲み物、何と悪い居所であろうか。﴿（クルアーン 18：29）

4－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾（天国の民に関する諸事は）こうである。一方反逆する者たちには悪い帰り所がある。彼らが行くのは地獄の業火。何と忌まわしい臥所であろうか。そしてここには熱湯と膿。彼らにそれを飲ませよ。またこれらの他にも様々な種類の懲罰が待ち受けているのだ。﴿（クルアーン 38：55－58）

● 地獄の民の衣服：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾不信仰者たちは（地獄の）炎から出来た衣服を着せられ、その頭上から熱湯を注がれる。﴿（クルアーン 22：19）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾そしてあなた方は罪深い者たちがその日、（鎖や枷で）がんじがらめにされているのを見るであろう。タールの衣服をまとわされ、彼らの顔を炎が覆う。﴿（クルアーン 14：49-50）

● 地獄の民の寝床：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾わが印を偽りであるとし、それに対し高慢であった者たちには、天の門は決して開かれないであろう。またラクダが針の穴を通るまで、か

れらは楽園に入れないであろう。このようにわれは罪ある者に報いる。彼らには地獄の業火の中にその臥所がある。そしてその上には（彼らを覆う）炎の層。われら（アッラーのこと）はこのように、不正者たちに報いを与えよう。﴿（クルアーン 7：40-41）

● **地獄の民の嘆き：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**その時アッラーは、一羽の大カラスを遣わして地を掘らせ、その弟の死体を、如何に覆うべきかをかれに示された。かれは言った。「ああ情けない。兄弟の死体を葬るのに、わたしはこのカラス程のことさえ出来ないのか。」こうしてかれは後悔する者の一人となった。**﴿（クルアーン 5：31）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**このようにアッラーは、彼らの行いを彼らにお見せになられ、彼らは（それを眼前にして）悔やみ嘆く。そして彼らは地獄の業火から逃げ出すことも出来ない。**﴿（クルアーン 2：167）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“人は、もし行いが悪ければそこが地獄における自らの居場所となっていたはずのその場所を見せられることなしには、天国に入ることはない。それは彼の感謝の念が増大するようにとのお計らいからである。また人は、もし行いが良ければそこが天国における自らの居場所となっていたはずのその場所を見せられることなしには、地獄に入ることはない。それはそれが彼にとって後悔の嘆きとなるようにとのお計らいからである。”」（アル＝ブハーリーの伝承[320]）

4－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「審判の日、至高なるアッラーは地獄で最も軽い罰を受ける者にこう仰せられる：“もしあなたに地上にある全てのものがあったとしたら、それをもってして（この日の懲罰を）償うか？”彼は答える：“もちろんです。”すると（アッラーは）仰せられる：“あなたがアーダム（アダム）の背骨にある時から、われはそれより簡単な事をあなたに要求していただけだったのに。（つまりそれとは）われと共に何かを並べたりしないこと（である）。しかしあなたはそれから背き、われにおいて*シルク*[321]を犯したのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[322]）

---

320 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6569）。

321 訳者注：詳しくは「5. シルク」の章を参照のこと。

322 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3334）、サヒーフ・ムスリム（2805）。引用はアル＝ブハーリーから。

● 地獄の民が互いに呪いあうこと：

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴿（アッラーは）仰せられる：「人間とジンからなるあなた方以前に滅びた（不信仰の）民と共に、地獄の業火の中に入るのだ。」ある民が地獄に入るたび、彼らよりそこに先んじていた民が彼らを呪う。そして彼らが皆集結すると、後から来た者たちが先んじていた者たちに言う：「われらが主よ、（先人である）彼らが私たちを迷わせたのです。彼らには地獄の業火で、私たちの倍の懲罰をお与え下さい。」（そこでアッラーは）仰せられる：「あなた方全てに倍の懲罰を与えよう。しかしあなた方は、その懲罰が一体どのようなものであるか、まだ分かっていないのだ。」そして先んじた者たちは後から来た者たちに言う：「（不信仰において私たちに従った）あなた方が私たちに対して特権を有しているわけではない。あなた方はあなた方の行っていたところのものゆえ、懲罰を味わうのだ。」﴾（クルアーン 7：38-39）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿そして審判の日、あなた方は互いに不信仰者呼ばわりし、互いに呪い合う。しかしあなた方（全員）の身の寄せ所は地獄の業火なのであり、あなた方にはいかなる援助者もいないのだ。﴾（クルアーン 29：25）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴿それにもかかわらず、かれらは（審判の）時を虚偽であるとする。われは、その時を虚偽であるとする者に対し、燃え盛る火を用意している。はるかに離れた所から見る時、かれらはその怒声と咆哮を聞くであろう。かれらが縛られて火獄の狭い所に投げ込まれる時、（いっそのこと）そこで、滅びてしまうことを嘆願するであろう。（そこで天使たちは言う：）「あなた方は今日一度きりの破滅を嘆願するのではない。それを何度も嘆願することになるのだ。」﴾（クルアーン 25：11－14）

● 地獄の業火で罰される人々の様子

1－不信仰者と偽信者：

至高なるアッラーは仰せられました：﴿アッラーは男女の偽信者と不信仰者たちに、地獄の業火を約束された。彼らはそこに永遠に留まるが、それ（業火）だけで彼ら（を罰する）には十分なのである。アッラーは彼らをそのご慈悲から遠ざけられる。そして彼らには途切れることのない懲罰があるのだ。﴾（クルアーン 9：68）

2－神聖で侵すべからざる命を意図的に奪った者：

１　至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして信仰者を意図的にあやめた者の報いは、地獄の業火である。彼はそこに永遠に留まるのだ。そしてアッラーは彼をお怒りになり、彼をそのご慈悲から遠ざけられる。そして彼には、もう一つのこの上ない懲罰を用意したのである。**﴿（クルアーン 4：93）

２　アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「（私たちと）条約を結んでいる民を（不当に）殺害した者は、天国の芳香を嗅ぐことはない。その芳香は 40 年もの行程からも嗅ぐことが出来るにも関わらず、である。」（アル＝ブハーリーの伝承[323]）

3－**男女の姦淫者**：

サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がその教友たちに対してよく言うことに、"誰か夢を見た者はいるか？"というものがありました――そしてこの伝承には次のような箇所があります――彼（預言者）はある朝、言いました："昨晩 2 人の男が私のもとにやって来た。彼らは私を起こし、私に言った：「出発するのだ。」・・・私たちは出発し、かまどのような物の所までやって来た。そこからはひどい騒音がしていた。その中を覗いて見ると、そこには裸の男女らがいた。そして下方から炎がやって来て彼らのところにまで到達すると、彼らは大声を上げるのだった。私は（2 人の男に）言った：「彼らは何者だ？」――中略――（2 人の男は）言った：「かまどのような物の中にいた裸の男女らは、姦淫を犯していた者たちである。」"」（アル＝ブハーリーの伝承[324]）

4－**リバー（不法商取引）で得られる非合法な利をむさぼる者**：

サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）の伝えている前述の伝承で、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言っています：「"私たちは出発し、血が流れる川までやって来た。その中ほどには一人の男が立っており、岸にはもう一人、石を持った男がいた。そして川の中の男がやって来て岸に上がろうとすると、（岸にいる）男は彼の口に石を投げ込み、彼が元いた場所まで追い返した。このように彼が岸に上がって来ようとする度、その男は石を投げつけて彼を元いた場所まで追い帰すのだった。私は言った：「これは何だ？」・・・（預言者は）言った：「川で見たその男は、リバー（不法商

[323] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3166）。
[324] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7047）。

取引）で得られる非合法な利をむさぼる者だった。」”」（アル＝ブハーリーの伝承[325]）

5－**（魂のあるものを写生や彫刻などによって）模写する者**：

１　イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“全ての（魂のあるものを写生や彫刻などによって）模写する者は、地獄の中である。彼の描いた、あるいは作ったものには（その日）魂が与えられ、彼はそれらによって地獄の業火の中で罰されるのだ。”」（ムスリムの伝承[326]）

２　アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が私の部屋に入って来た時、私は私の棚を肖像のある色付きのカーテンで覆っていました。（アッラーの使徒は）それを見るとそれを引き裂き、顔色を変えました。そして言いました：“アーイシャよ、審判の日アッラーの御許で最もひどい懲罰に遭うのは、アッラーの創造を模倣しようとする輩なのだ。”（アーイシャは）言いました：“それで私たちはそれらを細かく切り、それをもって肘掛を一つ、あるいは 2 つ作りました。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[327]）

３　イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“現世で（魂のあるものを写生や彫刻などによって）模写する者は審判の日、それらに魂を吹き込むよう命じられる。そして彼にはそうすることが出来ないのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[328]）

６－**孤児の財をむさぼる者**：

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾実に、孤児らの財を不正にむさぼる者たちは、炎を食べてそれを腹の中に詰め込んでいるのである。そして彼らは地獄の烈火の中に入ることになるのだ。﴿**（クルアーン 4：10）

7－**嘘や、他人の陰口や悪口を言いふらす者**：

---

[325] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1386）。

[326] サヒーフ・ムスリム（2110）。

[327] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5954）、サヒーフ・ムスリム（2107）。引用はムスリムから。

[328] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7042）、サヒーフ・ムスリム（2110）。引用はムスリムから。

１　至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして虚言吐きの（真理から）迷い去った者たちといえば、その（来世での）歓待は熱湯によるものであり、その行き先は地獄の業火なのである。**﴿（クルアーン 56：92－94）

２　ムアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は旅路で、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にありました――そしてこの伝承の中には次のような箇所があります――それで私は言いました：“預言者よ、私たちは私たちの語ることに関しても、（アッラーから）お咎めを受けるのでしょうか？”すると（預言者）は言いました：“ムアーズよ、お前の母親が泣くぞ。舌によって得たものでなしに、人が地獄の業火で顔、あるいは鼻先から突っ立たされないことがあるというのか？”」（アッ＝ティルミズィーとイブン・マージャの伝承[329]）

8－**アッラーが下された啓示を隠蔽しようとする者：**

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーが下された啓典を隠蔽し、それを僅かな代価で売る者たちは、炎を食べてそれを腹の中に詰め込んでいるのである。そしてアッラーは審判の日、彼らにお言葉をかけられることもなければ、彼らを称えられることもない。そして彼らには更に痛烈な懲罰が待ち受けているのだ。**﴿（クルアーン 2：174）

● **地獄の民の口論：**

1－現世において、アッラーを差し置いて配していた対象そのものとの論争：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そこでかれらも誘惑した者たちも、その中に投げ込まれる。またイブリース（悪魔）の軍勢も全部一緒に。彼らは口論し合いつつ、言う：「アッラーにかけて。私たちは明白な迷妄の中にいました。万有の主と共に、あなた方（彼らが現世で崇拝していたものたちのこと）を拝していたのです。私たちを迷わせたのは、（彼ら）罪深い者たちなので（私たちの責任ではないので）す。」**﴿（クルアーン 26：94－99）

2－現世において弱者だった者たちと、その頭目たちとの論争：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして彼らが地獄の中で論争する時のこと。弱者たちは、（預言者や使徒に従わず）傲岸であった頭目たちに言う：「私たちは（現世におい**

---

[329] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（2616）、スナン・イブン・マージャ（3973）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

て）あなた方に従っていたわけだが、（この日）あなた方は地獄の業火（による懲罰）を私たちのためにいくらか防いでくれるのか。」（預言者や使徒に従わず）傲岸であった頭目たちは言う：「私たちは皆そこに入るのだ。もうアッラーはそのしもべたちの間を、お裁きになられてしまったのである。」﴿（クルアーン 40：47-48）

3－現世において迷妄にあった指導者たちとその追随者たちとの論争：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾そして彼らは互いに向き合って訊ね合う。（追随者たちは）言う：「あなた方は（現世において虚位を真理だと上手く言い聞かせ、）私たちの気に入らせていたのです。」（迷妄にあった）指導者たちは言う：「いいや、あなた方はそもそも（私たちの提示したものに対する）信仰者ではなかったではないか。私たちはあなた方に強制する力を有していたわけではないが、あなた方が不信仰において度を越した民だったのである。それで私たちの主のお言葉[330]が、私たち両方に実現されたのだ。私たちは（懲罰を）味わう。私たちはあなた方を迷わせていたが、私たち自身も迷妄の中にあったのだ。」こうして彼らはその日、共に懲罰を受けることになる。本当にわれはこのように罪を犯した者を処分する。かれらは、「アッラーの外に神はありません。」と告げられると、いつも高慢になった。﴿（クルアーン 37：27－35）

4－不信仰者とその同志であるシャイターン（悪魔）との間の論争：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾彼（不信仰者）の同志（悪魔）は言う：「私たちの主よ、私が彼を迷わせたのではありません。彼自身が遠い迷妄の中にあったのです。」（アッラーは）仰せられる：「われのもとで議論するのではない。あなた方には既に警告しておいたではないか。私は約束を違えることはなく、しもべたちに対して不正を働くこともないのだ。」﴿（クルアーン 50：27－29）

5－またこの件に関する論争の極みとしては、人間が自らの身体部分と論争する、というものもあります：

至高なるアッラーは仰せられました：﴾そしてその日、アッラーの敵たちは地獄に召集され、最初の者たちは最後の者たちがやって来るまで待たされる。そして地獄の業火までやって来ると、彼らの聴覚と視覚と皮膚は、彼らが（現世で）行っていたところの悪行を証言し始める。（彼らは）自らの皮膚に向かって言う：「どうして私たちに不利になる証言をするのだ。」（彼らの皮膚は）言う：「あらゆるものを喋らせることのお出来になるアッラー

[330] 訳者注：アッ＝シャウカーニー師のクルアーン解釈書「ファトゥフ・アル＝カディール」によれば、（われは必ずや、あなた（イブリース：悪魔の長）とあなたに従った者たち全員でもって地獄を満杯にするであろう。）というアッラーのお言葉を指しています。

が、私たちを喋らせられたのです。」かれ（アッラー）はあなた方を最初に創られたお方。そしてかれの御許へとあなた方は還るのだ。﴿（クルアーン 41：19－21）

● **地獄の民は、彼らを迷わせた者たちと会うこと、及び彼らに倍の懲罰が加えられることを乞います：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして（その日）不信仰者たちは言う：「私たちの主よ、人間とジンの内で私たちを迷わせた者たちをお見せ下さい。彼らが私たちよりも下方に来るように、足で踏みつけてやりたいのです。」﴿**（クルアーン 41：29）

2－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾その日彼らの顔は地獄の炎の中でひっくり返され、こう言う：「ああ、アッラーと使徒に従っていればよかった。」そして言う：「われらが主よ、私たちは私たちの指導者たちや頭目に従っていたゆえ、（正しい道から）迷わされたのです。われらが主よ、彼らに倍の懲罰を与え、彼らをあなたのご慈悲から遠く隔てて下さい。」﴿**（クルアーン 33：66－68）

● **地獄の民への*イブリース*[331]の言葉：**

アッラーがしもべたちの間をお裁きになると、イブリースは地獄の民が更なる苦悩と後悔と悲痛を覚えるべく、次のように語りかけます：

至高なるアッラーは仰せられました：**﴾そしてシャイターン（イブリース）は（審判の日の）裁きが終わると、こう言う：「アッラーはあなた方に真のお約束[332]をされた。そして私もあなた方に（虚偽の）約束をし、それを破った。私はあなた方を（この嘘偽の約束へと）いざなうこと以外に、あなた方を強制するいかなる権威も持ち合わせていなかったが、あなた方は私に応じたのである。だから（この日）私を責めるのではなく、自分たちを責めるのだ。私があなた方（の懲罰）を和らげることも出来なければ、あなた方も私（の懲罰）を和らげることは出来ない。私は、以前あなた方がアッラーを差し置いて私を拝していた事などからは、無実なのだ。実に（真理に対する）不正者たちには痛烈な懲罰がある。」﴿**（クルアーン 14：22）

● **地獄の業火が更なる住民を求めること：**

---

[331] 訳者注：イブリースは一説によると、元来は天使であったものの、アッラーが全ての天使たちにアーダム（アダム）の前でサジダ（伏礼）するように命じられた際、高慢になって従いませんでした。それで彼は審判の日まで人間とジンをアッラーの正しい教えから惑わせて迷妄の道へと誘い込み、地獄の道連れにしようと企む悪魔となったのです。

[332] 訳者注：訳者注 8 を参照のこと。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾その日われら（アッラーのこと）は、地獄の業火に言う：「一杯になったか。」すると（地獄は）言う：「（地獄に）入る者はもっと沢山いますか。」﴿（クルアーン 50：30）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「地獄は（そこにその民が）放り込まれるたび、こう言う：“（地獄に）入る者はもっと沢山いますか？”そして威厳この上なき主（アッラー）がその御足をそこにお入れになると、（地獄は）縮小してこう言う：“あなたのこの上なき威厳と尊さにかけて。もう十分です。もう十分です。”一方天国もいつまでも満杯にならない。そのためアッラーはその空き場所のために新たに人々を創られ、そこに住まわせられる。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[333]）

● **地獄の民の罰：**

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾本当にわが印を信じない者は、やがて火獄に投げ込まれよう。かれらの皮膚が焼け尽きる度に、われは他の皮膚でこれに替え、かれらに（飽くまで）懲罰を味わわせるであろう。誠にアッラーは偉力ならびなく英明であられる。﴿（クルアーン 4：56）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴾罪を犯した者は、地獄の懲罰の中に永遠に住む。（懲罰は）かれらのために軽減されず、その中で全く希望を失う。われが彼らに不義を働いたのではない。彼らが（自ら）不義を働いたのである。﴿（クルアーン 43：74－76）

3－至高なるアッラーは仰せられました：﴾本当にアッラーは不信者を呪われ、かれらのために烈火を準備なされ、かれらは永遠にその中に住み、守護者も救助者も見い出せないであろう。その日、かれらの顔が火の中でひっくり返り、かれらは、「ああ、わたしたちはアッラーに従い、また使徒に従えばよかった。」と言うであろう。﴿（クルアーン 33：64－66）

4－至高なるアッラーは仰せられました：﴾しかし信じない者に対しては、地獄の火があろう。かれらには（そこにいる期間も）宣告されず、死ぬことも出来ず、また懲罰も軽減されないのである。われは、凡ての恩を忘れる者にこのように報いる。﴿（クルアーン 35：36）

---

[333] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4848）、サヒーフ・ムスリム（2848）。引用はムスリムから。

5－至高なるアッラーは仰せられました：﴾その時惨な者たちは、火獄の中にいよう。その中でかれらは、ため息とすすり泣き（に喘ぐだけである）。あなたの主の御好みにならない以上、天と地の続くかぎり、その中に永遠に住むであろう。本当にあなたの主は、御望みのことを（必ず）成し遂げられる。﴿（クルアーン 11：106-107）

6－至高なるアッラーは仰せられました：﴾それであなたの主によって、われはかれらそして悪魔たちを必ず召集する。それからわれは、必ずかれらを地獄の周囲に引きたて（かれらを恐れ戦かせ）跪かせよう。それからわれは、各宗派から慈悲深き御方に背くことの甚しい者を、必ず（側に）抜き出す。その時誰がそこで焼かれるに相応しいかを熟知するのは、正にわれである。﴿（クルアーン 19：68－70）

7－至高なるアッラーは仰せられました：﴾本当に地獄は、待ち伏せの場であり、背信者の落ち着く所、彼らは何時までもその中に住むであろう。そこで涼しさも味わえず、煮えたぎる湯と膿の外には（どんな）飲物もない。（彼らのため）相応しい報奨である。﴿（クルアーン 78：21－26）

8－至高なるアッラーは仰せられました：﴾彼らの主を信じない者には、地獄の懲罰がある。何と悪い帰り所であることか。彼らがその中に投げ込まれる時、それ（地獄）が沸騰するかのように不気味で忌しい音でうなるのを彼らは聞こう。激しい怒りのために破裂するかのようである。一団がその中に投げ込まれる度に、そこの看守はかれらに、「あなたがたに、警告者はやって来なかったのか。」と問う。彼らは言う。「そうです。確かに一人の警告者がわたしたちの許にやって来ました。だがわたしたちは拒否して言った。『アッラーは何（の啓示）も下されない。あなたがたは、大変な過誤の中にいるだけである。』」﴿（クルアーン 67：6－9）

9－至高なるアッラーは仰せられました：﴾本当にこれらの罪を犯している者たちは、迷妄と懲罰のうちにある。顔を下にして火の中を引きずられるその日、かれらは、「猛火の触れ具合を味わいなさい。」（と言われよう）。﴿（クルアーン 54：47-48）

10-至高なるアッラーは仰せられました：﴾断じてそうではない。かれは必ず業火の中に、投げ込まれる。業火が、何であるかをあなたに理解させるものは何か。（それは）ぼうぼうと燃えているアッラーの火、心臓を焼き尽し、（地獄は）彼らを閉じ込めて塞がっている。伸びた鉄の針々によって（門が塞がれているのだ）。﴿（クルアーン 104：4－9）

11-ウサーマ・ブン・ザイド（彼らにアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼

にアッラーからの祝福と平安あれ）が次のように言うのを聞いた：ある男が審判の日に連れて来られる。そして業火の中に投げ込まれる。業火の中で彼の腸は噴き出し、ロバが臼の周りを回るように、ぐるぐると回る。それから、地獄の民が彼のもとへ集まり、（次のように）言う。「何某よ、何があったのだ？あなたは（現世で）私たちに善いことを勧め、悪しきことを禁じていたではないか？」（彼は答えて）言った。「私はあなたがたに善いことを勧めていたが、自分では行わなかった。そして私はあなた方に悪しきことを禁じていたが、自分は行っていた。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[334]）

● **地獄の民の号泣と叫び：**

１－至高なるアッラーは仰せられました：**﴿言ってやるがいい。「地獄の火は、もっとも厳しい熱さなのだ。」かれらがもし悟るならば。それでかれらを少し笑わせ、多く泣かせてやりなさい。これは、かれらが行ったことに対する応報である。﴾**（クルアーン 9：81-82）

２－至高なるアッラーは仰せられました：**﴿ かれらはその中にあって叫ぶであろう。「主よ、わたしたちを出して下さい。きっと善い行いをします。（これまで）していたようなことは、いたしません。」（かれは仰せられよう。）「われは、あなたがたを十分に長命させたではないか。その間に誰でも訓戒を受け入れる者は、戒めを受け入れたはず。しかも警告者さえあなたがたに遣わされていた。だから（懲罰を）味わえ。悪い行いの者には救助者はないのである。」﴾**（クルアーン 35：37）

３－至高なるアッラーは仰せられました：**﴿かれらはその中でうめく、そこでは（外に何も）聞こえないであろう。﴾**（クルアーン 21：100）

４－至高なるアッラーは仰せられました：**﴿ かれらが縛られて火獄の狭い所に投げ込まれる時、（いっそ）そこで、滅びて仕舞うことを嘆願するであろう。（その時、言われよう。）「今日、一度に滅亡を嘆願してもだめである。あなたがたは度々繰り返す滅亡でも嘆願するがいい。」﴾**（クルアーン 25：13-14）

５－至高なるアッラーは仰せられました：**﴿その日、悪を行った者は、（しまったと、）その手を噛み、言うであろう。「ああ、わたしがもし使徒と共に（正しい）道を選んでいたならば。」﴾**（クルアーン 25：27）

---

[334] ‘ サヒーフ・アル＝ブハーリー（3267）、サヒーフ・ムスリム（2989）。引用はアル＝ブハーリーから。

６－至高なるアッラーは仰せられました：﴿かれらにとって痛恨の外ないであろう。かれらは業火（の責め苦）から出ることは出来ない。﴾（クルアーン 2：167）

● 地獄の民による救済の嘆願：

１―至高なるアッラーは仰せられました：﴿火獄の仲間は楽園の仲間を呼んで（言う）。「わたしたちに水を注いでくれ。またはアッラーが、あなたがたに与えられたものを恵んでくれ。」かれらは（答えて）言う。「アッラーは、そのどちらをも、不信者には禁じられる。」﴾（クルアーン 7：50）

２―至高なるアッラーは仰せられました：﴿そこで、獄火の中にいる者たちは、地獄の看守（天使）にいう。「この懲罰が、一日（でも）わたしたちから軽くなるよう、あなたの主に嘆願して下さい。」かれら（天使）は言う。「使徒が、あなたがたに明証を持って行かなかったのか」。かれらは（答えて）言う。「その通りです。」かれら（天使）は言う。「それなら祈るがいい。」しかし、これら不信心者の嘆願は、誤り（の迷路）に（虚しくさ迷って）いるだけである。﴾（クルアーン 40：49-50）

３―至高なるアッラーは仰せられました：﴿かれらは、「看守よ、あなたの主に頼んでわたしたちの始末を付けて下さい。」と叫ぶ。しかし、かれは（答えて）、「あなたがたは、滞留していればよいのである。」と言う。われは確かにあなたがたに真理を届けた。だがあなたがたの多くは、真理を嫌った。﴾（クルアーン 43：77-78）

４―至高なるアッラーは仰せられました：﴿かれらは言う。「主よ、わたしたちは不運に打ち負け、迷っていました。主よ、わたしたちをここから出して下さい。もしもなおわたしたちが（悪に）返るならば、本当に不義の徒です。」かれは仰せられよう。「その中に卑しめられて入ってしまえ。われに物を言うな。」﴾（クルアーン 23：106-108）

５―至高なるアッラーは仰せられました：﴿その時惨な者たちは、火獄の中にいよう。その中でかれらは、ため息とすすり泣き（に喘ぐだけである）。あなたの主の御好みにならない以上、天と地の続くかぎり、その中に永遠に住むであろう。本当にあなたの主は、御望みのことを（必ず）成し遂げられる。﴾（クルアーン 11：106-107）

● 地獄の民の住処を天国の民が引き継ぐことについて：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にア

ッラーからの祝福と平安あれ）は言った：あなた方は誰でも２つの家を持っている。（それは）天国の住処と地獄の住処である。もし（ある者が）死んで、地獄に入ったならば、彼の（天国にある）家は天国の民が引き継ぐことになる。というのは至高なるアッラーは次のように仰せられた：﴿**これらの者こそ本当の相続者で、フィルダウス（天国）を継ぐ者である。かれらはそこに永遠に住むのである。**﴾　（イブン・マージャによる伝承[335]）

●　罪深い一神教徒が地獄から出されること：

１―アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（次のように）言われた：「『アッラー以外に神はない』と証言する者は、たとえ心に僅か一粒の大麦の重さほどの善意を持つ者であっても、業火から連れ出されるだろう。また『アッラー以外に神はない』と証言する者は、たとえその心に一粒の小麦の重さほどの善意を持つ者であっても、業火から連れ出されるだろう。さらにまた『アッラー以外に神はない』と証言する者は、たとえその心に微塵の重さほどの善意を持つ者であっても、業火から連れ出されるだろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[336]）

２―ジャービル（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言われた：タウヒードの民のいくつかの人々は地獄で炭となるまで、そこで懲罰を受ける。それから（アッラーの）慈悲が彼らに気づかせる。そして、彼らは（地獄から）出され、天国の門が提示される。（アハマドとアル＝ティルミズィーの伝承[337]）

●　最も重い地獄の民の懲罰：

地獄の民の最も重い懲罰とは、偉大かつ至高なるアッラーの御光から締め出され、お目にかかることができなくなることです。

至高なるアッラーは仰せられました：﴿**いや、本当にかれらは、その日、主（の御光）から締め出される。次にかれらは、地獄できっと焼かれよう。**﴾（クルアーン 83：15-16）

●　天国と地獄は永遠であること：

１－至高なるアッラーは仰せられました：﴿ **その日が来れば、誰もかれ（アッラー）の**

[335] 真正な伝承、イブン・マージャ（4341）

[336] サヒーフ・アル＝ブハーリー（44）、サヒーフ・ムスリム（193）。引用はムスリムから。

[337] 真正な伝承、アハマド（15268）、アッ＝ティルミズィー（2597）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

許しがなければ発言することは出来ない。彼らの中の（ある者は）惨めであり、また（ある者は）幸福である。その時惨めな者たちは、火獄の中にいよう。その中で彼らは、ため息とすすり泣き（に喘ぐだけである）。あなたの主の御好みにならない以上、天と地の続くかぎり、その中に永遠に住むであろう。本当にあなたの主は、御望みのことを（必ず）成し遂げられる。（その日）幸福な者たちは楽園に入り、あなたの主の御好みによる以外、天と地の続く限り、その中に永遠に住むであろう。限りない賜物である。﴾（クルアーン 11：105-108）

２－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**信仰を拒否する者は、仮令地上にある一切のもの、更にこれに等しいものを積み重ねて復活の日の懲罰をあがなおうとしても、決して受け入れられず、痛ましい懲罰を受けるであろう。かれらは、業火から出ることを願うであろうが、決してこれから出ることは出来ない。懲罰は永久に続くのである。**﴾（クルアーン 5：36-37）

３－アブドッラー・ブン・ウマル（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言われた：「天国に住むべき者らが天国に行き、地獄に入るべき者らが地獄に行く時、“死”がやって来て、天国と地獄の間に立たされるが、その後、屠殺される。そのあと、告知役の者が、『天国の住民よ、死はない。地獄の住民よ、死はない』と知らせる。これによって、天国の住民たちの喜びは増し、地獄の住民たちの悲しみは増すのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[338]）

● **天国と地獄において多い人々：**

天国には女性よりも男性の方が多く、地獄には男性よりも女性の方が多くいます。また、天国でフール（天国に住む美しい乙女たち）は男性よりも多くいます。

１－イムラーン（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（次のように）言われた：「私は天国を眺め、そこで人々の大半は貧乏人たちであるのを見た。そして、また、私は地獄も眺めてみたのであるが、そこでの大半の人々は女たちであるのを見た。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[339]）

２－イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“・・・そして私は地獄に目をやった。すると（そこにいる）大多数の者たちは、忘恩の徒である女性たちであった。”すると誰

[338] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6548）、サヒーフ・ムスリム（2850）。引用はアル＝ブハーリーから。
[339] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3241）、サヒーフ・ムスリム（2737）。引用はアル＝ブハーリーから。

かが言いました：“彼女たちはアッラーに対して忘恩だったのですか？”（預言者は）言いました：“彼女たちが忘恩なのは、彼女たちの夫の恩恵と慈善においてであったのだ。もし彼女たちが長年に渡りよくされたとしても、それを何とも思わなかったであろう。そしてこう言ったに違いないのだ：“あなたには全くいい所がないのね。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[340]）

３－イムラーン・ブン・フサイン（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：実に天国の最も少ない住民は女性である。（ムスリムの伝承[341]）

４－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「実に天国に入る最初の一団は、満月の夜の月の姿である。そして彼らに続く一団は、天に最も明るく輝く惑星（の姿）である。彼ら一人ひとりには2人の妻たちがいる。そしてそのすねの骨髄は、肉から透けて見える（ほどに白い）。天国に独身者はいないのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[342]）

● **天国と地獄で覆われているもの：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：「地獄は（そこに落とされた人々の）欲望によって覆われ、天国は（それに到達するまでの人々の）苦難によって覆われている。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[343]）

● **天国と地獄の近さについて：**

アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：あなたがたにとって天国は靴紐よりも近く、地獄もまた同様である。（アル＝ブハーリー[344]の伝承）

● **天国と地獄の論争とそれにおけるアッラーの裁決：**

---

[340] サヒーフ・アル＝ブハーリー（29）、サヒーフ・ムスリム（907）。引用はアル＝ブハーリーから。
[341] サヒーフ・ムスリム（2738）。
[342] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3246）、サヒーフ・ムスリム（2834）。引用はムスリムから。
[343] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6487）、サヒーフ・ムスリム（2823）。引用はアル＝ブハーリーから。
[344] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6488）。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：天国と地獄の間で議論が行われ、地獄は『高慢な者や、横柄な者が好まれてくる。』と言った。天国は『弱者やしいたげられた者、困窮者らのみが私の所に入ってくるが、これは一体どうしてなのか？』と言った。アッラーはこの時、天国に『お前は、私に代わって慈悲の役割を果たすのである。お前によって、しもべ達の中で、私がそうしたいと思う者たちに慈悲が与えられる』と言われた。地獄に対しては『お前は、私に代わって懲罰の役割を果たすのである。お前によって、しもべ達の中で、私がそうしたいと願う者たちは罰せられる。お前たち相方の場所は（そのような者たちで）満員となるであろう。』と言われた。（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[345]）

● **地獄を怖れ、天国を望むこと：**

１－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾あなたがた信仰する者よ、倍にしまたも倍にして、利子を貪ってはならない。アッラーを畏れなさい。そうすればあなたがたは成功するであろう。そして信仰を拒否する者のために準備されている業火を恐れなさい。アッラーと使徒に従いなさい。そうすればあなたがたは、慈悲を受けられるであろう。﴿**（クルアーン３：130-132）

２－アディー・ブン・ハーティム（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は業火について言及された。そしてお顔をそむけられ、それからの御加護をお求めになった。その後、業火について言及された。そしてお顔をそむけられ、それからの御加護をお求めになった。それからまた「業火から護るがよい。たとえなつめ椰子の実半分（のサダカ）によってでも。それも見出せぬ者は、親切な言葉ででも」と言った。（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[346]）

３－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言った：「私のすべての共同体の者は、拒否する者以外天国へ入る。」（人々は）言った。「預言者様、拒否する者とは誰のことですか？」（預言者は）言った。「私に従う者は天国へと入る。私に反抗した者、それが拒否する者である。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[347]）

アッラーよ、私たちは言葉と行いから天国とそこに近づくことを求めます。また私たちは言葉と行いから地獄とそこに近づくことからの御加護を求めます。

---

[345] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4850）、サヒーフ・ムスリム（2846）。引用はムスリムから。
[346] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6563）、サヒーフ・ムスリム（1016）。引用はアル＝ブハーリーから。
[347] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7280）、サヒーフ・ムスリム（1835）。引用はアル＝ブハーリーから。

⑥定命への信仰

● **定命とは**：以下のような事柄を指します：アッラーの全ての物事に関する知識。及びそれらの物事の緻密な設定。またこれらの物事を既に*アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ*（護られた碑版）に書き留められているということ。また定命は創造におけるアッラーの秘密であり、かれに近しい天使や預言者でさえも知り得ることはありません。

● **定命への信仰とは：**

崇高なるアッラーが、﴾**実にわれら（アッラーのこと）は、定命をもって全てのものを創った。またわが命令はただ一言、瞬のようなものである。**﴿（クルアーン 54：49-50）と仰せられたように、良いことであれ悪いことであれ、全ての出来事がアッラーによって既にお定めになられたことであり、かつそれをご履行なされることを確信をもって信じることです。

● **定命の信仰における根幹**

定命への信仰には 4 つの物事が含まれます：

1－至高なるアッラーが、全ての事象の全体と詳細をご存知であるということを信仰すること。それはこの宇宙の創造や運行、生死の取り決めなど崇高なるアッラーの行為と関連するものであれ、あるいは人間の言葉や行為、状態、動植物や無機物の状態など被造物の行為に関連するものであれ、同じことが言えます。至高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーこそは 7 層の天と、そして地においてもそれと同様のものを創られたお方。啓示はその間を下って来る。それはあなた方に、アッラーは全てのことがお出来になり、そし**

て全ての事象を熟知されていることを知らせるためである。﴾（クルアーン 65：12）

2－至高なるアッラーが物事や世界、被造物の状況、糧、寿命など全ての物事の詳細設定を*アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ*（護られた碑版）に既に書き留められていることを信じること。彼は全ての量や形、時間や場所をあらかじめ定められているのであり、それらはアッラーのご命令なしには変更されたり、増減したりすることはないのです。

1　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿あなたはアッラーが天地にあるもの全てをご存知であることを知らないのか。実にそれらは全て*アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ*（護られた碑版）の中に記載されているのである。そのようなことはアッラーにとって、実に易しいことなのだ。﴾**（クルアーン 22：70）

2　アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“アッラーは天地を創られる 50,000 年前に、被造物に関する全ての詳細をお書きになられた。”そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“そして（その時）かれの玉座は水の上にあった。”」（ムスリムの伝承[348]）

3－全ての存在は、アッラーのご意思とお望みによる以外には存在し得ないということを信仰すること。それゆえ発生する全てのことはアッラーのご意思によるものであり、それは宇宙の創造や運行、生死の取り決めなどアッラーの行為に関するものであれ、また意図や言葉、行為や状態など被造物の行為に関することであれ、アッラーがそのようにご意思をもたれたことは実現し、そうでなかったものは実現しません。

1　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そしてあなたの主は、かれがご意思をもたれ、お選びになったことを創造される。﴾**（クルアーン 28：68）

2　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そしてアッラーは、かれがご意思をもたれることを行われる。﴾**（クルアーン 14：27）

3　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿仮令われが、天使たちを遣し、また死者がかれら（不信仰者）に語りかけ、またすべてのものを、かれらの前に集めても、もしアッラーが御好みにならない限り、かれらはきっと信じないであろう。全くかれらの多くは、無知なのである。こうしてわれは、どの預言者にも一つの敵を作った。それは、人間とジンの中の悪魔であって、そのある者が他を感激させ、はなやかな言葉で、唆し騙している。**

---

[348] サヒーフ・ムスリム（2653）。

主の御心でないならば、かれらはそうしなかったであろう。だからかれらのその虚偽を放って置きなさい。﴿（クルアーン 6：111-112）

4　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾これ（クルアーン）こそは、万人への訓戒に外ならない。（訓戒は）あなた方の内で、（真実によって）自らを正したいと望む者のためのものである。そしてあなた方は、万有の主アッラーが（そう）ご意思をもたれない限り、何かを意思することはない。﴿**（クルアーン 81：27-29）

4ー至高なるアッラーが全てを創造されるのだという信仰。かれは全ての存在を、その本質、属性、動きなどと共に創造されます。かれの他にはいかなる創造者もいません。

1　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾アッラーは全ての創造主であり、かれにこそ全ての物事は委ねられている。﴿**（クルアーン 39：62）

2　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾実にわれら（アッラーのこと）は、定命をもって全てのものを創った。またわが命令はただ一言、瞬きのようなものである。﴿**（クルアーン 54：49-50）

3　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾そしてアッラーはあなた方と、あなた方の行うところのものを創られた。﴿**（クルアーン 37：96）

● **定命の秘密**

力強く偉大なるアッラーが被造物へ実行され、命じられること全ての中には、多くの利点が含まれており、偉大なる英知が潜んでいます：

偉大なるアッラーが行われる恩恵や善事はかれの寛大さと慈悲を表しています。一方、かれが行われる強襲や報復はかれの怒りと憤りを表しています。また、かれによる優しさや親切さはかれの愛や温和さを表しています。かれによる侮辱や見放しはかれの嫌悪や憎悪を表しています。かれが被造物に対して何かを減らし、そして満たされることはかれの完全な能力と定められたことが起こることを表しています。

至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾アッラーは罰に厳重であられ、また、アッラーは寛容にして慈悲深くあられることを知れ。﴿**（クルアーン 5：98）

● **定命のフィクフ**

力強く偉大なる主の**定命に**は２種類あります：

１－アッラーの宇宙における創造や糧、生と死、変化と管理などに関すること。

これらの定命には、私たちがアッラーの完全なる能力や偉大なるかれの美名と属性、かれの王権と権威、そして全てのことにおいて精通されたかれの知識を認識することの出来るよう、かれが私たちに日々もたらしているものです。

もし私たちがそれを知れば、アッラーへのイーマーンやかれへの賛美、愛は増加し、それゆえにかれに服従し仕えるのです。

至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾アッラーこそは、７層の天と同様に（７層の）大地を、創造なされた方である。（アッラーの）御命令はそれらの間から下って来る。それで、本当にアッラーは、凡てのことに全能であり、またアッラーの御知識が、凡ての事物を確かに包囲なされることを、あなたに分からせるためである。﴿**（クルアーン 65：12）

２－アッラーが人間の行いに基づいて善事と凶事をもたらすこと。

信仰し善い行いをする者は、アッラーによって現世における幸せを享受し、死の際そして墓の中でその幸せは増大され、それから天国においてその幸せは完全なるものに達します。至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾誰でも善い行いをし（真の）信者ならば、男でも女でも、われは必ず幸せな生活を送らせるであろう。なおわれはかれらが行った最も優れたものによって報奨を与えるのである。﴿**（クルアーン 16：97）

そして不信仰でアッラーに反抗する者は、現世において惨めであり、死の際にその惨めさを増大させ、墓の中では懲罰を加えられ、それから地獄において完全なる懲罰が与えられます。

1- 至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾これはあなたがたの妄想によるものではなく、また啓典の民の妄想でもない。誰でも悪事を行う者は、その報いを受けよう。アッラーの外には、愛護し援助する者も見いだせない。﴿**（クルアーン 4：123）
2- 至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾かれは人間各人の行う凡てのことを、監察される御方ではないか。だがかれらはアッラーに同位の者を配する。言ってやるがいい。「かれらの名を挙げよ。あなたがたは、かれが地上で知っておられないものを、かれに告げようとするのか。それとも架空な語に過ぎないのか。」いやそうではない。不信心な者は、かれらの策謀したものが立派に見えて、道から閉め出されたのである。アッラーに迷うに任せられた者には、誰も導き手はい**

ない。かれらに対しては、現世の生活でも罰が科せられる。だが来世の懲罰は更に厳しい。かれらはアッラー（の御怒り）に対し、守護者もないのである。﴿（クルアーン 13：33-34）

アッラーの定命は、人間の行った善事、悪事、服従、反抗行為に基づいてもたらされます。多くの人々はこの定命についての秘密を知りません。そのため、ほとんどの人間の上には災難が重なり、それは解決されるどころか終わることなく増え続け、落胆や失望を生みます。事実、それらの解決はその人々自身の手にゆだねられていますが、実にアッラーは彼ら自身が変わらない限り、その状況を変えられることはありません。もし彼らが不信仰を信仰へ、反抗を服従へ、そして悪行を善行へと変えるのであれば、アッラーはすぐに彼らの状況を改善されることでしょう。もし善行を悪行へと変えるのであれば、彼らの罪は罰せられることでしょう。至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**それは、アッラーがある民に与えられた恩恵は、かれらが自分を（悪く）変えない限り、決してこれを変えないからである。本当にアッラーは全聴にして全知である。**﴿（クルアーン 8：53）

一方、災難は時にはイスラームに反抗する者への懲罰となります。至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**あなたがたに降りかかるどんな不幸も、あなたがたの手が稼いだものである。それでもかれは、（その）多くを赦される。**﴿（クルアーン 42：30）

また時には、それはしもべの汚れたタウヒードを浄化するための彼らへの教育にもなります。至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**人びとは、「わたしたちは信じます。」と言いさえすれば、試みられることはなく、放って置かれると考えるのか。本当にわれは、かれら以前の者も試みている。アッラーは、誠実な者を必ず知り、また虚言の徒をも必ず知っておられる。**﴿（クルアーン 29：2-3）

あるいは時には悪行の贖罪となり、彼の位階を高めてくれます。

１－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“信者は彼の罪が赦されずには、それが一つのとげが刺さるようなことであっても病気や心配事、悲しみ、痛み、苦悩に見舞われることは無い。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[349]）

２－アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“信者はたとえ彼に刺がささったにせよその

---

[349] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5641）、サヒーフ・ムスリム（2573）。引用はアル＝ブハーリーから。

ことによってアッラーは彼に一つの善行を書き加えるか、あるいは彼から小罪を一つ減ぜられる。”」（ムスリムの伝承[350]）

● **定命の種類**

アッラーが定められ、かつご履行されることのうち、人間に関するものは2種類あります：

1－ 人間の意志を超えた範疇における行為や状態：

人の身長の高低、美醜、生死、また事故や病気、財や生命、糧の喪失など選択の余地なしに発生すること――これらはしもべにとって時には懲罰であり、時には試練、また時にはその位階の上昇、悪事に対する贖罪の原因ともなり得ます――などです。

これら人の意思とは関係なしに起こり現れる物事に関して、人はその責任を問われたりその報いを受けたりすることはありません。これらのことは全てアッラーが定められ、ご履行されることであり、人はそこにおいて辛抱し、満足を覚え、それらを従順に受け入れなければなりません。宇宙の全ての出来事には全てをご存知になり通暁されているお方の規定、英知、慈悲、恩恵などが潜んでいるのです。

1）至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**地上で、そしてあなた方の内に起こるいかなる災難も、それが創造される前に*アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ*（護られた碑版）の中に定められていないことはないのである。実にそのようなことはアッラーにとって容易いことなのだ。それはあなたがたが失ったために悲しまず、与えられたために、慢心しないためである。本当にアッラーは、自惚れの強い高慢な者を御好みになられない。**﴿（クルアーン 57：22-23）

2）アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“偉大かつ荘厳なるアッラーは仰せられた：「アーダムの子ら（つまり人類）は時を悪く言って、われの気を損ねる。われこそが時なのだ。全ての物事はわが手中にある。われは昼夜を変転させるのだ。」”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[351]）

3）イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある日私は

---

[350] サヒーフ・ムスリム（2572）。
[351] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4826）、サヒーフ・ムスリム（2246）。

アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の後ろにいました。彼は私にこう言いました："少年よ、お前にある言葉を教えてやろう。それを心に書き留めて堅守するのだ。そうすればアッラーがお前を護って下さるだろう。アッラー（があなたに命じ禁じられること）を守るのだ。そうすればかれを眼前に見出すであろう。何かを乞うときはアッラーに乞うのだ。そして援助を求める時はアッラーに援助を求めるのだ。そして知るのだ。全ての者があなたを益しようと一丸になっても、アッラーがあなたに対して既にお定めになられたこと以外は何一つとしてあなたを益することがない。また全ての者があなたを害しようと一丸になっても、アッラーがあなたに対して既にお定めになられたこと以外は何一つとしてあなたを害することがない。（定命の）筆は既に置かれ、（それが書き留められる）ページ（のインク）はもう乾いてしまったのである。"」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[352]）

2－アッラーが定められ、かつご履行される人間の行為のうち、イーマーン[353]や不信仰、服従や反逆、善行や悪行など、アッラーが人間に授けられた理性や能力、選択などによって人間が出来る範囲のもの：

これらに関して人間はその責任を問われ、そしてその行為いかんによって報奨や懲罰が決まります。というのもアッラーは使徒たちを遣わし、諸々の啓典を下し、真実と虚偽を明白にされましたし、またイーマーンとかれに対する服従を勧められ、不信仰とかれへの反逆行為に警告を与えられました。その上かれは人間に理性と選択能力を授けられたのですから、人間は自分自身の選択によって望む道を進むのだと言えます。そして人間がいかなる選択をしようとも、それはアッラーのご意思とお望みのもとにあることなのです。というのもアッラーの王国において、かれの知識とご意思とお望みを免れるものは何一つとして存在しないからです。

1）　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そして言え、「これこそはあなた方の主からの真理である。アッラーがそう思し召しになる者を信仰させ、そう思し召しになる者を否定させるのだ。」**﴿（クルアーン 18：29）

2）　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**良い行いをする者は自分のために（行い）、そして悪行を行う者は自らに反して（行って）いるのだ。そしてあなたの主は、そのしもべたちに対していかなる不正も施されない。**﴿（クルアーン

352　真正な伝承。ムスナド・アフマド（2669）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2516）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

353　訳者注：「8. イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

41：46）

3）　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾信仰している者が、主の掟に背く者と同じであろうか。かれらは決して同じではない。信仰して善行に勤しむ者は、楽園が住まいで、それは善行をしたことへの報奨である。だが掟に背く者の住まいは地獄の業火である。そこから出ようとする度にかれらはその中に引き戻され、「あなたがたが虚偽であるとしていた業火の懲罰を味わえ。」と言われよう。﴿**（クルアーン 32：18-20）

4）　至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾それ（クルアーン）は万有の訓戒に他ならない。（それは）あなた方の内で、（真実によって）自らを正したいと望む者のためのものである。そしてあなた方は、万有の主アッラーが（そう）ご意思をもたれない限り、何かを意思することはない。﴿**（クルアーン 81：27-29）

● **定命を引き合いに出して弁解出来る場合：**

1－前述したように、自ら招いたのではない災難などに関しては、人は定命を引き合いに出して弁解することが出来ます。ゆえに人が自らの選択ではなしに病にかかったり、損害、災難による試練に遭ったりした時は、アッラーの定命を引き合いに出してこう言うのです：「アッラーはそれを定められ、かれのご意思に叶ったことを行われた。」そして彼はその災難において辛抱することで報奨が得られることに、満足し喜ばなければなりません。崇高なるアッラーは仰せられました：**﴾そして忍耐する者たちに良き知らせを伝えよ。（彼らは）災難が降りかかった時に「私たちは実にアッラーにこそ属し、そして彼の御許へと還り行く境遇にあります。」と言う者たち。彼らには主からの祝福とご慈悲があり、そして彼らこそは正しく導かれた者なのである。﴿**（クルアーン 2：155-157）

2－義務行為の放棄や禁じられた諸事に携わることなど、アッラーに対する不服従において定命を言い訳にすることは許されません。

というのもアッラーはかれへの服従を命じられ、かれへの不服従を禁じられたのであり、また物事の実行を命じられ、定命にかこつけて無為になることを禁じられました。もし定命をそのような形で言い訳とすることが許されていたのなら、アッラーはヌーフ（ノア）の民やアード、サムード[354]の民のように使徒たちを嘘つきとした者たちを罰したりはされなかったでしょう。また法規範を越えた者たちに刑の執行を命じられることもなかったで

[354] 訳者注：アードの民は肉体的に強大で栄えていましたが、預言者フードが彼らのもとに遣わされたときに彼に従わなかったため、アッラーから送られた暴風雨によって滅亡しました。一方サムードはアラブ半島に栄えた部族で、岩山を穿った住居に住んでいたと言われます。預言者サーリフが彼らに遣わされましたが、彼に従わなかったために滅ぼされました。

しょう。
ゆえに不服従の徒を定命にかこつけて正当化し、たとえ法を侵したとしてもその非や懲罰が免除されなければならないなどと主張し、善行者と悪行を働く者の区別すらしないなどという考えは、大きな誤りなのであり、覆されることなき虚偽であり、知性の欠如であるのです。アッラーはかれが善いことを望まれるしもべに、宗教の理解をお授けになります。

至高なるアッラーは仰せられました：﴾***シルク***[355]**の徒は言うであろう：「アッラーがそう思し召しならば、私たちも私たちの父祖も*シルク*など犯さなかったし、何も（アッラーが禁じられていないものを根拠もなく）禁じたりはしなかったであろう**[356]**。」彼ら以前の者たちも同様に嘘をつき続け、そしてわれら（アッラーのこと）の懲罰を味わったのである。言ってやれ、「あなた方に知識があるというのなら、それを見せてみよ。あなた方は確証もなく憶測しているに過ぎないのだ。あなた方は思い違いをしているのである。」**﴿（クルアーン 6：148）

● **行為の原因に関する規定**

宗教とは全て、アッラーの英知、諸規定、公正さ、善行、定命です。
アッラーがしもべに定められたことは、それが良いことであれ悪いことであれ、その諸原因と密接に結び付いています。
つまり良いことの諸原因は*イーマーン*[357] と服従行為であり、悪いことの諸原因は不信仰や不服従です。
そして人間はアッラーから授けられた純粋な意志と、やはりアッラーから授けられた選択能力でもって行為を行います。しかし人間はアッラーから授けられた選択能力によって行うそれらの諸原因を介してでなければ、アッラーが彼のために書き留められ定められた幸福や不幸といった事象には到達出来ないのです。ゆえに天国に入るにもその諸原因があり、地獄に入るにもその諸原因があるのです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：﴾**本当にこれは一つの訓戒である。だから誰でも望む者には、かれの主への道をとらせなさい。だがアッラーが御望みにならなければ、あなたがたは欲しないであろう。アッラーは全知にして英明であられる。かれは、御心に適う者を慈悲に浴させ、また不義の徒に対しては痛烈な懲罰を備えられる。**﴿（クルアーン

---

[355] 訳者注：詳しくは「5. シルク」の章を参照のこと。

[356] 訳者注：イスラーム以前の無明時代にアラブ人たちが聖なるものとしていたある種の家畜類を指すといわれます。クルアーン 5：103 参照のこと。

[357] 訳者注：「8. イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

76：29-31）

2－至高なるアッラーは仰せられました：﴿**これらは、アッラーの定められた決まりである。アッラーとその使徒に服従する者は、川が下を流れる楽園に入り、永遠にその中に住むであろう。それは至上の幸福の成就である。だがアッラーとその使徒に従わず、かれの定めに背く者は、業火に入り、永遠にその中に住む。かれは恥ずべき懲罰を受けるであろう。**﴾（クルアーン 4：13-14）

3－アリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“あなた方の魂は全て、天国と地獄での居場所をあらかじめ決められている。”（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、ではなぜ（努力して善い）行いをするのでしょう？”（アッラーの使徒は）言いました：“いや、（努力して善い行いを）行うのだ。全ては彼のために創造されたものへと容易にしてくれるだろうから[358]。”そして（クルアーンの次の章句を）読みました：﴿**（よいことにおいて）施し、（アッラーの禁じられた物事から）身を控え、シャハーダの証言**[359]**を心から信じる者は、われら（アッラーのこと）がよい行いへと導いてやろう。一方吝嗇し、（来世の享楽より現世の欲望や）富を追求し、シャハーダの証言を嘘とする者は、われらが（よい行いをするにあたっての）困難さへと導いてやろう。**﴾（クルアーン 92：5－10）」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[360]）

● 定命の打ち消し

以下に挙げる事柄においては「定命による定命の打ち消し」がありえます：

1－ある定命の諸原因が既に達成されてはいても、それに対立する定命の諸原因がまだ達成されてはいないような場合。例えば戦いによって敵を撃退すること、寒暑から身を防ぐことなどのことです。

2－ある定命が既に発生してはいても、それを追いやり無効化するような他の定命が現存している場合。例えば病気を医薬による治療でもって除去すること、罪という定命を悔悟という定命でもって駆逐すること、また悪行という定命を善行という定命でもって取り消すことなどです。

---

[358] 訳者注：つまり天国の徒であれば、天国に入るための諸要因である善い行いを行うことが容易くなるのであり、その逆もまた同様であるということ。

[359] 訳者注：つまり「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に真に崇拝すべきものはなし）」の言葉。詳しくは「イスラームの基幹」の章を参照のこと。

[360] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4945）、サヒーフ・ムスリム（2647）。引用はムスリムから。

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**善と悪とは同じではない。（人が悪をしかけても）一層善行で悪を追い払え。そうすれば、互いの間に敵意ある者でも、親しい友のようになる。だがよく耐え忍ぶ者たちの外には、それは成し遂げられないであろう。格別幸運な者たちの外には、それを成し遂げられないのである。**﴿（クルアーン 41：34-35）

● **全てのものに対するアッラーの一般的な御意志**

しもべが善と悪を行うことは、それらをアッラーが創造したということを否定してはいません。

アッラーは全てを創造されたのであり、人間とその行いもまたそこから免れません。しかし偉大かつ荘厳なるアッラーのご意思が、常にかれのご満悦を意味しているとは限らないのです。不信仰や不服従、腐敗などという事象はアッラーのご意思によるものであることは間違いありませんが、アッラーはそれらを愛されもしなければ悦ばれることもなく、またそれらをご命じになられることもありません。その逆に、アッラーはそのような物事を厭われ、禁じられています。
しかしかれが厭われ、禁じられているようなことであっても、それらが全てを創造されたアッラーのご意思から免れることはないのです。アッラーの創造された全てには、崇高なるかれの王国と創造の管理を目的としてかれによって散りばめられた英知が潜んでいるのです。

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**これ（クルアーン）こそは、万人への教訓に外ならない。それはあなたがたの中、誰でも正しい道を歩みたいと望む者のためのものである。だが万有の主、アッラーの御望みがない限り、あなたがたはこれを望むことも出来ないのである。**﴿（クルアーン 81：27-29）

● **定命を受け入れることに関する規定**

定命を甘んじて受け入れることは３つのカテゴリーに分類されます：

1－服従行為を喜んで受け入れること：これは義務です。

2－災難を甘んじて受け入れること：これは推奨されているものです。

3－不信仰と不服従、反逆行為など：これらについては甘んじて受け入れることを命じら

れておらず、むしろこれらについて怒り、厭うことが命じられています。アッラーはこれらのことを愛されもしなければ、お悦びにもなられません。そしてそれらを創造されたのはアッラーご自身ですが、かれがそれら自体を愛でられることはありません。実にそれらはシャイターン（悪魔）の創造に代表されるように、アッラーがそのしもべをかれの愛でられるものへと間接的に導く仲介物なのです。ゆえに私たちはアッラーの創造に満足しますが、非難されるべき行為やその行為者自体は甘んじて受け入れもしなければ、愛しもしないのです。

その一面では愛され、またある一面では厭われるもののよい例として、苦い薬があります。苦い薬は嫌なものですが、好ましい結果へと導いてくれます。そしてアッラーへと向かう道とは、かれの愛でられお悦びになるものを成すことへの満足であり、発生し存在し得る全ての物事への満足ではありません。また私たちは、アッラーが定められご履行されるもの全てにおいて満足することを命じられているわけでもありません。実際のところ私たちは、アッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が私たちに満足するよう命じられたことを満足するよう命じられ、また私たちに忌避するよう命じられたことを忌避するよう命じられているのです。

至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿あなたがたの間にアッラーの使徒がいることを知れ。かれがもし多くの事柄に就いてあなたがたに従ったならば、あなたがたはきっと不幸に陥ったことであろう。だがアッラーは、あなたがたに信仰を好ましいものとなされ、またあなたがたの心を、それに相応しくして、あなたがたに不信心と邪悪と反逆を嫌うようになされた。これは正しく導かれた者である。それもアッラーからの御恵みであり、恩恵である。アッラーは全知にして英明であられる。﴾**（クルアーン 49：7-8）

●　アッラーの定命――それが一見して良いことであれ悪いことであれ――におけるご履行には２つの側面があります：

1－アッラーに関連し、そしてかれに帰せられる側面：この側面において、しもべは満足して受け入れます。アッラーの定命におけるご履行は全て善であり、公生かつ英知と慈悲に溢れたものであるからです。

2－しもべに関連し、そして帰せられる側面：この側面においてはイーマーン[361]や服従行為のように満足すべきものと、また不信仰や反逆行為のように甘んじて受け入れるべきではない――同様にアッラーもこのようなことを愛でられもしなければお悦びもされず、それらをご命じにもならない――ものがあります。

[361] 訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてあなたの主は、かれがご意思をもたれ、お選びになったことを創造される。彼らに選択はないのだ。崇高なるアッラーに讃えあれ。かれは彼らが（かれに）並べて配するものから遥か高く（無縁で）あられるお方である。﴾（クルアーン 28：68）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿あなた方が不信仰に陥ろうと、アッラーはあなた方のことなどそもそも必要ともされていないのである。そしてかれは、（信仰者の）しもべたちに不信仰をお悦びにはなられない。そしてもしあなた方が感謝するならば、それをあなた方にお悦びになられる。﴾（クルアーン 39：7）

３－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてアッラーはあなた方と、あなた方の行うところのものを創られた。﴾（クルアーン 37：96）

● しもべの行為は被造物である：

偉大かつ荘厳なるアッラーはしもべと、その行いを創造されました。そしてそれをご存知になり、それが起こる前に既に書き留められています。
ゆえにしもべが善行、あるいは悪行を行った時、私たちは初めてアッラーがそれをご存知になられ、創造され、書き定められていたことを知るのです。しもべの行為に関するアッラーの知識は仔細に及ぶ完全なものであり、全てのものをその知でもって包囲されています。地上であれ天であれ、一微塵ほどの重さのものであれ、かれの知識から免れるものはないのです。
というのも、アッラーはかれに反抗する者の存在をお許しになられました。実に反抗はそれをする者自身が選んだことです。本当にアッラーはかれに反抗する者をお好みにならず、それを命じていません。むしろ、それに憤慨され厭われます。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてアッラーはあなた方と、あなた方の行うことを創られた。﴾（クルアーン 37：96）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿本当にアッラーは公正と善行、そして近親に対する贈与を命じ、また凡ての醜い行いと邪悪、そして違反を禁じられる。かれは勧告している。必ずあなたがたは訓戒を心に留めるであろう。﴾（クルアーン 16：90）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてわれら（アッラーのこと）があなた方の証人となることなしには、あなた（ムハンマド）が何かを意図し行うこともなければ、クルアーンを読むこともなく、またあなた方が何らかの行為を没頭して行うこともな

いのだ。そして微塵ほどの重さのものであっても、あるいはそれより小さい、あるいは大きなものであっても、天地においてあなたの主から隠れられるものはないのである。﴿（クルアーン 10：61）

4－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「正直者であり、かつ信頼されるお方であるアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は、私たちにこう言いました：“実にあなた方の構成要素は母の胎内に 40 日間留まり、それからそこで同じ期間一個の凝血となり、それからまたそこで同じ期間一個の肉塊となる。それから一人の天使が遣わされ、そこに魂を吹き込む。そしてそれに対して 4 つの言葉：つまり彼の糧と寿命、そしてその行い、及び彼が幸福な者となるか、あるいは不幸な者となるかを書き留めることを命じられる。

かれの他に真に崇拝すべきもののないお方にかけて。あなた方の内のある者は、天国まで後一歩という所まで天国の民の行いを行い続ける。しかしそこで（天命が記された）書が勝り、それによって地獄の民の行いを行い、地獄へと入るのだ。

またあなた方の内のある者は、地獄まで後一歩という所まで地獄の民の行いを行い続ける。しかしそこで（天命が記された）書が勝り、それによって天国の民の行いを行い、天国へと入るのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[362]）

● **公正さと慈善（イフサーン）：**

偉大かつ荘厳なるアッラーの行為は公正さと慈善を基調としており、かれは誰一人として不正を施されることがありません。そして、慈善は公正さよりも愛でられ、許しは復讐よりも愛でられます。

偉大なるかれはしもべに公正さをもって処されるか、あるいは慈善でもって処されるかのどちらかなのです。ゆえに悪行を行う者に対しては、崇高なるアッラーの**﴾そして一つの悪行に対する報いは、それと同じ一つの悪行なのである。﴿**（クルアーン 42：40）というお言葉通り、公正さでもって処されます。一方善行者に対しては崇高なるアッラーの**﴾一つの善行を行った者には、その 10 倍（の報奨）がある。﴿**（クルアーン 6：160）というお言葉通り、慈善と寛大なる恩恵でもって報われるのです。

● **偉大かつ荘厳なるアッラーのご命令のフィクフ：**

偉大かつ荘厳なるアッラーのご命令には、2 種類があります：つまり宗教的命令と普遍的命令です。

---

[362] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3208）、サヒーフ・ムスリム（2643）。引用はムスリムから。

普遍的命令には3種類があります：

1－創造と存在の命令：これはアッラーから全ての被造物に向けられたものです。崇高なるアッラーは仰せられました：﴾**アッラーは全ての創造主であり、かれにこそ全ての物事は委ねられている。**﴿（クルアーン39：62）

2－存続の命令：これはアッラーから存続に関して、全ての被造物に向けられたものです。

1　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**実にアッラーは天地が崩れぬよう、支えられている。そしてもしそれらが崩れてしまったら、誰もそれを支えることは出来ない。かれは実に寛容で赦し深いお方なのである。**﴿（クルアーン35：41）

2　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてかれ（アッラーのこと）のみしるしの内の一つに、かれのご命令によって天地が（支えもないのに安定して）成立していることがある。それからかれが大地（の中）からあなた方を一呼びされると、あなた方は（そこから）出てくる。**﴿（クルアーン30：25）

3－変容や管理、害益や動静、生死などに関するご命令：これもまたアッラーから全ての被造物に向けられたご命令です。

1　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**言え（ムハンマドよ）、「私はアッラーのご意思に叶うこと以外、自らに（何かを）害（する権威）も益（する権威）も持ち合わせてはいない。もし私が不可知の領域を関知していたら、よいことばかりを集め、災難は回避することが出来たであろう。私は信仰する民への一人の警告者、福音者に過ぎないのである。」**﴿（クルアーン7：188）

2　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**（祈って）言え。「おおアッラー、王権の主。あなたは御望みの者に王権を授け、御望みの者から王権を取り上げられる。また御望みの者を高貴になされ、御望みの者を低くなされる。（凡ての）善いことは、あなたの御手にある。あなたは凡てのことに全能であられる。あなたは夜を昼の中に入らせ、昼を夜の中に入らせられる。またあなたは、死から生をもたらし、生から死をもたらせられる。あなたは御心に適う者に限りなく御恵みを与えられる。」**﴿（クルアーン3：26-27）

3　至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**かれは生死を司るお方。それで何かをご決定される時には、ただ「このようにあれ」と仰せられるだけで、そのようになるの**

である。﴿（クルアーン 40：68）

宗教的命令には、5 つの種類があります。

それは、タウヒードとイーマーン[363]、イバーダート（崇拝行為、アッラーと人間との間の諸々の取り決め）、ムアーマラート（社会法、人間と人間の間の諸々の取り決め）、付き合い方、そして道徳です。これらはアッラーによって、人類とジン[364]の 2 種族のみに向けられたものです。アッラーはこの真の宗教のため、諸使徒を遣わし、諸啓典を啓示されたのであり、それこそは被造物への最も偉大なる恵みであるのです。

そしてアッラーの普遍的命令に対する確信が強ければ強いほど、アッラーの宗教的命令に従おうとするしもべの希求と思慕、そしてそこにおける悦楽の念は高まります。そしてそこにおいて最も成功する者というのは、その主を最もよく知る者です。つまり彼らとは預言者たちであり、そして彼らの導きを踏襲する者たちなのです。アッラーの宗教的命令に応えることにより、かれは私たちに現世においては天地の祝福を与えて下さり、そして来世においては私たちを天国に入れて下さるでしょう。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである。﴿**（クルアーン 5：3）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾これらの町や村の人びとが信仰して主を畏れたならば、われは天と地の祝福の扉を、かれらのためにきっと開いたであろう。だがかれらは（真理を）偽りであるとしたので、われはかれらの行ったことに対して懲罰を加えた。﴿**（クルアーン 7：96）

３－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾本当に信仰して善行に励む者に対する歓待は、天国の楽園である。かれらはそこに永遠に住もう。かれらはそこから移ることを望まない。」﴿**（クルアーン 18：107-108）

● **偉大かつ荘厳なるアッラーのご命令は 2 つの場合に区分けされます：**

1－しもべによって実現される場合も、背かれる場合もある宗教的命令。例えば次のようなものです：**﴾そしてあなたの主は、あなたがかれ以外の何ものも崇めることなく、その両親に孝行することをご命じになられた・・・﴿**（クルアーン 17：23）

---

[363] 訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

[364] 訳者注：霊的存在のこと。

2－必ず実現し、人間がそれに反することが不可能である類の普遍的命令。これには2種類があります：

1　アッラーによる直接のご命令によって必ず実現されるもの。つまりアッラーがその存在をお望みになれば、そのすべてが必ず実現するということです：﴾**かれ（アッラー）のご決定というものは、それをお望みになられた時に“（このように）あれ。”と仰せられただけで、実にそのようにあるのである。**﴿（クルアーン 36：82）

2　アッラーのご命令あるいはご意思によって生じる、因果関係に基づいた普遍的法則。つまり全ての普遍的な原因には結果が伴うということです。これらの例としては以下に挙げるようなものがあります：

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**それは、あなた方が自ら（の状態を悪い方へと）変化させない限り、アッラーも彼らに与えている恩恵を変えられることはないからである。**﴿（クルアーン 8：53）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）がある町を滅ぼそうと欲する時には、その恵まれた富者たちに（われらへの服従や善行を）命じるが、彼らは従わず放蕩に耽る。それで彼らに懲罰が確定され、われらは彼らを徹底的に滅亡させるのである。**﴿（クルアーン 17：16）

これらの普遍的法則を、*イブリース*[365]やその徒党はある者たちを破滅へと導く原因とすべく利用することがあります。アッラーはこれらの事から私たちを救われるために、タウバ（改悛）、*ドゥアー*（祈願）や*イスティグファール*（罪の赦しを乞うこと）をお与えになりました。
アッラーによる定命のご履行は、*ドゥアー*によってでしか阻まれることはありません。*ドゥアー*は全ての普遍的法則を創られたアッラーへの避難であり、普遍的法則による諸々の効果を無効化したり、その諸々の結果をいつでもどのような形にでも変化させる力を秘めているのです。イブラーヒーム（アブラハム）が火刑に処されかけた時にその炎の効果が消失したのは、そのよい例でしょう。アッラーはこう仰せられています：﴾**彼らは言った。「どうせやるなら、彼（イブラーヒーム）を焼きなさい。そしてあなたがたの神々を救いなさい。」われら（アッラーのこと）は言った：「炎よ、イブラーヒームにとって冷涼かつ無害なものとなれ。」彼らは彼（イブラーヒーム）に対し策動しようとしたが、われは彼ら**

[365] 訳者注：イブリースは一説によると、元来は天使であったものの、アッラーが全ての天使たちにアーダム（アダム）の前でサジダ（伏礼）するように命じられた際、高慢になって従いませんでした。それで彼は審判の日まで人間とジンをアッラーの正しい教えから惑わせて迷妄の道へと誘い込み、地獄の道連れにしようと企む悪魔となったのです。

を酷い失敗者にした。﴿（クルアーン 21：68 - 70）

● **善と悪のフィクフ：**

善には 2 つのカテゴリーがあります：

1－その理由が*イーマーン*[366]と正しくよい行い、つまり偉大かつ荘厳なるアッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）への服従行為であるもの。

2－その理由が、アッラーにより人間に授けられた財や健康や威力などの恩恵であるもの。

悪にも 2 つのカテゴリーがあります：

1－その理由が*シルク*[367]や反逆行為であるもの。それらは人間から発生します。

2－その理由が病や財の消失、飢餓の恐怖、敗北など主からの報いや試練であるもの。

善とは服従行為の意味であり、アッラーのみに帰されます。アッラーこそがそのしもべにそれを定められ、与えられ、命じられ、その遂行において援助され、報酬を与えられる御方であるからです。

悪とはアッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に対する反逆の意味です。しもべが服従よりも反逆を好み、自ら望み選択してそれを行うのなら、この悪はその行為者であるしもべ自身に帰されるのであり、アッラーに帰されることはありません。というのもアッラーはそれを定められてもいなければ命じられもせず、逆にそれを禁じられ、その応報について警告までされているからです。崇高なるアッラーはこう仰せられています：**﴾あなたが得た善はアッラーからのものであるが、あなたが得た悪は自ら稼いだものなのである。そしてわれら（アッラーのこと）はあなた（預言者ムハンマド）を人々に、使徒として遣わした。アッラーこそは十分な証人であられる。﴿**（クルアーン 4：79）

財や子孫、健康や勝利、威力などの恩恵という意味での善、そして財や生命や収穫物の損失や敗北などのような悪報や試練という意味での悪は、全てアッラーからのものです。というのも偉大かつ荘厳なるアッラーは、そのしもべを高い位階の獲得と教訓ゆえ

366　訳者注：「8．イーマーンとイーマーンの諸特質」の項参照。

367　訳者注：詳しくは「5．シルク」の章を参照のこと。

に、悪報や試練でもって試されるからです。崇高なるアッラーは仰せられています：﴾**そして彼らがよい目に遭えば、こう言う：「これはアッラーからのものだ。」そして悪い目に遭うと、こう言う：「これはあなたのせいだ。」言うのだ、「（これら）全てはアッラーからのものである。」これらの民はどういうことだろう、全く思慮することがないかのようである。**﴿（クルアーン 4：78）

悪行を原因とする懲罰を退ける方法：

信仰者が悪行を犯してしまった際、その帰結として起こる懲罰を以下の方法で回避することが出来ます：

悔悟し、それがアッラーによって受け入れられること。アッラーに罪の赦しを乞い、赦されること。悪行を帳消しにするような善行を行うこと。信仰者が同胞のために*ドゥアー*（祈願）し、その人物のために*イスティグファール*（罪の赦しを乞うこと）すること。あるいは（同胞の慈善によって、）アッラーが益してくれるような行いの報奨を（その同胞の分から）贈与されること。現世においてアッラーが何らかの災難でもって試練にかけられ、それによって行った悪行が赦されること。死後、天国と地獄の境界において大音響による試練を受け、それによって悪行が赦されること。審判の日、召集の地における試練によって悪行が赦されること。預言者ムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のとりなし。最も慈悲深いお方のご慈悲。

アッラーこそは最も赦し深く、最も慈悲深いお方であられます。

崇高なるアッラーは仰せられています：﴾**だが悔悟して信仰し、善行に勤しみ、その後（正しく）導かれる者には、われは度々寛容を示す。」**﴿（クルアーン 20：82）

● **服従と不服従のフィクフ：**

アッラーはしもべに対して、タウヒード、イーマーン、かれへの服従、定められたかれへのイバーダ（崇拝行為）を意図されています。

アッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）への服従は利益と高徳を生み、またかれらへの不服従は害悪と悪徳の原因となります。太陽も月も動植物も陸も海もアッラーに服従しており、それゆえ至高なるアッラー以外には数え切れないほどの沢山の益を産出するのです。そして預言者たち、宣教者、イスラーム法学者たちは偉大かつ荘厳なるアッラーに服従したことで、至高なるアッラー以外には数え切れないほどの沢山のよきものが彼らから生じたのです。

一方*イブリース*[368]、人間とジン（霊的存在）によるイブリースの仲間はその主に逆らい、

---

[368] 訳者注：前出。

そのご命令を拒み、高慢になったゆえに至高なるアッラー以外には数え切れないほど沢山の悪と腐敗を地上において排出しました。

このように人間もその主に服従することで、至高なるアッラー以外には数え切れないほどの沢山のよきものと益を自らとそれ以外のものに提供することが出来るのです。しかしその主に逆らうのなら、至高なるアッラー以外には数え切れないほどの沢山の悪と害を自らとそれ以外のものに向けてもたらすことになります。

崇高なるアッラーは仰せられています：﴾**これらは、アッラーの定められた決まりである。アッラーとその使徒に服従する者は、川が下を流れる楽園に入り、永遠にその中に住むであろう。それは至上の幸福の成就である。だがアッラーとその使徒に従わず、かれの定めに背く者は、業火に入り、永遠にその中に住む。彼は恥ずべき懲罰を受けるであろう。**﴿（クルアーン 4：13-14）

● **服従と不服従による影響：**

偉大かつ荘厳なるアッラーは、かれとかれの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に対する服従と善行に関し、不服従におけるそれとは比べ物にはならないほどの素晴らしく甘美かつ好ましい影響をご用意されました。

そしてまた崇高なるアッラーは不服従と悪行に関し、それを行う時の快感とは比べ物にはならないほどの悲痛と後悔の原因となる忌まわしき影響と苦痛をご用意されたのです。

そしてしもべの好ましくない状況の原因は、罪悪以外の何ものでもありません。それにも関わらず、アッラーは多くの罪をお赦しになられます。罪悪は、ちょうど身体に対する毒の有害さのように、人の心にとって有害です。

アッラーは人間を美しく健全な先天的資質のもとに創造されましたが、罪悪や過ちによるけがれはその美しさや健全性を駆除してしまいます。そしてそのしもべがアッラーに悔悟すれば、アッラーはその美しさと健全性を回復させて下さるでしょう。そしてその極みは天国において実現され、諸預言者と諸使徒の仲間となるのです。

1- 至高なるアッラーは仰せられています：﴾**アッラーと使徒に従う者は、アッラーが恩恵を施された預言者たち、誠実な者たち、殉教者たちと正義の人々の仲間となる。これらは何と立派な仲間であることよ。これはアッラーからの恩恵である。アッラーは凡てのことにぬかりなく通暁しておられる。**﴿（クルアーン 4：69-70）

2- 至高なるアッラーは仰せられています：﴾**あなたは天と地の大権がアッラ**

ーに属することを知らないのか。かれは御望みになっている者を罰し、御望みになっている者を御赦しになられる。アッラーは凡てのことに全能であられる。﴿（クルアーン 5：40）

● **正しい導きと迷妄のフィクフ：**

偉大かつ荘厳なるアッラーは創造に加え、お望みになられたことを行い、お気の召すままに裁かれ、お望みになる者を導かれ、あるいは迷わせられるご命令を所有されています。ゆえに王国とはかれの王国であり、創造とはかれの創造なのです。かれはかれの成されることを（審判の日に）訊ねられるのではなく、かれこそが被造物に訊ねられるのです。

崇高なるかれはそのご慈悲により、使徒たちを遣わされ、諸啓典を下されました。また正しい道を明らかにし、様々な障害を除去されました。そして正しい導きと服従への諸要因を、聴覚や視覚や理性によって捉えられるように配置されたのです。

正しい導きを好み、望み、求め、その諸要因をこなし、それを獲得することにおいて努力奮闘する者は、アッラーがそこへとお導き下さり、その獲得と成就に関してご援助下さるでしょう。これはアッラーのそのしもべに対するご慈悲なのであり、寛大なる恩恵と善事なのです。

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）ゆえに努力奮闘する者は、必ずやわれらの（もとに到達する）道へと導いてやろう。アッラーは実によく服従する者たちと共にあるのだ。**﴿（クルアーン 29：69）

そして迷妄を好み、望み、求め、その諸要因をこなす者は、それを自らに完遂させるでしょう。そしてアッラーは彼がいそしむものに、彼を従事させられるでしょう。彼はアッラー以外に、そこから彼を救い出してくれるものを見出しません。これはアッラーの公正さというものです。

至高なるアッラーは仰せられました：﴾**そして正しい導きが明らかになった後に及んでも使徒に従わず、不信仰者たちの道を追求する者たちには、われら（アッラーのこと）が彼らをそのいそしむものに従事させてやろう。そしてわれらは彼を地獄の業火に入れてやろう。何と悪い行き所であろうか。**﴿（クルアーン 4：115）

● **定命への信仰の利益：**

アッラーの定命とそのご履行への信仰は、全てのムスリムの心の安らぎと平穏、幸福感の源泉です。全てがアッラーの定命であると知れば、自らの望みが達成されてもそれで有頂天になることもなく、愛する者を失ったり災難が降りかかったりしても取り乱すことはありません。というのも彼は全てがアッラーの定命であり、起こったことが必ずや起こるべくして起こったことを知っているからです。

1－至高なるアッラーは仰せられました：**﴾地上で、そしてあなた方の内に起こるいかなる災難も、それが創造される前に*アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ*（護られた碑版）の中に定められていないことはないのである。実にそのようなことはアッラーにとって容易いことなのだ。それはあなた方が過ぎ去ったことに後悔せず、（アッラーが）あなた方に与えられたものにおいて悦に入らないようにするためである。アッラーは全ての自惚れ屋と高慢な者を愛でられない。﴿**（クルアーン 57：22－23）

2－スハイブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました："信仰者の諸事とは驚くべきものである。彼に降りかかる事は実に、全てよき事であるからだ。そしてそれは信仰者のみのものであり、それ以外の者にはありえない。彼は順境にあれば（アッラーに）感謝し、それは彼にとってよきものとなる。そして逆境の折には耐え忍び、そしてそれはまた彼にとってよきものとなるのである。"」（ムスリムの伝承[369]）

3－サアド・ブン・アビー・ワッカース（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました："信仰者とは驚くべきものである。彼は良い目に遭えばアッラーを讃え、かれに感謝する。そして悪い目に遭えばやはりアッラーを讃え、耐え忍ぶ。こうして信仰者は、全ての諸事において報奨を受けることになっているのだ。例えそれが彼の妻の口元に運ぶ一さじであったとしても、である。"」（アフマドとアブドッ＝ラッザークの伝承[370]）

アッラーの恩恵により、ここでイーマーンの 6 つの基幹――アッラーへの信仰、諸天使への信仰、諸啓典への信仰、諸使徒への信仰、最後の日（*アル＝ヤウム・アル＝アーヒル*）への信仰、定命への信仰――についての話を終えることが出来ました。そして各々の基幹には、信仰者にとっての有益な効果が秘められ、制限がありません。

● **イーマーンの基幹の諸利益から：**

1－偉大かつ荘厳なるアッラーへの信仰とは：アッラーへのタウヒードとそれをかれに向け、かれ以外の何ものにも向けないこと。愛とかれの比類ない偉大さを讃える気持ち、かれへの感謝の念とイバーダ（崇拝行為）、かれへの服従と畏怖の念、そしてそのご命令に則り、禁じられたものを避けることなどを養ってくれます。

369　サヒーフ・ムスリム（2999）。

370　良好な伝承。ムスナド・アフマド（1492）、アブドッ＝ラッザーク（20310）。引用はアフマドから。

2－諸天使への信仰とは：かれらへの愛と、かれらに対して羞恥心を感じること、そしてかれらの服従度の完全さに思いを馳せる心などを養ってくれます。

3・4－諸啓典と諸使徒への信仰とは：アッラーへのイーマーンと愛を強化し、かれの恵みに感謝し、アッラーとかれの法規定、及びかれの欲され厭われるものに関する知識を養ってくれます。またこれらの信仰を通して来世の様子を窺い知り、アッラーの使徒たちへの愛と服従の念も助長してくれます。

5－最後の日（*アル＝ヤウム・アル＝アーヒル*）への信仰とは：アッラーの能力とかれの偉大なる王権と権威を知ること、服従行為と善行に励むこと、そして不服従や諸々の悪を回避することにつながります。

6－定命への信仰とは：心の安らぎと平穏、そして偉大にして慈悲深きアッラーの定命に関しての満足感を養います。

そしてこれら６つのイーマーンの基幹がムスリムの人生において達成されれば、アッラーは現世における良き生活をお与えになり、そのムスリムには地獄から救済され天国に入れられる資格が備わっていると言えます。しかしこれらのことはアッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）への服従を欠いていれば、完遂されません。

1- 崇高なるアッラーは仰せられました：﴾**誰でも善い行いをし（真の）信者ならば、男でも女でも、われは必ず幸せな生活を送らせるであろう。なおわれはかれらが行った最も優れたものによって報奨を与えるのである。**﴿（クルアーン 16：97）

2- 崇高なるアッラーは仰せられました：﴾**そしてアッラーとその使徒に従う者は、（アッラーが）彼をその下を河川の流れる楽園に入れよう。彼らはそこに永遠に留まるのだ。これこそはこの上ない勝利である。**﴿（クルアーン 4：13）

１１－イフサーン（至善）

● **イフサーンとは**：まるでアッラーにまみえるかのようにして、かれを崇めることです。たとえアッラーが実際に見えていなくとも、かれはあなたをご覧になられています。

　イフサーンはウブーディーヤの最も完全な段階です。というのはその中には完全なるイーマーンと畏敬の念、強い確信と誠実さ、アッラーに近づき、お目にかかれる喜び、気持ちを込めること、良い発言と行動と倫理、崇高なるアッラーへの完全な愛と賛美と謙遜が含まれるからです。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**実にアッラーは、（かれのお怒りや懲罰を招くような事柄から）身を守り、また*イフサーン*の徒である者たちと共にあるのである。**﴾（クルアーン 16：128）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そして威力と慈悲に満ちたお方に*タワックル*（全てを委ねること）するのだ。（かれは）あなたが（一人密かに礼拝に）立つ時、ご覧になられるお方。そして平伏す者たちと共に（集団礼拝で）立っては伏せるあなたの姿も（ご覧になられるお方）。かれこそは全聴全知のお方であられる。**﴾（クルアーン 26：217-220）

３－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そしてわれら（アッラーのこと）があなた方の証人となることなしには、あなた（ムハンマド）が何かを意図し行うこともなければ、クルアーンを読むこともなく、またあなた方が何らかの行為を没頭して行うこともないのだ。そして微塵ほどの重さのものであっても、あるいはそれより小さい、あるいは大きなものであっても、天地においてあなたの主から隠れられるものはないのである。**﴾（クルアーン 10：61）

４－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**信者は、アッラーのことに話が進んだ時、**

胸が（畏敬の念で）おののく者たちで、かれらに印が読誦されるのを聞いて信心を深め、主に信頼する者たち、礼拝の務めを守り、われが授けたものを（施しに）使う者たち、これらの者こそ真の信者である。かれらには主の御許にいくつもの段階があり、寛容と栄誉ある給養を与えられる。﴿（クルアーン 8：2-4）

● **イスラームにおける諸段階：**

イスラームには 3 つの段階があります。つまりそれは：①イスラーム、②イーマーン、③イフサーンのことであり、イフサーンが最高の段階です。そして各々の段階にはいくつかの基幹があるのです。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがある日アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にある時、純白の衣服をまとい、漆黒の髪の一人の男が私たちのもとに現れました。彼には旅の形跡はありませんでしたが、私たちの誰一人として彼を知る者はいませんでした。彼は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとまでやって来ると、彼の両膝を両膝につき合わせるようにして座り、彼の両手をその両腿の上に置きました。そして言いました：“ムハンマドよ、イスラームについて教えてくれ。”

するとアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“イスラームは、「*ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラスールッラー*（アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはその使徒である）」と証言し、*サラー*（礼拝）し、*ザカー*（浄財）を施し、ラマダーン月に*サウム*（斎戒、いわゆる断食）し、それが可能であるならばカアバ神殿を目指してハッジ（大巡礼）を行うことです。”（男は）言いました：“正しい。”私たちは自分で尋ねておきながら、答えを認証するその男に驚きました。（男は続けて質問して）言いました：“それではイーマーンについて教えてくれ。”（アッラーの使徒は）言いました：“アッラーとその天使たち、諸啓典、諸使徒、最後の日、そしてそれが良いことであれ悪いことであれ定命を信じることです。”（男は）言いました：“正しい。”（そして男は続けて）言いました：“それではイフサーンについて教えてくれ。”

（アッラーの使徒は）言いました：“アッラーがまるで眼前におられるかのように、かれを崇めることです。そして例えかれが見えなくとも、かれはあなたをご覧になられるのです。”（男はまた）言いました：“それでは審判の日について教えてくれ。”

（アッラーの使徒は）言いました：“質問を受けた者はそれについて、質問者よりも知っているわけではありません。”（男はまた）言いました：“それではその諸々の予兆について教えてくれ。”

（アッラーの使徒は）言いました：“あなたは（その諸々の予兆として）奴隷女がその主人を産むのを見るでしょう。また衣服も靴もつけていない貧しい羊飼いたちが、競って高

い建築物を建て合うのを見るでしょう。”それから（男は）去って行きました。私（ウマル）は暫くそのまま留まっていましたが、すると（アッラーの使徒は）私にこう言いました：“ウマルよ、あの質問者が誰か分かるか？”私は言いました：“アッラーとその使徒がよくご存知です。”（アッラーの使徒は）言いました：“彼こそジブリールだ。あなた方の宗教を教えるために、あなた方のもとへやって来たのである。”」（ムスリムの伝承[371]）

● **イフサーンのフィクフ**

アッラーは天と地を創造され、被造物、そして生と死をお創りになられました。それらの英知は完全なるタウヒードとイーマーンに基づく善行を行うための試練です。

至善の行為に至る道は、アッラーの美名、属性、行為から天と地の創造主についての知識を得ること、全ての行動をアッラーが監視されていること、すべての事についてアッラーは全知者であり、目撃者であり、全能者であられることを知ることです。

これらはクルアーンにおける偉大な教えであり、ムスリムを主のためにイフサーンの行動へといざないます。それは愛と畏敬によってアッラーのために実行することであり、まるでアッラーが見ているかのように感じさせます。もしムスリムがアッラーを見ることがなくても、アッラーはご覧になられているからです。

アッラーのご満悦と最高の報酬を獲得し、懲罰からの救済を求めるために、しもべはかれのために行いを良くしなければなりません。善行をなす者は自分を益し、悪行をなす者は自分を害するのです。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**かれこそは玉座が水の上にあった時、6日の間に天と地を創造された御方。それはかれが、あなたがたの中誰が、行いに最も優れているか、明瞭にされるためである。**﴾（クルアーン 11：7）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**本当に地上の全てあるものは、それ（大地）の装飾としてわれが設けたもので、かれらの中誰が最も優れた行いをするかを、試みるためである。**﴾（クルアーン 18：7）

３－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**（アッラーは）死と生を創られた方である。それは、あなたがたの中誰の行いが優れているのかを試みられるためで、かれは偉力ならびなく寛容であられる。**﴾（クルアーン 67：2）

● **イフサーンには2つの段階があります：**

371　サヒーフ・ムスリム（8）。

第 1 段階：ムスリムが主を眼前に見ているかのように崇めること。つまりかれを求め、慕い、望み、愛するようなイバーダ（崇拝行為）によって崇めます。彼は自身の愛する対象である偉大かつ荘厳なるアッラーを求め、意図し、あたかもかれにまみえているかのようにして崇拝するのです。これは 2 つの段階の内、より高い段階──「アッラーがまるで眼前におられるかのように、かれを崇めること」──です。

第 2 段階：アッラーがまるで眼前におられるかのようにかれを崇めることが出来なくても、かれがあなたをご覧になられているかのようにかれを崇拝すること。それはかれを恐れ、かれの懲罰から逃れ、かれにへりくだって従うようなイバーダ（崇拝行為）によってかれを崇めることです。「あなたがかれを眼前におられるようにして崇めることが出来なくても、かれはあなたをご覧になられるのです。」

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**われの印を信じる者とは、それが述べられた時に敬慕し身を投げだしてサジダし、主の栄光を讃えて唱念する、高慢ではない者たちである。かれらの体が臥床を離れると、畏れと希望とを抱いて主に祈り、われが授けたものを施しにさし出す。かれらはその行ったことの報奨として、喜ばしいものが自分のためにひそかに（用意）されているのを知らない。**﴾（クルアーン 32：15-17）

● **完全なるウブーディーヤ**

至高なるアッラーのイバーダ（崇拝行為）は、2 つの事柄の上に成立しています：

- アッラーに対するこの上ない愛慕の念。
- かれの比類なき偉大さを賛美し、かれに対してへりくだる事における完全さです。

これらはアッラーの美名、属性、行動におけるかれについて知ること、そしてかれの所有されるもの、恩恵、宗教、定められたもの、報酬と懲罰について知ることによって得ることができます。

愛慕の念は人にアッラーを求め慕わせ、一方かれの比類なき偉大さを賛美し、かつかれに対してへりくだる事は畏怖の念を養い、また人をかれの庇護のもとへと避難させます。これが崇高なるアッラーのイバーダ（崇拝行為）におけるイフサーンであり、アッラーはイフサーンの徒を愛でられるのです。

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてアッラーのみに真摯に向かって服従し、*イフサーン*の徒であり、（虚妄から）純正であるイブラーヒームの教えを踏襲する者ほど宗教において最善である者があろうか。﴾（クルアーン 4：125）

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿そしてアッラーのみに真摯に向かって服従し、*イフサーン*の徒である者は堅固な取っ手を握り締めた者。そして全ての物事の結末は、アッラーへと還り行く。﴾（クルアーン 31：22）

3－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿いや、アッラーのみに真摯に向かって服従し、*イフサーン*の徒である者にはその主の御許に報奨がある。そして彼は（来世での様々な不安を）恐れることもなければ、（過ぎ去ったことに対し）悲しむこともないのだ。﴾（クルアーン 2：112）

● 利の多い取引：

クルアーンの中には 2 種類の取引が言及されています：①信仰者の取引と、②偽信者の取引です。

1－信仰者の取引は利の多いもので、現世と来世における幸福を実現します。それは崇高なるアッラーが次のように仰せられている通り、イスラームの教えのことです。﴿信仰する者たちよ、痛ましい懲罰からあなた方を救う取引を教えてやろうか。アッラーとその使徒を信仰し、財と生命をもってアッラーの道において努力奮闘するのだ。もしあなた方が知る者であれば、それこそあなた方にとって（財や生命よりも）最善なことなのである。かれはあなたがたの様々な罪は赦して、川が（木々の）下を流れる楽園に入らせ、アドン（エデン）の楽園における美しい邸宅に住まわせる。それは至福の成就である。またあなたがたが好む、ほかの恩恵）を与えられる。アッラーの御助けと、速かな勝利である。だからこの吉報を信者たちに伝えなさい。﴾（クルアーン 61：10-13）

2－偽信者の取引は損失であり、現世と来世における不幸をもたらします。崇高なるアッラーはこう仰せられています：﴿そして（偽信者たちは）信仰者たちに会えば、「私たちは信仰した。」と言う。しかし彼らの（仲間である）シャイターン（悪魔）たちと密会すれば、言う：「私たちはあなた方と共にある。私たちは（信仰者たちを）からかっているだけなのだ。」だがアッラーが彼らをからかっているのである。かれは彼らを迷妄の中で右往左往するままにさせておこう。彼らこそは正しい導きの代わりに、迷妄をあがなった者たちである。彼らの取引は失敗し、導かれた者とはならなかったのだ。﴾（クルアーン 2：14－16）

１２－知識の書

● **知識とは：**外部から知を取り入れ、心に留められたもののことです。

● **行為とは：**ウドゥーや礼拝のように、行動という形をとって内部から外部へと知識の実行をすることです。

そしてアッラーとかれの美名、属性、行動、宗教、定められた知識、またしもべが現世でも来世でも最も良き美徳を備えること、それこそムスリムが学ぶべき義務を課された種類の知識であり、ここで述べられるものになります。

● **知識の徳：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**アッラーは、あなた方の内で信仰する者たちと知識を与えられた者の位階を上げられる。アッラーはあなた方が行うことを実によく通暁されておられる。**﴿（クルアーン 58：11）

2－ウスマーン（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「あなた方の内で最善の者は、クルアーンを学び、そしてそれを教える者である。」（アル＝ブハーリーの伝承[372]）

● **知識を追求する者の徳、及びそれが言葉や行いに先立つこと：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてアッラーの他に真に崇拝すべきものがないことを知り、あなたと男女の信仰者たちのために罪の赦しを乞うのだ。アッラーはあなた方の（現世における）一挙一動も、またあなた方の（来世における）行き先もご存知なのである。**﴿（クルアーン 47：19）

[372] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5027）。

2－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿そして言え、「主よ、私の知識を増やして下さい。」﴾**（クルアーン 20：114）

3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“現世の難儀に苦しむ同胞を救う者に対し、アッラーは復活の日の苦難を彼から軽減して下さるであろう。苦しむ者たちの苦難を救う者に対してアッラーは現世でも来世でも物事を容易にして下さるであろう。また、ムスリムの過ちを隠してあばかぬ者に対しては、アッラーは現世でも来世でも彼の過ちを隠してあばくことはないであろう。アッラーはしもべがその同胞を支え助けるかぎり、そのしもべを助け支えるであろう。そして知識を求めて道行く者は、アッラーが彼に天国への道を易しくしてくれるであろう。”」（ムスリムの伝承[373]）

● **正しき導きへといざなうことの徳：**

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿人びとをアッラーの許に呼び、善行をなし、「本当にわたしは、ムスリムです。」と言う者程美しい言葉を語る者があろうか。﴾**（クルアーン 41：33）

２－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「正しい導きへといざなう者には、それに従った者が得る報奨と同じ報奨が彼にも与えられる。そしてそれによって彼ら（導きに従った者たち）の報奨からは少したりとも差し引きされることはない。そして迷妄へといざなう者には、それに従った者が得る罪と同じ罪が彼にも与えられる。そしてそれによって彼ら（導きに従った者たち）の罪からは少したりとも差し引きされることはない。」（ムスリムの伝承[374]）

● **知識を伝達することの義務：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿これは彼らがそれでもって警告され、かれ（アッラー）こそが真に崇拝されるべき唯一の存在である事を知り、知識ある者たちが熟慮するための人々への伝達である。﴾**（クルアーン 14：52）

2－アブー・バクラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの平安

[373] サヒーフ・ムスリム（2699）。
[374] サヒーフ・ムスリム（2674）。

と祝福あれ）の最後の巡礼に関する伝承の中で、彼がこのように言ったと伝えています：「・・・ここにいる者は（今私から聞いたものを）不在者に伝えよ。というのもこの場に居合わせた者は、それを彼より理解力の優れた者に伝達するかもしれないからである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[375]）

3－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「（クルアーンの）一句でもよいから、私（の伝えた言葉）を伝達するのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[376]）

● 知識を隠蔽する者に対する懲罰：

1－至高なるアッラーはこう仰せられています：**﴾実にわれら（アッラーのこと）が下した明証と正しい導きを、啓典において人々に明らかにした後に隠蔽する者たちは、アッラーのご慈悲から遠ざけられ、（天使や人々、その他の生物など）全てのものから見放されるであろう。しかし悔悟し、（行いを）改め、（隠蔽していたものを）明らかにする者たちは別であり、彼らに関してはわれが彼らの悔悟を受け入れるであろう。われはよく悔悟を受け入れる、慈悲深き者である。﴿**（クルアーン 2：159－160）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“何らかの知識について訊ねられたのにそれを隠蔽した者は、審判の日にアッラーが彼に炎のくつわをはめさせられるであろう。”」（アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[377]）

● アッラーのためでなくして知識を求める者への懲罰：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、最初に裁かれるのは殉教者である。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あなたに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私はあなたゆえに戦い、そして殉教しました。”（するとアッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは勇敢な者と言われたいがために戦い、そして実際にそう言われたのだ。”すると彼は命じられて逆様の

---

375 サヒーフ・アル＝ブハーリー（67）、サヒーフ・ムスリム（1679）。引用はアル＝ブハーリーから。

376 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3461）。

377 真正かつ良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（3658）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2649）。引用はアブー・ダーウードから。

状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。
　そして学識を身につけ、またそれを教え、かつクルアーンを（美しく）読んでいた者も（審判の日に最初に裁かれる）。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あなたに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私は学識を身につけ、それを教授しました。そしてあなたゆえにクルアーンを読んでいたのです。”すると（アッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは学者と言われたいがために学び、「クルアーン朗誦家」と呼ばれたいがためにクルアーンを読んでいたのだ。そして実際にそう言われたのである。”すると彼は命じられて逆様の状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。
　そしてアッラーによって豊かな糧を与えられ、様々な財を授けられた者も（審判の日に最初に裁かれる）。彼は主の御許に連れて来られると、（現世における）アッラーの恩恵について話して聞かされ、それを認める。（アッラーは）仰せられる：“（あなたに授けてやった恩恵でもって）あなたは何を成したのか？”（彼は答えて）言う：“私はあなたが施しをお望みになることにおいて、あなたゆえに施さなかったことはありません。”（するとアッラーは）仰せられる：“嘘つきめ。あなたは気前のいい者と言われたいがためにそうしたのであり、そして実際にそう言われたのだ。”すると彼は命じられて逆様の状態で引っ張られて行き、地獄の業火へと放り込まれる。”」（ムスリムの伝承[378]）

●　アッラーとその使徒に対して虚偽を語る者への懲罰

　1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**・・・そして知識のない人々を迷わせるがために、アッラーに対して（かれが合法とされたものを非合法であるなどとして）嘘をつくような輩ほど罪深い者があろうか。実にアッラーは（真理に対して）不正を働く者をお導きにはなられないのだ。**﴿（クルアーン 6：144）

　2－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてあなた方が語る言葉ゆえに（何の根拠もなく）「これは合法である。そしてこれは非合法である。」などと嘘をついてはならない。そうすればあなた方はアッラーに対して嘘をつくことになるであろう。実にアッラーに対して嘘をつく者たちは成功しない。（彼らには現世における）僅かな享楽があるが、（来世では）痛烈な懲罰が待ち受けているのである。**﴿（クルアーン 16：116－117）

　3－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私に対して意図的に嘘をつく者は、

[378] サヒーフ・ムスリム（1905）。

地獄の業火に居を構えさせよ。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[379])

● **知識を学び、かつそれを教える者の徳：**

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**しかし（本来の預言者というものは）こう言うのだ：「あなた方はあなた方が啓典について学識に秀で、かつ知識を求めている（その立場）ゆえにアッ＝ラッバーニー[380]となるのだ。」**﴿（クルアーン 3：79）

2－アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーが正しき導きと知識をもって私を遣わされた事は、あたかも大地に降った豊富な慈雨のようなものである。それで大地の中にはそれを吸収し、植物を沢山茂らせる肥沃なものもあれば、不毛の地であっても（水を吸収せずに）せき止め、それによってアッラーが飲料や用水や灌漑などにおいて人を益するものもある。また別の土地は不毛かつ平坦で、水を蓄えることもなければ植物を茂らせることもない。そしてこれらはアッラーの宗教において理解を深めた者と、アッラーが私を遣わされたものによって人を益し、知りかつ教えた者と、そしてそれにおいて知識を得ることもなければ私がそれと共に遣わされたアッラーの導きをも受け入れなかった者たちの喩えなのである。」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[381])

3－アブドッラー・ブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“（次に述べる）2 人の者以外に羨望すべき者はいない：（一人は）アッラーが財をお与えになられたが、自らの吝嗇を抑え、それを正しい道において使い果たした者。そして（もう一人は）アッラーが英知をお授けになり、それでもって行い、かつそれを教えた者である。”」(アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[382])

● **知識の差し押さえとその形：**

1－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から聞いた話をしようか？あなた方は私の後、それを聞いた者たちからその話を聞くことはないだろう：“審判の日の予兆の一つは、（イスラームの）知識が押収され、無知が蔓延し、*ズィナー*（姦淫）が横行し、飲酒が見られることである。

---

[379] サヒーフ・アル＝ブハーリー（110）、サヒーフ・ムスリム（3）。引用はムスリムから。

[380] 訳者注：アッラーの宗教に関する学識が豊かで、敬虔かつ教育熱心な者。

[381] サヒーフ・アル＝ブハーリー（79）、サヒーフ・ムスリム（2282）。引用はアル＝ブハーリーから。

[382] サヒーフ・アル＝ブハーリー（73）、サヒーフ・ムスリム（816）。引用はアル＝ブハーリーから。

そして男一人に対して女 50 人になるまでに、男性の数が激減し、女性が残るであろう。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承 [383]）

2－アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“実にアッラーは、しもべから知識を奪うようにして差し押さえられるわけではない。しかし学者たちを差し押さえることによって、知識を差し押さえられるのである。そして学者は一人としていなくなり、人々は無知な者たちを主導者として選ぶことになる。彼ら（無知な者たち）は質問されれば知識もなくして答え、自ら迷い、そして他の者たちをも迷わせるのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承 [384]）

● 宗教において理解を深めることの徳：

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**夜に眠らず目を覚ましている時に、サジダしあるいは立って礼拝にうちこんで、来世に備え、また主の御慈悲を請い願う者（がそうではない者と同じであろうか）。言ってやるがいい。「知っている者と、知らない者と同じであろうか。」（しかし）訓戒を受け入れるのは、思慮ある者だけである。**﴿（クルアーン 39：9）

２－ムアーウィヤ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「アッラーは誰かによきものをお望みになる時、彼の宗教理解を深められる。アッラーこそが全てをお与えになられるお方であり、私はその分配役である。そしてこの*ウンマ*（イスラーム共同体）は、彼らに対する者たちに勝利し続けるであろう。アッラーのご命令がやって来るまで、彼らは勝利しているのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承 [385]）

３－ウスマーン（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなた方の内で最善の者は、クルアーンを学び、そしてそれを教える者である。」（アル＝ブハーリーの伝承 [386]）

● *ズィクル*（唱念）の集まりの徳：

---

[383] サヒーフ・アル＝ブハーリー（81）、サヒーフ・ムスリム（2671）。引用はムスリムから。

[384] サヒーフ・アル＝ブハーリー（100）、サヒーフ・ムスリム（2673）。引用はアル＝ブハーリーから。

[385] サヒーフ・アル＝ブハーリー（3116）、サヒーフ・ムスリム（1037）。引用はアル＝ブハーリーから。

[386] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5027）。

現世には天国の楽園の一部である 2 つの楽園があります。その内の一つは預言者モスク一角の固定した場所です。もう一つは時と場所、そして人によって移り変わる場所です。

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私の家と私の*ミンバル*（説教壇）との間には、天国の一部である楽園がある。そして私の*ミンバル*（説教壇）は私の水辺[387]の上に位置しているのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[388]）

2－アブー・フライラとアブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼らにアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が次のように言ったと証言しています：「人々が集まって座り、偉大かつ荘厳なるアッラーを*ズィクル*（唱念）すれば、天使たちが彼らの周りを囲み、慈悲が彼らを覆うだろう。そして彼らのもとには静寂が訪れ、アッラーはかれの御許にある者たち[389]の中で彼らを褒めてつかわされるであろう。」（ムスリムの伝承[390]）

3－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“天国の楽園に入ったら、その草を大いに食むのだ。”（教友たちは）言いました：“天国の楽園とは何ですか？”（アッラーの使徒は）言いました：“*ズィクル*（唱念）の（集まりの）車座である。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[391]）

387　訳者注：詳しくは「最後の日への信仰 - 預言者たちの水辺」の章を参照のこと。ちなみにこの伝承は、マディーナの預言者モスクのことを指しています。

388　サヒーフ・アル＝ブハーリー（1196）、サヒーフ・ムスリム（1391）。

389　訳者注：高貴な天使たちや預言者たちのことであると言われています。スナン・アビー・ダーウード解釈「アウヌ・アル＝マアブード」参照。

390　サヒーフ・ムスリム（2700）。

391　良好な伝承。ムスナド・アフマド（12551）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3510）。

●　知識探求者の諸作法

知識を学びそれを教えることは最も良いイバーダ（崇拝行為）です。そしてイバーダ（崇拝行為）にはそれが受け入れられるための、2つの条件があります：つまり①至高なるアッラーに対するイフラース（真摯さ）と、②アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の手法に則ることです。そして学者は預言者たちの後継者、と言われますが、知識にも様々なカテゴリーがあります。その中で最も位階が高く、栄誉高く、純粋なものが、預言者たちと諸使徒が提供した、アッラーとその美名、その属性、その行為、その宗教、その法規定に関する知識なのです。

この知識を学ぶことは全ムスリムの義務であり、彼らが主の事を知り、その知識によって主を崇拝し、他の人々へ教えるためです。

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**そしてアッラーの他に真に崇拝すべきものがないことを知り、あなたと男女の信仰者たちのために罪の赦しを乞うのだ。アッラーはあなた方の（現世における）一挙一動も、またあなた方の（来世における）行き先もご存知なのである。**﴿（クルアーン 47：19）

２－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**これは彼らがそれでもって警告され、かれ（アッラー）こそが真に崇拝されるべき唯一の存在である事を知り、知識ある者たちが熟慮するための人々への伝達である。**﴿（クルアーン 14：52）

知識の伝授と習得にも諸作法があります。その中には教師に関するものもあれば、学徒に関するものもあります。そして以下に示すものはそれらに関しての重要なものです。

１－教師の諸作法

- **言動に関する誠実さ：**

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**言ってやるがいい。「わたしはあなたがたと同じ、ただの人間に過ぎない。あなたがたの神は、唯一の神（アッラー）であることが、わたしに啓示されたのである。およそ誰でも、主との会見を請い願う者は、正しい行いをしなさい。かれの主を崇める場合に何一つ（同位に）配置して崇拝してはならない。」**﴾（クルアーン 18：110）

- **謙遜と慎み深さ：**

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**そしてあなたに従う信者たちに慎み深くあれ。**﴾（クルアーン 26：215）

- **高い人格：**

1－至高なるアッラーはその預言者にこう仰せられました：﴿**そしてあなたはこの上ない人格を備えている。**﴾（クルアーン 68：4）

2－至高なるアッラーはその預言者にこう仰せられました：﴿**許しの心を持ち、善を命じ、無知な者たちから遠ざかれ。また悪魔からの中傷があなたを悩ました時は、アッラーの加護を求めなさい。本当にかれは全聴にして全知であられる。**﴾（クルアーン 7：199-200）

- **人々が飽きたり離れて行ったりしないよう、知識と訓戒の伝授において適当な時節を選ぶこと：**

イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちが退屈するのを嫌って、私たちに訓戒を与える（適当な）時を日々の中から選んでいました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[392]）

- **（教授において）十分な声を上げ、人々が理解出来るよう 2 回 3 回と繰り返すこと：**

1－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちのある旅路において、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が私たちの後方を歩んでいたことがありました。そして彼が私たちに追いついた時、サラー（礼拝）の時間

---

[392] サヒーフ・アル＝ブハーリー（68）、サヒーフ・ムスリム（2821）。引用はアル＝ブハーリーから。

が来て、私たちはウドゥー[393]をしました。そして私たちが足を（きちんと洗わずに）軽く撫でて済ませようとすると、（預言者は）大きな声で2回か3回こう言いました：“地獄の業火に晒されるかかとに、災いあれ[394]。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[395]）

2－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は何か話す時には、人々が理解出来るよう3回繰り返したものでした。そして人々のもとを訪れた時には、彼らに3回挨拶したものでした。（アル＝ブハーリーの伝承[396]）

- **忌むべき物事を眼にしたり耳にしたりした時、訓戒や教授において怒りを表現すること：**

アブー・マスウード・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある男がいいました：“アッラーの使徒よ、何某は礼拝（を率いる際にそれ）をとても長引かせるので、私は（集団）礼拝に参加するのが億劫です。”そして私はその日ほど、預言者が訓戒において激しい怒りを表したのを見た事がありませんでした。彼は言いました：“人々（礼拝を率いる者たち）よ、あなた方は（礼拝者たち）に嫌な思いをさせている。人々を礼拝で率いるのなら、軽く済ませるのだ。彼らの中には病人や弱者や用事のある者たちもいるのだから。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[397]）

- **時には質問された以上のことを答えること：**

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男がアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に訊ねました：「“ムフリム[398]は何を衣服としてまといますか？”アッラーの使徒は言いました：“シャツもターバンもズボンもフード付きのローブもまとうのではない。また靴のない者以外は、（革製の）靴下も履いてはならない。そのような者（靴のない者）は（革製の）靴下を履き、それをくるぶし下まで切り取るのだ。そしてサフランや香草（つまり香水）のついた衣服もまとってはならない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[399]）

- **その知識を試すために、教師が質問すること：**

---

[393] 訳者注：イスラームにおいて定められた、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。
[394] 訳者注：つまり足も含め、洗浄すべき体の部位をきちんと洗うようにとの注意を意味しています。
[395] サヒーフ・アル＝ブハーリー（60）、サヒーフ・ムスリム（241）。引用はアル＝ブハーリーから。
[396] サヒーフ・アル＝ブハーリー（95）。
[397] サヒーフ・アル＝ブハーリー（90）、サヒーフ・ムスリム（466）。引用はアル＝ブハーリーから。
[398] 訳者注：巡礼を行う時の特別な状態にある者。
[399] サヒーフ・アル＝ブハーリー（1542）、サヒーフ・ムスリム（1177）。引用はムスリムから。

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“木々の中には葉の落ちることのない、一本の木がある。そしてそれはムスリムのようである。それが何か話してくれ。”すると人々の考えは、砂漠の木々に向かいました。私（イブン・ウマル）はそれがナツメヤシの木であると思いましたが、羞恥心ゆえにそれを言い出すことが出来ませんでした。それから（教友たちは）言いました：“アッラーの使徒よ、それが何なのか教えて下さい。”（預言者は）言いました：“それはナツメヤシの木である。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[400]）

- **一般人に向けて紛らわしい事を言わないこと。また誤解される恐れがあるのなら、ある種の人々にはある種の知識には言及しないでおくこと：**

１－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）とムアーズは乗り物用の家畜に相乗りしていました。「（預言者は）言いました：“ムアーズ・ブン・ジャバルよ。”（ムアーズはこう）3 回言いました：“はい、アッラーの使徒よ。何でも仰せつかわし下さい。”（預言者は）言いました：“誰でも心から正直に「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー（アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはそのアッラーの使徒である）」と証言する者は、アッラーが彼に地獄を禁じられるであろう。”（ムアーズは）言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”（預言者は）言いました：“（そうするのではない、彼らは）それに頼り切って怠けてしまうから。”そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の死後、ムアーズは自らが罪深くあるのを恐れ、そのことについて人々に伝えました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[401]）

２－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）から 2 つの入れ物（つまり伝承のこと）を受け継ぎ、それらを守護した。その一つは既に伝えたものであり、もう一つはもし口外すればこの食道が断ち切られるものである[402]。」（アル＝ブハーリーの伝承[403]）

---

[400] サヒーフ・アル＝ブハーリー（61）、サヒーフ・ムスリム（2811）。引用はアル＝ブハーリーから。

[401] サヒーフ・アル＝ブハーリー（128）、サヒーフ・ムスリム（32）。引用はムスリムから。

[402] 訳者注：「もし口外すればこの食道が断ち切られる」伝承とは、不正と抑圧の徒党の悪を批判する類のもので、彼らがそれを聞けば彼を打ち首にしてしまうような意味の伝承、あるいは余りに衝撃的な様々な恐怖を描写している審判の日や来世に関する伝承ではないか、といった説がありますが、真相は不明です。いずれにせよ、教友アブー・フライラ（彼にアッラーのお悦びあれ）はイスラームにおける大きな禁忌である「知識の隠蔽」を行うはずはありませんから、その伝承が全く知られていないものであることはないでしょう（イブン・ハジャル著サヒーフ・アル＝ブハーリー解釈「ファトゥフ・アル＝バーリー」参照）。

● **もしそれよりも悪いことが起きる恐れがあれば、ある悪事の矯正をひとまず放っておくこと：**

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は彼女にこう言いました：「アーイシャよ、もしあなたの民が*ジャーヒリーヤ*（イスラーム以前の無明時代）から（イスラームへと）抜け出たばかりの者たちでなければ、私はカアバ神殿を一旦壊すよう命じ、そこから出されたものをそこへと戻し、そして地面にくっつけ、東西に 2 つの門を付け、イブラーヒーム（がそれを建設したところ）の基盤の上にまでそれを拡張したことであろう。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[404]）

● **男女別に教授すること：**

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「女性たちが預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に言いました："あなたを男性たちに取られてばかりなので、一日だけでも私たちのために割り当てて欲しいのですが。" それで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はある日約束をし、彼女たちと会う機会を持ちました。彼は彼女たちに訓戒を与え、命じましたが、その中でこのように言いました："3 人の子供に先立たれた女性は、彼らが彼女のために地獄を遮る覆いとなってくれるだろう。" するとある女性が言いました："（先立たれたのが）2 人だったらどうですか？"（預言者は）言いました："2 人でも、である。"」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[405]）

● **昼夜を問わず、滞在中でも旅行中でも人々に訓戒を与え、教えること：**

1－ウンム・サラマ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）はある晩起き出すと、こう言いました："崇高なるアッラーに讃えあれ。今夜（私に）啓示された（近く起こるであろう）試練の何と恐ろしいことか。そして何という数々の（恩恵という）宝庫の（扉）が（近く）開かれることか。私の妻たちを起こすのだ。現世で上等な衣をまとっている女性も、来世では素っ裸かもしれないのだから。"」（アル＝ブハーリーの伝承[406]）

---

403 サヒーフ・アル＝ブハーリー（120）。

404 サヒーフ・アル＝ブハーリー（1586）、サヒーフ・ムスリム（1333）。引用はアル＝ブハーリーから。

405 サヒーフ・アル＝ブハーリー（101）、サヒーフ・ムスリム（2633）。引用はアル＝ブハーリーから。

406 サヒーフ・アル＝ブハーリー（115）。

2ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はその晩世に、イシャー（夜の礼拝）を率いました。そしてそれが終わると、立ち上がって言いました：“あなた方はこの日の夜を見たか？現在地上にある者たちの誰も、100 年後には生き長らえてはいないのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[407]）

3ームアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）と共に、“ウファイル（灰色）”と名付けられた一頭のロバに同乗していました。そして彼は言いました：“ムアーズよ、アッラーのそのしもべに対する権利と、しもべのアッラーに対する権利を知っているか？”私は言いました：“アッラーとその使徒がご存知です。”（預言者は）言いました：“アッラーのそのしもべに対する権利とは、しもべがかれを崇め、そこにおいて何ものをもかれと共に配さないことである。そしてしもべの偉大かつ荘厳なるアッラーに対する権利とは、何ものをもかれと共に配さなければ、かれがしもべを罰せられない、ということである。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”　（預言者は）言いました：“（そうするのではない、彼らは）それに頼り切って怠けてしまうから。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[408]）

● **集まりの場の締めくくりに言う*ドゥアー*（祈願）と*ズィクル*（唱念）：**

1ーアブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“下らない戯言の多い集まりに参加した者で、そこを立つ前に：「アッラーよ、崇高なあなたを賛美と共に讃えます。あなたの他に真に崇拝すべきものはないと証言し、あなたのお赦しを乞い、あなたに悔悟します。」と言った者は、その集まりにおいて起こった（罪深い）ことに対してのお赦しを得るであろう。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[409]）

2ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、教友たちのために（次のような）*ドゥアー*（祈願）の言葉でもって祈願するまでは、集まりの場を立つことは滅多にありませんでした：“アッラーよ、私たちとあなたへの不服従との間を阻む、あなたへの畏怖の念を私たちにお与え下さい。そして私をあなたへの天国へと到達させてくれる、あなたへの服従を。そしてあなたがそれでもって現世での災難を和らげて下さる、（あなたの宗教への）確信を。

[407] サヒーフ・アル＝ブハーリー（116）、サヒーフ・ムスリム（2537）。引用はアル＝ブハーリーから。
[408] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2856）、サヒーフ・ムスリム（30）。引用はムスリムから。
[409] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（10420）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3433）。引用はアッ＝ティルミズィーから。

またあなたが私たちを生かし続けて下さる間、私たちにその聴覚と視覚と力を堪能させて下さい。そしてそれを末永く継続させて下さい。また私たちを抑圧する者たちにお報いを与え、私たちを敵に勝利させて下さい。そして私たちの宗教において災厄を被らせないで下さい。現世を私たちの最大の関心事や、学識の目的としないで下さい。そして私たちをいたわらない者を、私たちの統治者としないで下さい。”」（アッ＝ティルミズィーの伝承[410]）

2－学徒の諸作法

● **学徒の誠実さ：**

至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴾かれらの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。これこそ真正の教えである。﴿**（クルアーン 98：5）

● **学徒の良い座り方：**

１－ウマル・ブン・アル＝ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがある日アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にある時、純白の衣服をまとい、漆黒の髪の一人の男が私たちのもとに現れました。彼には旅の形跡はありませんでしたが、私たちの誰一人として彼を知る者はいませんでした。彼は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとまでやって来ると、彼の両膝を両膝につき合わせるようにして座り、彼の両手をその両腿の上に置きました・・・」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[411]）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、ある時アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が外出した時、アブドッラー・ブン・フザーファが彼にこう質問しました：「“私の父は誰ですか？”すると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“あなたの父はフザーファだ。”それから多くの者が彼を（好ましくない質問でもって）質問攻めにすると、（預言者は立腹して）言いました：“質問するがよい。”するとウマルは跪き、言いました：“私たちはアッラーが主であることに、またイスラームが宗教であることに、そしてムハンマド（彼にアッラーからの祝

410　良好な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（3502）。サヒーフ・アル＝ジャーミゥ（1268）参照。

411　サヒーフ・アル＝ブハーリー（50）、サヒーフ・ムスリム（8）。引用はムスリムから。

福と平安あれ）が預言者であることに満足しました[412]。”すると（預言者は）沈黙しました。」（アル＝ブハーリーの伝承[413]）

● 学問の席やモスクにおける訓戒や唱念の場などに積極的に参加すること、及びそのような場で座るべき場所：

ウバイ・ワーキド・アッ＝ライスィー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がモスクで人々と共に座っている時、3人の男たちがやって来ました。その内の 2 人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとへと赴きましたが、一人は行ってしまいました。そして 2 人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとで立ち止まり、一人は人々の輪の中に空いている場所を見つけてそこに座り、もう一人は彼らの後ろに座りました。一方 3 人目の男はといえば、立ち去ってしまいました。アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（話し）終わると、言いました：「（件の）3人の男について話そうか。彼らの内の一人はアッラーの御許へと向かい、アッラーは彼を迎え入れた。もう一人は恥ずかしがったため、アッラーも彼から恥ずかしがられた。一方もう一人はと言えば、背を向けて立ち去ったため、アッラーも彼から背を向けて立ち去られたのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[414]）

● 訓戒や唱念、学習の集まりなどで車座になること：

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「“天国の楽園に入ったら、その草を大いに食むのだ。”（教友たちは）言いました：“天国の楽園とは何ですか？”（アッラーの使徒は）言いました：“*ズィクル*（唱念）の（集まりの）車座である。”」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[415]）

● 学者や年長者を敬うこと：

1－至高なるアッラーはこう仰せられました：**﴿信仰する者たちよ、あなた方の声を預言者の声よりも高く上げてはならない。そしてあなた方が互いにするようなあからさまな形**

---

412 訳者注：別の伝承ではこの件に関して、クルアーンの（信仰する者たちよ、もしそれが明らかになれば、あなた方にとって都合の悪くなるようなことを質問するのではない。）という啓示が下ったとの言及があります。ウマル（彼にアッラーのお悦びあれ）の言葉は、アッラーとその使徒が伝えられるものだけで満足し、余計な質問はする必要がない、というムスリムとしての彼の理想的な態度を表明したものでした。

413 サヒーフ・アル＝ブハーリー（93）。

414 サヒーフ・アル＝ブハーリー（66）、サヒーフ・ムスリム（2176）。引用はアル＝ブハーリーから。

415 良好な伝承。ムスナド・アフマド（12551）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3510）。

で、彼にものを言ってはならない。そうすればあなた方が知らぬ間に、あなた方の行いは無に帰してしまうであろう。﴿（クルアーン 49：2）

2－アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある年配の男が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に会うためにやって来ましたが、人々はすぐには彼のために席を空けませんでした。それで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“年少の者を可愛がらず、年配の者を敬わない者は私たちの内の者ではない。”」（アル＝ブハーリーとアッ＝ティルミズィーの伝承[416]）

● **知識を備えた者の話を傾聴すること：**

ジャリール（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は別れの説教の中で彼にこう言いました：「“人々の言うことをよく聴くのだ。”そして（続けて）言いました：“私の（死）後、互いの首を討ち合う不信仰者に舞い戻ってはならない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[417]）

● **知らないことを聞いたら、それを知っている者に分かるまで聞くこと：**

イブン・アビー・ムライカは、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の妻アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）が何か彼女の知らないことを聞いたら、それが分かるまで追求し続けたこと、そして預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が「（審判の日）清算を受ける者は皆罰を受ける。」と言ったことに関し、アーイシャが「至高なるアッラーは**﴾それでその帳簿を右手に受け取る者は、その清算を易しくされるだろう。﴿**と仰せられたではありませんか？」と問い、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が「それは（信仰者に対する）提示に過ぎないのである。審判の日、清算に異を唱える者たちは破滅する者たちなのだ。」と答えたことを伝えています。（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[418]）

● **クルアーンやその他の学んだ知識を忘れないよう努力すること：**

アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「常にクルアーンと共にあれ。私の魂がその御手に委ねられているお方にかけて。それは縛り綱につながれたラクダよりも素早く逃げ去ってしま

---

[416] 真正な伝承。スナン・アッ＝ティルミズィー（1919）、アル＝ブハーリーのアル＝アダブ・アル＝ムフラド（363）。引用はアッ＝ティルミズィーから。
[417] サヒーフ・アル＝ブハーリー（121）、サヒーフ・ムスリム（65）。引用はアル＝ブハーリーから。
[418] サヒーフ・アル＝ブハーリー（103）、サヒーフ・ムスリム（2876）。引用はアル＝ブハーリーから。

うものなのだから。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[419]）

● **集中し謹聴すること：**

至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**実にその中には理性を備え、よく聴き、集中して理解に努める者たちへの訓戒があるのである。**﴾（クルアーン 50：37）

● **学究のために旅立ち、そこにおける困難に耐え、知識の更なる増加を求め、あらゆる状況において慎ましくあること：**

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴿**また地上で正義を無視し、高慢である者に就いては、われが啓示から背き去らせるであろう。それでもかれらは、すべての印を見てもこれを信じない。また公正な道を見ても、それを（自分の）道としない。そして邪悪な道を見れば、それこそ（真の）道であるとしている。これはかれらがわが印を拒否して、それを軽視しているためである。」**﴾（クルアーン 7：146）

２－イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“ムーサーがイスラエルの民の者たちといると、一人の男がやって来た。彼は（ムーサーに）言った：「あなたより学識ある者を知っているか？」ムーサーは言った：「いや。」するとアッラーはムーサーにこう啓示された：「いや。われらがしもべ*ハディル*がいる。」ムーサーは彼に会う方法を尋ね、そしてアッラーは一匹の魚をその目印とされた。

そして（アッラーはムーサーに）仰せられた：「あなたが魚を見失った時、（道を）戻るのだ。そうすればあなたは彼と出会えるだろう。」そしてムーサーは（小間使いの若者を連れて）海に魚の跡を追った。すると若者はムーサーに言った：「ほら、岩（の所）で休んだ時があったでしょう？私は（その時）魚を忘れて来てしまったのです。私にそれを思い出すのを忘れさせたのは、シャイターン（悪魔）以外の何者でもありません。」（ムーサーは）言った：「それこそ私たちの望んでいるもの。」そして来た足跡を辿って戻って行くと、２人は*ハディル*を見つけました。これが偉大かつ荘厳なるアッラーが、その啓典の中で語られた出来事の一部です。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[420]）

● **知識を貪欲に求めること：**

---

[419] サヒーフ・アル＝ブハーリー（5033）、サヒーフ・ムスリム（791）。引用はアル＝ブハーリーから。

[420] サヒーフ・アル＝ブハーリー（74）、サヒーフ・ムスリム（2380）。引用はアル＝ブハーリーから。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「誰かが言いました：“アッラーの使徒よ、審判の日にあなたの執り成しにおいて最も良き目を見るのは誰でしょうか？”アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“アブー・フライラよ、あなたのハディース（預言者の伝承）に対する熱意は知っている。私はあなたより先に、このことについて誰かが私に訊ねるとは思っていなかったのだ。審判の日に私のとりなしにおいて最も良き目を見るのは、「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に真に崇拝すべきものはない）」と心、あるいは魂から真摯に告白した者である。”」（アル＝ブハーリーの伝承[421]）

- **知識を書き留めること：**

1－アブー・ジュハイファは言いました：「私はアリーに言いました：“あなた方のもとに本はありますか？”（彼は）言いました：“いいえ。クルアーンと、ムスリムが（それについて）理解したものと、これらの書だけです。”私は言いました：“これらの書には何が書いてあるのですか？”（彼は）言いました：“血債と捕虜（についての法規定）です。そしてムスリムが（報復刑において）不信仰者ゆえに死刑に処される事はありません。”」（アル＝ブハーリーの伝承[422]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の教友たちの中で、彼からの伝承を私より多く伝える者はない。しかしアブドッラー・ブン・アムルだけは別だ。彼は（伝承を）書き留めていたが、私は書き留めていなかったのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承[423]）

- **自ら質問するのがためらわれるようなことを、誰か他の者に頼んで訊いて貰うこと：**

アリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はよく（射精に先駆けて出る）潤滑液を漏らしてしまう性質であったが、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）にそのことを訊ねるのは、彼の娘が私の妻であったゆえにためらわれた。それで私はアル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワドに頼み、そのことを彼に訊いて貰った。すると彼は（預言者がこう言ったと）言った：“男性器を洗浄し、*ウドゥー*[424]をするのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[425]）

---

[421] サヒーフ・アル＝ブハーリー（99）。
[422] サヒーフ・アル＝ブハーリー（111）。
[423] サヒーフ・アル＝ブハーリー（113）。
[424] 訳者注：イスラームにおいて定められた、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。
[425] サヒーフ・アル＝ブハーリー（269）、サヒーフ・ムスリム（303）。引用はムスリムから。

● **知識ある者がいるときに質問する機会をとらえること：**

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある女性が、自分の子を抱え上げ“アッラーの使徒よ、この子も巡礼が行なえますか？”と質問しました。彼は言いました。“そうだ。そして、あなたにはよき報いがあるだろう。”」（ムスリムの伝承[426]）

● **イマームが説教する時、彼の近くにあること：**

サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「説教の場に参加し、イマームに近づくのだ。人間というものは（理由もなく善行から）遠ざかり続け、しまいには天国には入れさえすればいいとして、そこにおける位階においてまで控え目になってしまうのだから。」（アブー・ダーウードの伝承[427]）

● **（イスラーム法にかなう）集まりにおける諸作法：**

１－至高なるアッラーはこう仰せられました：﴾**信仰する者たちよ、集まりの場で「場所を空けて下さい。」と言われたら、場所を空けてやるのだ。（そうすれば）アッラーがあなた方のために（天国の）場所を空けて下さるであろう。そして（礼拝、あるいはジハードなどのために）「立ち上がりなさい。」と言われたら、立ち上がるのだ。アッラーは、あなた方の内で信仰する者たちと知識を与えられた者の位階を上げられる。アッラーはあなた方が行うことを実によく通暁されておられる。**﴿（クルアーン 58：11）

２－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「自分がそこに座るために、誰かが座っているのを立たせてはいけない。しかし場所を広げ、（その者が座れるだけの）空き場所を作ってやるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[428]）

３－イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“あなた方か３人でいる時は、友人の一人を除外して２人だけでひそひそと話し合ってはならない。本当に、そのような行為は彼の

---

[426] サヒーフ・ムスリム（1336）。

[427] 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（1108）。

[428] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6270）、サヒーフ・ムスリム（2177）。引用はムスリムから。

心を傷つけるものである。”」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承[429])

４－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「座っている場所から立ち上がり、またそこへ戻ってきた者は、その場所においてより優先権がある。」(ムスリムの伝承[430])

５－ジャービル・ブン・サムラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちが預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとを訪れると、ある者たちは（集まりの場の）一番端にまで行って腰を下ろしたものです。」(アブー・ダーウードとアッ＝ティルミズィーの伝承[431])

６－アムル・ブン・シュアイブ（彼らにアッラーのご満悦あれ）がその父、その父がその祖父、その祖父がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによると、彼はこう言いました：「2 人の男の間に座る時は、彼らの許しを請うのだ。」（アブー・ダーウードの伝承[432])

７－アッ＝シャリード・ブン・スワイド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が私たちのもとにやって来た時、私はこのように座っていました：つまり左手を背中の後方に回し、両手の手のひらでもって体を支えていました。すると彼は（私に）こう言いました：“アッラーがお怒りになられた者たちの座り方をするのか？”」(アフマドとアブー・ダーウードの伝承[433])

● **宗教や現世に関することは知識ある者に相談すること：**

１－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある男が預言者の所へやって来て彼にジハード（聖戦）に参加する許しを求めた。すると彼は言った。“あなたのご両親は存命ですか？”そこでその男は“はい”と答えた。すると預言者はこう言った。“彼ら２人にこそ（それを許可する権利が）ある。（もし２人が許すならば）聖戦に参加するのだ。”」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承[434])

２－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ウマルはハイバ

---

429 サヒーフ・アル＝ブハーリー（6290）、サヒーフ・ムスリム（2184）。引用はムスリムから。
430 サヒーフ・ムスリム（2179）。
431 真正な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4825）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2725）。
432 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4844）。
433 真正な伝承。ムスナド・アフマド（19683）、スナン・アビー・ダーウード（4848）。
434 サヒーフ・アル＝ブハーリー（3004）、サヒーフ・ムスリム（2549）。引用はアル＝ブハーリーから。

ルで土地を手に入れたため、預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ ）を訪問して（このことについて指示を仰いで）こう言った。“私はハイバルで土地を取得しましたが、自分の財産の中でこれほど高価なものを持ったことがありません。それについて私に何かご指示はありますか？”すると預言者は言った。“もし望むならば、その財産（土地）をそのままにし、そこから取れる収穫物をサダカにするのだ。”そこでウマルはその土地が売却されないこと、また相続されないこと、さらにまた贈与されないことを明言してそれをサダカにした。こうしてウマルは貧乏人、近親者、奴隷の解放、アッラーの道、旅人や訪問客などのために（その土地の収穫物を）サダカにした。ただし、それを管理する者が一般常識の範囲内でそこから食を得たり、蓄財することなく友人にそこから食を与えることは罪にはならない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[435]）

[435] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2772）、サヒーフ・ムスリム（1632）。引用はアル＝ブハーリーから。